

# 浦安市障がい者福祉計画のための アンケート調査結果報告書

令和8年3月

浦 安 市



# 目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査結果の表示方法	1
II	調査結果の概要	2
1	障がいや疾病のある方に対する調査	2
(1)	利用している福祉サービス等について	2
(2)	介助について	2
(3)	今後（将来）の過ごし方について	2
(4)	就労について	3
(5)	悩み・相談ごと等について	3
(6)	災害時の備えについて	4
(7)	障がい者差別に関する法律及び条例について	4
2	事業所に対する調査	5
(1)	事業所の令和6年度経営状況について	5
(2)	事業所の職員について	5
(3)	提供している障がい福祉サービス等について	5
(4)	災害時の備えについて	6
(5)	地域生活支援拠点について	6
III	調査結果	7
1	障がい者手帳所持者	7
(1)	基礎的事項	7
(2)	福祉サービス等について	17
(3)	生活の場について	26
(4-1)	日中活動の場について（15歳以上（義務教育修了後）の方）	48
(4-2)	日中活動の場について（15歳未満（義務教育修了前）の方）	61
(5)	趣味、地域活動について	64
(6)	外出・移動手段について	71
(7)	悩み・相談ごと等について	75
(8)	災害時の備えについて	86
(9)	障がい者差別に関する法律及び条例について	91

2	事業所 .....	100
	(1) 事業所の経営状況について.....	100
	(2) 事業所の職員について.....	104
	(3) 現在、提供している障がい福祉サービス等について.....	108
	(4) 災害時の備えについて.....	110
	(5) 医療的ケア等が必要な方への支援状況について.....	113
	(6) 支援が困難だと感じるケースについて.....	117
	(7) 地域生活支援拠点について.....	119
	(8) サポートファイルうらやすについて.....	121
	(9) 今後の事業展開について.....	125
	(10) 自由意見.....	131
IV	アンケート調査票.....	135
	1 障がい福祉に関するアンケート調査.....	135
	2 障がい福祉サービス等の提供にかかるアンケート調査.....	145

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、計画期間を令和9年度から11年度までの3か年とする「浦安市障がい者福祉計画」策定の基礎資料とするため、市内の障がいや疾病のある方の生活実態や障がい福祉サービス等に対する意向を把握するとともに、市内で障がい福祉サービス等を提供する事業所の状況や実態を把握する事を目的として実施しました。

## 2 調査対象

調査名	①障がい福祉に関するアンケート調査	②障がい福祉サービス等の提供にかかるアンケート調査
対象	浦安市在住の障がいや疾病のある方	浦安市内の障がい福祉サービス事業所
調査対象数	2,000名（無作為抽出）	101事業所
回収数	1,299名	66事業所
回収率	65%	65.3%
記名の有無	無記名式	記名式
調査期間	令和7年12月	
回答方法	書面またはWEB	

## 3 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 障がいや疾病のある方に対する調査

市内の障がいや疾病のある方及び市内の障がい福祉サービス事業所を対象としたアンケート調査について、概要を整理した結果は以下のとおりです。

なお、令和4年度に実施した前回調査については、「前回調査」又は「前回」と表記します。

#### (1) 利用している福祉サービス等について

障がい福祉サービス・制度については、「利用している」が64.9%、「過去に利用していたが、現在は利用していない」が3.5%、「利用していない」が29.9%となっており、このうち、現在利用している障がい福祉サービス・制度は、「バス・鉄道等運賃助成」が57.1%と最も多く、次いで、「医療費助成」が47.4%、「障がい者手当」が30.1%となっています。

利用していない理由については、「必要ではない」が26.7%と最も多く、前回調査の36.2%より9.5ポイント減少し、次いで、「自分に合ったサービスがない」が22.2%と前回調査の11.6%より10.6ポイント増加し、「利用のための手続きが面倒」、「他人と関わりたくない」が13.3%となっています。

#### (2) 介助について

身の周りの介助者については、「配偶者(夫・妻)」が23.2%と最も多く、前回調査の23.0%より0.2ポイント増加し、次いで、「母親」が14.7%と前回調査の15.1%より0.4ポイント減少し、「子ども」が7.9%と前回調査の7.7%より0.2ポイント増加しています。

介助者の年齢については、「50代」が24.7%と最も高く、前回調査の22.1%より2.6ポイント増加し、「75歳以上」が22.8%と前回調査の20.4%より2.4ポイント増加し、「40代」が16.6%と前回調査の14.0%より2.6ポイント増加しています。

なお、障がい者の年代別に介助者の年齢を見ると、18歳未満では「40代」が62.1%、18歳～40歳未満及び40歳～65歳未満では「50代」がそれぞれ39.7%、29.3%、65歳以上では「65歳以上」が41.9%と最も多く、年齢区分が高くなるに従い、介助者の年代も高くなっています。

#### (3) 今後(将来)の過ごし方について

今後(将来)希望する暮らしについては、「配偶者やパートナー、子どもとの暮らし」が48.2%と最も多く、次いで、「ひとり暮らし」が17.2%、「グループホーム(介護や支援、見守りがある少人数の共同生活)での暮らし」(以下、「グループホーム」という)が14.0%となっています。

なお、療育手帳所持者では38.5%が「グループホーム」で暮らしたいと回答しています。また、回答者全数で「グループホームで暮らしたい」と回答したその理由としては、「入居費用が安い」が42.9%と最も多く、前回調査の50.4%より7.5ポイント減少し、「24時間支援員がいる」が34.1%と前回調査の47.9%より13.8ポイント減少し、「居室・トイレ・風呂等が自分専用である」が29.1%と前回調査の38.8%より9.7ポイント減少しています。

また、今後(将来)希望する暮らしとして「グループホーム」を選択した人では、90.1%が市内のグループホームを希望しており、市外のグループホームを希望している人(「可」と回答)は52.7%、どこの場所のグループホームでもよい人(「可」と回答)は10.4%となっています。

今後(将来)の暮らしで課題または不安だと思うことについては、「同居する家族が亡くなった後の生活」が32.3%と最も多く、前回調査の40.1%より7.8ポイント減少し、次いで、「生活費等の金銭面」が29.6%と前回調査の34.1%より4.5ポイント減少し、「日常的な生活面(食事や掃除等)のフォ

ロー」が21.5%と前回調査の23.6%より2.1ポイント減少しています。

#### (4) 就労について

15歳以上の障がい者で「働いている（民間企業や自営業、就業訓練、福祉的就労等）」人は38.7%となっており、そのうち、18歳～40歳未満では61.3%と前回調査の58.5%より2.8ポイント増加し、40歳～65歳未満では59.3%と前回調査の49.8%より9.5ポイント増加し、65歳以上では15.0%と前回調査の12.0%より3.0ポイント増加しています。

就労の形態については、「企業等で正社員・正職員」が35.4%と前回調査の30.6%より4.8ポイント増加し、「企業等で臨時、アルバイト、パート」が32.0%と前回調査の25.7%より6.3ポイント増加しており、「就労継続支援や就労移行支援、生活介護を利用」が15.9%と前回調査の17.5%より1.6ポイント減少しています。

また、今後（将来）「働きたい」人は35.1%と前回調査の29.4%より5.7ポイント増加し、「働かない」（「働きたくない」及び「働きたいが働けない」の合計）が31.2%と前回調査の30.7%より0.5ポイント増加しています。

なお、年齢区分別に見ると、18歳～40歳未満で「働きたい」が56.6%と前回調査の52.3%より4.3ポイント増加し、40歳～65歳未満で52.4%と前回調査の45.4%より7.0ポイント増加し、65歳以上では10.0%と前回調査の9.1%より0.9ポイント増加と、いずれの年代でも就労意欲が増加しています。

働くために必要なことについては、「勤務時間や日数を調整できること」が28.1%と前回調査の20.3%より7.8ポイント増加し、「障がいに合った仕事であること」が23.2%と前回調査の22.2%より1.0ポイント増加し、「賃金が妥当であること」が18.0%と前回調査の16.3%より1.7ポイント増加しています。

#### (5) 悩み・相談ごと等について

相談にのってもらっている人が「いる」と回答した人は74.5%となっており、前回調査の72.2%より2.3ポイント増加しています。

相談にのってもらっている人や機関としては、「家族」が77.4%と最も多く、次いで、「友人・知人」が34.0%、「医療機関（医師、歯科医師、薬剤師等）」が32.6%となっています。

一方で、相談相手がいない理由については、「気軽に相談できる場や人がいない」が40.5%と最も多く、前回調査の47.9%より7.4ポイント減少し、次いで、「どこに相談したら良いかわからない」が24.8%と前回調査の16.9%より7.9ポイント増加しています。

また、現在、悩んでいることについては、「健康・病気・治療のこと」が46.2%と最も多く、前回調査の42.3%より3.9ポイント増加し、次いで、「将来のこと」が30.6%と前回調査の32.4%より1.8ポイント減少し、「年金や生活費や金銭管理のこと」が26.8%と前回調査の26.4%より0.4ポイント増加しています。

なお、情報の収集先については、「テレビ・ラジオ」が58.7%と最も多く、前回調査の69.0%より10.3ポイント減少し、次いで、「家族・友人・知人」が40.0%と前回調査の39.6%より0.4ポイント増加し、「新聞・雑誌・フリーペーパー」が21.6%と前回調査の28.1%より6.5ポイント減少しています。

なお、「SNS（ツイッター、フェイスブック等）」が21.0%と前回調査の16.4%より4.6ポイント増加し、動画配信サイト（YouTube等）が20.5%と前回調査の14.8%より5.7ポイント増加しています。

## (6) 災害時の備えについて

災害（地震や水害等）の備えについては、「準備をしている」が53.5%と前回調査の55.7%より2.2ポイント減少し、一方で、「準備をしていない」が36.3%と前回調査の34.1%より2.2ポイント増加しています。

なお、「準備をしていない」または「準備をすることができない」と回答した人に、その理由を訊ねたところ、「何を準備すればいいかわからない」が43.0%と最も多く、前回調査の44.2%より1.2ポイント減少し、次いで、「考えたことがない」が27.3%と前回調査の23.6%より3.7ポイント増加し、「金銭的な余裕がない」が21.9%と前回調査の24.0%より2.1ポイント減少しています。

## (7) 障がい者差別に関する法律及び条例について

市の障がい者権利擁護センターの認知度（「利用したことがある」及び「知っているが、利用したことはない」の合計）は16.3%と前回調査の19.8%より3.5ポイント減少しており、「まったく知らない」は79.1%と前回調査の73.8%より5.3ポイント増加しています。

また、過去3年間に差別等の経験については、「ある」（「よくある」及び「時々ある」の合計）が19.8%と前回調査の16.6%より3.2ポイント増加し、「ない」（「ほとんどない」及び「まったくない」の合計）が72.2%と前回調査の75.5%より3.3ポイント減少しています。

その内容としては、「公共施設や交通機関を利用するとき」が50.2%と前回調査の45.3%より4.9ポイント増加し、「職場や学校にいるとき」が29.6%と前回調査の28.9%より0.7ポイント増加、「仕事を探すとき」が21.0%と前回調査の23.9%より2.9ポイント減少しています。

## 2 事業所に対する調査

### (1) 事業所の令和6年度経営状況について

浦安市内の障がい福祉サービス事業所の収支の状況は、『就労継続支援A型』で「黒字」が、『就労移行支援』『就労定着支援』で「概ね均衡」が、『自立生活援助』で「赤字」が、『重度訪問介護』で「わからない」が高くなっています。

### (2) 事業所の職員について

事業所の運営を進めていく上での課題として、「職員の採用が困難」が60.6%と最も多く、次いで、「利用者の確保が困難」が28.8%、「職員の人材育成が困難」が24.2%となっており、利用者の確保とともに、職員の確保・育成が大きな課題となっています。

過去1年間における職員の平均採用者数については、正規職員で1.3人、非正規職員で2.2人となっており、正規職員は、前回調査の2.5人より減少、非正規職員は、前回調査の2.4人より減少しています。平均離職者数については、正規職員で0.6人、非正規職員で1.0人となっており、前回調査の正規職員1.8人、非正規職員1.8人より、それぞれ減少しています。

なお、平均離職者数を勤続年数で見ると、正規職員では1年未満の離職が0.4人と前回調査の1.4人より1.0人減少し、3年未満の離職が0.7人と前回調査の1.7人より1.0人減少しています。また、非正規職員では、1年未満の離職が1.1人と前回調査と同数となっており、3年未満の離職が0.5人と前回調査の1.2人より0.7人減少しています。

職員の充足状況については、「十分である」が19.7%と、前回調査の26.2%から6.5ポイント減少しており、「不足している」（「やや不足している」、「不足している」及び「非常に不足している」の合計）の80.4%を大きく下回っています。

職員が不足している理由については、「離職率が高い（定着率が低い）」が5.7%と前回調査の2.2%より3.5ポイント増加し、「募集しても応募がない」が41.5%と前回調査の51.1%より9.6ポイント減少しています。

一方で、「応募者がいても、採用基準に達していない」が39.6%と前回調査の20.0%より19.6ポイント増加しています。

人材確保・人材定着のために取り組んでいることについては、「求人誌、インターネット求人サイトでの募集」が75.8%と最も多く、前回調査の70.5%から5.3ポイント増加し、次いで、「自社のホームページ等での募集」が51.5%と、前回調査の54.1%から2.6ポイント減少しています。

### (3) 提供している障がい福祉サービス等について

利用者が希望するサービスを「提供できている」（「十分提供できている」及び「どちらかといえば提供できている」の合計）と回答した事業所が97.0%と前回調査の88.5%より8.5ポイント増加しています。

利用者にサービス提供する上での課題については、「困難事例への対応が難しい」が36.4%と前回調査の42.6%より6.2ポイント減少し、「休日（土・日・祝日）や早朝夜間の対応が難しい」が28.8%と前回調査の34.4%より5.6ポイント減少し、「申込数が多く、利用者の希望するサービスが提供できない」が24.2%と前回調査の13.1%より11.1ポイント増加しています。

#### (4) 災害時の備えについて

災害時の準備として実施しているものについては、「避難行動計画や災害発生時対応マニュアルの作成」が78.8%と前回調査の68.9%より9.9ポイント増加し、「地震・水害などの災害（火災を除く）を想定した避難訓練を実施」が71.2%と前回調査の68.9%より2.3ポイント増加、「緊急連絡網の作成」が71.2%と前回調査の59.0%より12.2ポイント増加しています。

また、「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」については、「協定を締結している」が30.3%、「締結していない」（「以前は協定を締結していたが、現在は協定を解約している」及び「協定を締結したことはない」の合計）が66.6%と、締結していない事業所の方が多くなっています。

なお、協定を解約、もしくは締結していない理由については、「災害発生時に福祉避難所として開設するための職員の確保が難しいため」が50.0%と最も多く、次いで、「通所系のサービスを実施していないため」が31.8%で、「福祉避難所としての役割や運営方法などがよくわからないため」が22.7%となっています。

今後の締結の意向については、「引き続き協定の締結を継続する」が28.8%、「事業所の体制が整い次第、協定を締結したい」が25.8%、「協定の締結は考えていない」が40.9%となっています。

#### (5) 地域生活支援拠点について

地域生活支援拠点については、「登録している」が27.3%、「登録していない」が72.7%となっています。このうち、登録していない理由については、「地域生活支援拠点の名称・内容は知っているが、事業所として役割を担うことが難しいと感じるため」が41.7%と最も多く、次いで、「地域生活支援拠点の名称は知っているが、内容がよくわからないため」が20.8%、「地域生活支援拠点を知らなかったため」が18.8%となっています。

また、地域生活支援拠点に期待する機能については、「緊急時の受け入れ・対応」が50.0%と前回調査の59.0%より9.0ポイント減少し、「地域の体制づくり」が47.0%と前回調査の63.9%より16.9ポイント減少し、「相談支援機能の充実」が36.4%と前回調査の54.1%より17.7ポイント減少しています。

### Ⅲ 調査結果

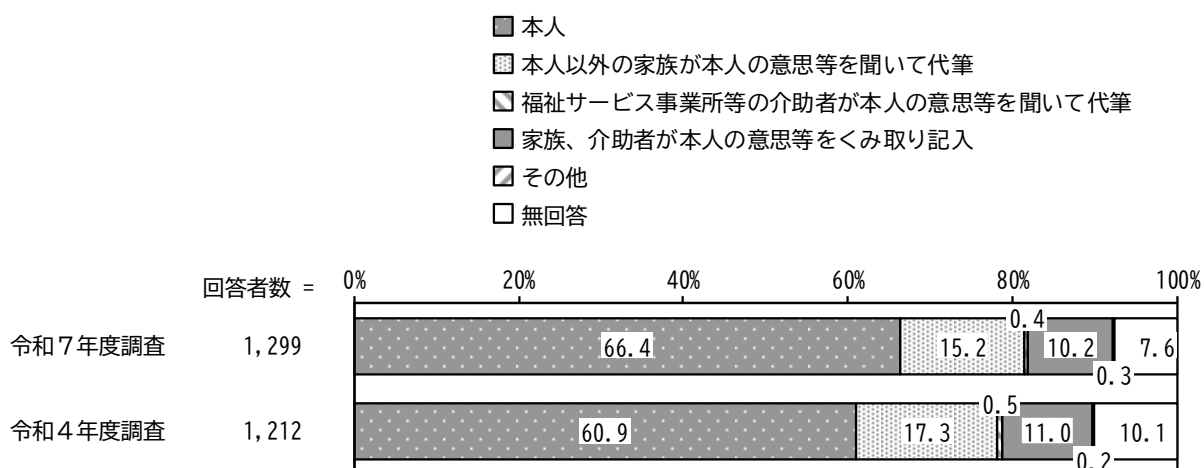
#### 1 障がい者手帳所持者

##### (1) 基礎的事項

この調査票を記入していただいたのはどなたですか。(1つに○)

「本人」の割合が 66.4%と最も高く、次いで「本人以外の家族が本人の意思等を聞いて代筆」の割合が 15.2%、「家族、介助者が本人の意思等をくみ取り記入」の割合が 10.2%となっています。

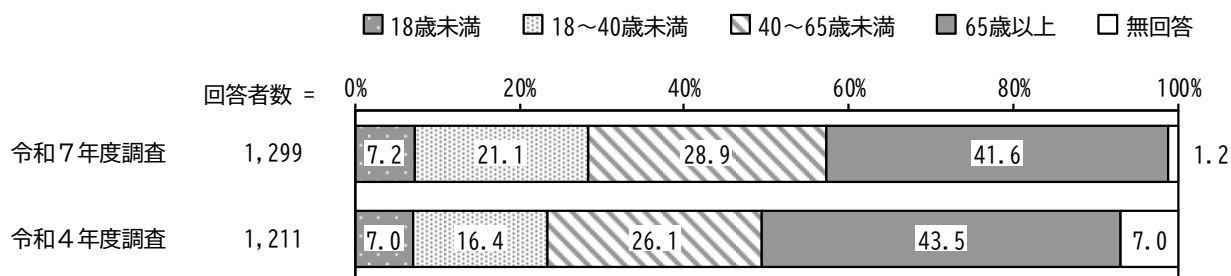
令和4年度調査と比較すると、「本人」の割合が増加しています。



問1 あなたの年齢（令和7年12月1日現在）をお答えください。(記入)

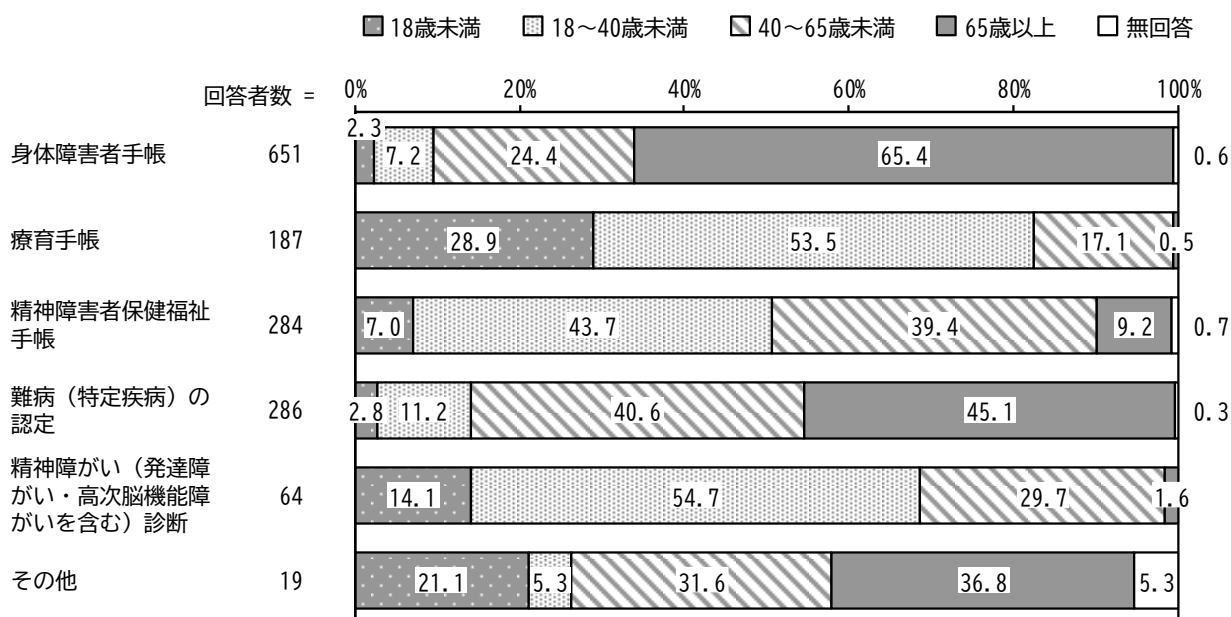
「65歳以上」の割合が 41.6%と最も高く、次いで「40～65歳未満」の割合が 28.9%、「18～40歳未満」の割合が 21.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

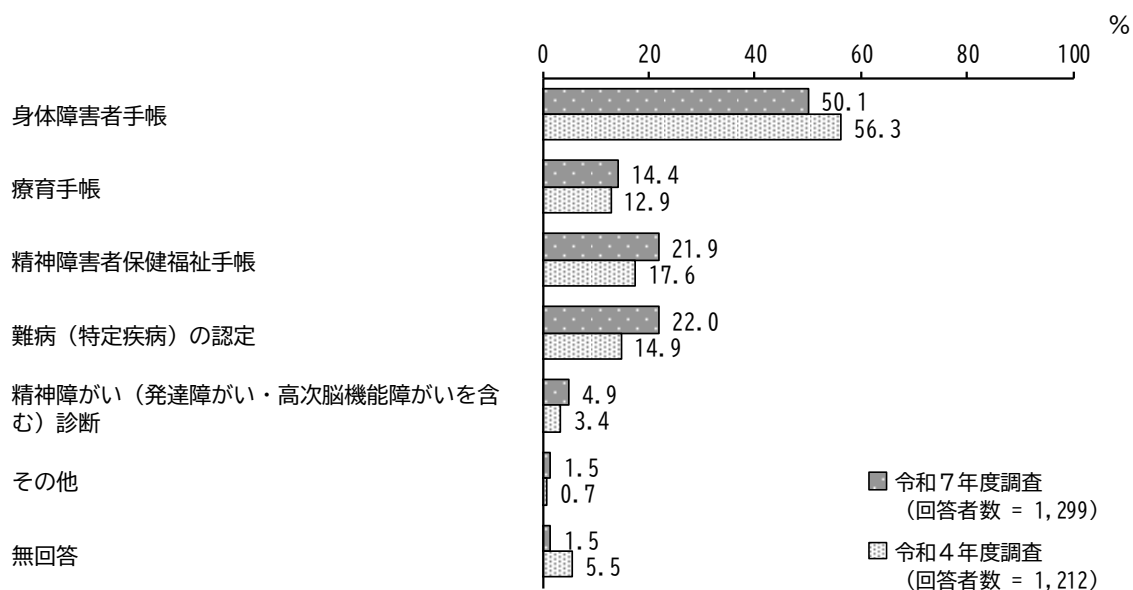
身体障害者手帳で「65歳以上」の割合が高くなっています。また、療育手帳で「18歳未満」「18～40歳未満」、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「18～40歳未満」の割合が高くなっています。



問2 お持ちの手帳や、認定・診断を受けている状況をお答えください。また、手帳をお持ちの場合は、種類と等級をお答えください。（あてはまるものすべてに○をつけて記入）

「身体障害者手帳」の割合が50.1%と最も高く、次いで「難病（特定疾病）の認定」の割合が22.0%、「精神障害者保健福祉手帳」の割合が21.9%となっています。

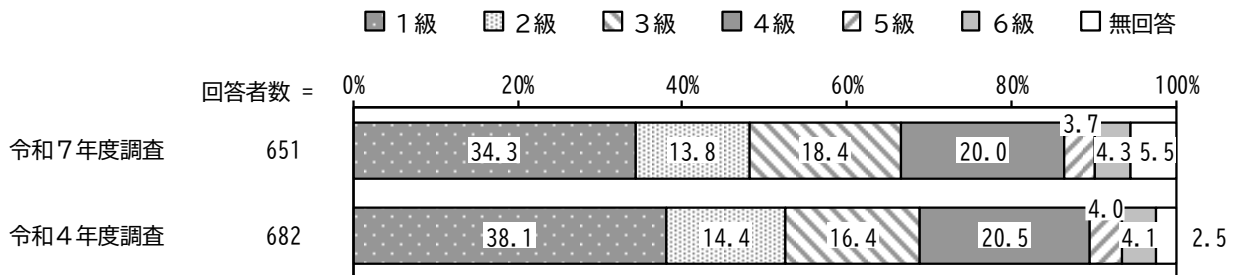
令和4年度調査と比較すると、「難病（特定疾病）の認定」の割合が増加しています。一方、「身体障害者手帳」の割合が減少しています。



### 身体障害者手帳の等級

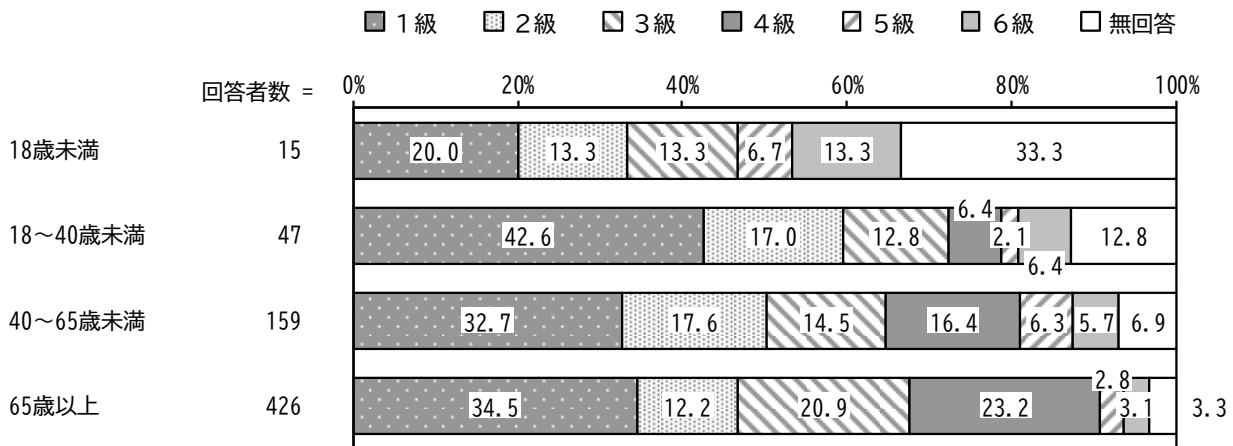
「1級」の割合が34.3%と最も高く、次いで「4級」の割合が20.0%、「3級」の割合が18.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 【年齢別】

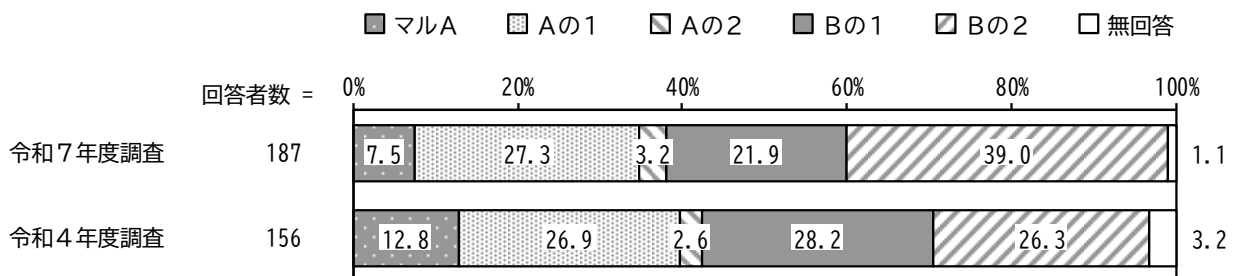
18～40歳未満で「1級」の割合が高く、他の年齢層と比較すると、65歳以上で「4級」の割合が高くなっています。



### 療育手帳の種類

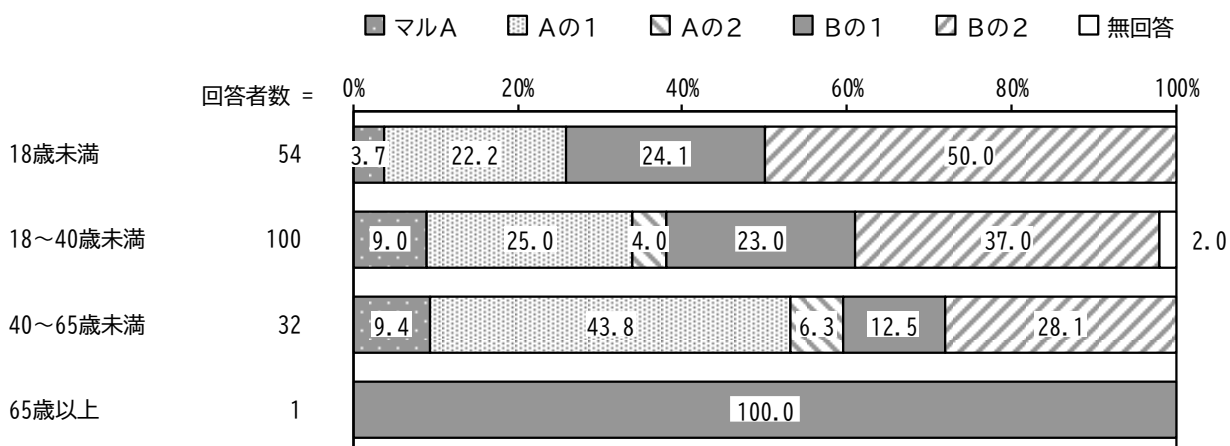
「Bの2」の割合が39.0%と最も高く、次いで「Aの1」の割合が27.3%、「Bの1」の割合が21.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「Bの2」の割合が増加しています。一方、「マルA」「Bの1」の割合が減少しています。



【年齢別】

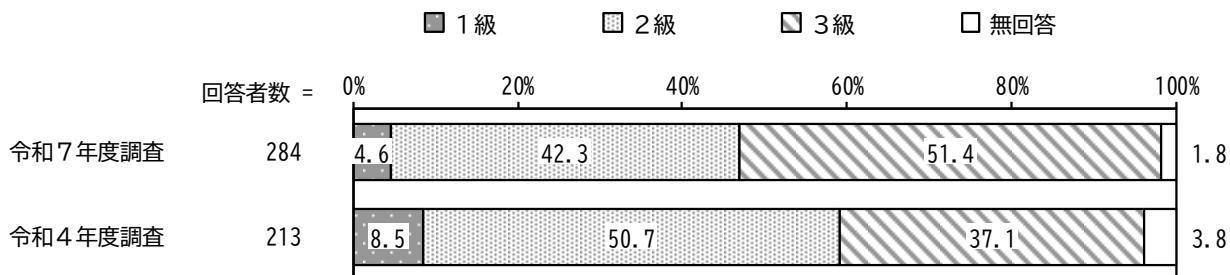
18歳未満で「Bの2」、40～65歳未満で「Aの1」の割合が高くなっています。



精神障害者保健福祉手帳の等級

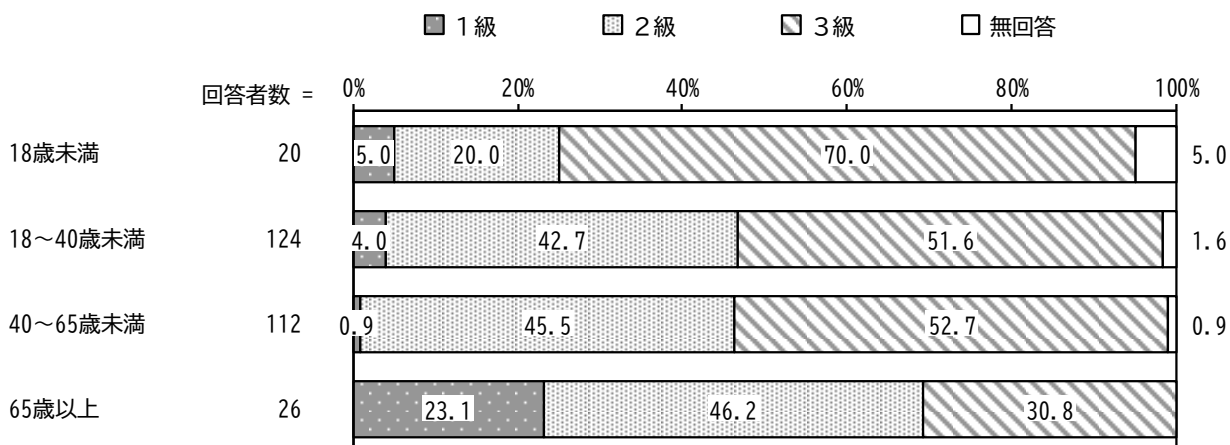
「1級」の割合が4.6%、「2級」の割合が42.3%、「3級」の割合が51.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「3級」の割合が増加しています。一方、「2級」の割合が減少しています。



【年齢別】

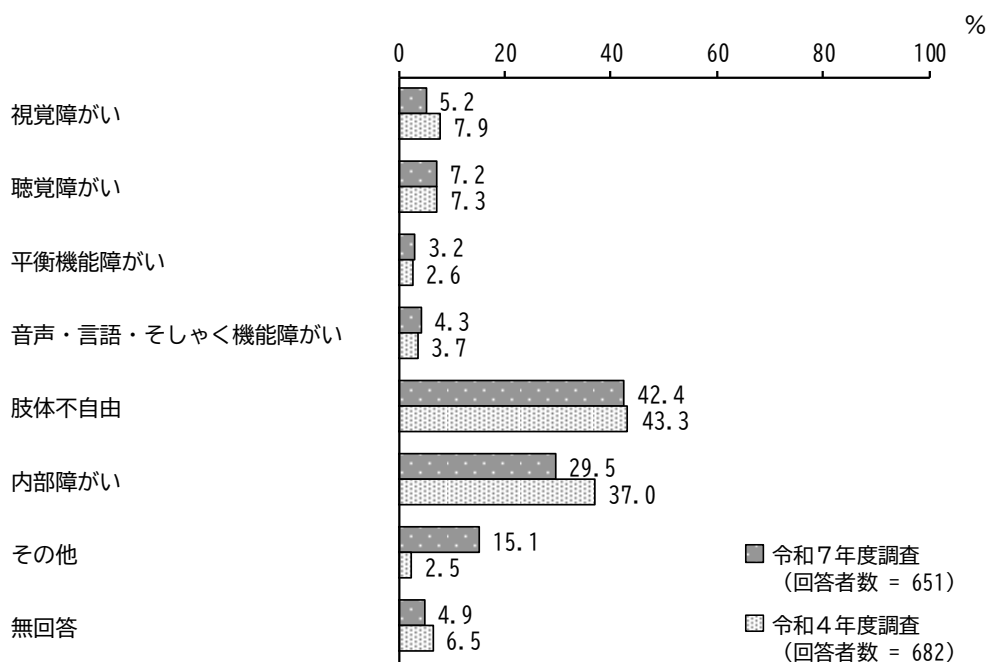
18歳未満で「3級」の割合が高く、他の年齢層と比較すると、65歳以上で「1級」の割合が高くなっています。



問2で「1. 身体障害者手帳」と答えた方におたずねします。

問2-1 障がいの種類はどれにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)

「肢体不自由」の割合が42.4%と最も高く、次いで「内部障がい」の割合が29.5%となっています。令和4年度調査と比較すると、「内部障がい」の割合が減少しています。



【年齢別】

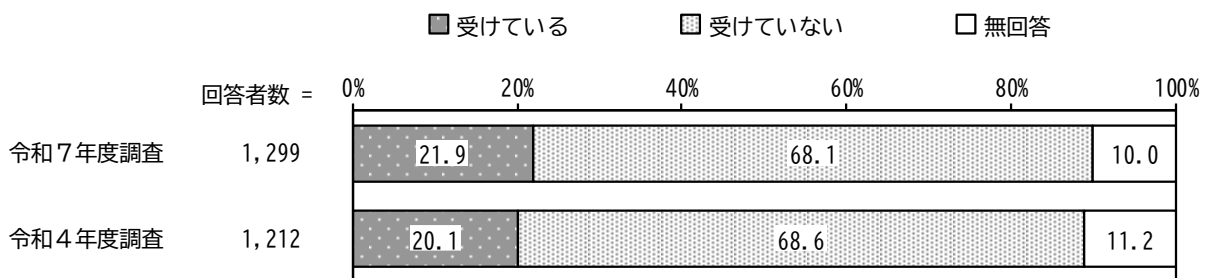
他の年齢層と比較すると、18歳未満で「聴覚障がい」の割合が高くなっています。また、40～65歳未満、65歳以上で「肢体不自由」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	視覚障がい	聴覚障がい	平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由	内部障がい	その他	無回答
全体	651	5.2	7.2	3.2	4.3	42.4	29.5	15.1	4.9
18歳未満	15	0.0	20.0	6.7	0.0	33.3	20.0	20.0	0.0
18～40歳未満	47	6.4	4.3	4.3	4.3	36.2	31.9	12.8	8.5
40～65歳未満	159	3.8	6.9	4.4	6.3	45.9	28.3	18.2	1.9
65歳以上	426	5.9	7.0	2.6	3.8	42.0	30.3	14.1	5.6

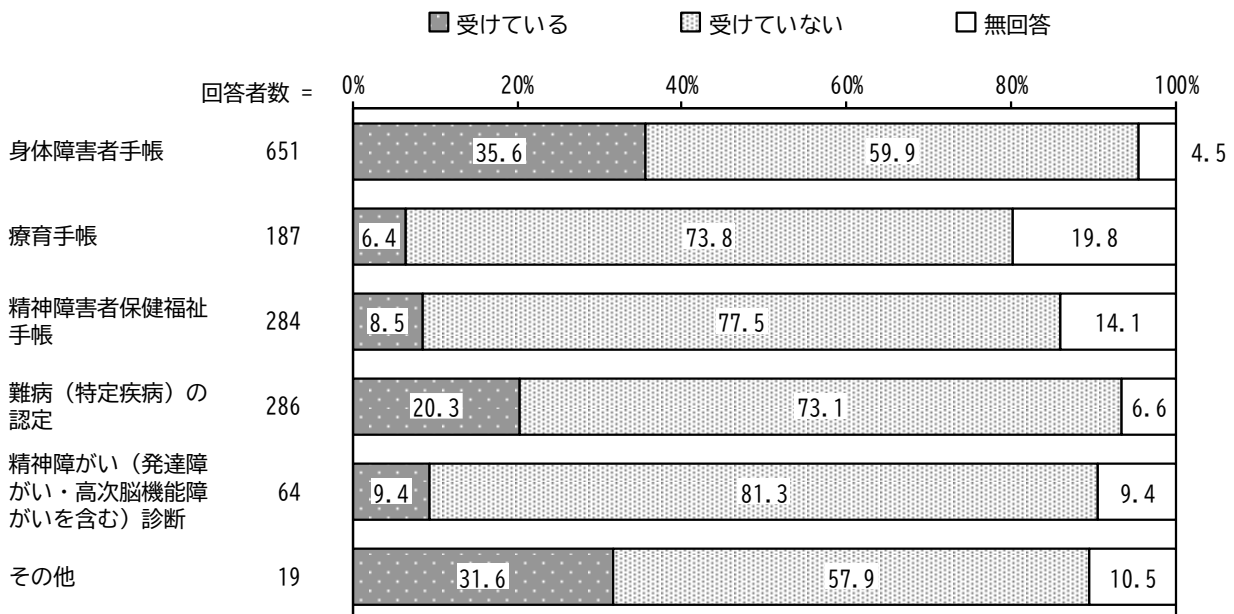
### 問3 あなたは、日常的に必要となる医療的ケアを受けていますか。(1つに○)

「受けている」の割合が21.9%、「受けていない」の割合が68.1%となっています。  
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



#### 【障がい種別】

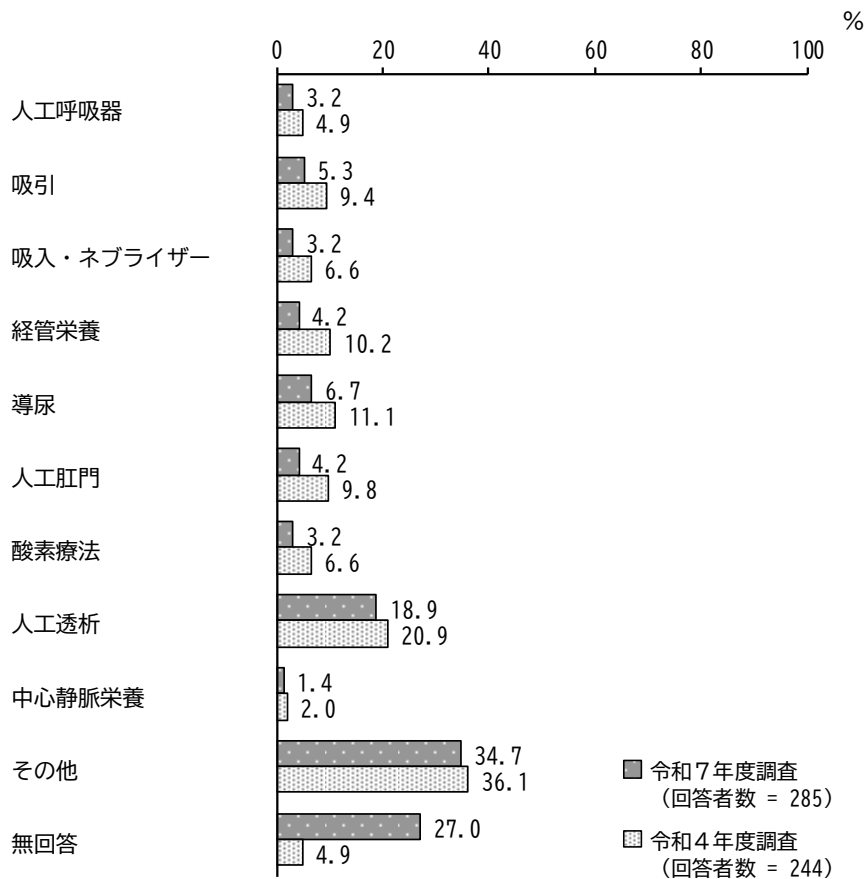
他の障がい種別と比較すると、身体障害者手帳で「受けている」の割合が高くなっています。また、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、難病（特定疾患）の認定、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「受けていない」の割合が高くなっています。



問3で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

問3-1 あなたが現在受けている医療ケア、または医療的ケアの種類は次のどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

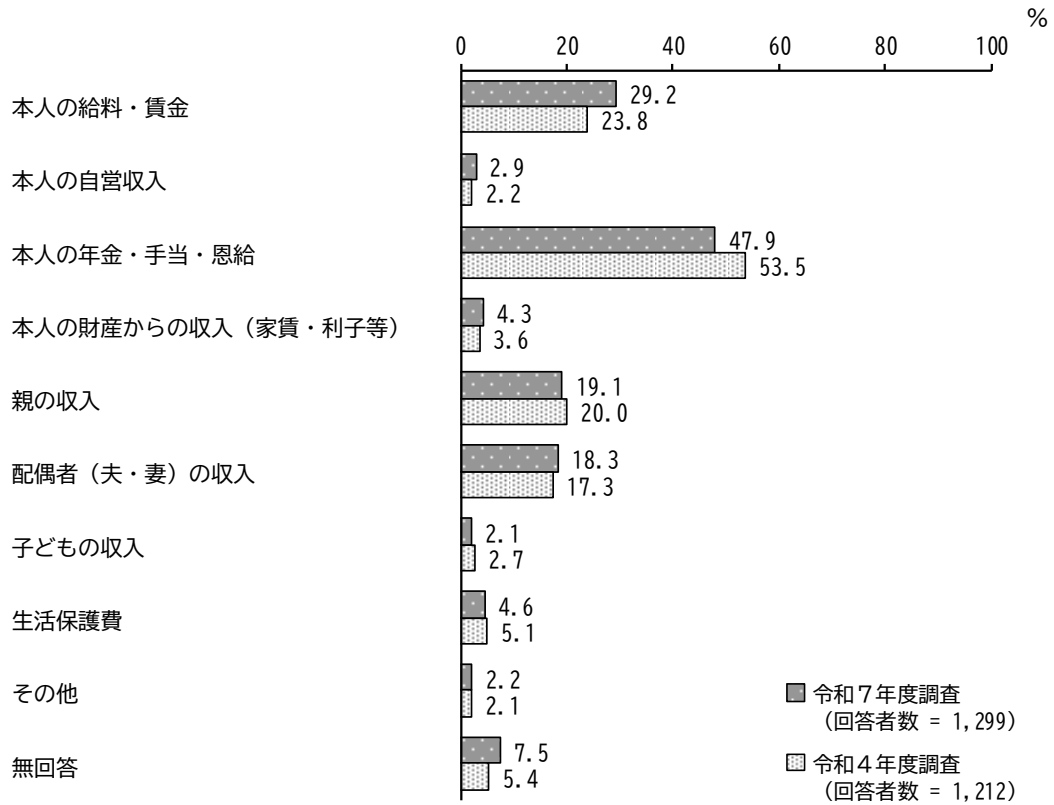
「その他」の割合が34.7%と最も高く、次いで「人工透析」の割合が18.9%となっています。  
令和4年度調査と比較すると、「経管栄養」「人工肛門」の割合が減少しています。



問4 あなたが現在の生活をしていくうえでの主な収入は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

「本人の年金・手当・恩給」の割合が47.9%と最も高く、次いで「本人の給料・賃金」の割合が29.2%、「親の収入」の割合が19.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「本人の給料・賃金」の割合が増加しています。一方、「本人の年金・手当・恩給」の割合が減少しています。



【年齢別】

18歳未満、18～40歳未満で「親の収入」、40～65歳未満で「本人の給料・賃金」、65歳以上で「本人の年金・手当・恩給」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	本人の給料・賃金	本人の自営収入	本人の年金・手当・恩給	本人の財産からの収入 (家賃・利子等)	親の収入	配偶者 (夫・妻) の収入	子どもの収入	生活保護費	その他	無回答
全体	1,299	29.2	2.9	47.9	4.3	19.1	18.3	2.1	4.6	2.2	7.5
18歳未満	93	1.1	0.0	2.2	0.0	84.9	1.1	0.0	2.2	1.1	12.9
18～40歳未満	274	49.6	1.1	29.2	1.1	50.0	7.3	0.4	5.8	1.8	8.8
40～65歳未満	376	51.3	3.5	26.1	3.2	8.2	27.4	1.1	8.2	3.2	6.4
65歳以上	541	8.9	4.1	81.1	7.6	0.2	20.5	4.1	1.8	1.8	5.4

【障がい種別】

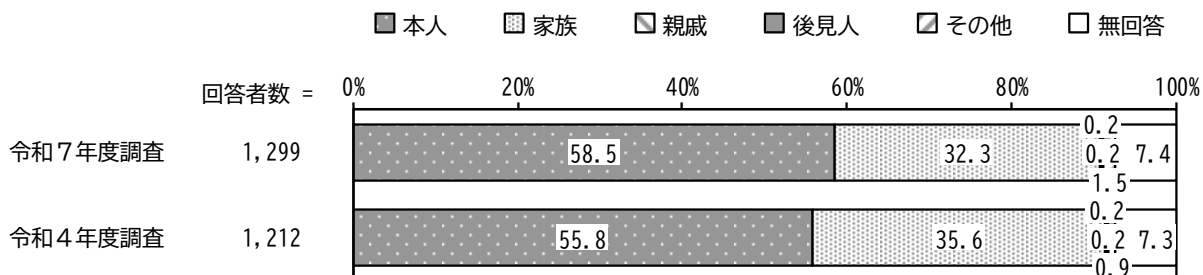
身体障害者手帳で「本人の年金・手当・恩給」、療育手帳で「親の収入」の割合が高くなっています。また、精神障害者保健福祉手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「本人の給料・賃金」「親の収入」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	本人の給料・賃金	本人の自営収入	給本人の年金・手当・恩	入(家賃・利子等)	本人の財産からの収	親の収入	入配偶者(夫・妻)の収	子どもの収入	生活保護費	その他	無回答
全 体	1,299	29.2	2.9	47.9	4.3	19.1	18.3	2.1	4.6	2.2	7.5	
身体障害者手帳	651	24.0	3.7	65.1	6.8	6.1	19.7	3.8	3.4	2.2	4.3	
療育手帳	187	29.4	0.5	34.8	1.1	65.2	1.1	0.5	3.2	2.7	9.6	
精神障害者保健福祉手帳	284	39.4	2.8	31.3	2.8	31.7	16.9	0.7	11.3	3.5	8.8	
難病（特定疾病）の認定	286	32.5	3.1	38.8	4.5	10.1	26.9	0.7	2.4	2.1	4.9	
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	64	45.3	3.1	29.7	3.1	42.2	9.4	0.0	10.9	3.1	7.8	
その他	19	15.8	5.3	57.9	5.3	21.1	15.8	0.0	0.0	5.3	5.3	

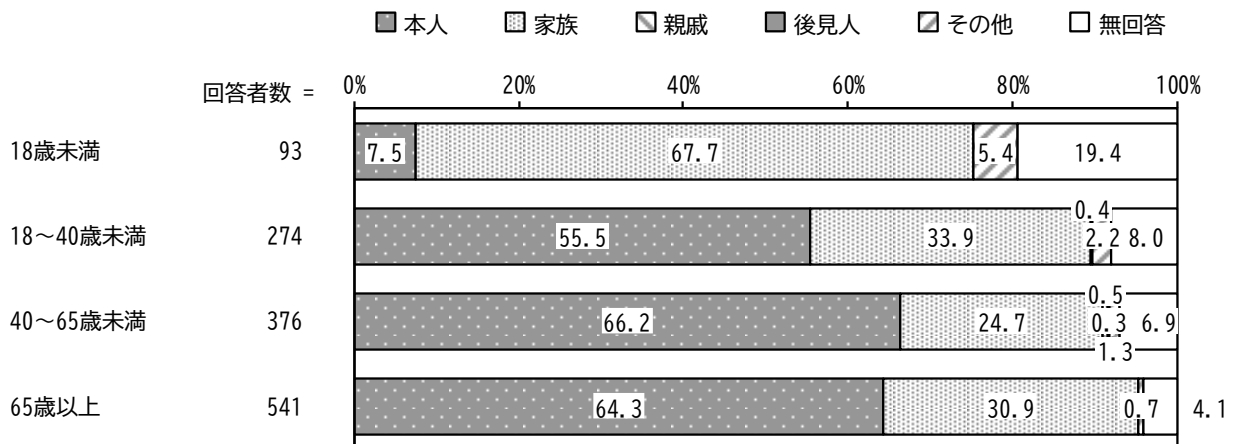
問5 あなたの収入を管理しているのは、誰ですか。（主なもの1つに○）

「本人」の割合が58.5%と最も高く、次いで「家族」の割合が32.3%となっています。令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



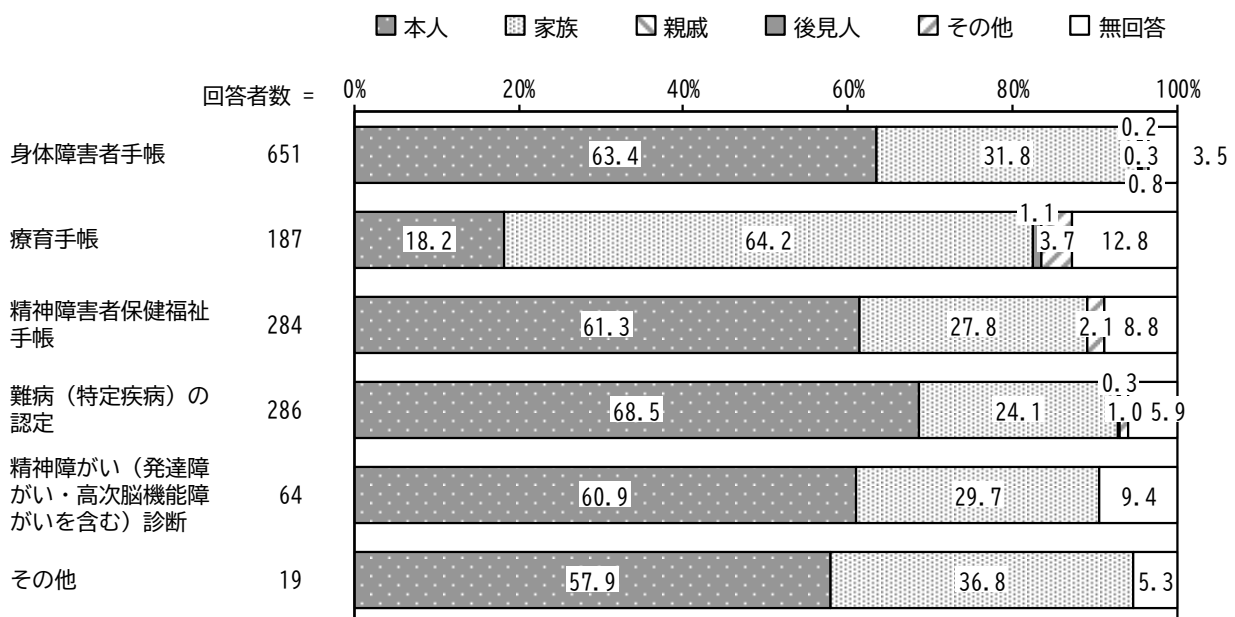
### 【年齢別】

18歳未満で「家族」の割合が高く、18～40歳未満、40～65歳未満、65歳以上で「本人」の割合が高くなっています。



### 【障がい種別】

他の障がい種別と比較すると、療育手帳で「家族」の割合が高くなっています。

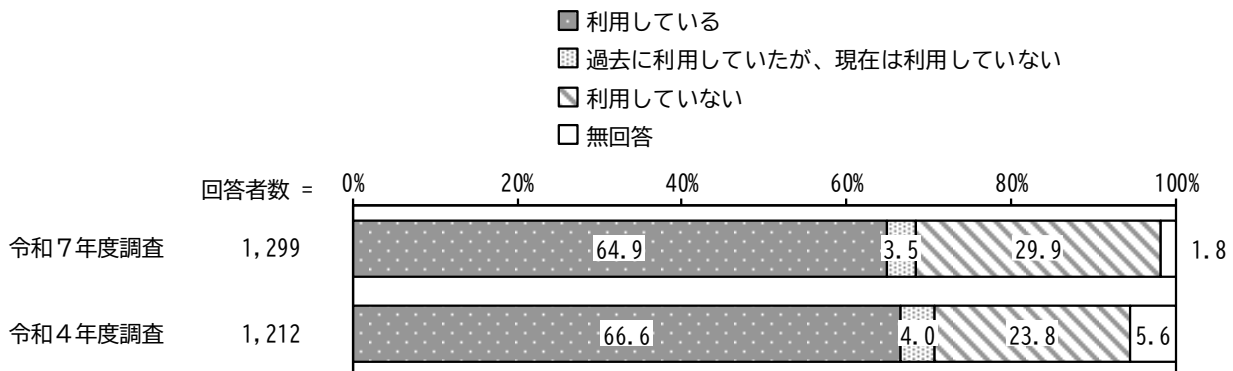


## (2) 福祉サービス等について

### 問6 あなたは障がい福祉サービス・制度を利用していますか。(1つに○)

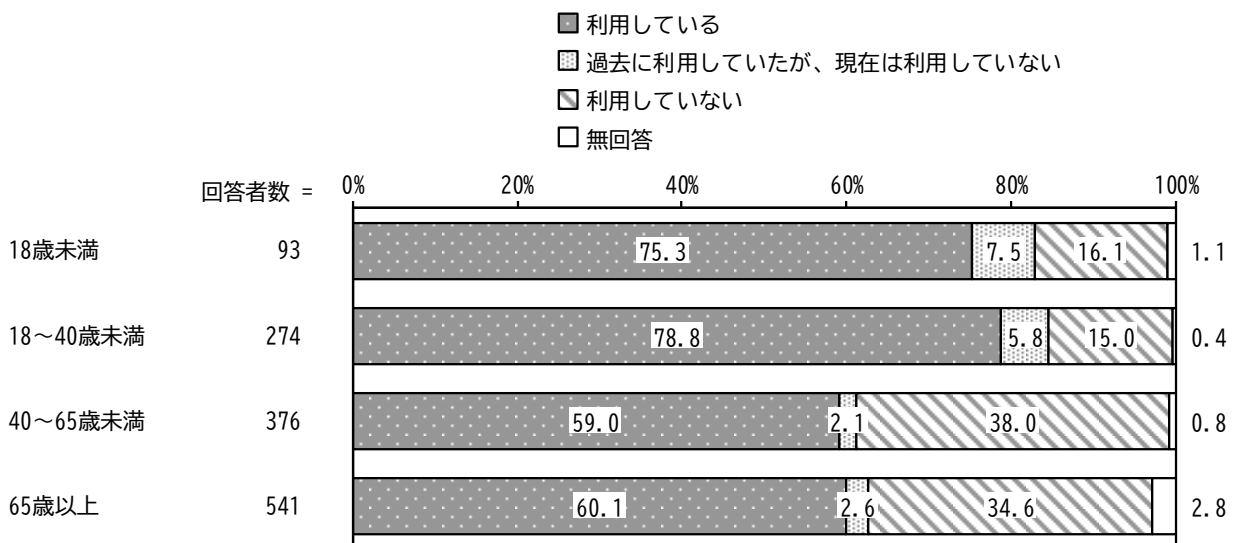
「利用している」の割合が64.9%、「過去に利用していたが、現在は利用していない」の割合が3.5%、「利用していない」の割合が29.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「利用していない」の割合が増加しています。



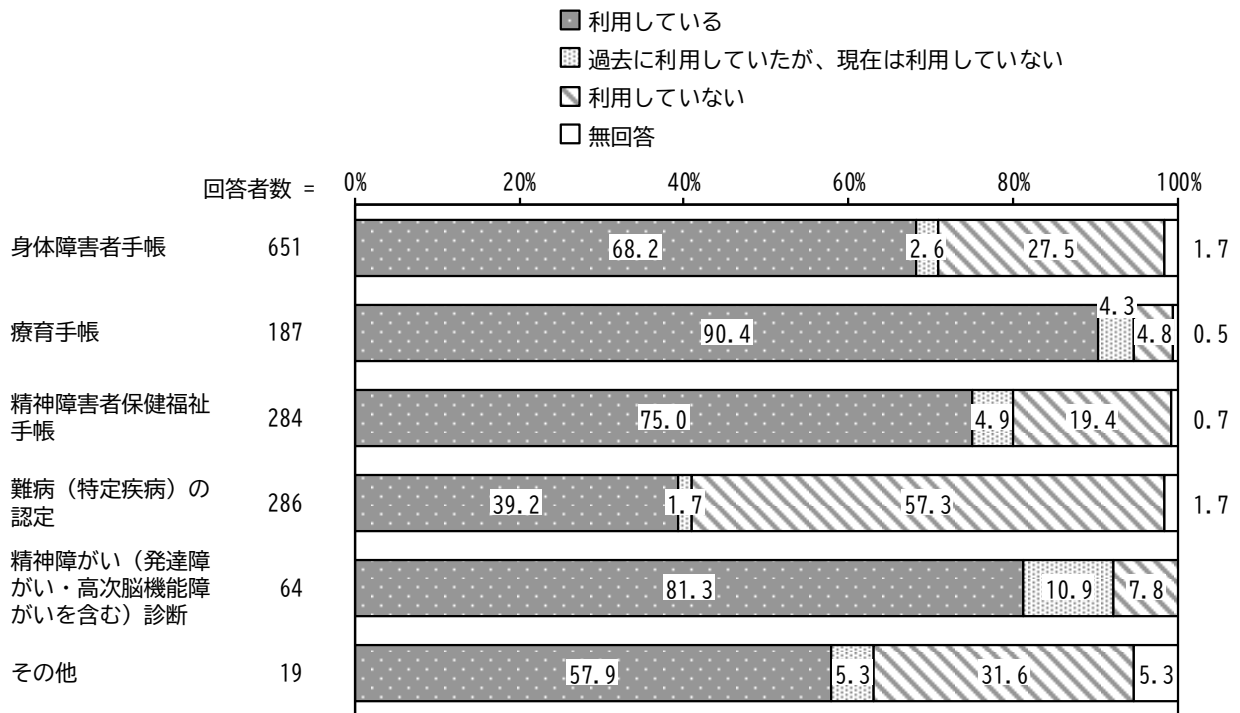
#### 【年齢別】

18歳未満、18～40歳未満で「利用している」の割合が高く、他の年齢層と比較すると、40～65歳未満、65歳以上で「利用していない」の割合が高くなっています。



【障がい種別】

療育手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「利用している」の割合が高く、難病（特定疾患）の認定で「利用していない」の割合が高くなっています。

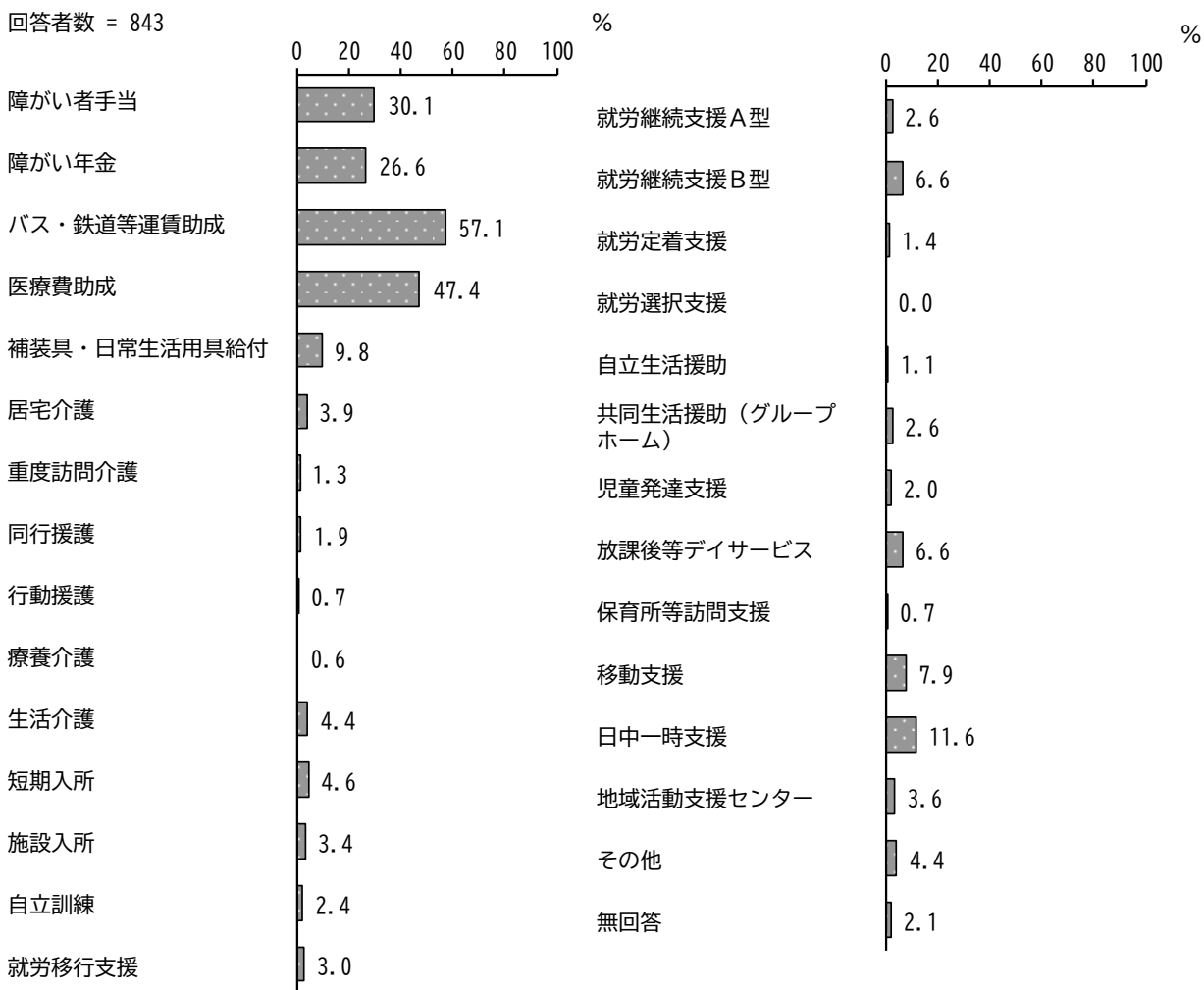


問6で「1. 利用している」と答えた方におたずねします。

問6-1 現在、どの障がい福祉サービス・制度を利用していますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「バス・鉄道等運賃助成」の割合が57.1%と最も高く、次いで「医療費助成」の割合が47.4%、「障がい者手当」の割合が30.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「医療費助成」「補装具・日常生活用具給付」の割合が減少しています。



【障がい種別】

身体障害者手帳で「バス・鉄道等運賃助成」、療育手帳で「障がい年金」「バス・鉄道等運賃助成」、精神障害者保健福祉手帳で「バス・鉄道等運賃助成」、難病（特定疾病）の認定で「医療費助成」、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「バス・鉄道等運賃助成」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	障がい者手当	障がい年金	成 バス・鉄道等運賃助	医療費助成	補装具・日常生活用具給付	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	療養介護	生活介護	短期入所	施設入所	自立訓練
全 体	843	30.1	26.6	57.1	47.4	9.8	3.9	1.3	1.9	0.7	0.6	4.4	4.6	3.4	2.4
身体障害者手帳	444	40.3	18.5	64.6	45.0	16.9	5.2	2.0	3.2	0.5	0.7	2.9	2.7	4.5	3.4
療育手帳	169	38.5	53.3	56.2	36.7	7.1	3.0	0.6	1.8	3.0	0.6	13.0	16.0	5.3	0.6
精神障害者保健福祉手帳	213	9.4	36.6	60.6	51.6	0.9	2.8	0.5	0.0	0.0	0.5	3.3	1.4	1.4	1.4
難病（特定疾病）の認定	112	17.0	11.6	25.0	69.6	10.7	6.3	2.7	3.6	0.0	0.9	2.7	2.7	4.5	4.5
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	52	17.3	42.3	59.6	44.2	1.9	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	1.9	1.9
その他	11	9.1	9.1	63.6	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0

区分	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労定着支援	就労選択支援	自立生活援助	共同生活援助（グループホーム）	児童発達支援	ビス 放課後等デイサー	保育所等訪問支援	移動支援	日中一時支援	ター 地域活動支援セン	その他	無回答
全 体	3.0	2.6	6.6	1.4	0.0	1.1	2.6	2.0	6.6	0.7	7.9	11.6	3.6	4.4	2.1
身体障害者手帳	0.7	1.6	2.5	0.0	0.0	1.4	1.1	0.2	2.7	0.0	7.0	4.7	2.7	4.1	3.4
療育手帳	4.7	5.9	25.4	2.4	0.0	1.2	10.7	5.9	23.7	2.4	21.3	45.6	4.1	1.2	0.6
精神障害者保健福祉手帳	6.6	3.3	6.6	3.8	0.0	1.9	1.4	2.8	3.8	0.0	3.8	6.6	6.6	8.5	0.5
難病（特定疾病）の認定	0.9	0.9	2.7	0.0	0.0	0.9	0.9	0.9	2.7	0.0	7.1	3.6	1.8	6.3	2.7
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	11.5	1.9	7.7	1.9	0.0	3.8	1.9	7.7	9.6	3.8	5.8	7.7	9.6	11.5	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	18.2	9.1

問6で「1. 利用している」と答えた方におたずねします。

問6-2 利用しているサービス・制度名の番号（問6-1で選んだ番号）について、ご意見があれば教えてください。（任意記入）

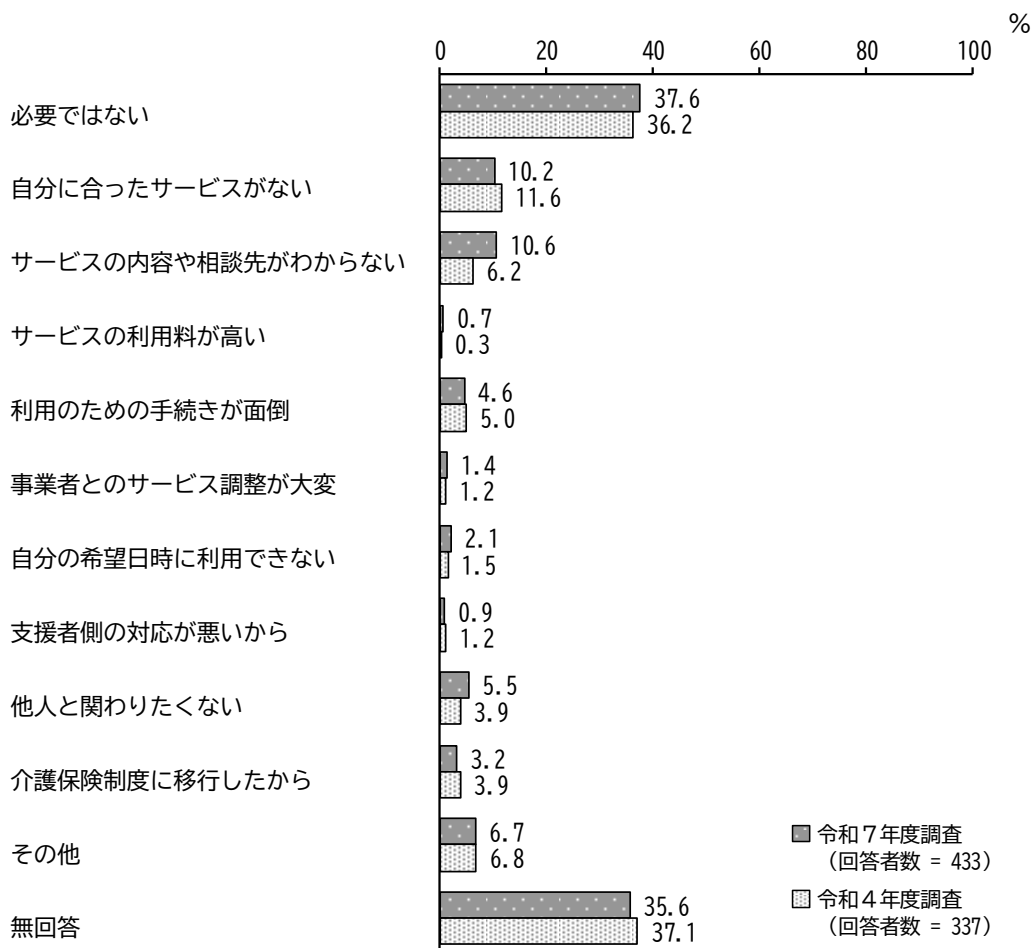
利用しているサービス・制度名	件数	主な意見
障がい者手当	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年金暮らしなので収入は大変有り難い。</li> <li>・障害者手当の増額を希望。</li> <li>・生活費として助かっているが3/2ではなく給料の3/3全額希望。</li> <li>・自立支援手帳を保険証と統合してほしい。</li> <li>・1ヶ月2万円くらいが妥当だと思います。</li> </ul>
障がい年金	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の生活費高騰で無理やりにも働かないとまともに生活できない。</li> <li>・支給額が少ないため、療養よりも生活するだけで精一杯である。</li> <li>・年金額を生活保護額まで上げていただきたい。</li> <li>・診断書が事前に必要なため、受給期間を確認しやすくしてほしい。</li> <li>・どのように申請すればいいのかわからない。</li> </ul>
バス・鉄道等運賃助成	109	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関を利用するときに、手帳とICカードを両方提示しなければならず、不便である。</li> <li>・運賃のみならず、特急券も少しは補助してほしい。</li> <li>・バスの運転士さんの対応が一律ではなく、他の乗客を乗せた後に案内されたことがある。</li> <li>・乗り物の助成金は、申請なしに受けられると良い。</li> <li>・利用できる範囲が分かりづらい。</li> <li>・バスで障害の差別を受けた。運転手によって制度を理解していない人が多い。</li> <li>・バスのステップが高くて難儀する。</li> <li>・バス・鉄道等運賃助成・おさんぽバスでの割引きがあると助かる。</li> </ul>
医療費助成	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナ保険証とは別提示が不便。</li> <li>・更新期間が短い。6カ月前くらいから手続きさせてもらいたい。</li> <li>・毎年、更新手続きをするために病院にお金を払って書類作成してもらわなければならないのが大変。</li> <li>・難病で入院することが多いが、医療費助成があり助かっている。</li> <li>・病院でチラシを配布するなど、制度の存在を広めて欲しい。</li> </ul>
補装具・日常生活用具給付	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修理に時間がかかり、その間不便を感じる。</li> <li>・もう少し早く交換してほしい。物により早く悪くなる物がある。</li> <li>・日常生活用具の給付額が少なすぎて、年内に限度額オーバーしてしまう。</li> </ul>
居宅介護	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴支援を10回分/月支給していただいているが、足りず自費でヘルパーを頼んでいる。</li> <li>・看護小規模多機能型居宅介護で本人のやる気ができてきている。</li> </ul>
重度訪問介護	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべて手続きが困難でわかりにくい。</li> </ul>
同行援護	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべて手続きが困難でわかりにくい。</li> </ul>
生活介護	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用できる施設が限られており、自分に合っているかわからない</li> </ul>
短期入所	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用できる施設が少ないうえ、予約も入らず支給日数を利用できない。</li> <li>・月に1回程度しか予約が取れない。</li> </ul>
施設入所	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の場であることを理解し介助して欲しい。</li> <li>・現在は2年と限定されているので、これをもっと長くなる様にしてもらいたい。</li> <li>・入所すると地域のサービスを柔軟に利用することができず、施設から地域に戻りたくてもその準備ができない。地域生活支援拠点がその受け皿になるのかもしれないがそれだけでは不十分と感じる。</li> </ul>
就労移行支援	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日行くことに抵抗がある。</li> <li>・就労中でも受けたい。</li> </ul>
就労継続支援A型	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の達成度と時給が釣り合っていない。</li> <li>・個人情報第三者に見られないようにしてほしい。</li> </ul>
就労定着支援	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援センターの担当が、年2回職場に来て話をしたり聞いたりしてくれる。</li> <li>・就労定着支援を利用しながら就労の支援をもらっている。</li> </ul>
児童発達支援	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援サービスを利用している。とても便利である。</li> </ul>
放課後等デイサービス	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスにしている。支援1で週1回しているが、回数増やしてほしい。</li> <li>・利用施設が市内に少ない。</li> <li>・重度知的を安心してあずけられる所が少なく感じる。</li> </ul>
移動支援	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルパーさんの人手不足で、利用が断られることがあり不便である。</li> <li>・利用したいが、利用できる事業所がほぼない。</li> </ul>
日中一時支援	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混んでいて、使いたい日に使えなかった。</li> <li>・人手が足りておらず、目がいき届いていない。</li> </ul>
地域活動支援センター	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても助かっている。</li> </ul>

問6で「2. 過去に利用していたが、現在は利用していない」または「3. 利用していない」と答えた方におたずねします。

問6-3 サービスを利用してない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「必要ではない」の割合が37.6%と最も高く、次いで「サービスの内容や相談先がわからない」の割合が10.6%、「自分に合ったサービスがない」の割合が10.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

身体障害者手帳、療育手帳で「自分に合ったサービスがない」、精神障害者保健福祉手帳で「必要ではない」の割合が高くなっています。

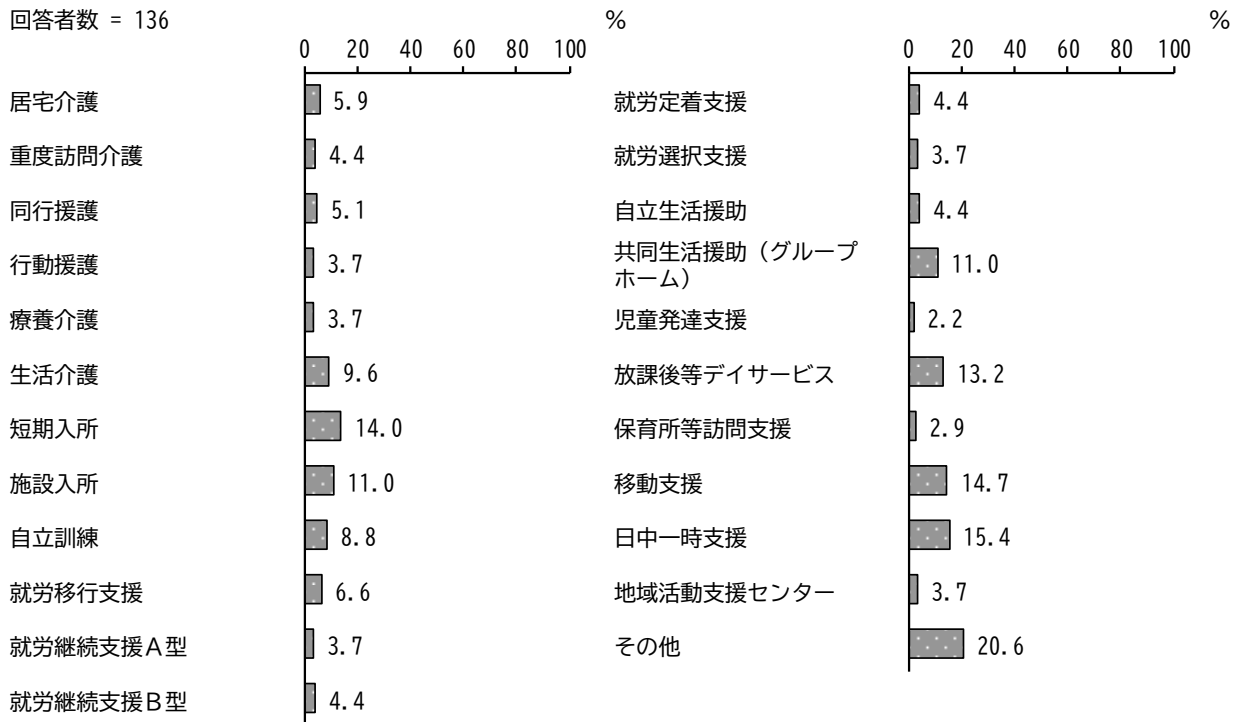
単位：％

区分	回答者数(件)	必要ではない	自分に合ったサービスがない	サービスの内容や相談先がわからない	サービスの利用料が高い	利用のための手続きが面倒	事業者とのサービス調整が大変	自分の希望日時に利用できない	支援者側の対応が悪いから	他人と関わりたくない	介護保険制度に移行したから	その他	無回答
全体	45	26.7	22.2	8.9	0.0	13.3	2.2	4.4	0.0	13.3	6.7	22.2	8.9
身体障害者手帳	17	5.9	23.5	11.8	0.0	17.6	0.0	0.0	0.0	11.8	17.6	17.6	17.6
療育手帳	8	25.0	62.5	12.5	0.0	12.5	12.5	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳	14	28.6	14.3	7.1	0.0	14.3	0.0	7.1	0.0	14.3	0.0	35.7	0.0
難病（特定疾病）の認定	5	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	7	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0
その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

該当する方のみにおたずねします。

問7 現在、以下のサービス利用を希望しているが、事業所に空きがなく、利用できないもしくは利用に制限があるサービスはありますか（あてはまるものすべてに○）

「その他」の割合が20.6%と最も高く、次いで「日中一時支援」の割合が15.4%、「移動支援」の割合が14.7%、「短期入所」の割合が14.0%となっています。



※無回答を除いて集計しています。

【障がい種別】

身体障害者手帳で「移動支援」「日中一時支援」、療育手帳で「短期入所」「移動支援」「日中一時支援」、精神障害者保健福祉手帳で「共同生活援助（グループホーム）」、難病（特定疾患）の認定で「居宅介護」「生活介護」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	療養介護	生活介護	短期入所	施設入所	自立訓練	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型
全体	136	5.9	4.4	5.1	3.7	3.7	9.6	14.0	11.0	8.8	6.6	3.7	4.4
身体障害者手帳	66	10.6	9.1	10.6	6.1	7.6	13.6	10.6	12.1	13.6	6.1	4.5	3.0
療育手帳	51	5.9	2.0	5.9	5.9	2.0	5.9	21.6	13.7	3.9	5.9	3.9	7.8
精神障害者保健福祉手帳	29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	13.8	10.3	10.3	13.8	6.9	6.9
難病（特定疾患）の認定	16	18.8	12.5	0.0	0.0	6.3	18.8	12.5	6.3	0.0	12.5	0.0	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

区分	就労定着支援	就労選択支援	自立生活援助	共同生活援助（グループホーム）	児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	移動支援	日中一時支援	地域活動支援センター	その他	無回答
全体	4.4	3.7	4.4	11.0	2.2	13.2	2.9	14.7	15.4	3.7	20.6	4.4
身体障害者手帳	4.5	6.1	4.5	4.5	4.5	12.1	3.0	18.2	18.2	4.5	28.8	4.5
療育手帳	5.9	2.0	3.9	15.7	2.0	19.6	5.9	25.5	25.5	3.9	9.8	5.9
精神障害者保健福祉手帳	6.9	6.9	3.4	17.2	0.0	6.9	0.0	3.4	6.9	6.9	24.1	6.9
難病（特定疾患）の認定	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	6.3	18.8	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	37.5	12.5
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0

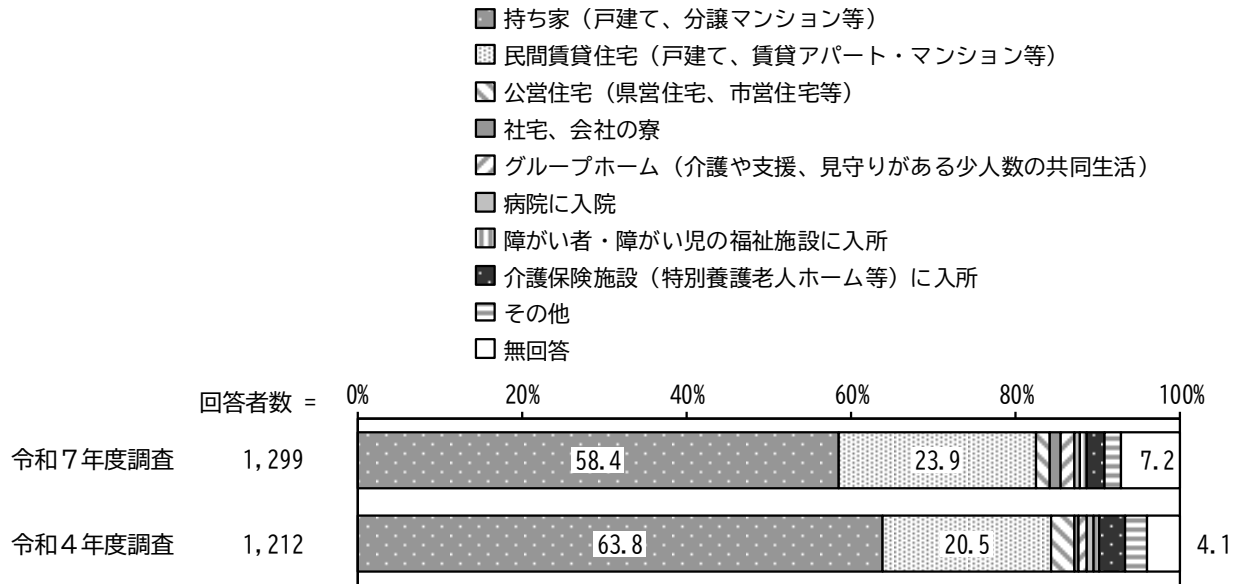
※無回答を除いて集計しています。

### (3) 生活の場について

#### 問8 あなたは現在、どこで暮らしていますか。(主なもの1つに○)

「持ち家（戸建て、分譲マンション等）」の割合が58.4%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅（戸建て、賃貸アパート・マンション等）」の割合が23.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「持ち家（戸建て、分譲マンション等）」の割合が減少しています。



※上図のすべての数値を表示

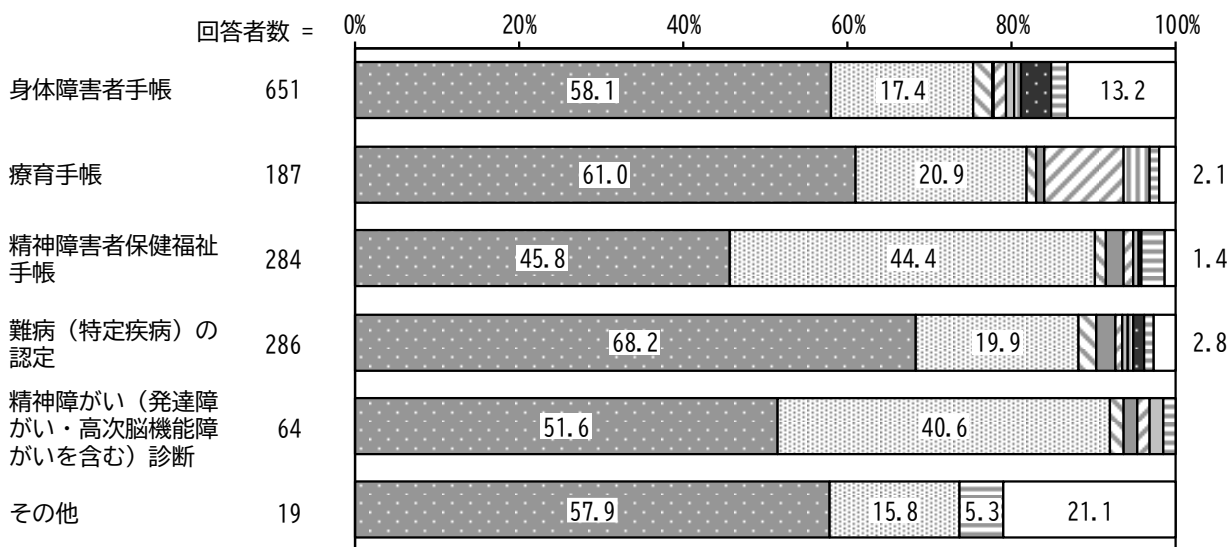
単位：%

区分	回答者数 (件)	持ち家 (戸建て、分譲マンション等)	民間賃貸住宅 (戸建て、賃貸アパート・マンション等)	公営住宅 (県営住宅、市営住宅等)	社宅、会社の寮	グループホーム (介護や支援、見守りがある少人数の共同生活)	病院に入院	障がい者・障がい児の福祉施設に入所	介護保険施設 (特別養護老人ホーム等) に入所	その他	無回答
令和7年度調査	1,299	58.4	23.9	1.8	1.2	1.8	0.6	0.9	2.1	2.0	7.2
令和4年度調査	1,212	63.8	20.5	2.8	0.5	1.2	0.7	0.7	3.1	2.6	4.1

【障がい種別】

精神障害者保健福祉手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「民間賃貸住宅（戸建て、賃貸アパート・マンション等）」、難病（特定疾病）の認定で「持ち家（戸建て、分譲マンション等）」の割合が高くなっています。

- 持ち家（戸建て、分譲マンション等）
- ▨ 民間賃貸住宅（戸建て、賃貸アパート・マンション等）
- ▩ 公営住宅（県営住宅、市営住宅等）
- 社宅、会社の寮
- ▨ グループホーム（介護や支援、見守りがある少人数の共同生活）
- ▩ 病院に入院
- ▩ 障がい者・障がい児の福祉施設に入所
- 介護保険施設（特別養護老人ホーム等）に入所
- ▩ その他
- 無回答



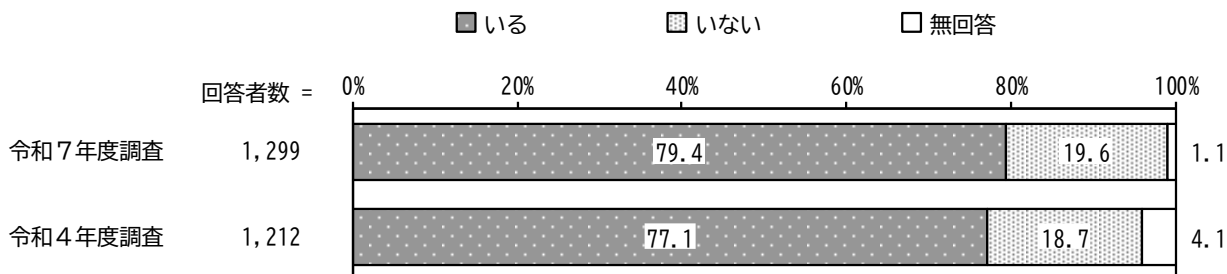
※上図のすべての数値を表示

単位：%

区分	回答者数（件）	持ち家（戸建て、分譲マンション等）	民間賃貸住宅（戸建て、賃貸アパート・マンション等）	公営住宅（県営住宅、市営住宅等）	社宅、会社の寮	グループホーム（介護や支援、見守りがある少人数の共同生活）	病院に入院	障がい者・障がい児の福祉施設に入所	介護保険施設（特別養護老人ホーム等）に入所	その他	無回答
身体障害者手帳	651	58.1	17.4	2.3	0.2	1.4	1.1	0.8	3.7	2.0	13.2
療育手帳	187	61.0	20.9	1.1	1.1	9.6	0.0	3.2	0.0	1.1	2.1
精神障害者保健福祉手帳	284	45.8	44.4	1.4	2.1	1.1	0.7	0.0	0.4	2.8	1.4
難病（特定疾病）の認定	286	68.2	19.9	2.1	2.4	0.7	0.7	0.7	1.4	1.0	2.8
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	64	51.6	40.6	1.6	1.6	1.6	1.6	0.0	0.0	1.6	0.0
その他	19	57.9	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	21.1

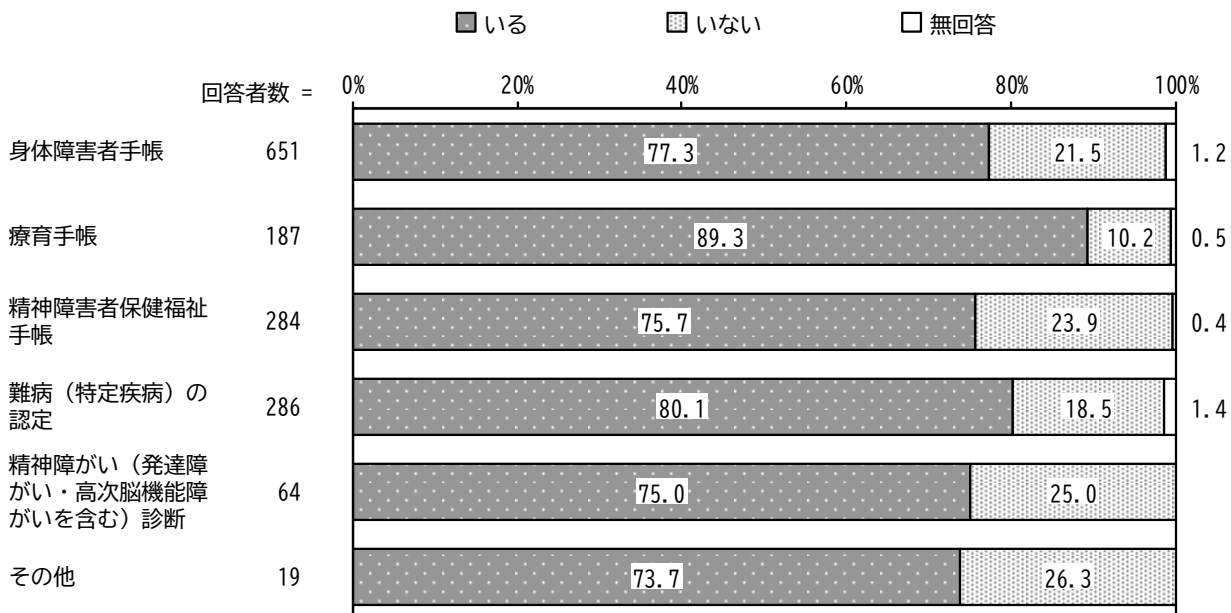
問9 いっしょに住んでいる方はいますか。(1つに○)

「いる」の割合が79.4%、「いない」の割合が19.6%となっています。  
 令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

療育手帳で「いる」の割合が高くなっています。

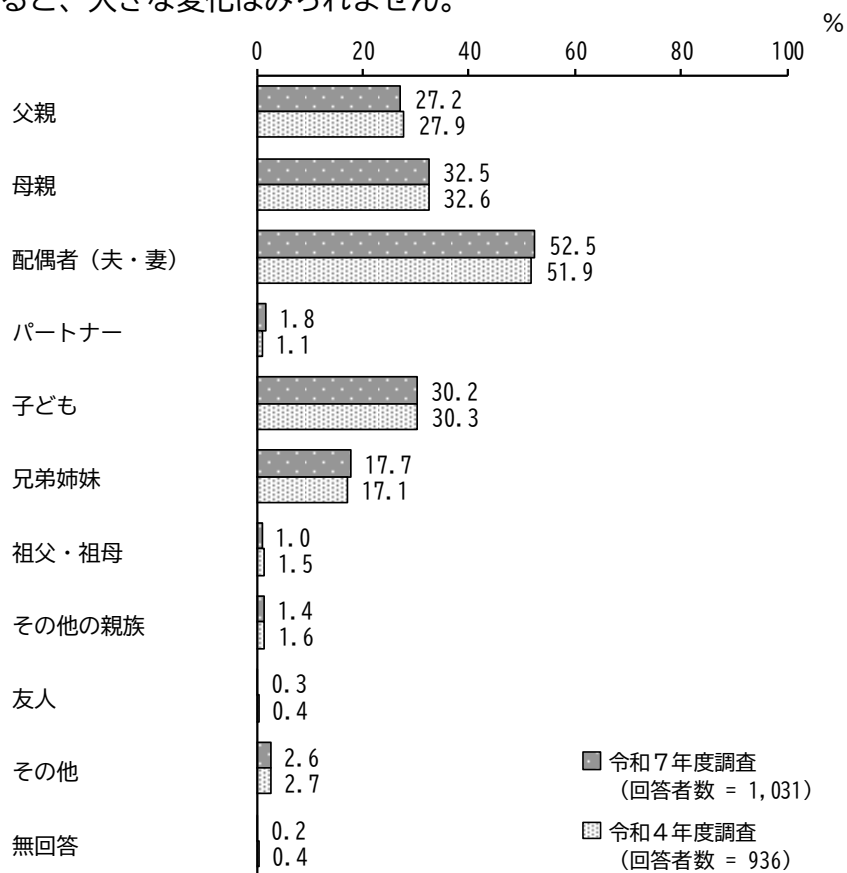


問9で「1. いる」と答えた方におたずねします。

問9-1 一緒に住んでいる方は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

「配偶者(夫・妻)」の割合が52.5%と最も高く、次いで「母親」の割合が32.5%、「子ども」の割合が30.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

18歳未満、18～40歳未満で「父親」「母親」「兄弟姉妹」、40～65歳未満、65歳以上で「配偶者（夫・妻）」「子ども」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	父親	母親	配偶者 (夫・妻)	パートナー	子ども	兄弟姉妹	祖父・祖母	その他の親族	友人	その他	無回答
全体	1,031	27.2	32.5	52.5	1.8	30.2	17.7	1.0	1.4	0.3	2.6	0.2
18歳未満	92	93.5	96.7	1.1	0.0	0.0	71.7	4.3	2.2	0.0	0.0	0.0
18～40歳未満	218	64.7	76.1	13.3	3.7	8.7	39.9	2.8	0.5	1.4	6.0	0.0
40～65歳未満	286	17.8	25.5	65.4	2.1	38.5	6.6	0.0	1.4	0.0	1.7	0.0
65歳以上	425	0.0	1.2	74.8	1.2	41.6	2.4	0.0	1.6	0.0	2.1	0.5

【障がい種別】

身体障害者手帳、難病（特定疾病）の認定で「配偶者（夫・妻）」、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「父親」「母親」の割合が高くなっています。

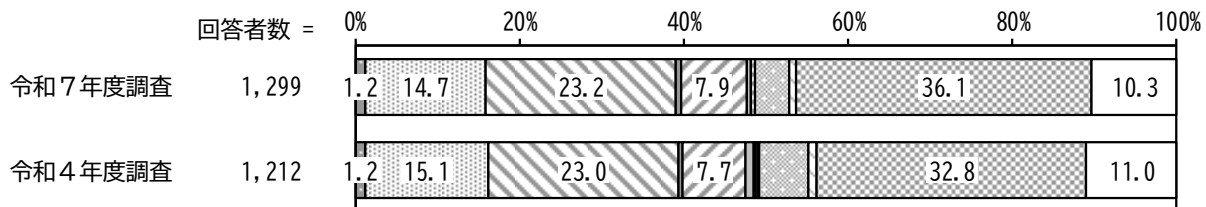
単位：％

区分	回答者数 (件)	父親	母親	配偶者 (夫・妻)	パートナー	子ども	兄弟姉妹	祖父・祖母	その他の親族	友人	その他	無回答
全体	1,031	27.2	32.5	52.5	1.8	30.2	17.7	1.0	1.4	0.3	2.6	0.2
身体障害者手帳	503	9.3	13.3	68.6	1.6	37.0	5.2	0.0	1.6	0.0	3.0	0.4
療育手帳	167	79.6	90.4	0.6	0.6	0.6	53.3	2.4	1.2	1.2	6.6	0.0
精神障害者保健福祉手帳	215	44.2	50.2	36.3	4.2	22.3	28.8	1.9	1.4	0.0	1.9	0.0
難病（特定疾病）の認定	229	14.0	17.5	67.7	2.2	41.5	7.0	0.0	0.9	0.4	1.7	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	48	62.5	68.8	18.8	4.2	18.8	45.8	4.2	2.1	0.0	2.1	0.0
その他	14	35.7	35.7	50.0	0.0	21.4	21.4	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0

問10 ふだん、身の周りの介助をしてくれるのは誰ですか。(主なもの1つに○)

「配偶者(夫・妻)」の割合が23.2%と最も高く、次いで「母親」の割合が14.7%となっています。令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

- 父親
- 母親
- 配偶者(夫・妻)
- パートナー
- 子ども
- 兄弟姉妹
- 祖父・祖母
- その他の親族
- 友人
- サービス事業者
- その他
- 介助を受けていない
- 無回答



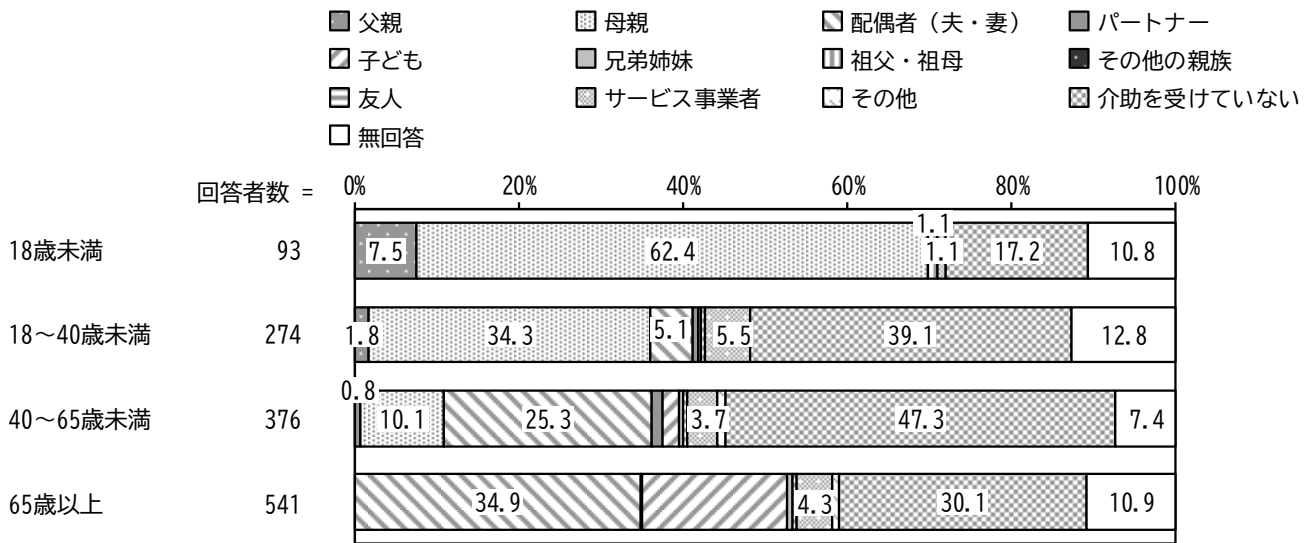
※上図のすべての数値を表示

単位：%

区分	回答者数(件)	父親	母親	配偶者(夫・妻)	パートナー	子ども	兄弟姉妹	祖父・祖母	その他の親族	友人	サービス事業者	その他	介助を受けていない	無回答
令和7年度調査	1,299	1.2	14.7	23.2	0.6	7.9	0.5	0.1	0.0	0.4	4.2	0.8	36.1	10.3
令和4年度調査	1,212	1.2	15.1	23.0	0.5	7.7	1.0	0.2	0.3	0.2	5.9	1.1	32.8	11.0

【年齢別】

18歳未満で「母親」、65歳以上で「配偶者（夫・妻）」の割合が高くなっています。



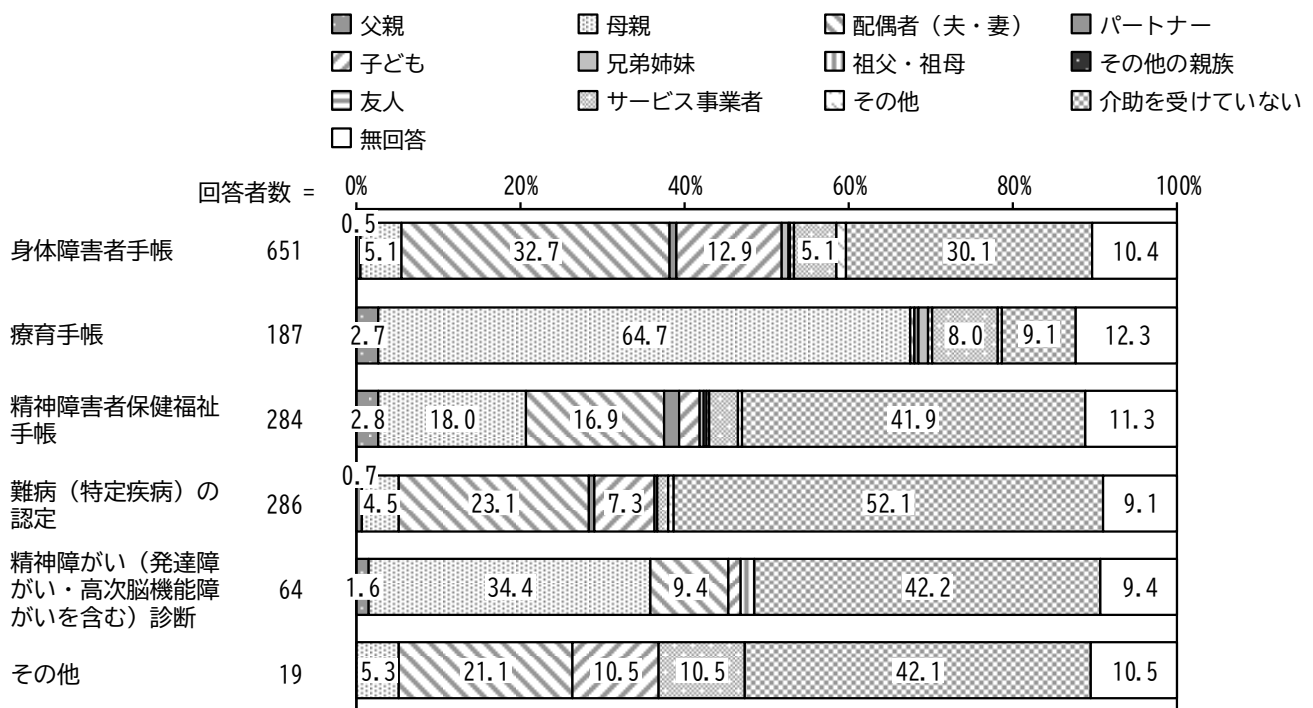
※上図のすべての数値を表示

単位：%

区分	回答者数(件)	父親	母親	配偶者(夫・妻)	パートナー	子ども	兄弟姉妹	祖父・祖母	その他の親族	友人	サービス事業者	その他	介助を受けていない	無回答
18歳未満	93	7.5	62.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	1.1	0.0	17.2	10.8
18～40歳未満	274	1.8	34.3	5.1	0.7	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4	5.5	0.0	39.1	12.8
40～65歳未満	376	0.8	10.1	25.3	1.3	1.9	0.5	0.0	0.0	0.5	3.7	1.1	47.3	7.4
65歳以上	541	0.0	0.0	34.9	0.2	17.6	0.7	0.0	0.0	0.4	4.3	0.9	30.1	10.9

【障がい種別】

身体障害者手帳で「配偶者（夫・妻）」、療育手帳で「母親」の割合が高くなっています。



※上図のすべての数値を表示

単位：%

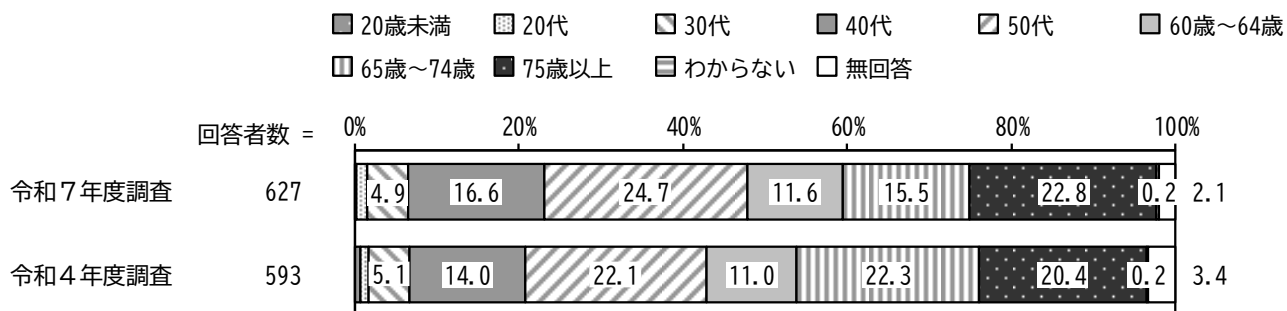
区分	回答者数(件)	父親	母親	配偶者(夫・妻)	パートナー	子ども	兄弟姉妹	祖父・祖母	その他の親族	友人	サービス事業者	その他	介助を受けていない	無回答
身体障害者手帳	651	0.5	5.1	32.7	0.8	12.9	0.8	0.2	0.0	0.5	5.1	1.1	30.1	10.4
療育手帳	187	2.7	64.7	0.5	0.5	0.0	1.1	0.0	0.0	0.5	8.0	0.5	9.1	12.3
精神障害者保健福祉手帳	284	2.8	18.0	16.9	1.8	2.5	0.4	0.4	0.0	0.4	3.5	0.4	41.9	11.3
難病(特定疾病)の認定	286	0.7	4.5	23.1	0.7	7.3	0.3	0.0	0.0	0.0	1.4	0.7	52.1	9.1
精神障がい(発達障がい・高次脳機能障がいを含む)診断	64	1.6	34.4	9.4	0.0	1.6	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	42.2	9.4
その他	19	0.0	5.3	21.1	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	42.1	10.5

問10で「1」～「8」と答えた方におたずねします。

問10-1 その方の年齢についてお答えください。(1つに○)

「50代」の割合が24.7%と最も高く、次いで「75歳以上」の割合が22.8%、「40代」の割合が16.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「65歳～74歳」の割合が減少しています。



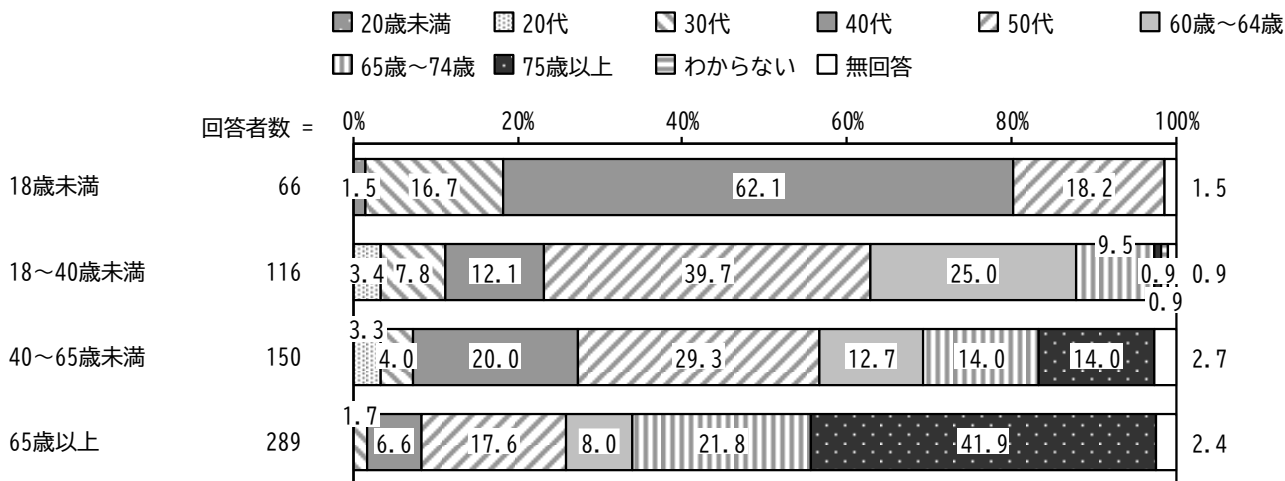
※上図のすべての数値を表示

単位：%

区分	回答者数(件)	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60歳～64歳	65歳～74歳	75歳以上	わからない	無回答
令和7年度調査	627	0.2	1.4	4.9	16.6	24.7	11.6	15.5	22.8	0.2	2.1
令和4年度調査	593	0.7	1.0	5.1	14.0	22.1	11.0	22.3	20.4	0.2	3.4

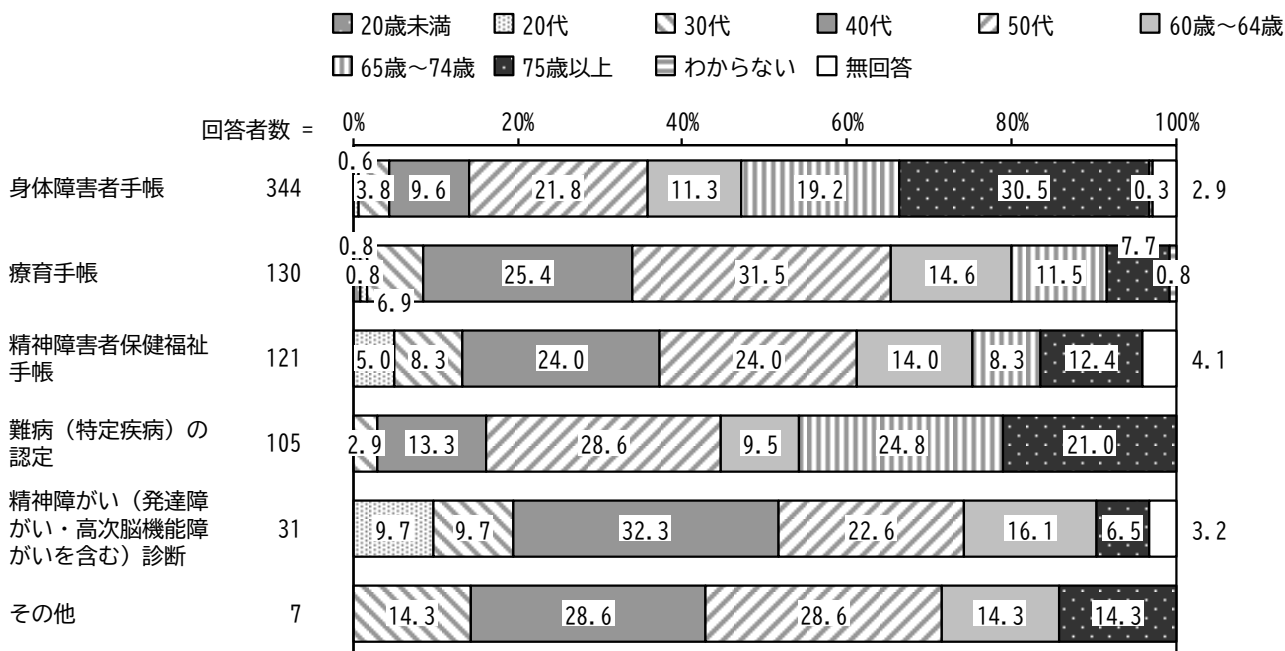
【年齢別】

18歳未満で「40代」、18～40歳未満、40～65歳未満で「50代」、65歳以上で「75歳以上」の割合が高くなっています。



【障がい種別】

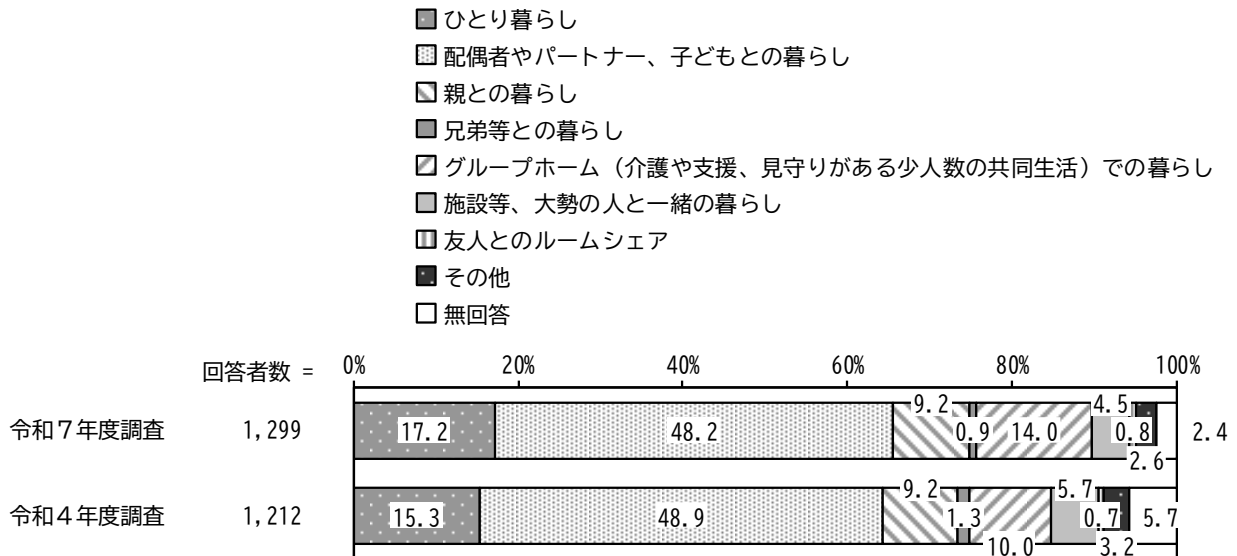
身体障害者手帳で「75歳以上」、療育手帳で「50代」、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「40代」の割合が高くなっています。



問11 あなたは、今後（将来）どのような暮らしを希望していますか。（1つに○）

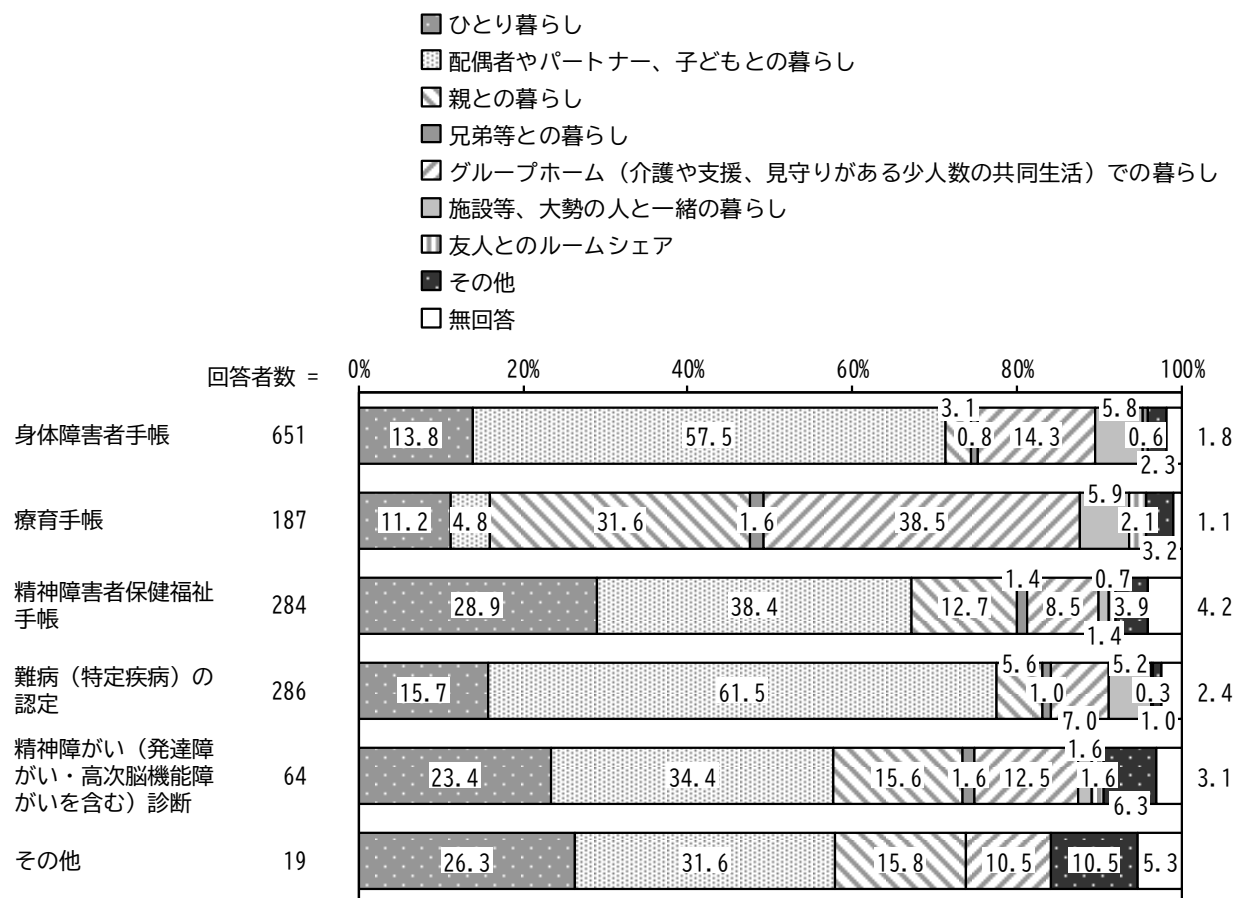
「配偶者やパートナー、子どもとの暮らし」の割合が48.2%と最も高く、次いで「ひとり暮らし」の割合が17.2%、「グループホーム（介護や支援、見守りがある少人数の共同生活）での暮らし」の割合が14.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、難病（特定疾患）の認定で「配偶者やパートナー、子どもとの暮らし」、療育手帳で「グループホーム（介護や支援、見守りがある少人数の共同生活）での暮らし」の割合が高くなっています。

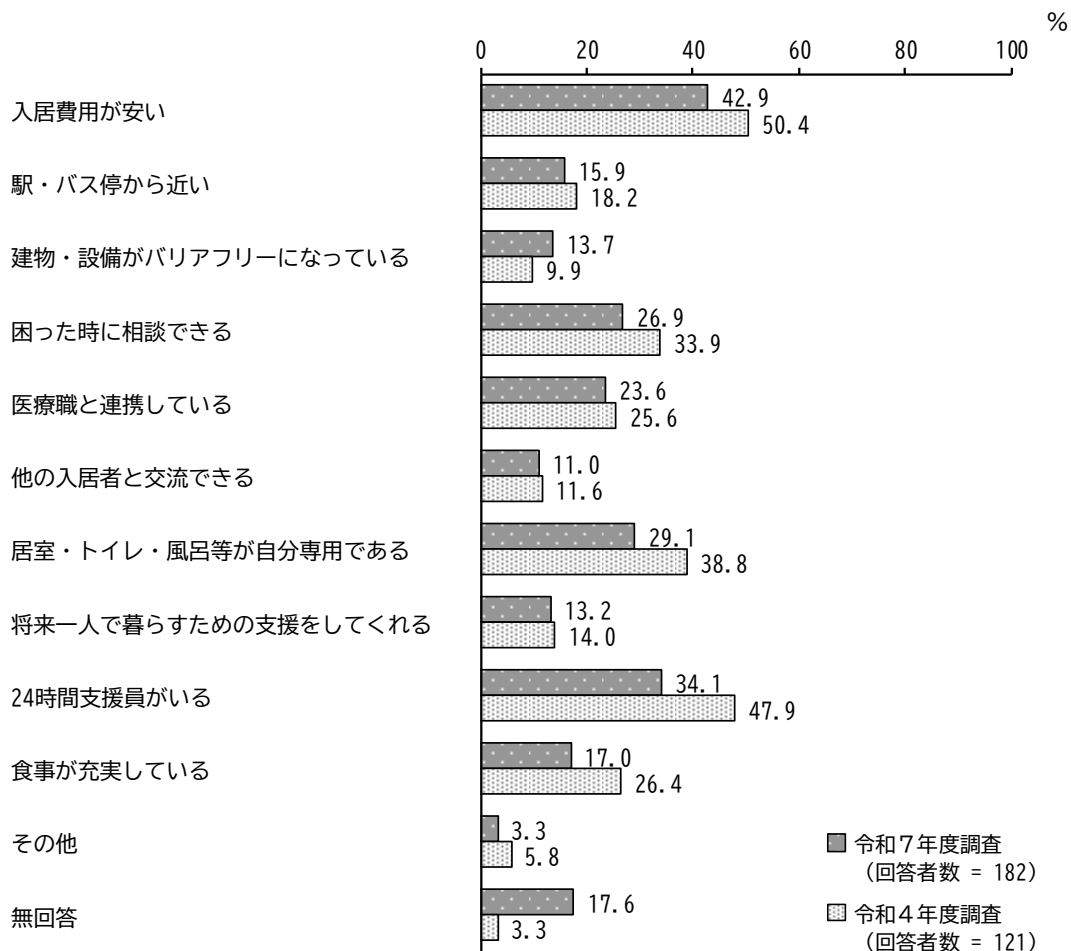


問11で「5. グループホーム」と答えた方におたずねします。

問11-1 どのようなグループホームで暮らしたいと思っていますか。  
(主なものを3つまでに○)

「入居費用が安い」の割合が42.9%と最も高く、次いで「24時間支援員がいる」の割合が34.1%、「居室・トイレ・風呂等が自分専用である」の割合が29.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「入居費用が安い」「困った時に相談できる」「居室・トイレ・風呂等が自分専用である」「24時間支援員がいる」「食事が充実している」の割合が減少しています。



【障がい種別】

身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、難病（特定疾患）の認定で「入居費用が安い」、療育手帳で「24時間支援員がいる」の割合が高くなっています。

単位：%

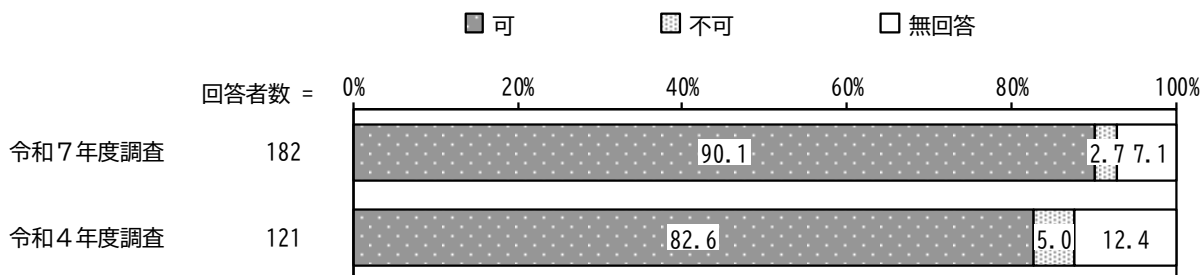
区分	回答者数（件）	入居費用が安い	駅・バス停から近い	建物・設備がバリアフリーになっている	困った時に相談できる	医療職と連携している	他の入居者と交流できる	居室・トイレ・風呂等が自分専用である	将来一人で暮らすための支援をしてくれる	24時間支援員がいる	食事が充実している	その他	無回答
全体	182	42.9	15.9	13.7	26.9	23.6	11.0	29.1	13.2	34.1	17.0	3.3	17.6
身体障害者手帳	93	43.0	22.6	20.4	16.1	21.5	11.8	21.5	7.5	20.4	15.1	3.2	24.7
療育手帳	72	36.1	6.9	8.3	40.3	22.2	12.5	34.7	19.4	59.7	25.0	4.2	6.9
精神障害者保健福祉手帳	24	58.3	20.8	12.5	37.5	16.7	8.3	29.2	20.8	16.7	20.8	0.0	12.5
難病（特定疾病）の認定	20	55.0	10.0	10.0	20.0	40.0	5.0	30.0	10.0	35.0	5.0	5.0	15.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	8	62.5	12.5	12.5	50.0	12.5	0.0	25.0	25.0	12.5	25.0	0.0	12.5
その他	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0

問11で「5. グループホーム」と答えた方におたずねします。

問11-2 入居を希望するグループホームの場所はどこですか。それぞれの項目（1～3）について、【可・不可】のどちらかに○をつけてください。2で「可」を選んだ方は（ km 圏内）についてご記入ください。

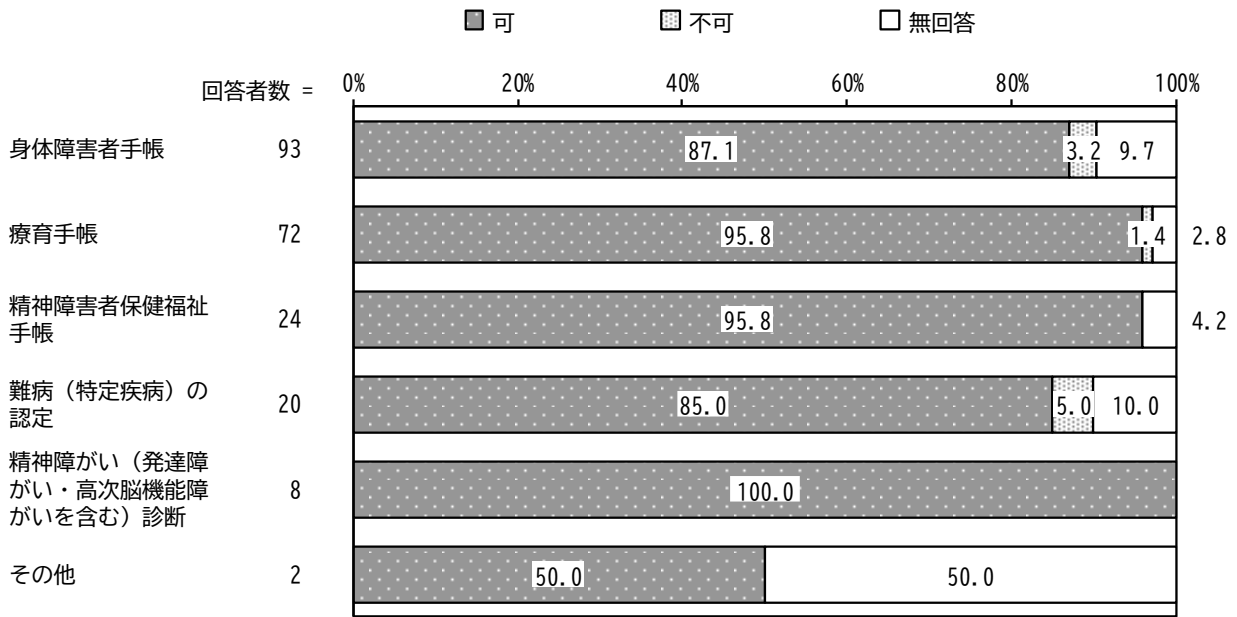
1. 市内のグループホーム

「可」の割合が90.1%、「不可」の割合が2.7%となっています。  
令和4年度調査と比較すると、「可」の割合が増加しています。



【障がい種別】

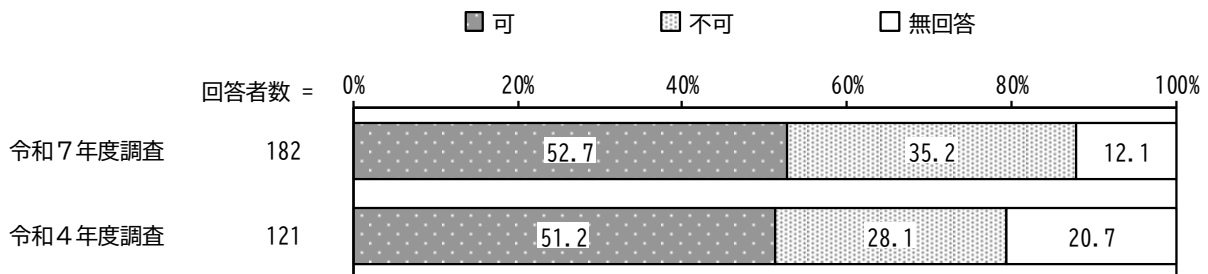
すべてにおいて「可」の割合が高くなっています。



2. 市外のグループホーム

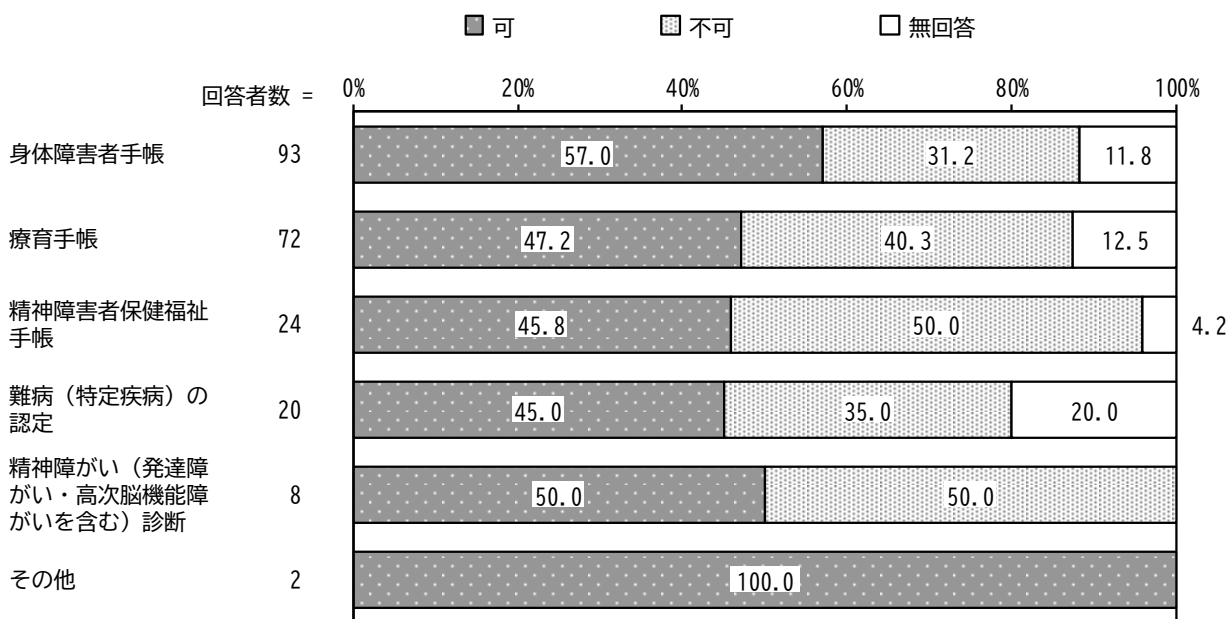
「可」の割合が52.7%、「不可」の割合が35.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「不可」の割合が増加しています。



【障がい種別】

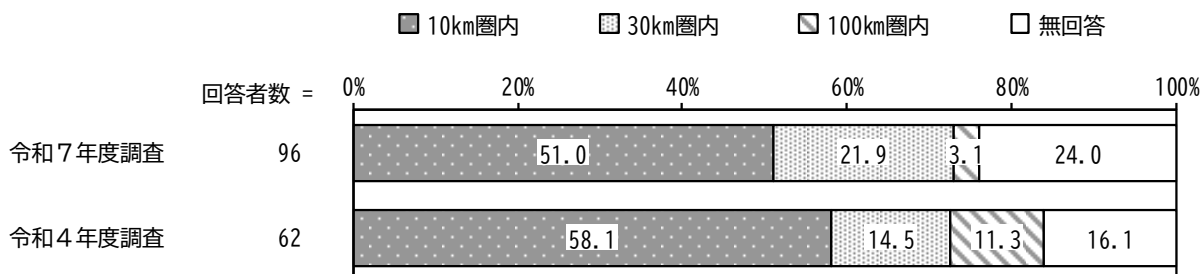
精神障害者保健福祉手帳で「不可」の割合が高くなっています。



許容可能な距離（km 圏内）

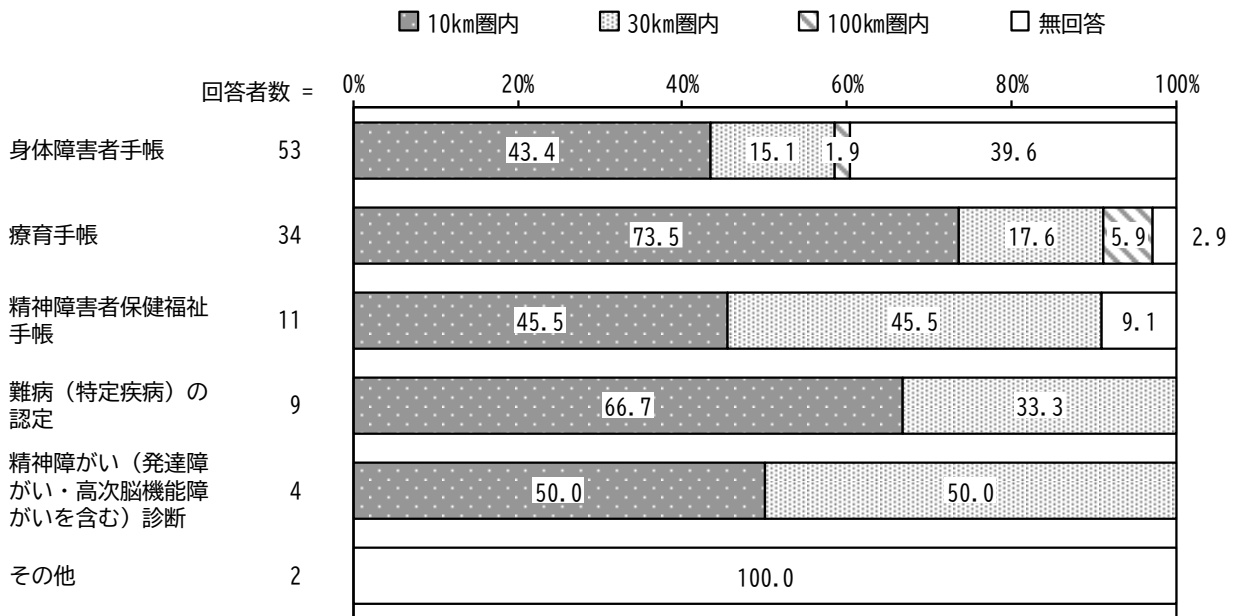
「10km 圏内」の割合が 51.0%、「30km 圏内」の割合が 21.9%、「100km 圏内」の割合が 3.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「30km 圏内」の割合が増加しています。一方、「10km 圏内」「100km 圏内」の割合が減少しています。



【障がい種別】

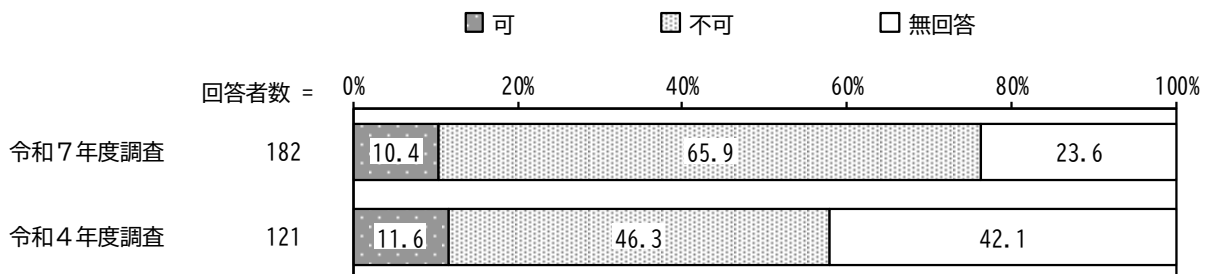
療育手帳で「10km圏内」の割合が高くなっています。



3. どの場所のグループホームでもよい

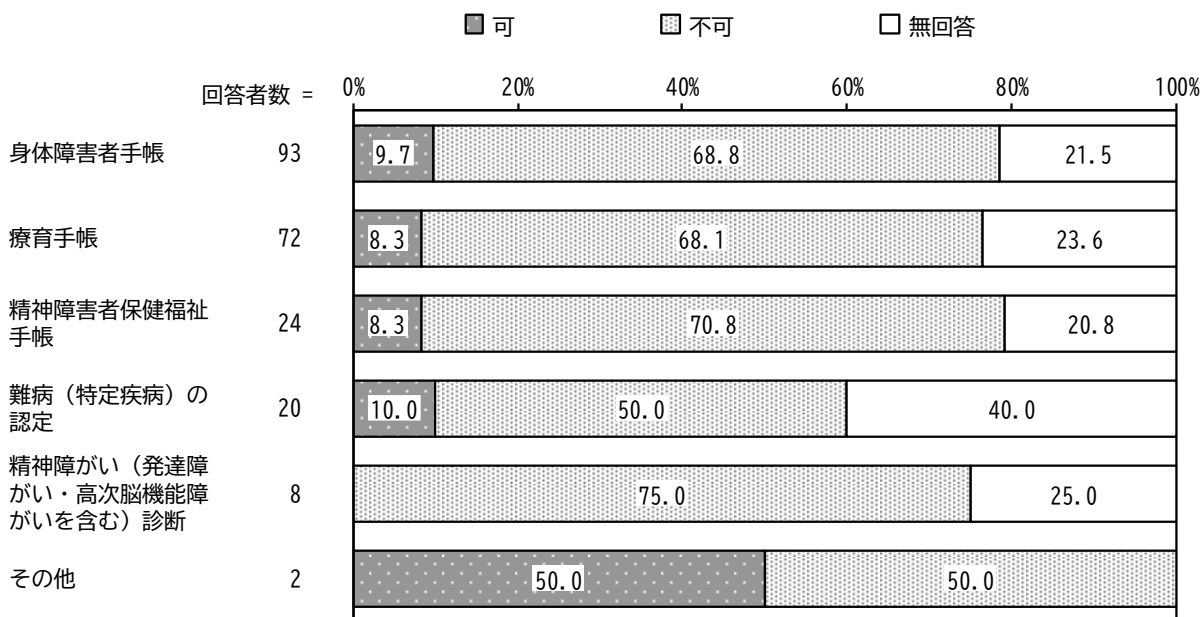
「可」の割合が10.4%、「不可」の割合が65.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「不可」の割合が増加しています。



【障がい種別】

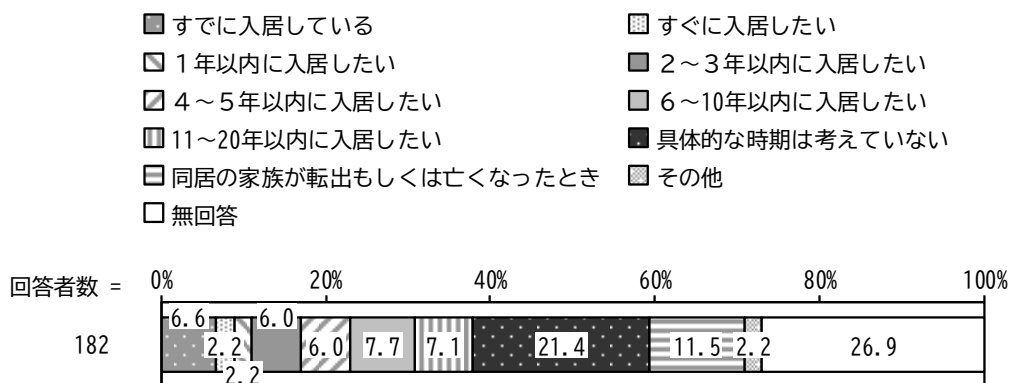
すべてにおいて「不可」の割合が高くなっています。



問 11 で「5. グループホーム」と答えた方におたずねします。

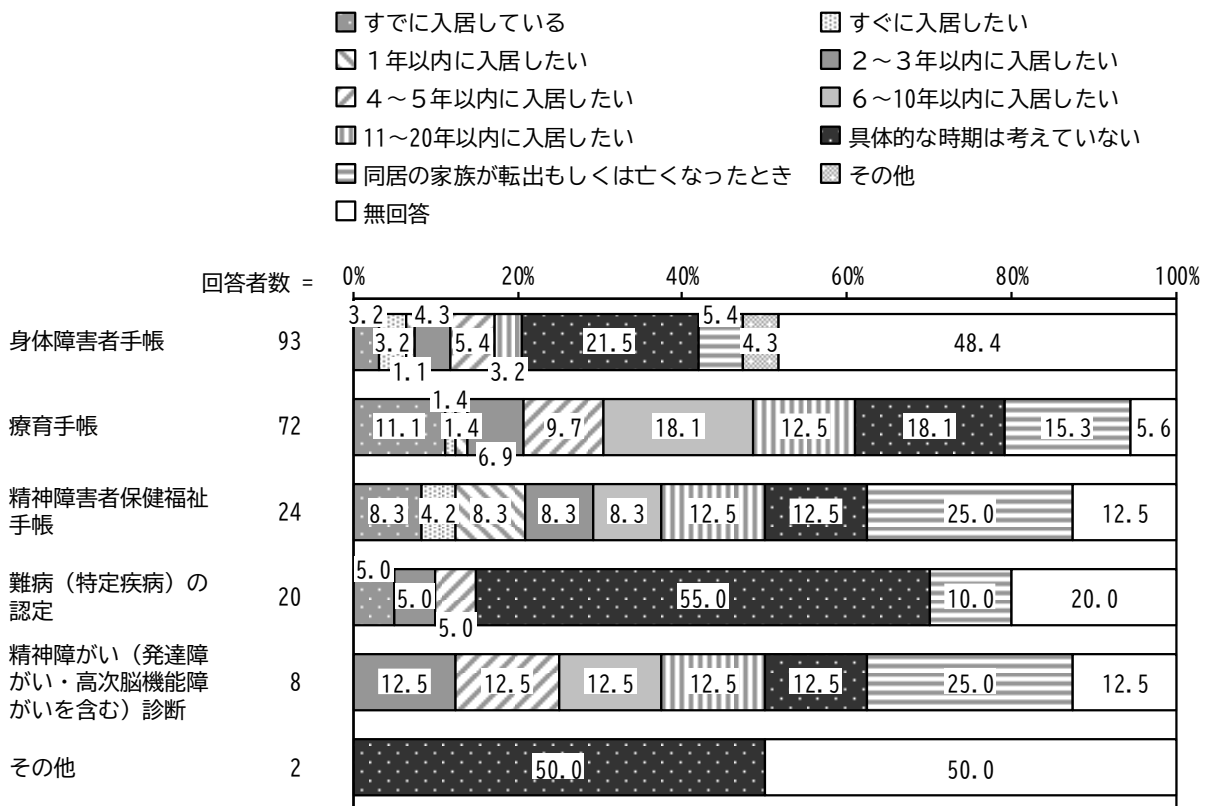
問 11-3 入居の時期はいつ頃を考えていますか（1つに○）

「具体的な時期は考えていない」の割合が 21.4%と最も高く、次いで「同居の家族が転出もしくは亡くなったとき」の割合が 11.5%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障害者保健福祉手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「同居の家族が転出もしくは亡くなったとき」、難病（特定疾病）の認定で「具体的な時期は考えていない」の割合が高くなっています。

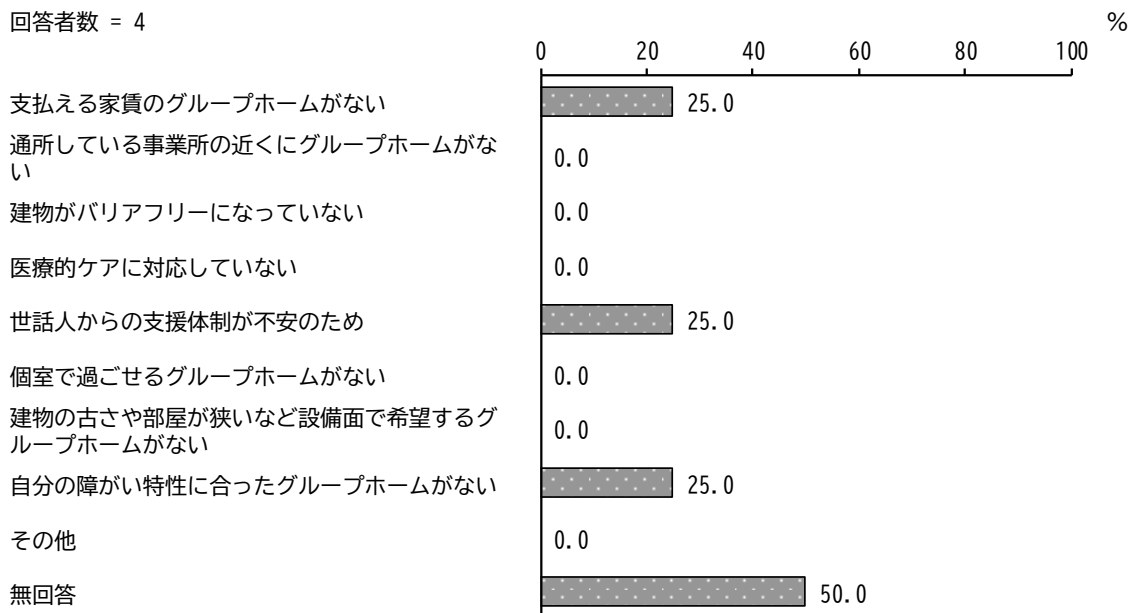


問11-3で「2. すぐに入居したい」と答えた方におたずねします。

問11-4 入居に至らない理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）

「支払える家賃のグループホームがない」、「世話人からの支援体制が不安のため」、「自分の障がい特性に合ったグループホームがない」が1件となっています。

回答者数 = 4



【障がい種別】

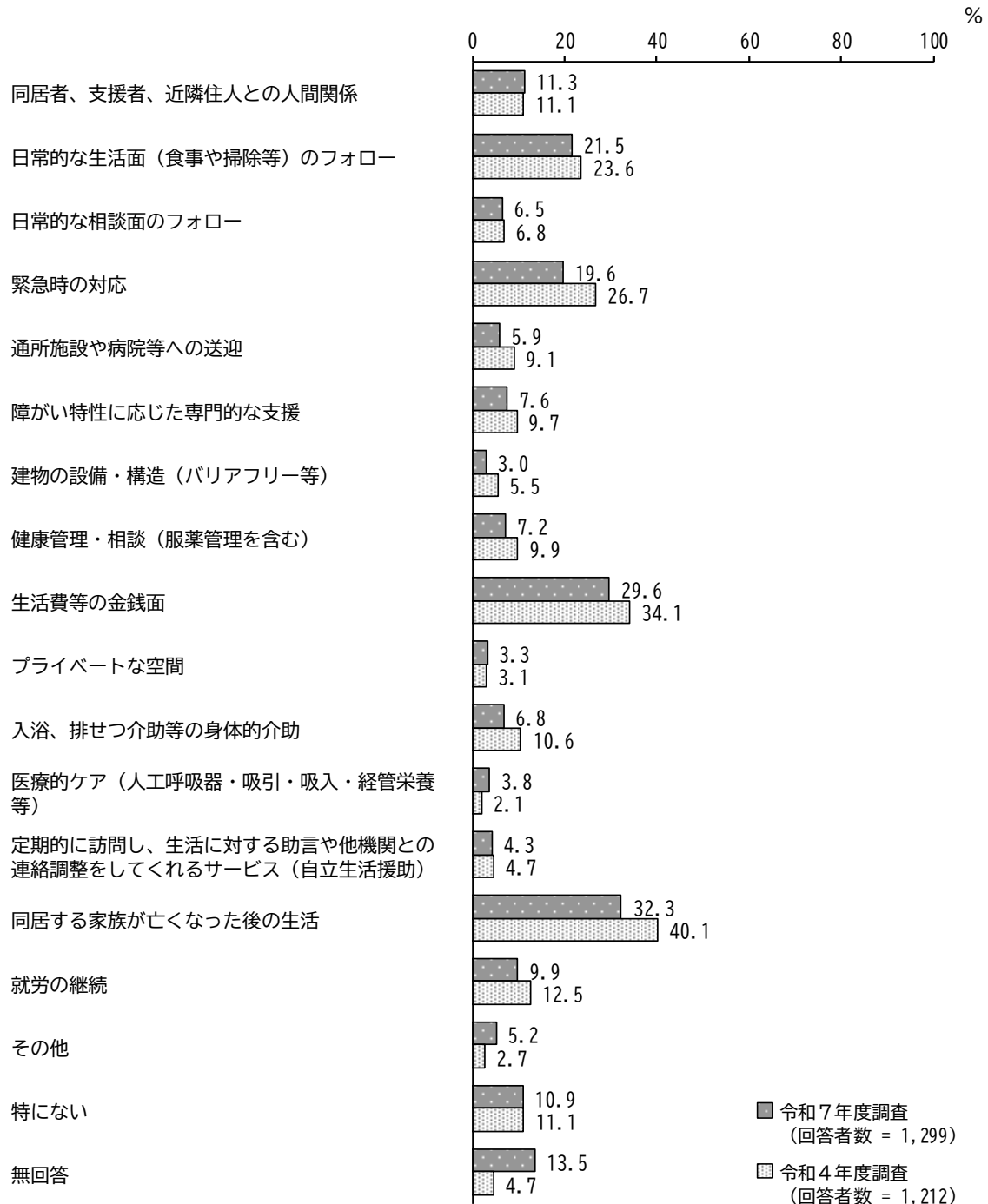
単位：%

区分	回答者数 (件)	支払える家賃のグループホームがない	通所している事業所の近くにグループホームがない	建物がバリアフリーになっていない	医療的ケアに対応していない	世話人からの支援体制が不安のため	個室で過ごせるグループホームがない	建物の古さや部屋が狭いなど設備面で希望するグループホームがない	自分の障がい特性に合ったグループホームがない	その他	無回答
全体	4	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0
身体障害者手帳	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
療育手帳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）の認定	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問12 今後（将来）の暮らしについて、課題または不安だと思うことは何ですか。  
（主なものを3つまでに○）

「同居する家族が亡くなった後の生活」の割合が 32.3%と最も高く、次いで「生活費等の金銭面」の割合が 29.6%、「日常的な生活面（食事や掃除等）のフォロー」の割合が 21.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「緊急時の対応」「同居する家族が亡くなった後の生活」の割合が減少しています。



【障がい種別】

身体障害者手帳、療育手帳で「同居する家族が亡くなった後の生活」、精神障害者保健福祉手帳、難病（特定疾患）の認定、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「生活費等の金銭面」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	同居者、支援者、近隣 住人との人間関係	日常的な生活面（食事 や掃除等）のフォロー	日常的な相談面のフ ォロー	緊急時の対応	通所施設や病院等へ の送迎	障がい特性に応じた 専門的な支援
全 体	1,299	11.3	21.5	6.5	19.6	5.9	7.6
身体障害者手帳	651	7.5	20.6	4.6	22.0	7.1	6.9
療育手帳	187	18.2	28.9	10.2	15.5	5.3	15.5
精神障害者保健福祉手帳	284	20.4	22.2	10.9	13.4	2.5	9.2
難病（特定疾患）の認定	286	8.0	18.2	4.5	25.2	7.7	4.5
精神障がい（発達障がい・高 次脳機能障がいを含む）診断	64	20.3	26.6	12.5	7.8	1.6	15.6
その他	19	10.5	26.3	0.0	10.5	0.0	0.0

区分	建物の設備・構造（バリア フリー等）	健康管理・相談（服薬管理 を含む）	生活費等の金銭面	プライベートな空間	入浴、排せつ介助等の身 体的介助	医療的ケア（人工呼吸器・ 吸引・吸入・経管栄養等）	定期的な訪問し、生活に 対する助言や他機関との 連絡調整をしてくれるサ ービス（自立生活援助）
全 体	3.0	7.2	29.6	3.3	6.8	3.8	4.3
身体障害者手帳	4.1	6.0	20.3	2.3	9.8	7.1	5.4
療育手帳	0.5	4.8	28.9	4.3	5.9	1.6	4.3
精神障害者保健福祉手帳	1.1	7.0	52.1	6.7	0.7	0.0	2.1
難病（特定疾患）の認定	2.8	11.2	30.1	1.4	7.3	3.1	3.8
精神障がい（発達障がい・高 次脳機能障がいを含む）診断	0.0	14.1	53.1	7.8	0.0	0.0	1.6
その他	0.0	10.5	31.6	5.3	15.8	0.0	0.0

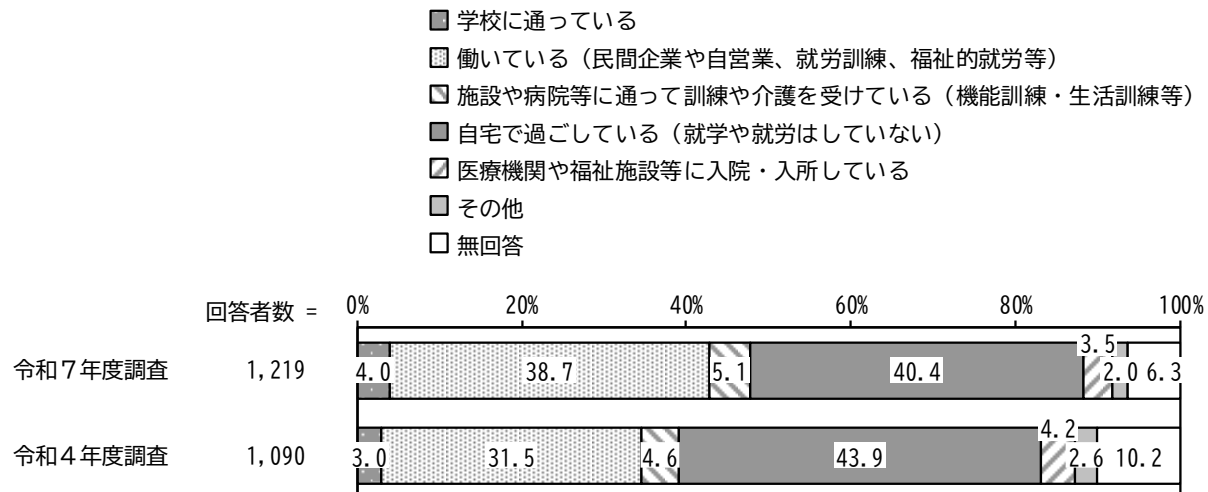
区分	同居する家族が亡 くなった後の生活	就労の継続	その他	特にな い	無回 答
全 体	32.3	9.9	5.2	10.9	13.5
身体障害者手帳	28.3	6.1	7.2	10.3	17.4
療育手帳	56.1	12.3	2.7	5.3	12.8
精神障害者保健福祉手帳	31.7	18.3	4.6	7.4	11.6
難病（特定疾患）の認定	29.0	8.4	3.1	16.8	8.4
精神障がい（発達障がい・高 次脳機能障がいを含む）診断	25.0	23.4	4.7	4.7	10.9
その他	21.1	5.3	0.0	21.1	26.3

## (4-1) 日中活動の場について (15歳以上 (義務教育修了後) の方)

### 問13 平日の昼間、どのように過ごしていますか。(主なもの1つに○)

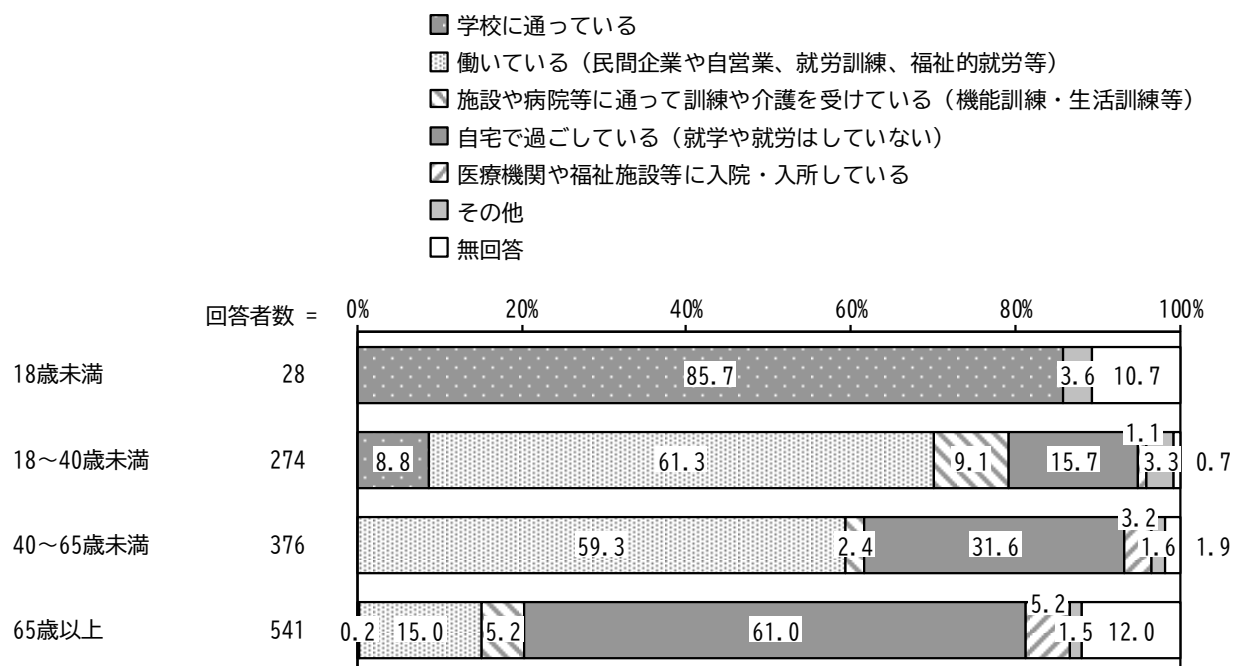
「自宅で過ごしている (就学や就労はしていない)」の割合が40.4%と最も高く、次いで「働いている (民間企業や自営業、就労訓練、福祉的就労等)」の割合が38.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「働いている (民間企業や自営業、就労訓練、福祉的就労等)」の割合が増加しています。



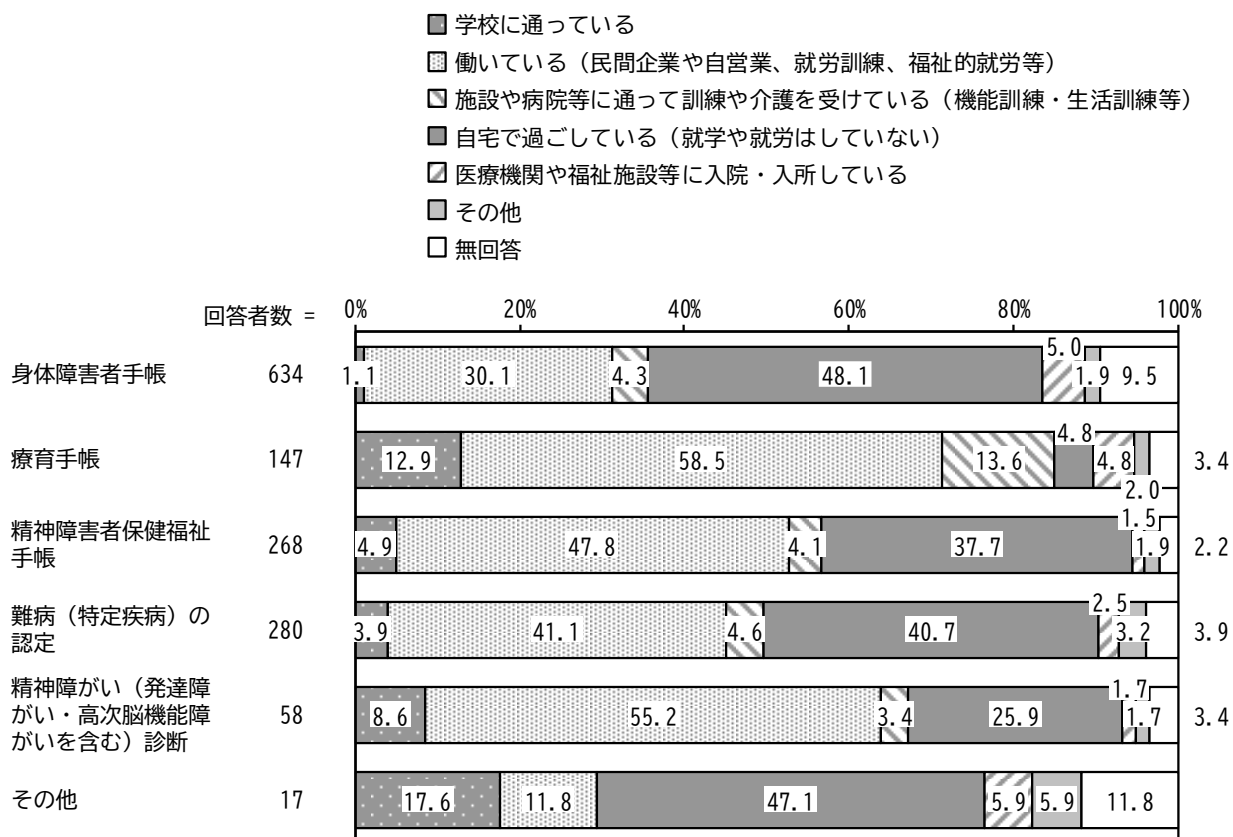
### 【年齢別】

18歳未満で「学校に通っている」、18~40歳未満、40~65歳未満で「働いている (民間企業や自営業、就労訓練、福祉的就労等)」、65歳以上で「自宅で過ごしている (就学や就労はしていない)」の割合が高くなっています。



【障がい種別】

身体障害者手帳で「自宅で過ごしている（就学や就労はしていない）」、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「働いている（民間企業や自営業、就労訓練、福祉的就労等）」の割合が高くなっています。

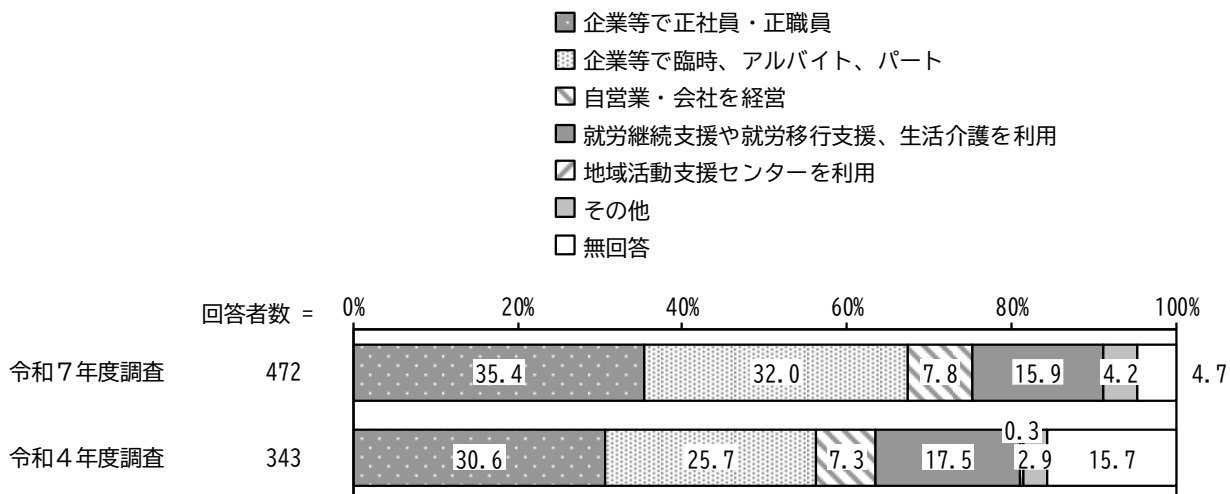


問13で「2. 働いている」と答えた方におたずねします。

問13-1 どのように働いていますか。(主なもの1つに○)

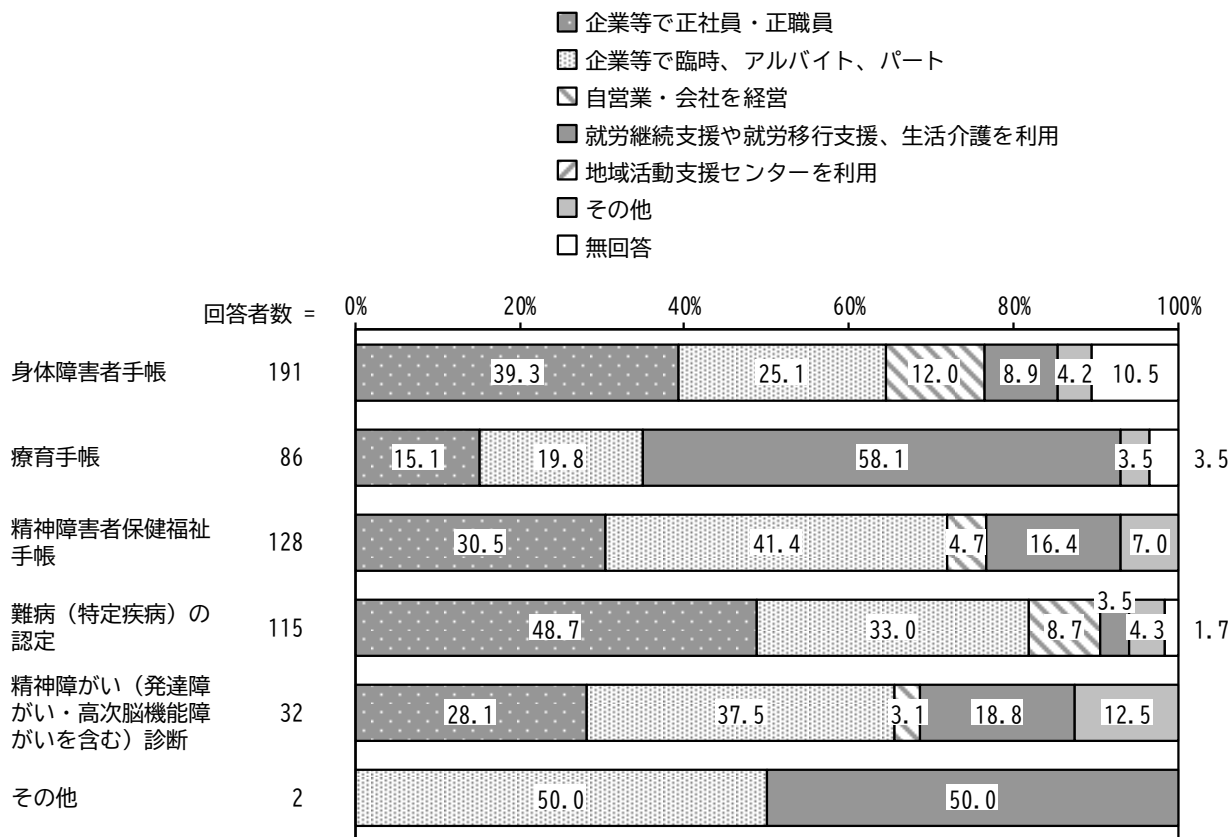
「企業等で正社員・正職員」の割合が35.4%と最も高く、次いで「企業等で臨時、アルバイト、パート」の割合が32.0%、「就労継続支援や就労移行支援、生活介護を利用」の割合が15.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「企業等で臨時、アルバイト、パート」の割合が増加しています。



【障がい種別】

身体障害者手帳、難病（特定疾病）の認定で「企業等で正社員・正職員」、療育手帳で「就労継続支援や就労移行支援、生活介護を利用」の割合が高くなっています。

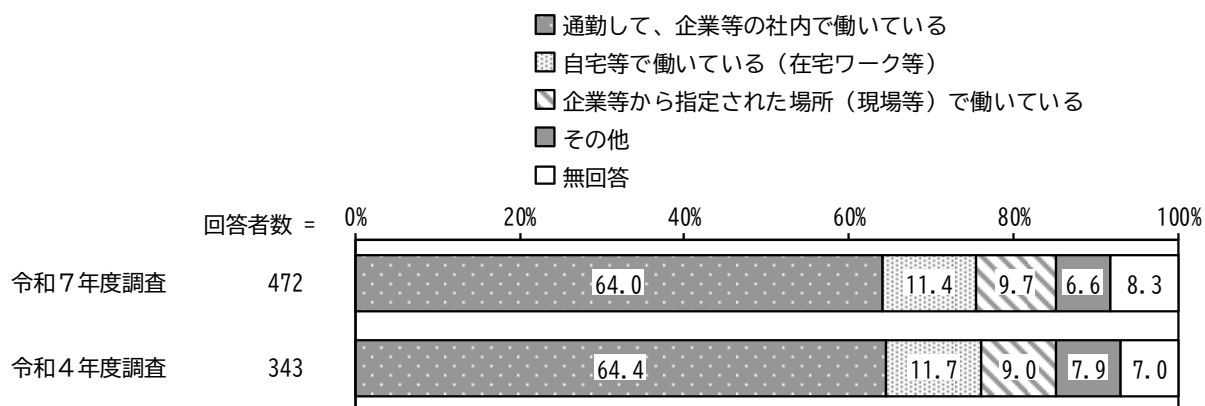


問 13 で「2. 働いている」と答えた方におたずねします。

問 13-2 主にどこで働いていますか。（主なもの1つに○）

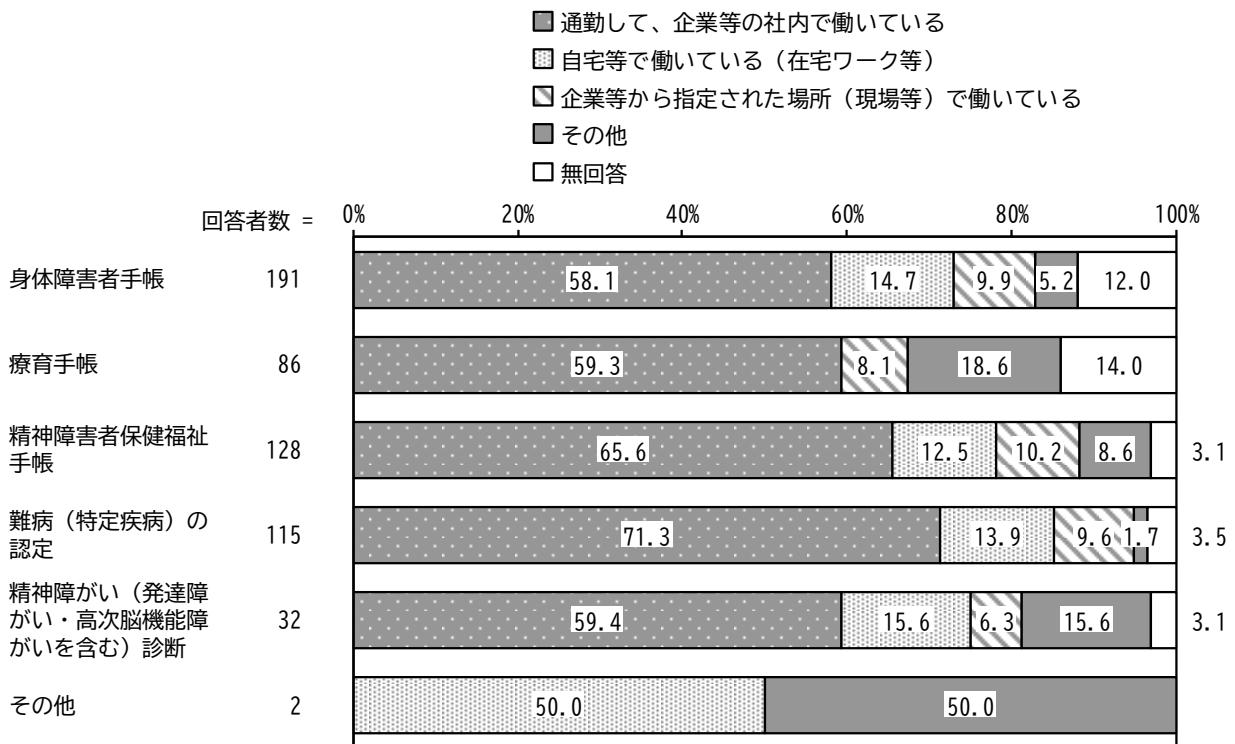
「通勤して、企業等の社内で働いている」の割合が 64.0%、「自宅等で働いている（在宅ワーク等）」の割合が 11.4%、「企業等から指定された場所（現場等）で働いている」の割合が 9.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

すべてにおいて「通勤して、企業等の社内で働いている」の割合が高くなっています。

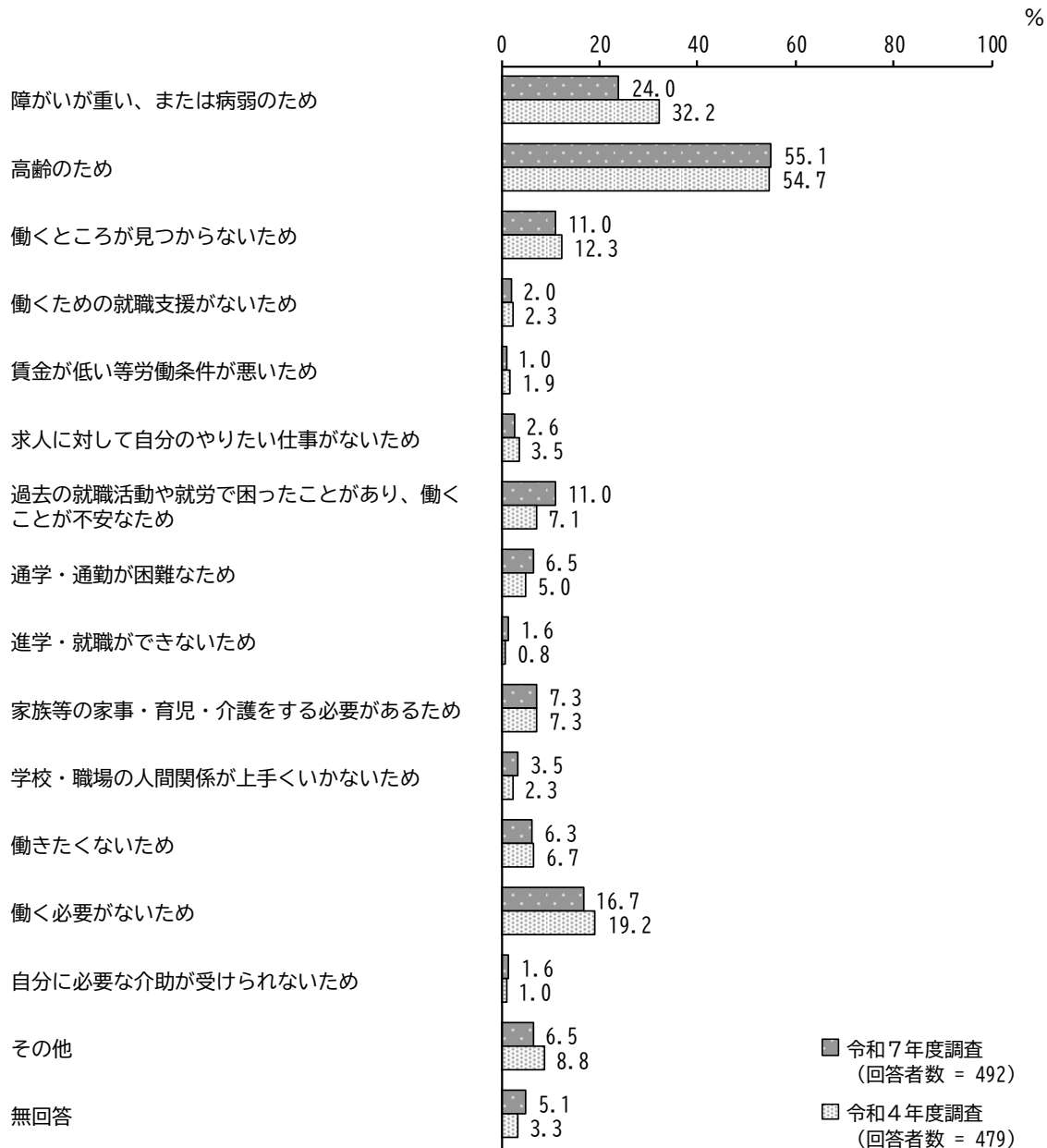


問13「4. 自宅で過ごしている」と答えた方におたずねします。

問13-3 就学や就労をしていない理由は何ですか。(主なもの3つまでに○)

「高齢のため」の割合が55.1%と最も高く、次いで「障がい重い、または病弱のため」の割合が24.0%、「働く必要がないため」の割合が16.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「障がい重い、または病弱のため」の割合が減少しています。



【障がい種別】

身体障害者手帳、難病（特定疾患）の認定で「高齢のため」、療育手帳で「過去の就職活動や就労で困ったことがあり、働くことが不安なため」、精神障害者保健福祉手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「障がい重い、または病弱のため」の割合が高くなっています。

単位：%

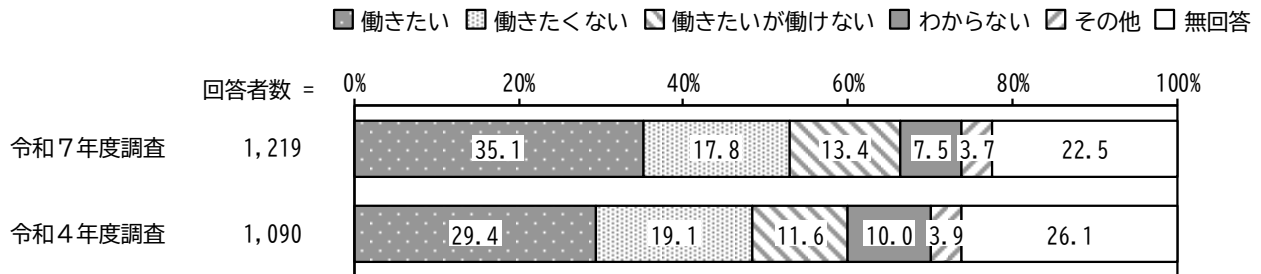
区分	回答者数 (件)	障がい重い、 または 病弱のため	高齢のため	働くところが 見つからないため	働くための 就職支援が ないため	賃金が低い等 労働条件が 悪いのため	求人に対して 自分のやり たい仕事がないため	過去の就職活動 や就労で困った ことがあり、 働くことが不安 なため	通学・通勤が 困難なため
全体	492	24.0	55.1	11.0	2.0	1.0	2.6	11.0	6.5
身体障害者手帳	305	17.0	68.5	7.5	2.0	1.0	2.3	4.3	4.9
療育手帳	7	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	57.1	0.0
精神障害者保健福祉手帳	101	49.5	15.8	21.8	0.0	2.0	4.0	30.7	12.9
難病（特定疾患）の認定	114	28.1	50.9	11.4	3.5	0.9	1.8	10.5	6.1
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	15	53.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	20.0	26.7
その他	8	62.5	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5

区分	進学・就職 ができないため	家族等の家事・ 育児・介護をする 必要があるため	学校・職場の 人間関係が上手 にいかないため	働きたくない ため	働く必要がない ため	自分に必要な 介助が受けられない ため	その他	無回答
全体	1.6	7.3	3.5	6.3	16.7	1.6	6.5	5.1
身体障害者手帳	0.0	4.3	1.0	7.2	19.0	1.6	3.6	7.2
療育手帳	28.6	0.0	14.3	42.9	0.0	0.0	28.6	0.0
精神障害者保健福祉手帳	5.9	11.9	14.9	7.9	3.0	2.0	15.8	0.0
難病（特定疾患）の認定	0.9	13.2	0.0	1.8	22.8	1.8	5.3	3.5
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	6.7	6.7	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	6.7
その他	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0

問14 あなたは今後（将来）働くことを希望しますか。（1つに○）

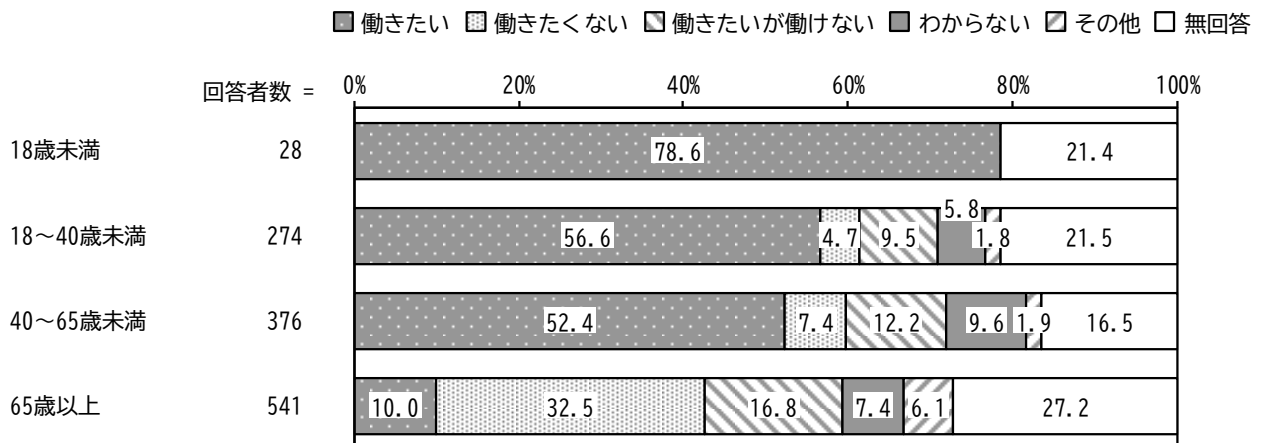
「働きたい」の割合が35.1%、「働きたくない」の割合が17.8%、「働きたいが働けない」の割合が13.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「働きたい」の割合が増加しています。



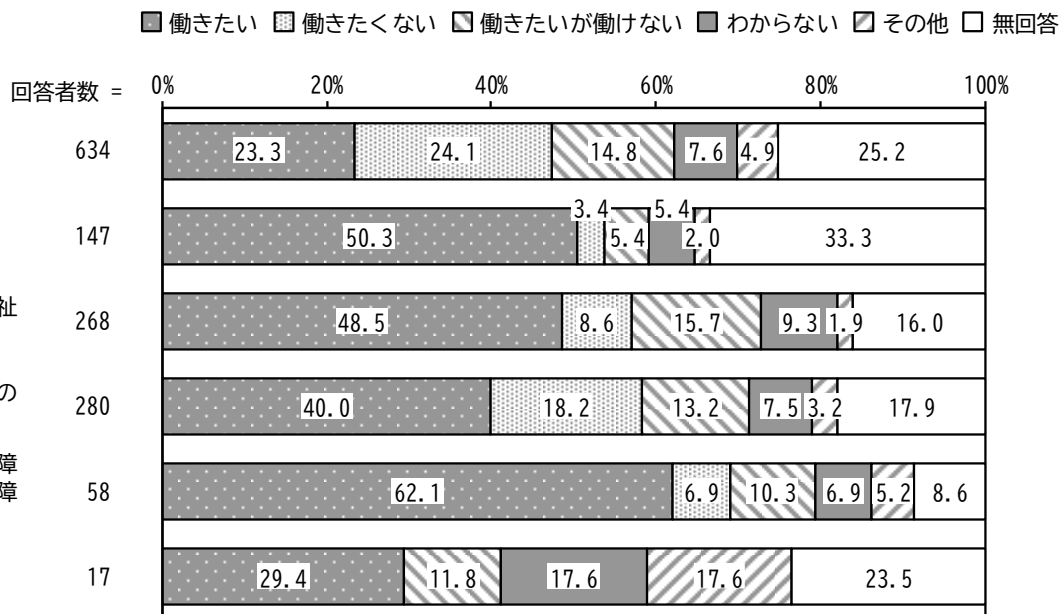
【年齢別】

18歳未満で「働きたい」、65歳以上で「働きたくない」の割合が高くなっています。



【障がい種別】

精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「働きたい」、身体障害者手帳、難病（特定疾患）の認定で「働きたくない」の割合が高くなっています。

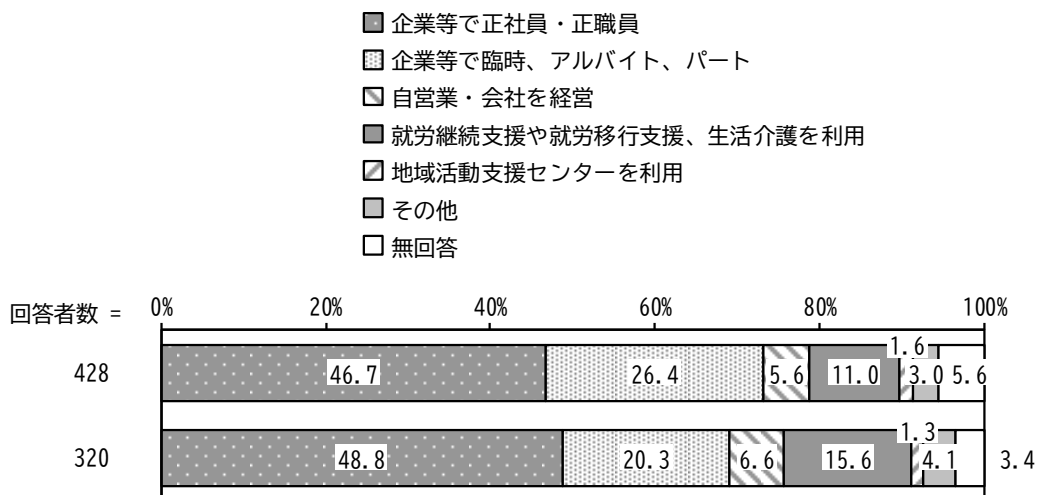


問 14 で「1. 働きたい」と答えた方におたずねします。

問 14-1 どのように働きたいですか。（1つに○）

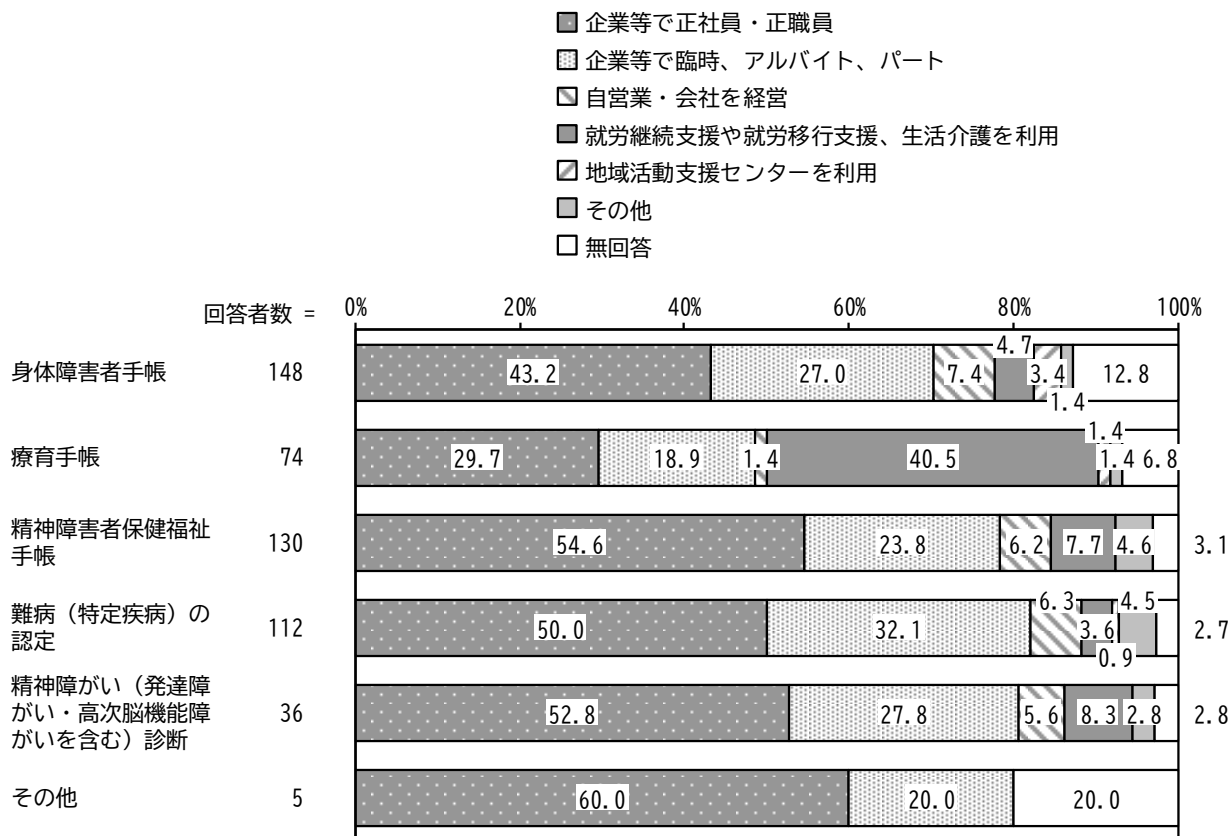
「企業等で正社員・正職員」の割合が 46.7%と最も高く、次いで「企業等で臨時、アルバイト、パート」の割合が 26.4%、「就労継続支援や就労移行支援、生活介護を利用」の割合が 11.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「企業等で臨時、アルバイト、パート」の割合が増加しています。



【障がい種別】

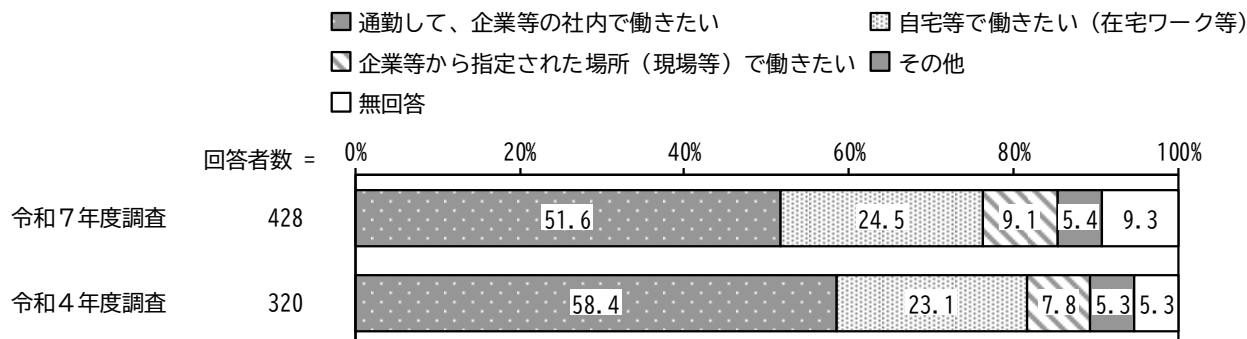
療育手帳で「就労継続支援や就労移行支援、生活介護を利用」の割合が高くなっています。



問 14 で「1. 働きたい」と答えた方におたずねします。

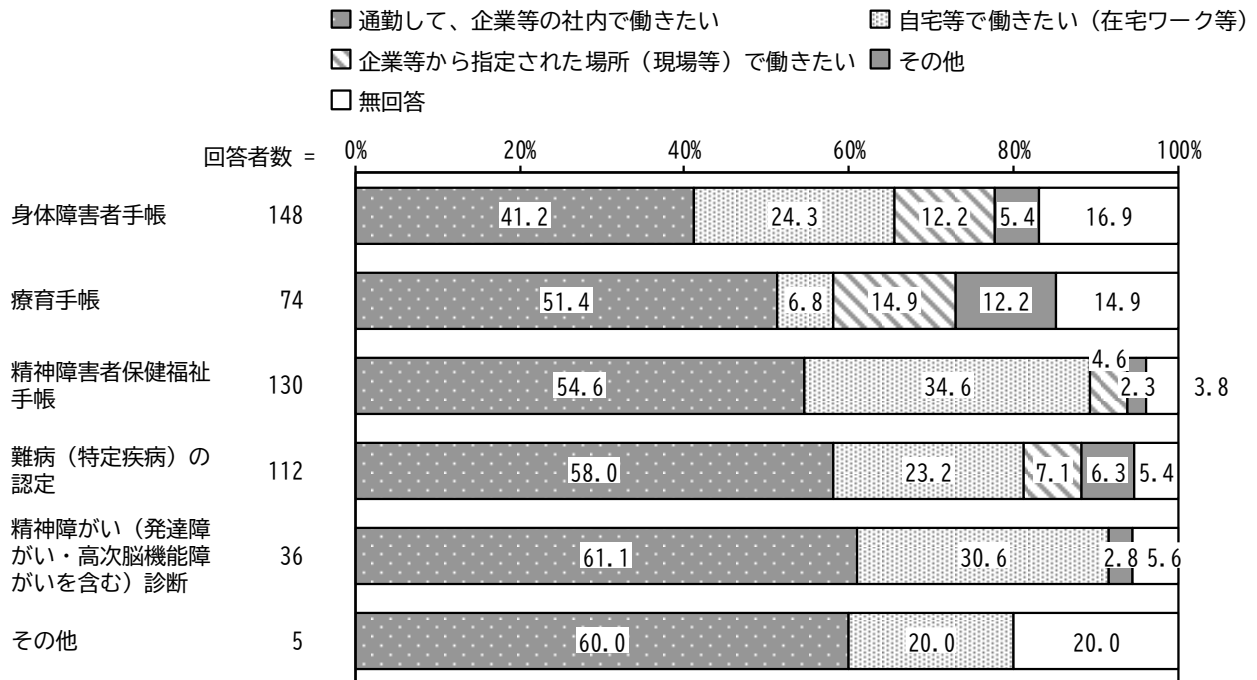
問 14-2 どんなところで働きたいですか。（主なもの1つに○）

「通勤して、企業等の社内で働きたい」の割合が 51.6%、「自宅等で働きたい（在宅ワーク等）」の割合が 24.5%、「企業等から指定された場所（現場等）で働きたい」の割合が 9.1%となっています。令和4年度調査と比較すると、「通勤して、企業等の社内で働きたい」の割合が減少しています。



【障がい種別】

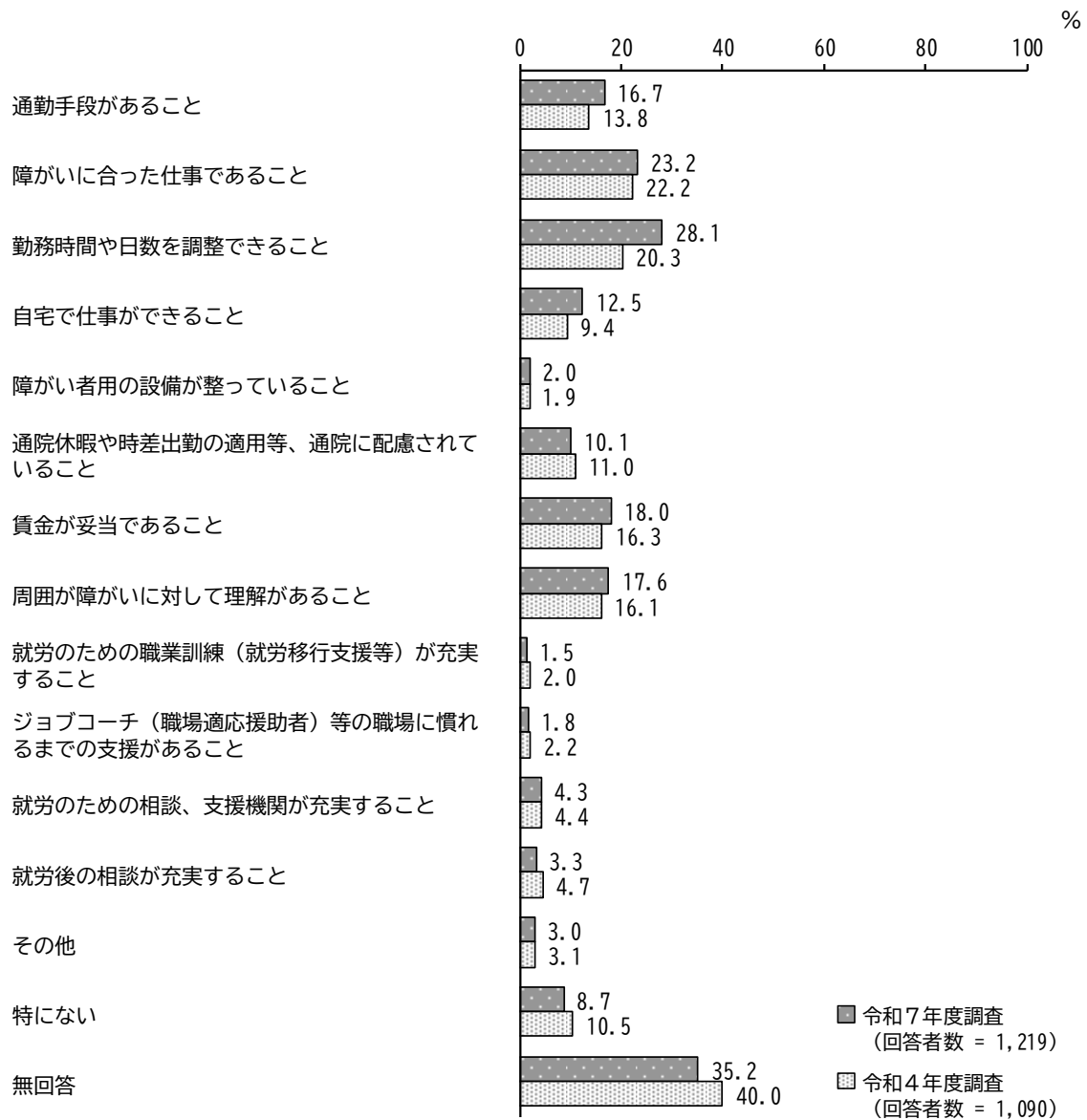
他の障がい種別と比較すると、精神障害者保健福祉手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「自宅等で働きたい（在宅ワーク等）」の割合が高くなっています。



問 15 あなたが働くためには何が必要ですか。(主なもの3つまでに○)

「勤務時間や日数を調整できること」の割合が 28.1%と最も高く、次いで「障がいにあった仕事であること」の割合が 23.2%、「賃金が妥当であること」の割合が 18.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「勤務時間や日数を調整できること」の割合が増加しています。



【障がい種別】

精神障害者保健福祉手帳で「勤務時間や日数を調整できること」、療育手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「障がいに合った仕事であること」の割合が高くなっています。

単位：％

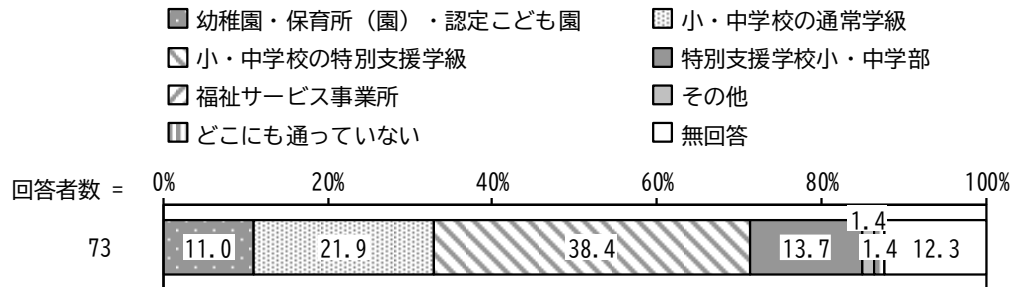
区分	回答者数（件）	通勤手段があること	障がいに合った仕事であること	勤務時間や日数を調整できること	自宅で仕事ができること	障がい者用の設備が整っていること	通院休暇や時差出勤の適用等、通院に配慮されていること	賃金が妥当であること
全 体	1,219	16.7	23.2	28.1	12.5	2.0	10.1	18.0
身体障害者手帳	634	13.2	16.9	21.9	10.7	2.5	6.9	11.7
療育手帳	147	27.2	52.4	24.5	2.0	3.4	4.1	12.9
精神障害者保健福祉手帳	268	17.2	37.7	39.6	19.8	1.5	13.8	29.5
難病（特定疾病）の認定	280	18.2	11.1	32.9	13.9	0.7	17.5	21.8
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	58	19.0	46.6	43.1	24.1	3.4	8.6	34.5
その他	17	17.6	29.4	23.5	11.8	0.0	11.8	5.9

区分	周囲が障がいに対して理解があること	就労のための職業訓練（就労移行支援等）が充実すること	ジョブコーチ（職場適応援助者）等の職場に慣れるまでの支援があること	就労のための相談、支援機関が充実すること	就労後の相談が充実すること	その他	特にない	無回答
全 体	17.6	1.5	1.8	4.3	3.3	3.0	8.7	35.2
身体障害者手帳	11.4	0.6	0.3	3.6	0.9	3.9	10.3	47.3
療育手帳	38.1	3.4	7.5	10.2	6.8	1.4	2.0	27.2
精神障害者保健福祉手帳	31.0	2.2	3.7	5.2	6.7	2.6	4.9	14.9
難病（特定疾病）の認定	7.9	1.1	0.4	2.5	2.5	2.1	10.0	34.3
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	32.8	6.9	6.9	3.4	8.6	1.7	0.0	8.6
その他	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9	41.2

## (4-2) 日中活動の場について (15歳未満 (義務教育修了前) の方)

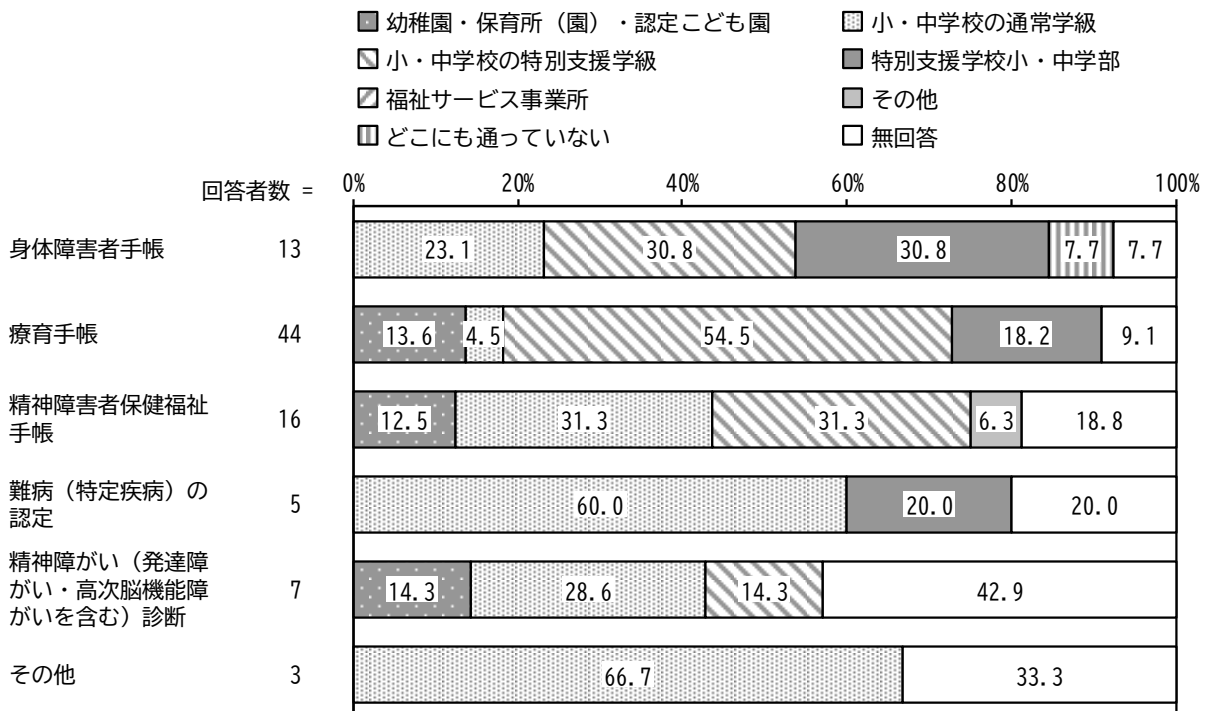
### 問16 平日の昼間、どのように過ごしていますか。(あてはまるものに○)

「小・中学校の特別支援学級」の割合が38.4%と最も高く、次いで「小・中学校の通常学級」の割合が21.9%、「特別支援学校小・中学部」の割合が13.7%となっています。



### 【障がい種別】

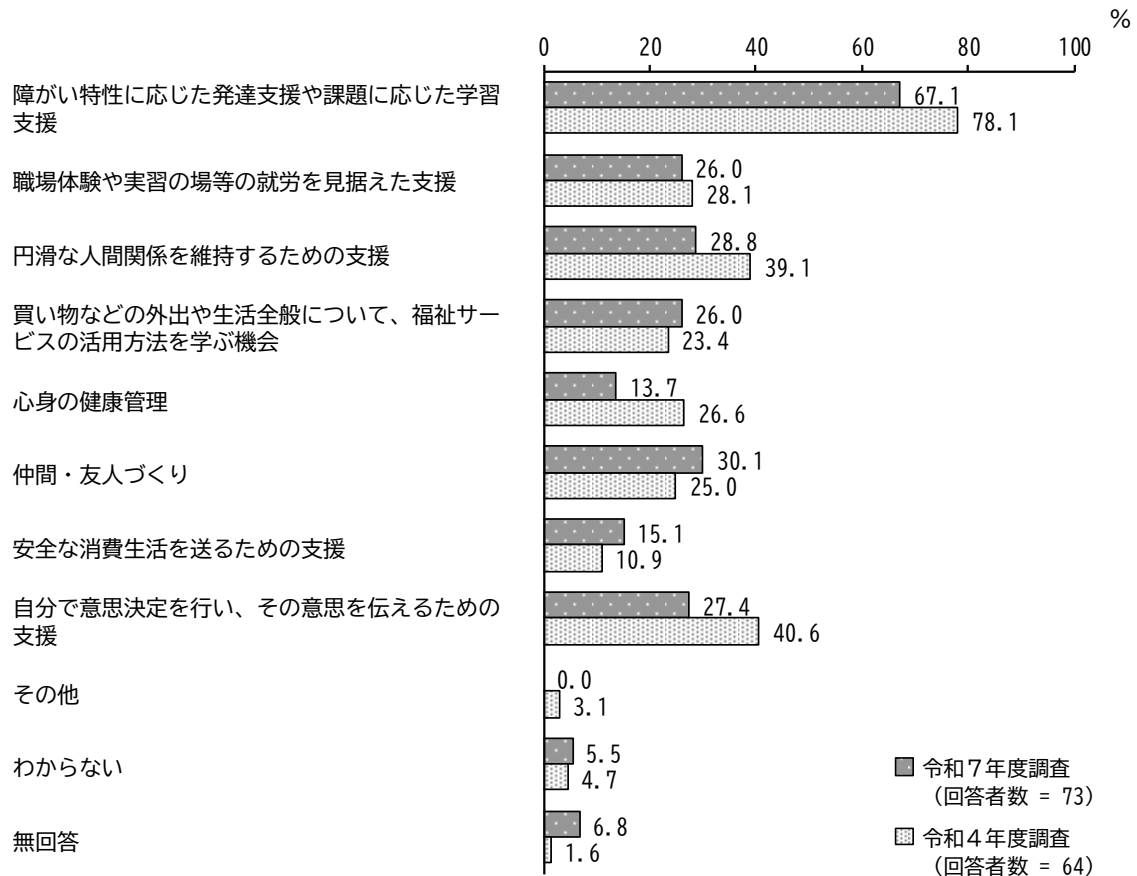
身体障害者手帳で「小・中学校の特別支援学級」「特別支援学校小・中学部」、療育手帳で「小・中学校の特別支援学級」、精神障害者保健福祉手帳で「小・中学校の通常学級」「小・中学校の特別支援学級」の割合が高くなっています。



問 17 将来の仕事や、学校を卒業した後の生活のために、学齢期（小学校・中学校）に必要な  
 だと思う支援は何ですか。（主なもの3つまでに○）

「障がい特性に応じた発達支援や課題に応じた学習支援」の割合が 67.1%と最も高く、次いで「仲間・友人づくり」の割合が 30.1%、「円滑な人間関係を維持するための支援」の割合が 28.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「仲間・友人づくり」の割合が増加しています。一方、「障がい特性に応じた発達支援や課題に応じた学習支援」「円滑な人間関係を維持するための支援」「心身の健康管理」「自分で意思決定を行い、その意思を伝えるための支援」の割合が減少しています。



【障がい種別】

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳で「障がい特性に応じた発達支援や課題に応じた学習支援」の割合が高くなっています。

単位：％

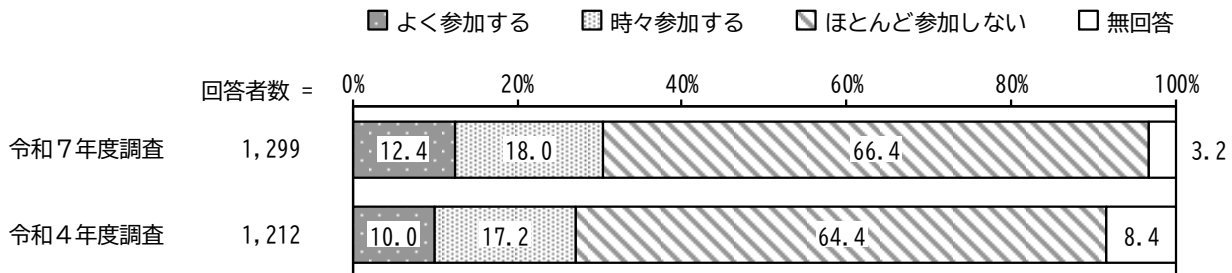
区分	回答者数(件)	障がい特性に応じた発達支援や課題に応じた学習支援	職場体験や実習の場等の就労を見据えた支援	円滑な人間関係を維持するための支援	買い物などの外出や生活全般について、福祉サービスの活用方法を学ぶ機会	心身の健康管理	仲間・友人づくり	安全な消費生活を送るための支援	自分で意思決定を行い、その意思を伝えるための支援	その他	わからない	無回答
全体	73	67.1	26.0	28.8	26.0	13.7	30.1	15.1	27.4	0.0	5.5	6.8
身体障害者手帳	13	69.2	15.4	46.2	30.8	15.4	15.4	7.7	38.5	0.0	0.0	0.0
療育手帳	44	70.5	38.6	27.3	31.8	11.4	34.1	22.7	29.5	0.0	2.3	4.5
精神障害者保健福祉手帳	16	68.8	25.0	37.5	18.8	18.8	18.8	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5
難病（特定疾病）の認定	5	40.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	7	71.4	28.6	42.9	14.3	14.3	42.9	14.3	28.6	0.0	0.0	14.3
その他	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3

## (5) 趣味、地域活動について

問 18 あなたは現在、趣味として、文化・芸術活動（音楽・絵画・工芸等）やスポーツ、レクリエーション活動、地域活動等をしていますか。（1つに○）

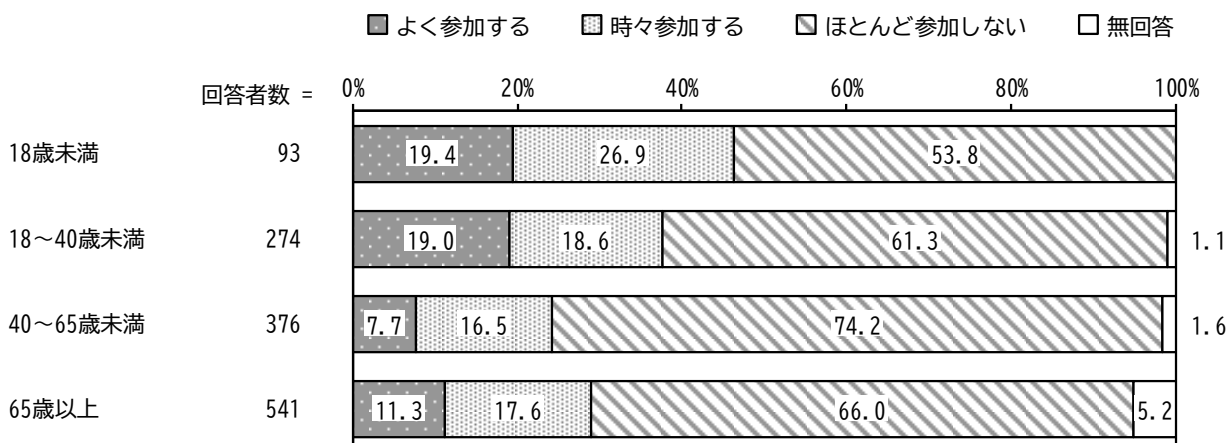
「よく参加する」の割合が12.4%、「時々参加する」の割合が18.0%、「ほとんど参加しない」の割合が66.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



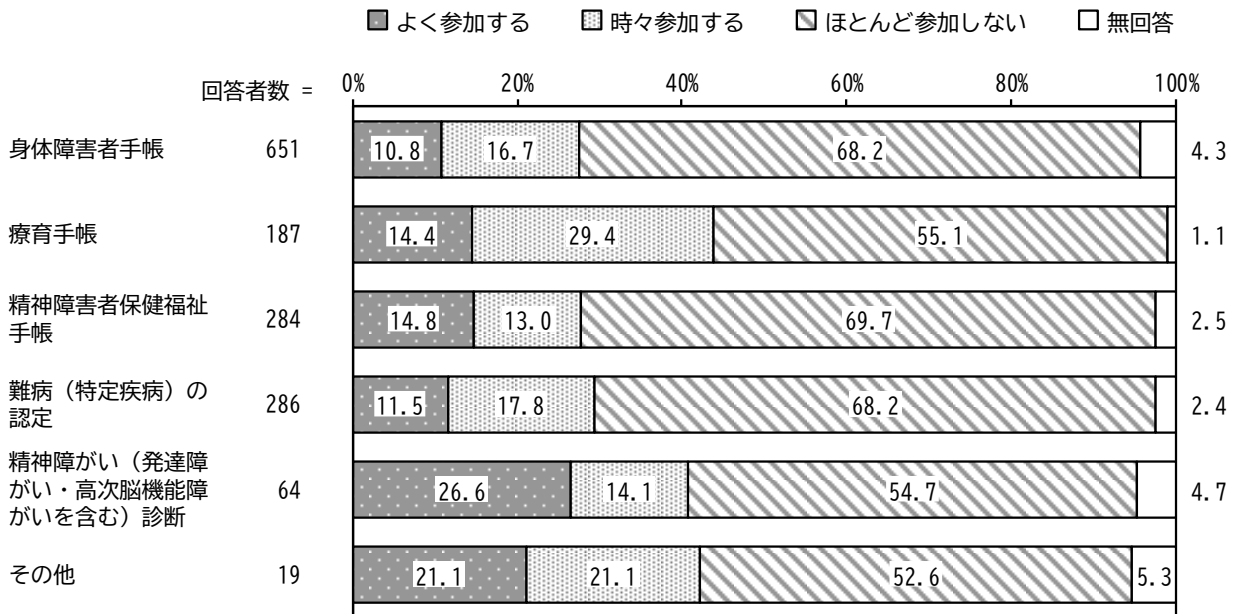
### 【年齢別】

他の年齢層と比較すると、18歳未満、18～40歳未満で「よく参加する」、40～65歳未満で「ほとんど参加しない」の割合が高くなっています。



【障がい種別】

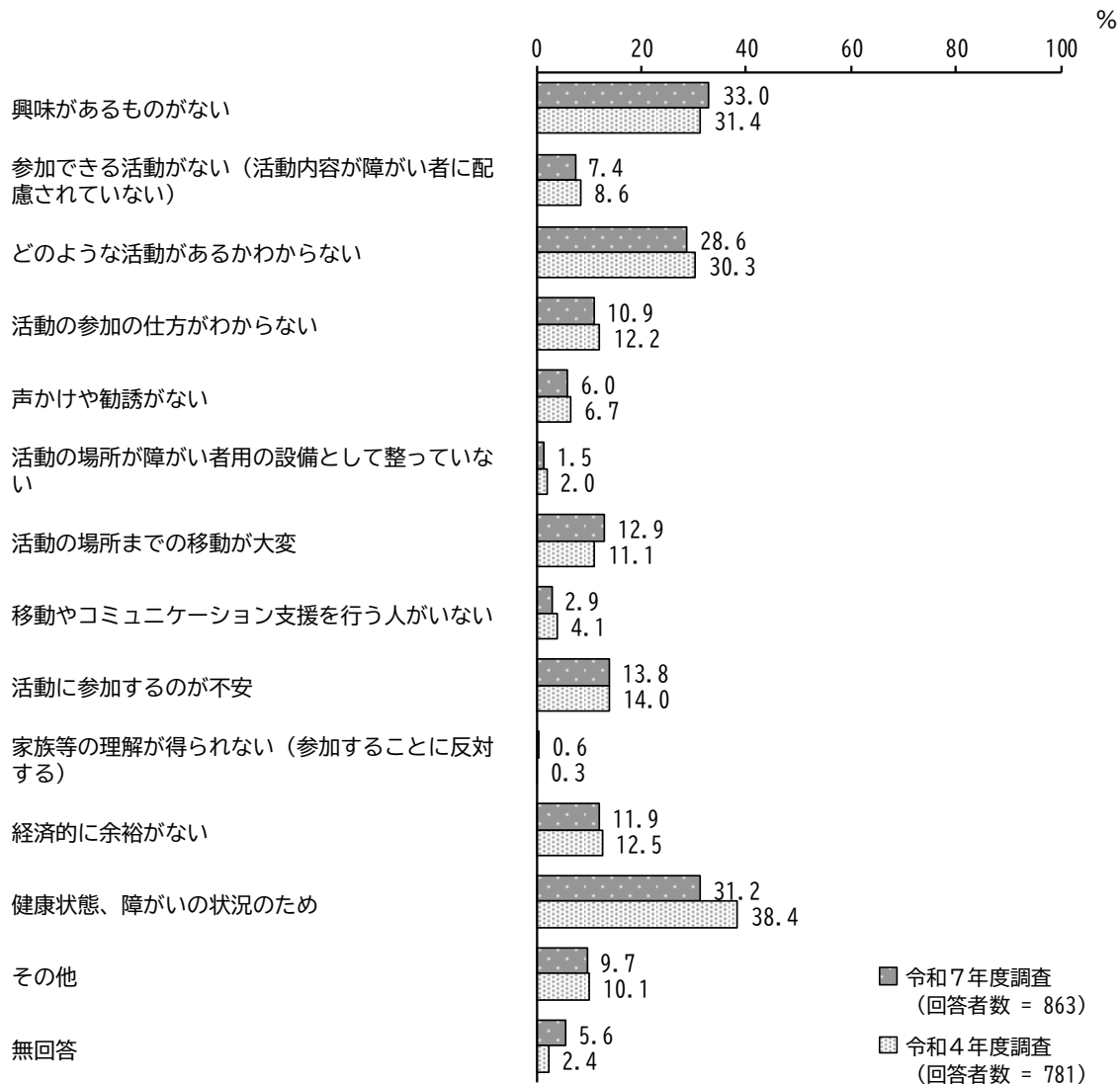
他の障がい種別と比較すると、療育手帳で「時々参加する」、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「よく参加する」の割合が高くなっています。



問18で「3. ほとんど参加しない」と答えた方におたずねします。

問18-1 その理由は何ですか。(主なものを3つまでに○)

「興味があるものがない」の割合が33.0%と最も高く、次いで「健康状態、障がいの状況のため」の割合が31.2%、「どのような活動があるかわからない」の割合が28.6%となっています。  
 令和4年度調査と比較すると、「健康状態、障がいの状況のため」の割合が減少しています。



【年齢別】

18歳未満で「どのような活動があるかわからない」の割合が最も高く、次いで「興味があるものがない」の割合が高くなっています。また、18～40歳未満、40～65歳未満で「興味があるものがない」の割合が最も高く、次いで「どのような活動があるかわからない」の割合が高く、65歳以上で「健康状態、障がいの状況のため」の割合が最も高く、次いで「興味があるものがない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	興味があるものがない	参加できる活動がない(活動内容が障がい者に配慮されていない)	どのような活動があるかわからない	活動の参加の仕方がわからない	声かけや勧誘がない	活動の場所が障がい者の設備として整っていない	活動の場所までの移動が大変
全体	863	33.0	7.4	28.6	10.9	6.0	1.5	12.9
18歳未満	50	34.0	20.0	40.0	20.0	2.0	4.0	22.0
18～40歳未満	168	44.0	7.7	36.9	16.7	7.7	1.2	13.7
40～65歳未満	279	39.8	6.1	34.1	12.9	5.7	1.4	6.5
65歳以上	357	22.7	6.2	18.8	5.3	5.9	1.4	16.0

区分	移動やコミュニケーション支援を行う人がいない	活動に参加するのが不安	家族等の理解が得られない(参加することに反対する)	経済的に余裕がない	健康状態、障がいの状況のため	その他	無回答
全体	2.9	13.8	0.6	11.9	31.2	9.7	5.6
18歳未満	6.0	24.0	0.0	14.0	0.0	14.0	0.0
18～40歳未満	5.4	24.4	1.2	14.3	17.3	8.3	0.6
40～65歳未満	2.9	15.4	0.7	15.4	24.0	10.4	4.7
65歳以上	1.4	6.4	0.3	7.8	48.2	9.2	9.5

【障がい種別】

身体障害者手帳で「健康状態、障がいの状況のため」、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「興味があるものがない」、難病（特定疾患）の認定で「どのような活動があるかわからない」の割合が高くなっています。

単位：％

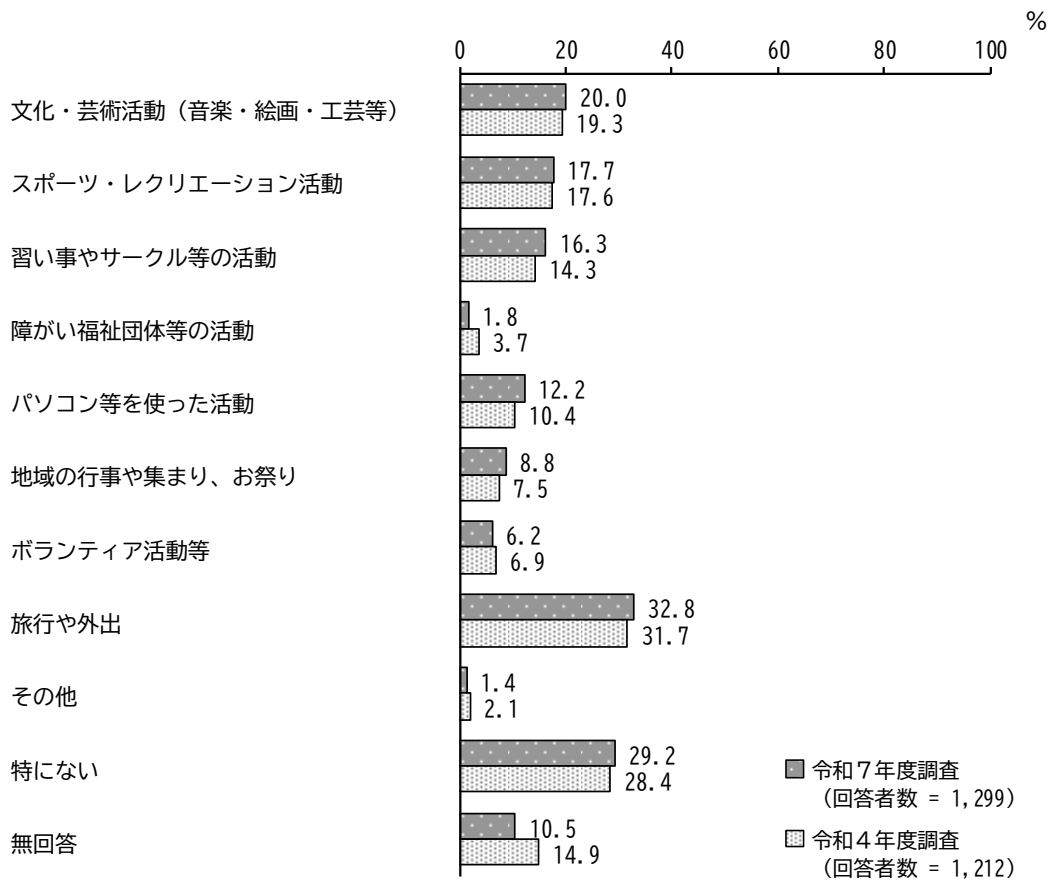
区分	回答者数（件）	興味があるものがない	参加できる活動がない（活動内容が障がい者に配慮されていない）	どのような活動があるかわからない	活動の参加の仕方がわからない	声かけや勧誘がない	活動の場所が障がい者用の設備として整っていない	活動の場所までの移動が大変
全 体	863	33.0	7.4	28.6	10.9	6.0	1.5	12.9
身体障害者手帳	444	26.8	7.4	24.3	9.2	5.2	1.8	15.1
療育手帳	103	47.6	18.4	31.1	12.6	3.9	2.9	13.6
精神障害者保健福祉手帳	198	40.9	4.0	31.8	12.6	8.6	1.0	9.6
難病（特定疾病）の認定	195	32.3	6.7	34.9	11.3	6.7	3.1	11.8
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	35	45.7	2.9	34.3	14.3	5.7	2.9	8.6
その他	10	10.0	0.0	40.0	30.0	20.0	0.0	30.0

区分	移動やコミュニケーション支援を行っていない	活動に参加するのが不安	家族等の理解が得られない（参加することに反対する）	経済的に余裕がない	健康状態、障がいの状況のため	その他	無回答
全 体	2.9	13.8	0.6	11.9	31.2	9.7	5.6
身体障害者手帳	2.0	8.6	0.7	9.5	39.6	9.0	8.1
療育手帳	9.7	22.3	1.0	5.8	8.7	5.8	1.9
精神障害者保健福祉手帳	3.0	26.8	0.5	22.2	28.8	9.1	3.5
難病（特定疾病）の認定	1.5	6.7	0.0	11.3	30.8	12.3	2.6
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	0.0	31.4	0.0	14.3	25.7	8.6	2.9
その他	0.0	0.0	0.0	20.0	30.0	10.0	20.0

問19 今後、やってみたい活動はありますか。(主なもの3つまでに○)

「旅行や外出」の割合が32.8%と最も高く、次いで「特にない」の割合が29.2%、「文化・芸術活動(音楽・絵画・工芸等)」の割合が20.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

18歳未満で「スポーツ・レクリエーション活動」、18～40歳未満、40～65歳未満で「旅行や外出」、65歳以上で「特にない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	文化・芸術活動(音楽・絵画・工芸等)	スポーツ・レクリエーション活動	習い事やサークル等の活動	障がい福祉団体等の活動	パソコン等を使った活動	地域の行事や集まり、お祭り	ボランティア活動等	旅行や外出	その他	特にない	無回答
全体	1,299	20.0	17.7	16.3	1.8	12.2	8.8	6.2	32.8	1.4	29.2	10.5
18歳未満	93	28.0	33.3	23.7	2.2	26.9	18.3	3.2	31.2	2.2	12.9	5.4
18～40歳未満	274	28.8	25.5	16.8	4.0	16.8	17.5	5.8	40.9	1.1	19.3	4.7
40～65歳未満	376	20.2	19.9	20.7	2.1	12.5	5.9	8.2	36.2	1.3	30.6	6.1
65歳以上	541	14.2	9.6	12.0	0.2	7.2	5.0	5.5	27.0	1.5	36.2	17.0

【障がい種別】

身体障害者手帳で「特にない」、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、難病（特定疾患）の認定で「旅行や外出」、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「文化・芸術活動（音楽・絵画・工芸等）」の割合が高くなっています。

単位：％

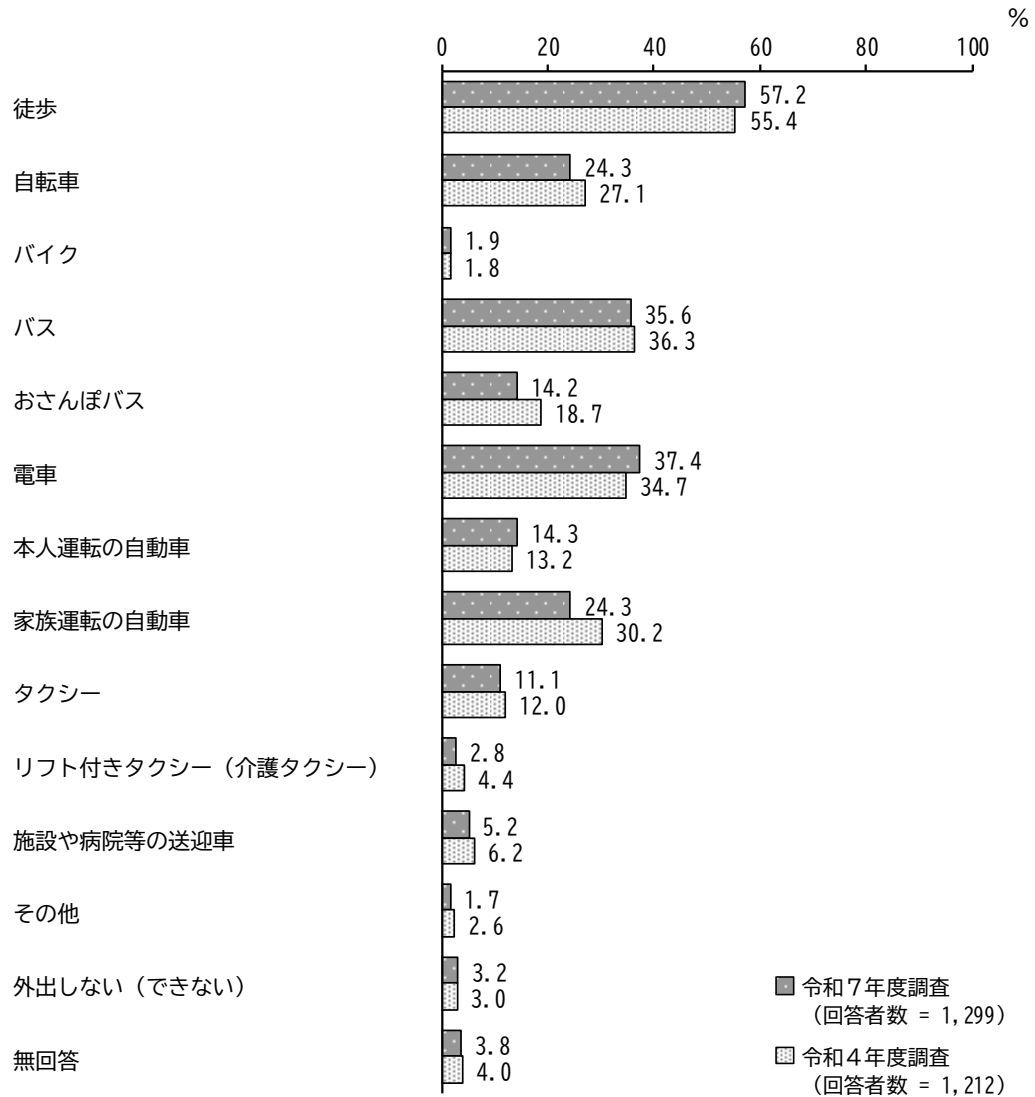
区分	回答者数（件）	文化・芸術活動（音楽・絵画・工芸等）	スポーツ・レクリエーション活動	習い事やサークル等の活動	障がい福祉団体等の活動	パソコン等を使った活動	地域の行事や集まり、お祭り	ボランティア活動等	旅行や外出	その他	特にない	無回答
全 体	1,299	20.0	17.7	16.3	1.8	12.2	8.8	6.2	32.8	1.4	29.2	10.5
身体障害者手帳	651	15.8	12.4	14.1	0.8	8.9	5.5	5.1	29.2	1.1	34.1	14.7
療育手帳	187	19.8	32.1	14.4	6.4	15.5	19.3	1.1	35.8	2.1	20.3	7.5
精神障害者保健福祉手帳	284	31.0	18.3	18.0	3.2	20.4	9.5	7.4	34.9	1.8	27.8	4.9
難病（特定疾病）の認定	286	19.6	19.9	21.7	1.4	9.4	8.7	9.8	40.6	1.0	25.9	6.6
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	64	40.6	20.3	18.8	7.8	25.0	9.4	3.1	35.9	3.1	26.6	1.6
その他	19	31.6	10.5	21.1	10.5	21.1	0.0	5.3	47.4	5.3	15.8	15.8

## (6) 外出・移動手段について

問 20 外出するときの主な移動手段は何ですか。(主なもの3つまでに○)

「徒歩」の割合が 57.2%と最も高く、次いで「電車」の割合が 37.4%、「バス」の割合が 35.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「家族運転の自動車」の割合が減少しています。



【障がい種別】

すべてにおいて「徒歩」の割合が高くなっています。また、療育手帳で「電車」「家族運転の自動車」、精神障害者保健福祉手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「電車」の割合が高くなっています。

単位：%

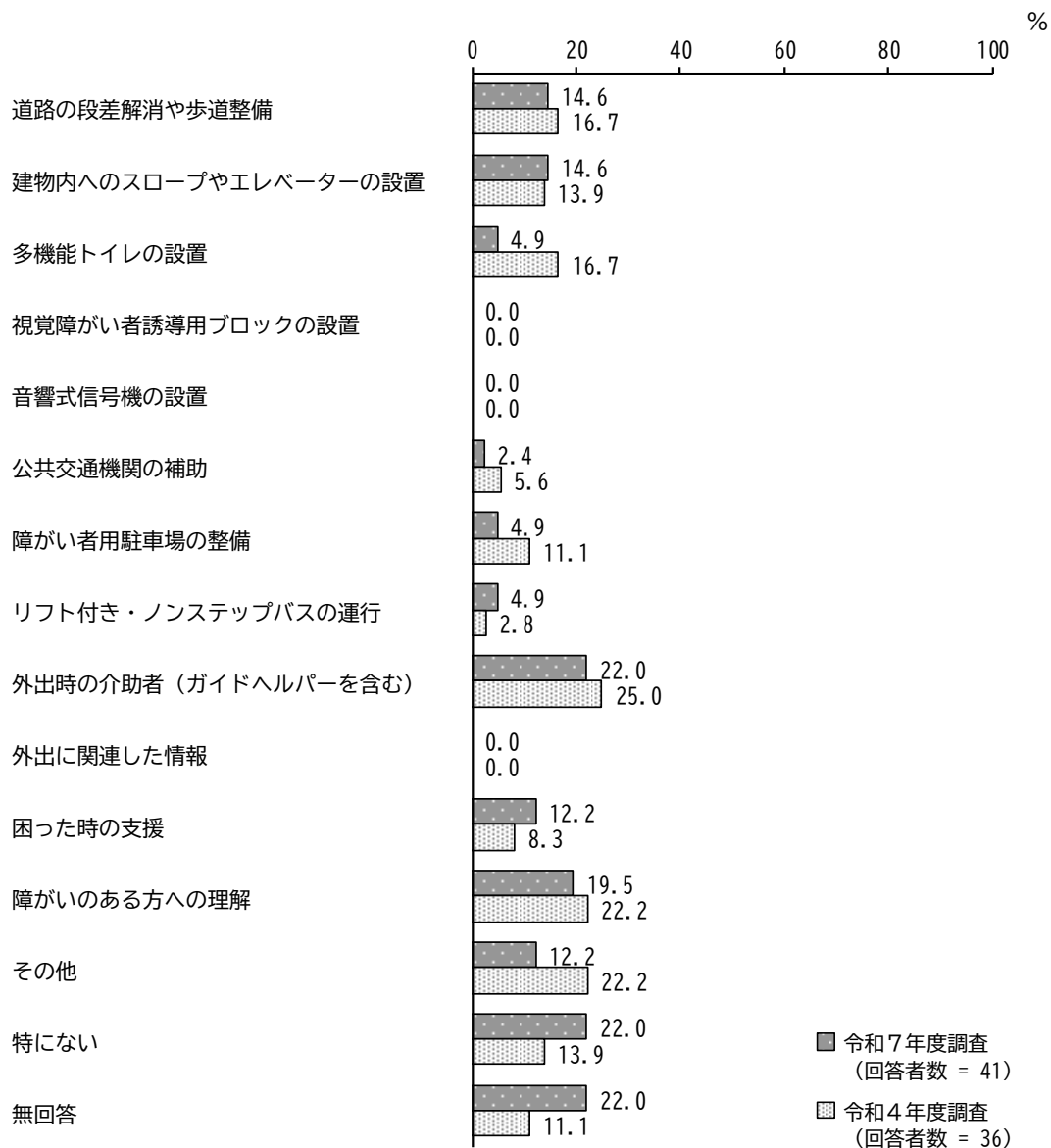
区分	回答者数 (件)	徒歩	自転車	バイク	バス	おさんぽバス	電車	本人運転の自動車	家族運転の自動車	タクシー	リフト付きタクシー (介護タクシー)	迎車 施設や病院等の送	その他	外出しない(できない)	無回答
全 体	1,299	57.2	24.3	1.9	35.6	14.2	37.4	14.3	24.3	11.1	2.8	5.2	1.7	3.2	3.8
身体障害者手帳	651	43.9	16.3	2.3	31.6	13.1	28.7	17.5	21.2	17.1	5.1	6.5	2.3	4.8	4.5
療育手帳	187	71.7	19.3	0.0	41.2	17.1	43.9	0.0	43.9	5.3	0.5	8.6	1.1	1.1	3.7
精神障害者保健福祉手帳	284	71.5	36.3	2.5	47.5	10.2	56.0	6.3	21.5	3.2	0.4	1.4	0.7	2.5	3.2
難病（特定疾病）の認定	286	59.4	29.4	1.0	29.7	17.5	35.3	21.7	23.8	9.1	3.5	6.3	2.4	2.8	3.5
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	64	75.0	43.8	4.7	51.6	10.9	65.6	1.6	12.5	3.1	0.0	0.0	0.0	1.6	3.1
その他	19	47.4	36.8	0.0	42.1	15.8	31.6	5.3	10.5	15.8	0.0	5.3	10.5	0.0	5.3

問 20 で「13. 外出しない（できない）」と答えた方におたずねします。

問 20-1 外出のためには、何が必要ですか。（主なもの3つまでに○）

「外出時の介助者（ガイドヘルパーを含む）」の割合が 22.0%と最も高く、次いで「障がいのある方への理解」の割合が 19.5%、「道路の段差解消や歩道整備」、「建物内へのスロープやエレベーターの設置」の割合が 14.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「多機能トイレの設置」「障がい者用駐車場の整備」の割合が減少しています。



【障がい種別】

単位：％

区分	回答者数 (件)	道路の 段差解消 や歩道 整備	建物内 へのスロー プやエレ ベーター の設置	多機能 トイレの 設置	視覚障 がい者誘 導用ブ ロックの 設置	音響式 信号機の 設置	公共交 通機関の 補助	障がい 者用駐車 場の整 備
全 体	41	14.6	14.6	4.9	0.0	0.0	2.4	4.9
身体障害者手帳	31	16.1	19.4	6.5	0.0	0.0	3.2	3.2
療育手帳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
難病（特定疾病）の認定	8	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

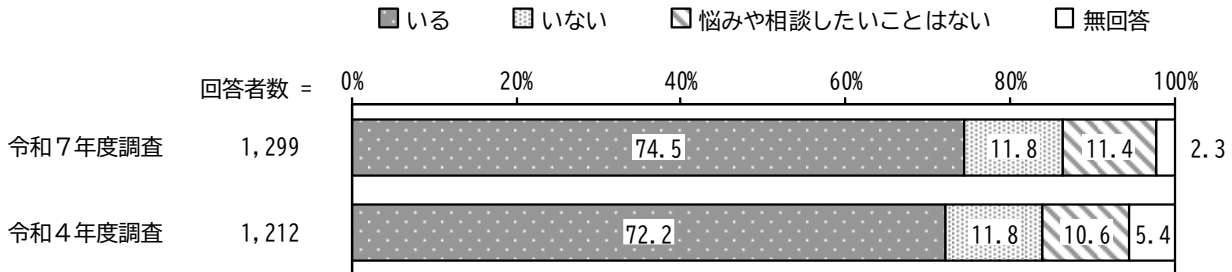
区分	リフト 付き・ノ ンステ ップバス の運行	外出時 の介助者 (ガイド ヘルパー を含む)	外出に 関連した 情報	困った 時の支援	障がい のある方 への理 解	その他	特にな い	無回答
全 体	4.9	22.0	0.0	12.2	19.5	12.2	22.0	22.0
身体障害者手帳	6.5	25.8	0.0	6.5	12.9	6.5	22.6	29.0
療育手帳	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳	0.0	0.0	0.0	28.6	42.9	14.3	42.9	0.0
難病（特定疾病）の認定	12.5	25.0	0.0	37.5	50.0	25.0	12.5	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## (7) 悩み・相談ごと等について

### 問21 あなたは相談にのってもらっている人がいますか。(1つに○)

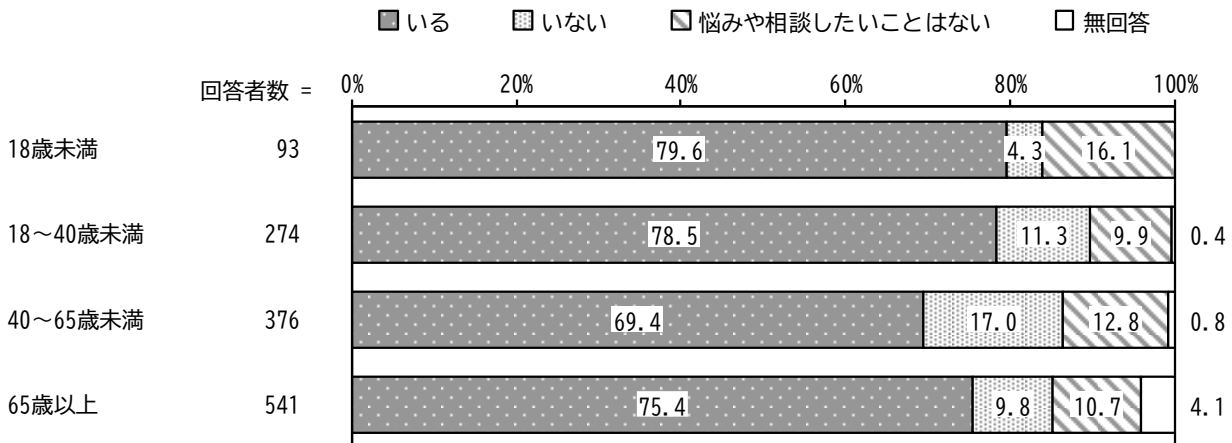
「いる」の割合が74.5%、「いない」の割合が11.8%、「悩みや相談したいことはない」の割合が11.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



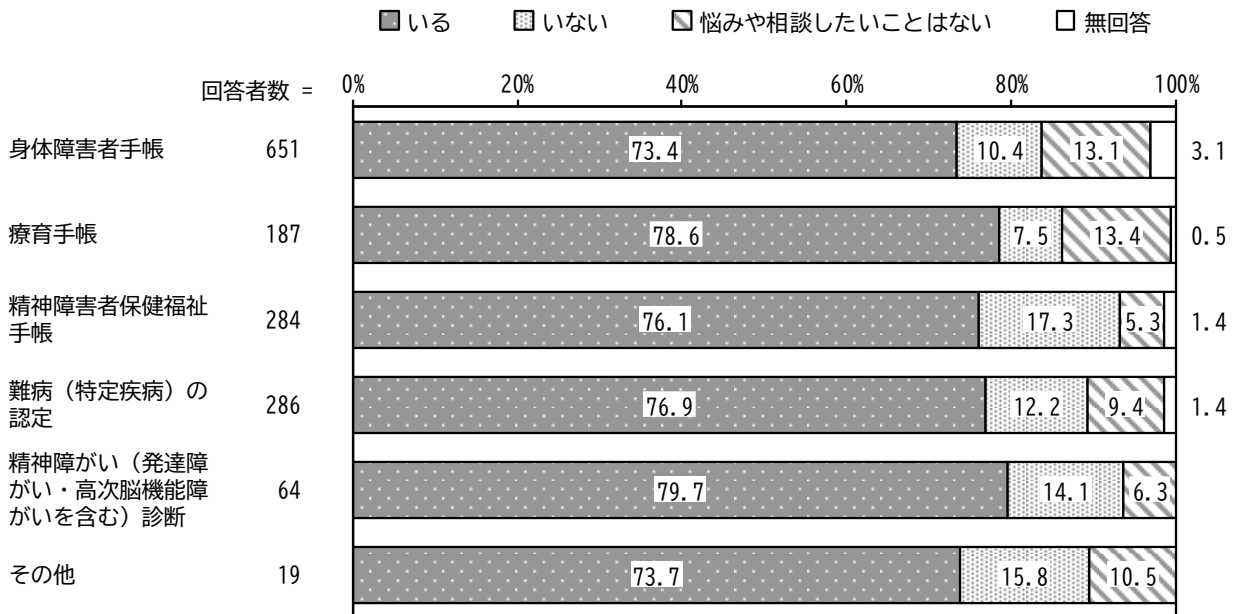
#### 【年齢別】

他の年齢層と比較すると、40～65歳未満で「いない」の割合が高くなっています。



【障がい種別】

他の障がい種別と比較すると、身体障害者手帳、療育手帳で「悩みや相談したことがない」の割合が高くなっています。

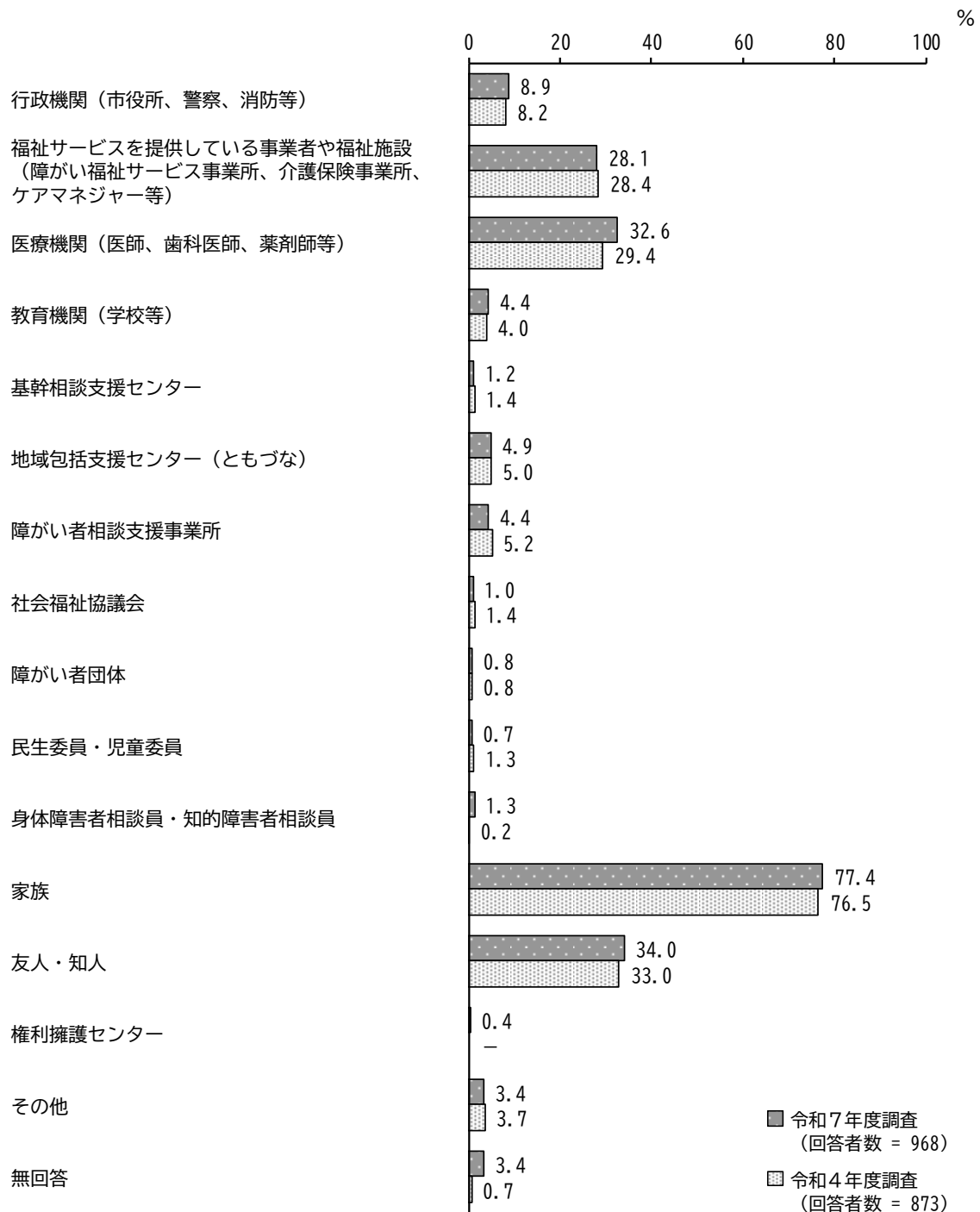


問21で「1. いる」と答えた方におたずねします。

問21-1 あなたが主に相談にのってもらっている人や機関をお答えください。  
(あてはまるものすべてに○)

「家族」の割合が77.4%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が34.0%、「医療機関（医師、歯科医師、薬剤師等）」の割合が32.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※令和4年度調査では、「権利擁護センター」の選択肢はありませんでした。

【障がい種別】

すべてにおいて「家族」の割合が高くなっています。また、療育手帳で「福祉サービスを提供している事業者や福祉施設（障がい福祉サービス事業所、介護保険事業所、ケアマネジャー等）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	行政機関(市役所、警察、消防等)	福祉サービスを提供している事業者や福祉施設(障がい福祉サービス事業所、介護保険事業所、ケアマネジャー等)	医療機関(医師、歯科医師、薬剤師等)	教育機関(学校等)	基幹相談支援センター	地域包括支援センター(とまづな)	障がい者相談支援事業所	社会福祉協議会
全体	968	8.9	28.1	32.6	4.4	1.2	4.9	4.4	1.0
身体障害者手帳	478	8.4	27.6	26.8	2.3	0.8	6.5	2.5	0.8
療育手帳	147	11.6	51.7	23.8	17.0	4.1	0.7	17.0	0.7
精神障害者保健福祉手帳	216	14.4	27.3	54.6	5.1	2.3	3.2	6.9	1.9
難病(特定疾病)の認定	220	4.5	20.5	30.0	1.4	1.4	6.4	1.8	1.4
精神障がい(発達障がい・高次脳機能障がいを含む)診断	51	11.8	29.4	54.9	9.8	7.8	3.9	9.8	3.9
その他	14	21.4	35.7	64.3	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0

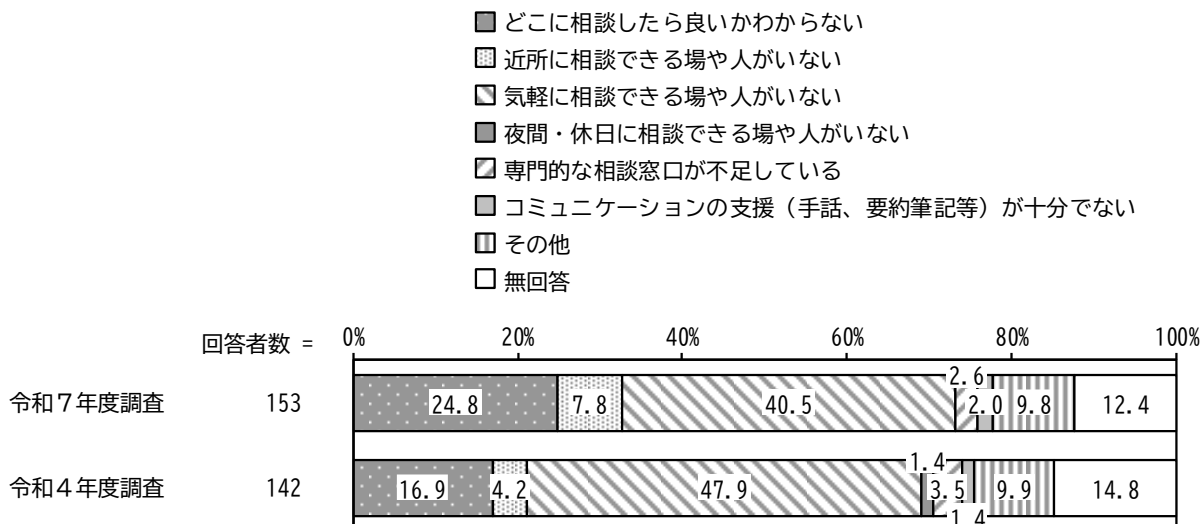
区分	障がい者団体	民生委員・児童委員	身体障害者相談員・知的障害者相談員	家族	友人・知人	権利擁護センター	その他	無回答
全体	0.8	0.7	1.3	77.4	34.0	0.4	3.4	3.4
身体障害者手帳	1.0	1.3	2.1	75.5	33.5	0.6	1.9	5.2
療育手帳	2.0	0.0	3.4	78.9	10.9	0.0	4.1	2.0
精神障害者保健福祉手帳	0.9	0.9	0.9	72.7	35.6	0.5	7.4	1.9
難病(特定疾病)の認定	0.5	0.5	0.5	82.7	45.5	0.9	3.2	1.8
精神障がい(発達障がい・高次脳機能障がいを含む)診断	2.0	2.0	2.0	68.6	47.1	2.0	13.7	2.0
その他	0.0	0.0	0.0	85.7	35.7	0.0	0.0	0.0

問 21 で「2. いない」と答えた方におたずねします。

問 21-2 その理由は何ですか。(1つに○)

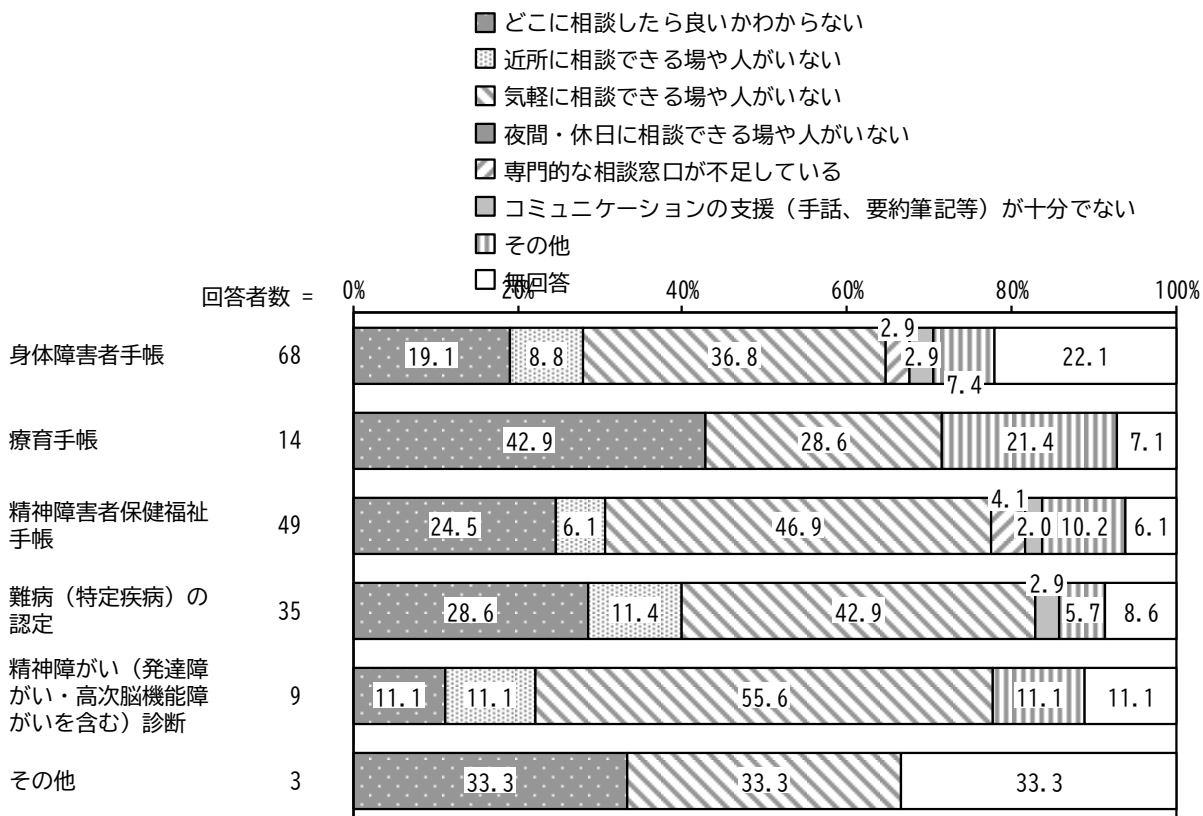
「気軽に相談できる場や人がいない」の割合が 40.5%と最も高く、次いで「どこに相談したら良いかわからない」の割合が 24.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「どこに相談したら良いかわからない」の割合が増加しています。一方、「気軽に相談できる場や人がいない」の割合が減少しています。



【障がい種別】

身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、難病(特定疾患)の認定で「気軽に相談できる場や人がいない」、療育手帳で「どこに相談したら良いかわからない」の割合が高くなっています。

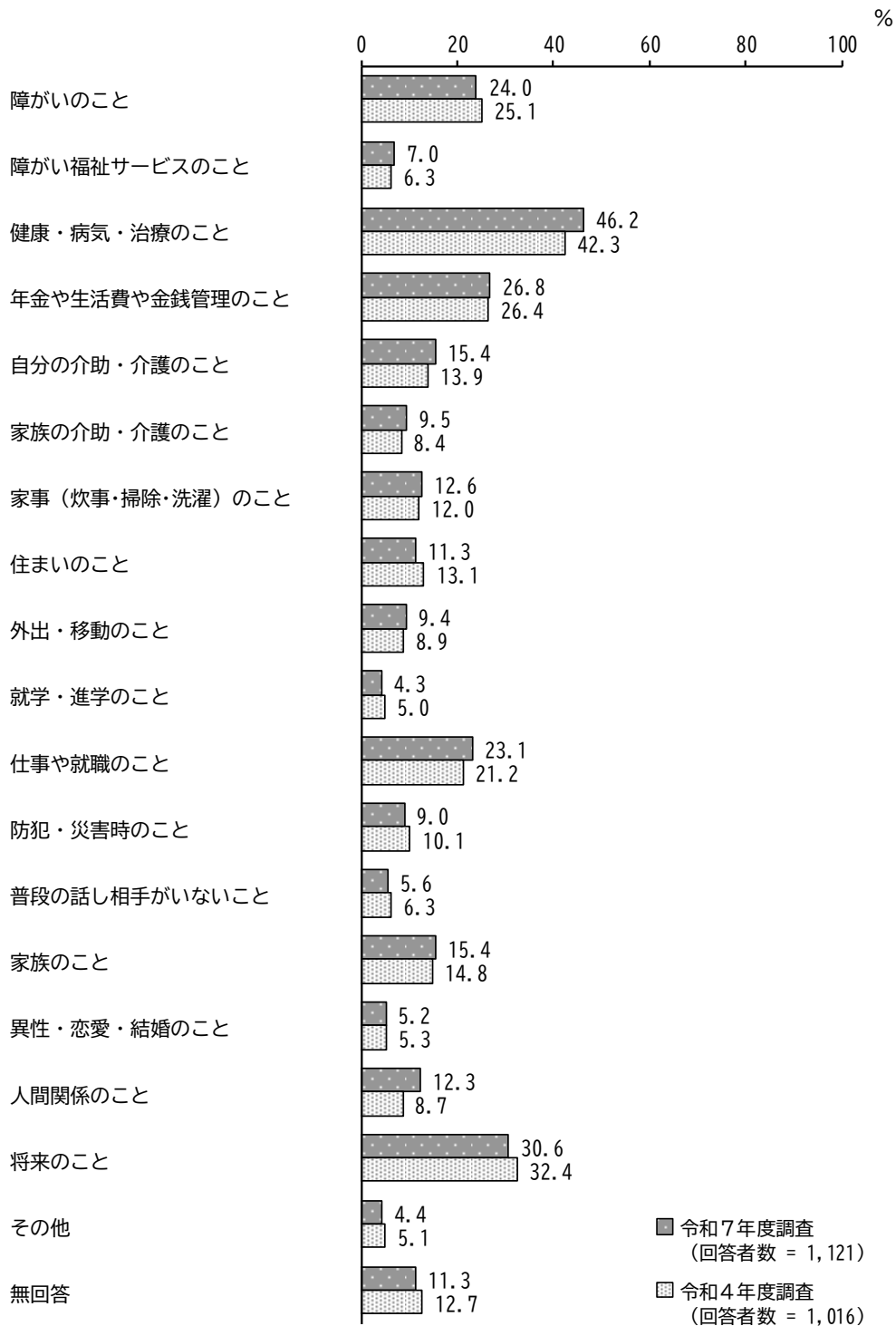


問21で「1. いる」または「2. いない」と答えた方におたずねします。

問21-3 現在、あなたの悩んでいることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「健康・病気・治療のこと」の割合が46.2%と最も高く、次いで「将来のこと」の割合が30.6%、「年金や生活費や金銭管理のこと」の割合が26.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

18歳未満で「就学・進学のこと」、18～40歳未満で「仕事や就職のこと」、40～65歳未満、65歳以上で「健康・病気・治療のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障がいのこと	障がい福祉サービスのこと	健康・病気・治療のこと	年金や生活費や金銭管理のこと	自分の介助・介護のこと	家族の介助・介護のこと	家事(炊事・掃除・洗濯)のこと	住まいのこと	外出・移動のこと
全体	1,121	24.0	7.0	46.2	26.8	15.4	9.5	12.6	11.3	9.4
18歳未満	78	14.1	11.5	16.7	7.7	7.7	2.6	1.3	2.6	10.3
18～40歳未満	246	34.1	13.0	35.0	43.1	10.2	5.3	15.0	14.6	11.4
40～65歳未満	325	26.2	4.9	52.0	33.5	12.9	12.3	12.9	16.0	6.5
65歳以上	461	18.9	4.8	52.7	16.7	21.5	10.8	13.0	8.0	10.4

区分	就学・進学のこと	仕事や就職のこと	防犯・災害時のこと	普段の話し相手がないこと	家族のこと	異性・恋愛・結婚のこと	人間関係のこと	将来のこと	その他	無回答
全体	4.3	23.1	9.0	5.6	15.4	5.2	12.3	30.6	4.4	11.3
18歳未満	46.2	30.8	2.6	2.6	6.4	3.8	25.6	32.1	3.8	10.3
18～40歳未満	4.1	48.4	9.8	11.0	16.7	13.8	22.4	48.4	4.5	8.1
40～65歳未満	0.6	32.9	7.7	6.5	21.5	6.5	14.2	35.7	5.8	3.4
65歳以上	0.0	1.7	10.6	2.4	12.1	0.0	3.7	17.6	3.5	18.4

【障がい種別】

身体障害者手帳、難病（特定疾患）の認定で「健康・病気・治療のこと」、療育手帳で「将来のこと」、精神障害者保健福祉手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「仕事や就職のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

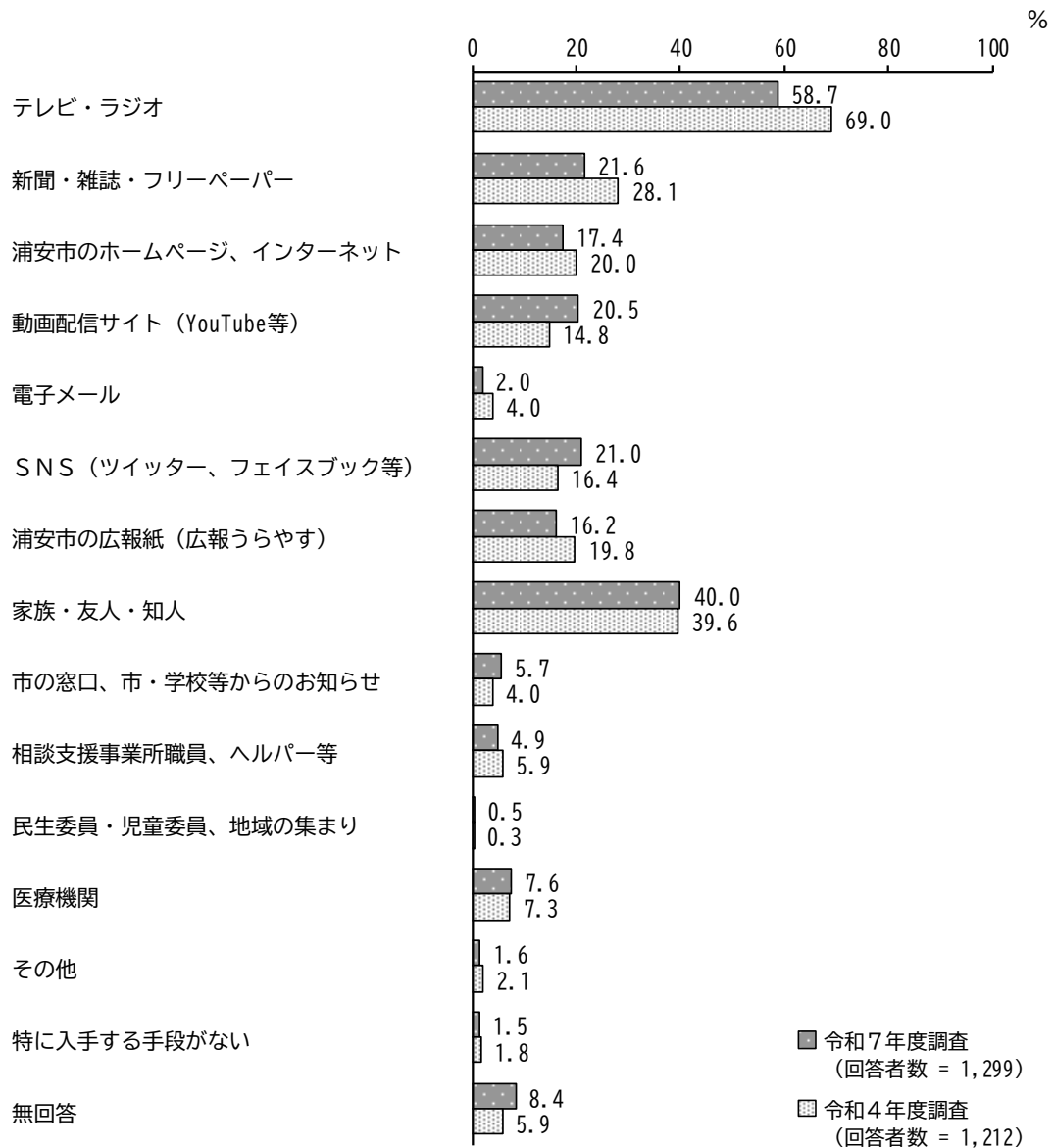
区分	回答者数(件)	障がいのこと	障がい福祉サービスのこと	健康・病気・治療のこと	年金や生活費や金銭管理のこと	自分の介助・介護のこと	家族の介助・介護のこと	家事(炊事・掃除・洗濯)のこと	住まうのこと	外出・移動のこと
全体	1,121	24.0	7.0	46.2	26.8	15.4	9.5	12.6	11.3	9.4
身体障害者手帳	546	25.5	7.1	49.3	21.4	19.2	10.1	12.3	11.4	10.6
療育手帳	161	18.6	11.8	19.9	24.2	6.8	1.2	6.2	5.6	9.9
精神障害者保健福祉手帳	265	41.1	9.1	48.3	48.7	9.4	10.6	19.6	16.2	9.1
難病（特定疾患）の認定	255	12.2	3.9	58.4	23.1	20.4	12.9	10.2	9.4	9.8
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	60	46.7	16.7	41.7	43.3	5.0	6.7	13.3	16.7	8.3
その他	17	41.2	23.5	52.9	47.1	11.8	17.6	17.6	23.5	17.6

区分	就学・進学のこと	仕事や就職のこと	防犯・災害時のこと	普段の話し相手がないこと	家族のこと	異性・恋愛・結婚のこと	人間関係のこと	将来のこと	その他	無回答
全体	4.3	23.1	9.0	5.6	15.4	5.2	12.3	30.6	4.4	11.3
身体障害者手帳	1.5	11.2	9.9	4.2	13.6	2.7	9.2	23.4	4.2	14.5
療育手帳	11.2	26.1	8.7	6.2	6.2	5.6	18.0	34.8	5.6	13.7
精神障害者保健福祉手帳	7.2	51.3	8.3	13.2	23.8	13.2	23.4	46.0	3.0	3.8
難病（特定疾患）の認定	1.2	18.8	10.2	3.5	20.0	3.5	8.6	30.6	5.1	9.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	16.7	65.0	5.0	11.7	18.3	15.0	26.7	50.0	1.7	5.0
その他	23.5	23.5	17.6	11.8	29.4	5.9	17.6	23.5	5.9	11.8

問 22 普段、情報はどのように収集していますか。(主なもの3つまでに○)

「テレビ・ラジオ」の割合が 58.7%と最も高く、次いで「家族・友人・知人」の割合が 40.0%、「新聞・雑誌・フリーペーパー」の割合が 21.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「動画配信サイト (YouTube 等)」の割合が増加しています。一方、「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌・フリーペーパー」の割合が減少しています。



【年齢別】

18歳未満で「家族・友人・知人」、18～40歳未満で「SNS（ツイッター、フェイスブック等）」、40～65歳未満、65歳以上で「テレビ・ラジオ」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌・フリー ペーパー	浦安市のホームペ ージ、インターネッ ト	動画配信サイ ト (YouTube等)	電子メール	SNS(ツイッ タ、フェイスブッ ク 等)	浦安市の広報紙(広 報うらやす)
全 体	1,299	58.7	21.6	17.4	20.5	2.0	21.0	16.2
18歳未満	93	21.5	2.2	16.1	31.2	0.0	28.0	5.4
18～40歳未満	274	43.4	5.5	21.5	40.5	2.2	45.6	5.8
40～65歳未満	376	58.5	15.2	27.4	22.9	2.1	27.1	13.3
65歳以上	541	73.2	38.3	9.1	7.2	2.2	3.5	25.5

区分	家族・友人・知人	市の窓口、市・学校 等からのお知らせ	相談支援事業所職 員、ヘルパー等	民生委員・児童委 員、地域の集まり	医療機 関	その他	特に入手する手段 がない	無回 答
全 体	40.0	5.7	4.9	0.5	7.6	1.6	1.5	8.4
18歳未満	61.3	32.3	15.1	3.2	3.2	1.1	3.2	4.3
18～40歳未満	37.6	6.2	8.4	0.0	6.6	2.2	2.2	4.7
40～65歳未満	34.0	3.2	3.2	0.3	10.1	1.6	1.9	4.5
65歳以上	42.0	2.8	2.8	0.4	7.4	1.3	0.7	12.8

【障がい種別】

身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、難病（特定疾患）の認定で「テレビ・ラジオ」、療育手帳で「家族・友人・知人」、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「SNS（ツイッター、フェイスブック等）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌・フリーペーパー	浦安市のホームページ、インターネット	動画配信サイト（YouTube等）	電子メール	SNS（ツイッター、フェイスブック等）	浦安市の広報紙（広報うらやす）
全体	1,299	58.7	21.6	17.4	20.5	2.0	21.0	16.2
身体障害者手帳	651	66.5	29.6	13.2	12.1	2.5	10.8	20.3
療育手帳	187	40.1	9.1	16.6	28.9	0.5	18.7	5.9
精神障害者保健福祉手帳	284	44.7	9.5	20.4	36.6	2.1	42.3	9.9
難病（特定疾病）の認定	286	65.4	22.7	21.3	19.2	2.1	23.4	19.6
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	64	40.6	7.8	15.6	45.3	4.7	51.6	4.7
その他	19	57.9	10.5	15.8	10.5	0.0	26.3	5.3

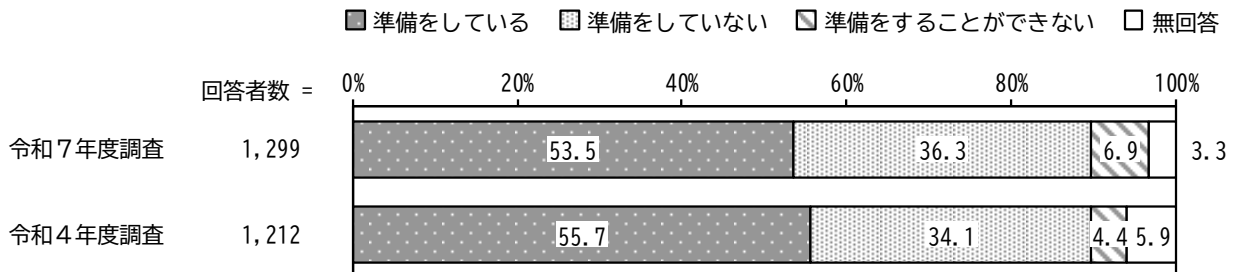
区分	家族・友人・知人	市の窓口、市・学校等からのお知らせ	ヘルパー等	相談支援事業所職員、	民生委員・児童委員、地域の集まり	医療機関	その他	特に入手する手段がない	無回答
全体	40.0	5.7	4.9	0.5	7.6	1.6	1.5	8.4	
身体障害者手帳	39.9	4.1	3.7	0.6	8.1	1.4	1.1	10.9	
療育手帳	48.7	16.0	19.3	1.1	2.1	1.6	3.7	7.0	
精神障害者保健福祉手帳	35.6	6.0	2.5	0.0	7.4	2.5	2.1	6.3	
難病（特定疾病）の認定	40.2	2.8	2.8	0.0	10.8	1.7	0.3	6.3	
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	35.9	7.8	7.8	0.0	6.3	4.7	0.0	7.8	
その他	42.1	10.5	5.3	0.0	10.5	5.3	0.0	5.3	

## (8) 災害時の備えについて

### 問 23 災害（地震や水害等）に備えて準備をしていますか。（1つに○）

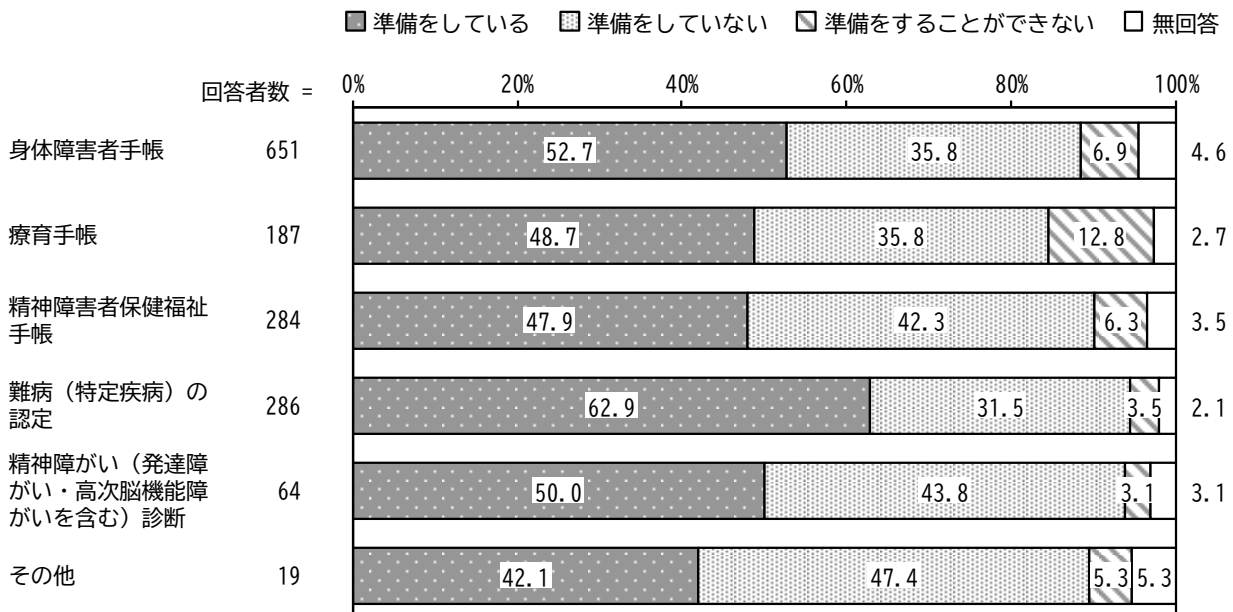
「準備をしている」の割合が53.5%、「準備をしていない」の割合が36.3%、「準備をすることができない」の割合が6.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



#### 【障がい種別】

障がい種別にて、他の障がい種別と比較すると、療育手帳で「準備をすることができない」、難病（特定疾病）の認定で「準備をしている」の割合が高くなっています。

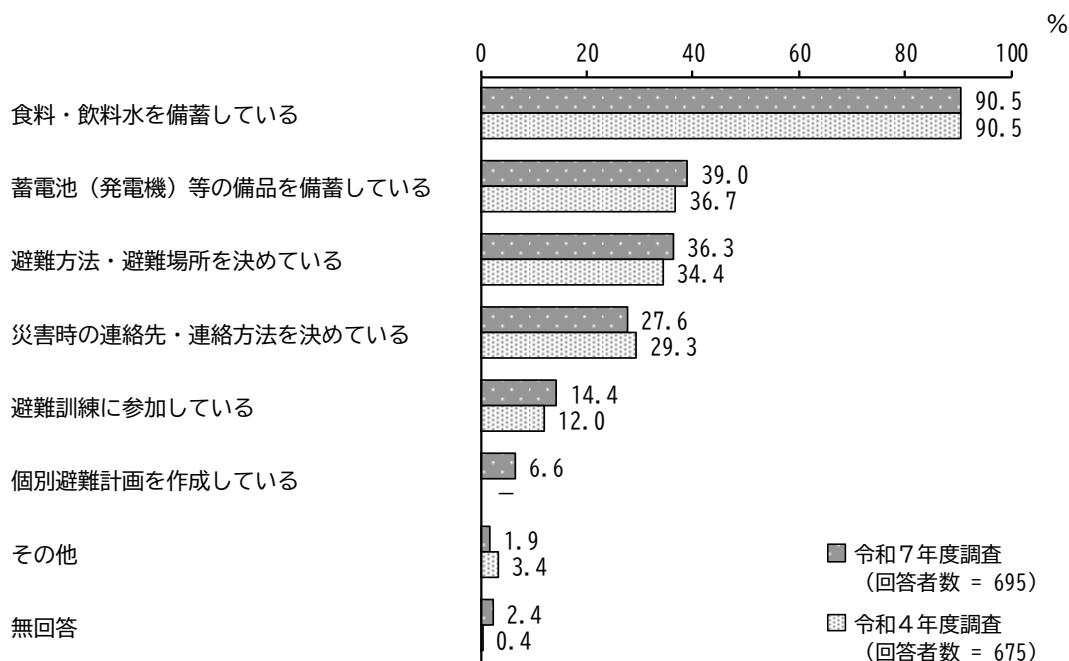


問 23 で「1. 準備をしている」と答えた方におたずねします。

問 23-1 具体的に準備をしていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「食料・飲料水を備蓄している」の割合が 90.5%と最も高く、次いで「蓄電池（発電機）等の備品を備蓄している」の割合が 39.0%、「避難方法・避難場所を決めている」の割合が 36.3%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※令和 4 年度調査では、「個別避難計画を作成している」の選択肢はありませんでした。

【年齢別】

すべてにおいて「食料・飲料水を備蓄している」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	食料・飲料水を備蓄している	蓄電池（発電機）等の備品を備蓄している	避難方法・避難場所を決めている	災害時の連絡先・連絡方法を決めている	避難訓練に参加している	個別避難計画を作成している	その他	無回答
全体	695	90.5	39.0	36.3	27.6	14.4	6.6	1.9	2.4
18歳未満	57	94.7	42.1	33.3	21.1	15.8	5.3	1.8	0.0
18～40歳未満	146	91.1	35.6	36.3	21.2	11.0	4.1	1.4	0.0
40～65歳未満	200	93.0	34.0	33.0	27.0	11.5	4.5	2.0	2.0
65歳以上	288	87.5	43.8	39.6	32.6	18.1	9.7	2.1	4.5

【障がい種別】

すべてにおいて「食料・飲料水を備蓄している」の割合が高くなっています。

単位：％

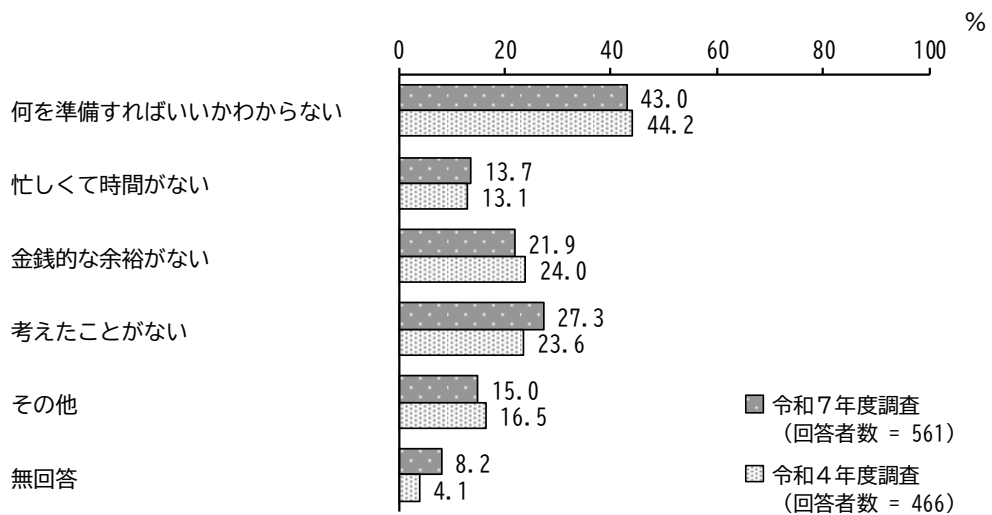
区分	回答者数(件)	食料・飲料水を備蓄している	蓄電池(発電機)等の備品を備蓄している	避難方法・避難場所を決めている	災害時の連絡先・連絡方法を決めている	避難訓練に参加している	個別避難計画を作成している	その他	無回答
全体	695	90.5	39.0	36.3	27.6	14.4	6.6	1.9	2.4
身体障害者手帳	343	86.9	43.7	39.7	31.5	18.1	11.1	2.0	4.7
療育手帳	91	93.4	29.7	30.8	20.9	17.6	6.6	3.3	0.0
精神障害者保健福祉手帳	136	92.6	34.6	33.8	20.6	5.1	0.7	1.5	0.0
難病(特定疾病)の認定	180	96.1	41.1	35.6	29.4	13.3	4.4	2.8	0.6
精神障がい(発達障がい・高次脳機能障がいを含む)診断	32	90.6	37.5	31.3	25.0	9.4	0.0	3.1	0.0
その他	8	100.0	25.0	62.5	50.0	37.5	0.0	0.0	0.0

問23で「2. 準備をしていない」または「3. 準備をすることができない」と答えた方におたずねします。

問23-2 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「何を準備すればいいかわからない」の割合が43.0%と最も高く、次いで「考えたことがない」の割合が27.3%、「金銭的な余裕がない」の割合が21.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

すべてにおいて「何を準備すればいいかわからない」の割合が高くなっています。また、他の障がい種別と比較すると、療育手帳で「考えたことがない」の割合が高くなっています。

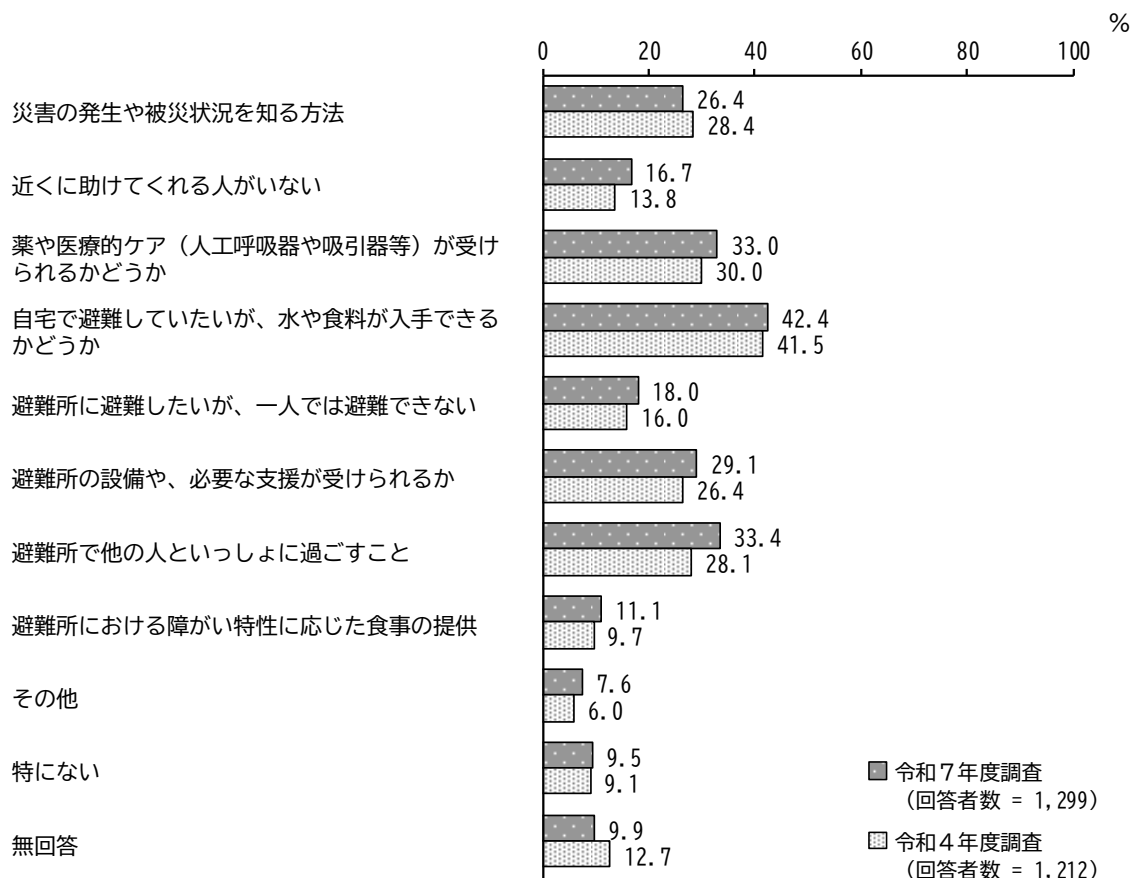
単位：％

区分	回答者数(件)	何を準備すればいいかわからない	忙しくて時間がな	い金銭的な余裕がな	考えたことがない	その他	無回答
全 体	561	43.0	13.7	21.9	27.3	15.0	8.2
身体障害者手帳	278	39.6	13.7	17.6	24.8	18.0	12.9
療育手帳	91	49.5	14.3	14.3	41.8	12.1	4.4
精神障害者保健福祉手帳	138	47.1	13.8	42.0	30.4	10.1	1.4
難病（特定疾病）の認定	100	43.0	16.0	21.0	23.0	15.0	5.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	30	50.0	23.3	26.7	23.3	13.3	3.3
その他	10	30.0	0.0	30.0	20.0	30.0	20.0

問 24 災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。  
（あてはまるものすべてに○）

「自宅で避難していたいが、水や食料が入手できるかどうか」の割合が 42.4%と最も高く、次いで「避難所で他の人といっしょに過ごすこと」の割合が 33.4%、「薬や医療的ケア（人工呼吸器や吸引器等）が受けられるかどうか」の割合が 33.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「避難所で他の人といっしょに過ごすこと」の割合が増加しています。



【障がい種別】

身体障害者手帳、難病（特定疾患）の認定、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「自宅で避難していたいが、水や食料が入手できるかどうか」、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳で「避難所で他の人といっしょに過ごすこと」の割合が高くなっています。

単位：％

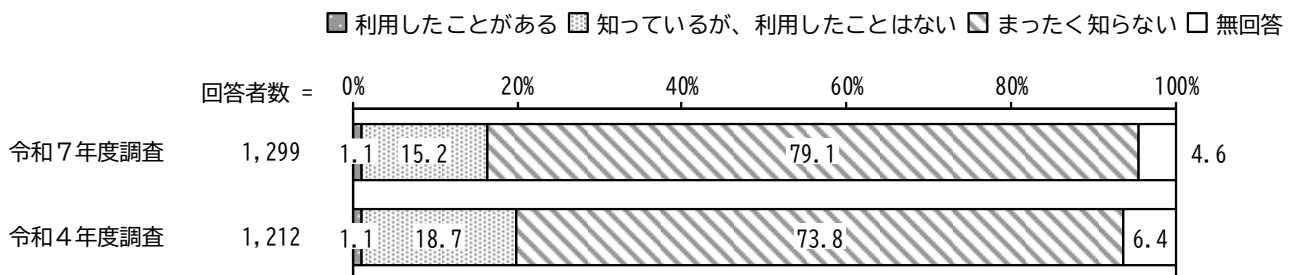
区分	回答者数（件）	災害の発生や被災状況を知る方法	近くに助けてくれる人がいない	薬や医療的ケア（人工呼吸器や吸引器等）が受けられるかどうか	自宅で避難していたいが、水や食料が入手できるかどうか	避難所に避難したいが、一人では避難できない	避難所の設備や、必要な支援が受けられるか	避難所で他の人といっしょに過ごすこと	避難所における障がい特性に応じた食事の提供	その他	特になし	無回答
全体	1,299	26.4	16.7	33.0	42.4	18.0	29.1	33.4	11.1	7.6	9.5	9.9
身体障害者手帳	651	23.8	18.0	34.1	41.5	19.7	29.6	25.2	13.1	7.7	9.7	12.9
療育手帳	187	27.8	17.1	19.3	40.1	33.2	37.4	55.6	20.9	8.6	9.1	4.3
精神障害者保健福祉手帳	284	27.5	20.4	32.4	44.7	12.3	26.1	47.9	8.5	9.9	10.6	7.0
難病（特定疾患）の認定	286	31.1	14.3	46.2	47.2	15.0	31.5	26.9	9.4	7.0	8.0	7.7
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	64	31.3	21.9	34.4	46.9	12.5	25.0	39.1	10.9	9.4	15.6	1.6
その他	19	26.3	26.3	47.4	47.4	10.5	21.1	26.3	15.8	10.5	10.5	10.5

## (9) 障がい者差別に関する法律及び条例について

問 25 浦安市では、障がい者虐待や障がいを理由とする差別に関する相談や通報を受けるため「障がい者権利擁護センター」を設置していますが、あなたは、「障がい者権利擁護センター」について知っていたり、利用したことがありますか。(1つに○)

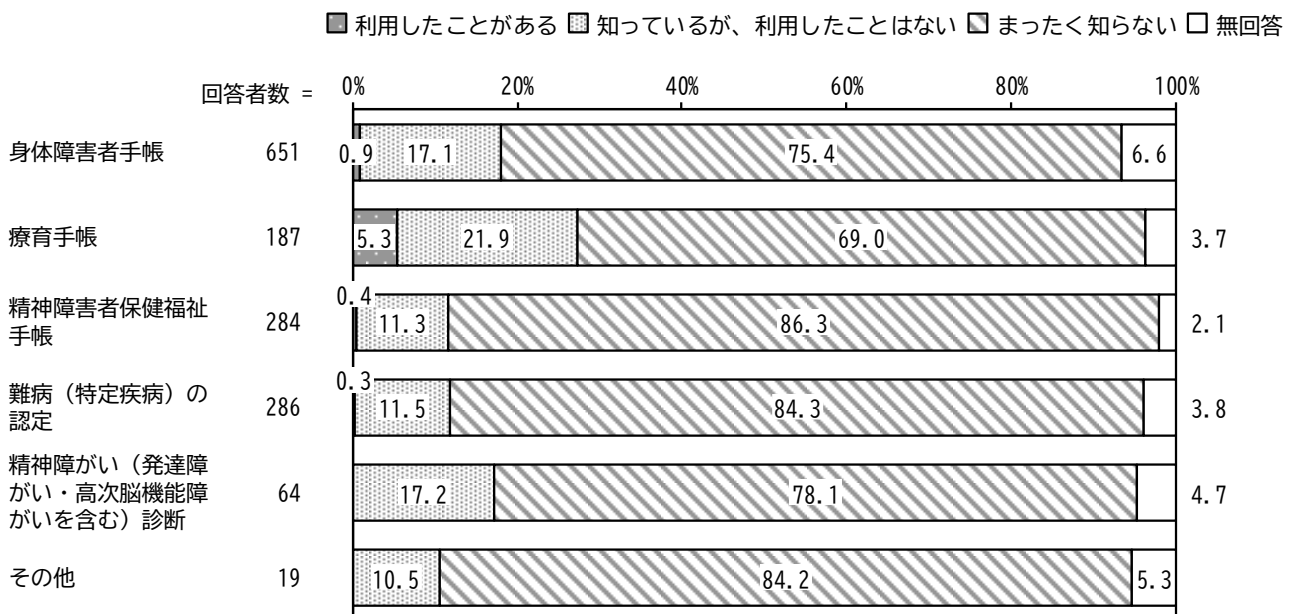
「利用したことがある」の割合が 1.1%、「知っているが、利用したことはない」の割合が 15.2%、「まったく知らない」の割合が 79.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「まったく知らない」の割合が増加しています。



### 【障がい種別】

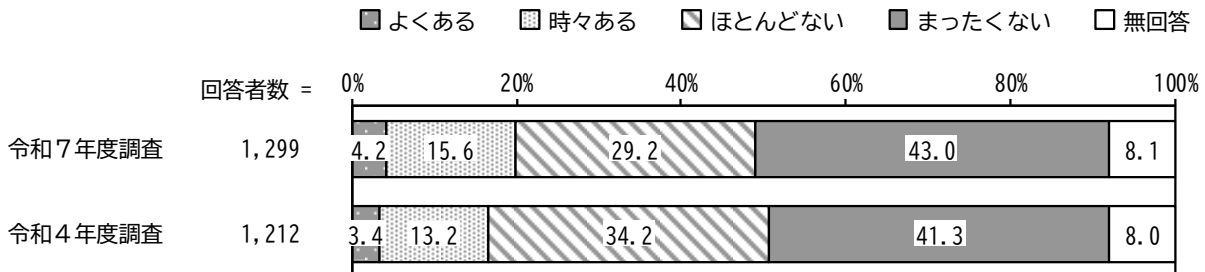
障がい種別にみて、他の障がい種別と比較すると、身体障害者手帳、療育手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「知っているが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



問 26 あなたは過去3年間に障がいがあるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(1つに○)

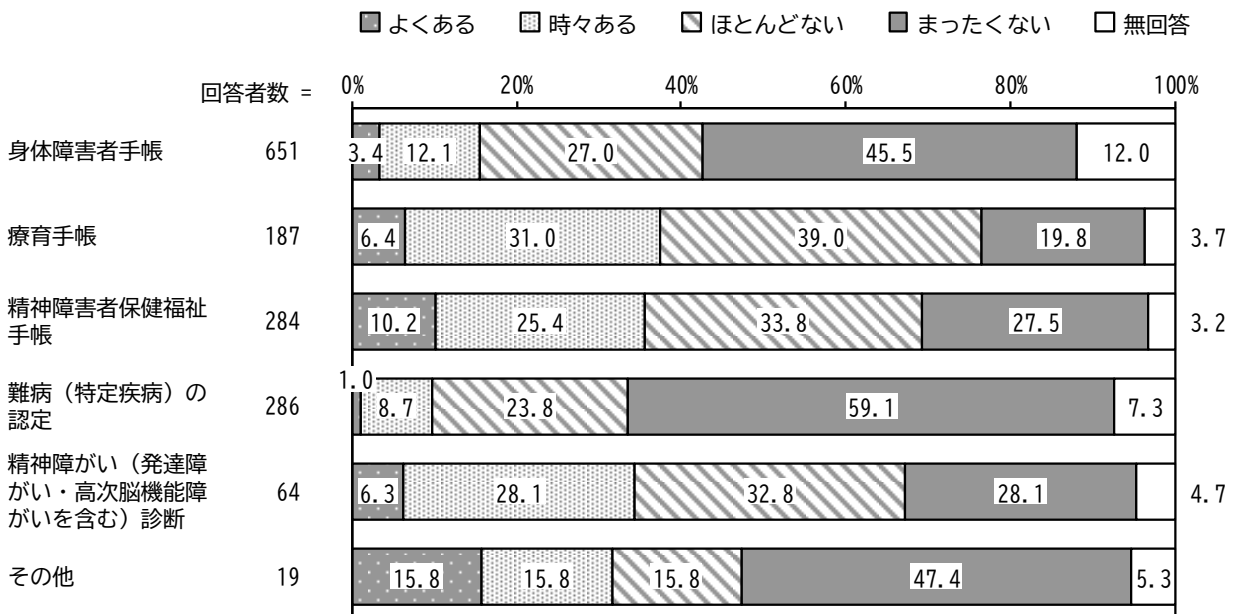
「よくある」「時々ある」を合わせた“ある”の割合が19.8%、「ほとんどない」「まったくない」を合わせた“ない”の割合が72.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「よくある」「時々ある」を合わせた“ある”の割合が高くなっています。

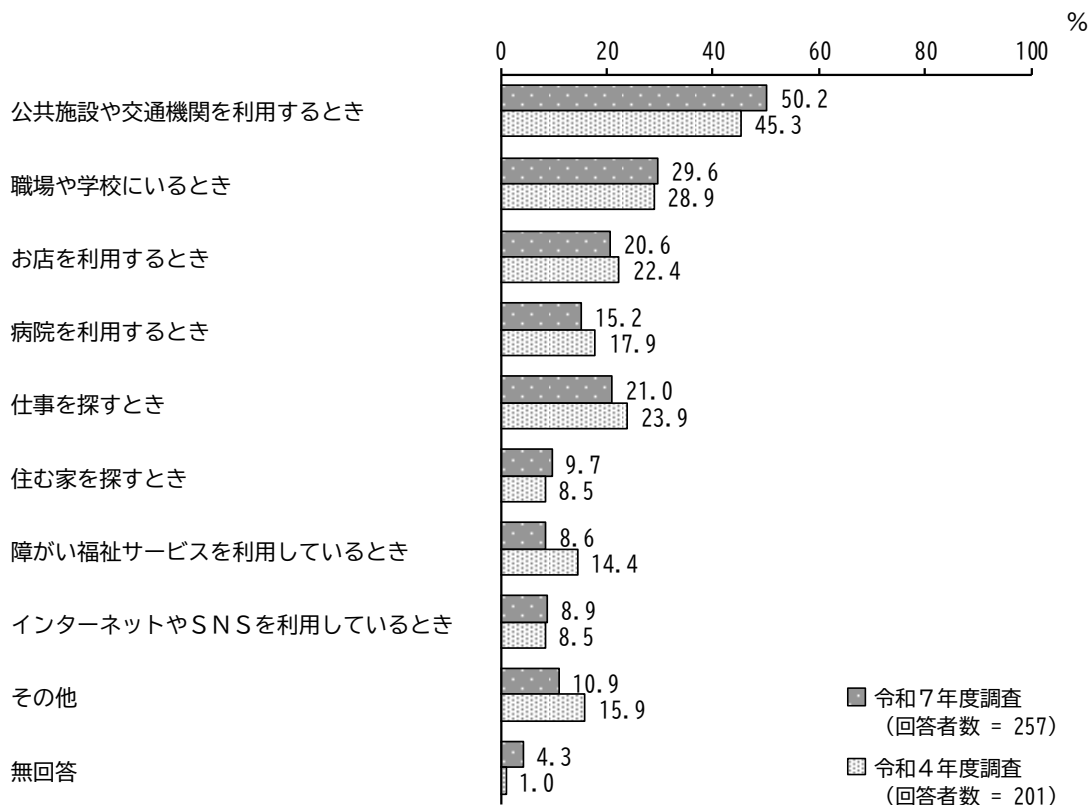


問26で「1. よくある」と「2. 時々ある」と答えた方におたずねします。

問26-1 あなたは、どのようなときに、障がいがあるために差別を受けたり、いやな思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

「公共施設や交通機関を利用するとき」の割合が50.2%と最も高く、次いで「職場や学校にいるとき」の割合が29.6%、「仕事を探すとき」の割合が21.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「障がい福祉サービスを利用しているとき」の割合が減少しています。



【障がい種別】

身体障害者手帳、療育手帳、難病（特定疾病）の認定で「公共施設や交通機関を利用するとき」、精神障害者保健福祉手帳、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断で「職場や学校にいるとき」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	公共施設や交通機関を利用するとき	職場や学校にいるとき	お店を利用するとき	病院を利用するとき	仕事を探すとき	住む家を探すとき	障がい福祉サービスを利用しているとき	Sを利用しているとき	その他	無回答
全体	257	50.2	29.6	20.6	15.2	21.0	9.7	8.6	8.9	10.9	4.3
身体障害者手帳	101	61.4	16.8	25.7	20.8	15.8	11.9	9.9	5.9	13.9	5.0
療育手帳	70	50.0	32.9	32.9	21.4	17.1	7.1	12.9	10.0	4.3	5.7
精神障害者保健福祉手帳	101	42.6	44.6	12.9	6.9	30.7	14.9	6.9	14.9	11.9	2.0
難病（特定疾病）の認定	28	60.7	14.3	21.4	17.9	21.4	0.0	3.6	3.6	7.1	7.1
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断	22	36.4	54.5	9.1	4.5	18.2	4.5	13.6	27.3	22.7	0.0
その他	6	66.7	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0	33.3	0.0

問 27 ご意見やご要望、生活の中で困っていることや悩んでいること等、市に伝えたいことがありましたら、ご自由にお書きください。

ご意見やご要望、生活の中で困っていることや悩んでいること等、市に伝えたいことについては、358 名の方から回答がありました。内容ごとに分類した結果を以下に示します。

なお、お一人の回答者が複数のご意見を述べられた場合は、それぞれで集計したため、累計回答数は 545 件となり、回答者数より多くなっています。

項目	件数
1. 困り事・不安	134
2. 制度・サービス等について	33
3. 福祉施設について	47
4. 環境について	28
5. ご要望	103
6. 手続きについて	33
7. 感謝・奨励	47
8. 公共交通機関について	41
9. 学校教育について	12
10. アンケートについて	9
11. 医療機関について	37
12. その他	21
合計	545

頂いたご意見を項目ごとに整理して、主な意見を以下に示します。

## 1. 困り事・不安 (134 件)

- ・障害の3級でも医療費を免除してもらいたいです。毎月、病院代、薬代が高くて生活が苦しい。
- ・生活の中で困っているという点では、近隣公園（東野北街区公園）の夜間騒音は、私の生活に大きな影響を与えています。特に夜間の安眠が妨げられることで、心身の不調につながり、日中の活動にも支障が出ています。みどり公園課に相談メールを何回も出し、色々と改善策の提案をしましたが、対応するのは困難との事。また、みどり公園課からは、「自治会に問題提起してください。市から主導的に関与する事はしない。警察への巡回要請をした（実施は他業務もある為、不定期）影響が深刻な場合は直接、警察に連絡してください。公園内に看板を立てた。小さくて目立たない看板。」を伝えられましたが、根本的な解決にはなっておりません。最近は寒いので、夜間騒音の件数は減っていますが、暖かくなり、夜間騒音が増えると思うと、今から不安です。
- ・将来一人暮らしになった時、施設に入りたいと思っています。浦安市では特養は介護認定が高い順で入るのは難しい。グループホーム等は月に 25 万円位と聞きました。年金+貯金で月々支払えるのか不安です。月々15万円位で入れる事、必要になった時にすぐに入れる施設があると安心です。
- ・電車やバスのような交通手段は、「他人と間近かつ、狭い空間のため」動悸が起きてしまい、苦しくなってしまうため、全く利用ができません。自家用車しか使用できないため、ガソリン代が多くかかってしまい、負担になっていますので、助成が増えると大変助かります…。

- ・今は両親が元気（55才）なのだが、将来病気になって、僕のお世話が出来なくなったらどうしようと不安、心配です。僕は1人で自立してグループホーム等で生活することは出来ないの心配です。

## 2. 制度・サービス等について（33件）

- ・障害を持っている家族を移送するためにサポートカー購入の助成があると助かります。
- ・病院代と薬代がもうちょっと安くなって欲しい。
- ・再就職と自分の状況（障害＋難病）についての相談で市役所（障害福祉課）を訪れた際、適切なアドバイスをうかがえず、障害福祉ガイドだけ渡されて帰宅しました。以後、まだ再就職できず今にいたります。
- ・夏から年金がわずかに増額したため、月7000円の助成額がうち切りになるという不思議な現状に首をかしげています。増額を相殺して逆に負担が増えるというのは、本末転倒ではないでしょうか？
- ・子供は現在15歳となりますが、幼少期の検診制度の見直しを希望致します。診断が下りる前はナーバスになっている方が多いので、子供の発達に不安のある方は別の日程、時間帯に検診の枠を設定していただくと母親の負担が減ると思います。

## 3. 福祉施設について（47件）

- ・体調を崩しやすく、その日の体調に応じて勤務時間が調整できるアルバイトをするしかない。短時間勤務の障害者雇用で通いやすい企業があれば応募したいが、障害者雇用は都心の大企業で行われている場合が多く、体力的に長時間の通勤が難しい。浦安は東西線も京葉線も通勤ラッシュがとても混んでいるので、持病があり、疲れやすく弱っている中で1時間ほどかけて通勤することは困難だと感じる。たとえ障害者雇用により勤務時間や業務内容を配慮してもらったとしても、通勤時間で疲労が溜まり、体調を崩してしまう原因となることが考えられる。もし浦安市内の駅から3～4駅の範囲で障害者雇用を行っている企業がある場合は、手紙を家に郵送したり、病院にパンフレットを置くなど情報を広めて欲しい。
- ・今現在、生活介護事業者を学校を通じて探していますが、学校側の進路担当が毎年のように代わるため、情報量や仕組みをよく知らない上に、浦安市の障がい事業課も新設の部署のためか、職員の力量のバラツキが大きく、間違った情報などによって、これまで積み上げてきた実習や進路プランが根底から覆されたりしているのが実情で、来年4月からの進路先が全く白紙状態で非常に不安であることは勿論ですが、学校側も相談支援員も保護者も困惑しています。情報発信する市役所側が間違った情報を出さないのは勿論ですが、素早く、的確に情報を提供できるように職員のレベルアップやマニュアルの整備、ルール化などをしっかりして貰えると安心です。
- ・施設の費用が高く、いつまで入所できるか不安。
- ・親亡き後の生活支援の場を広げてほしい（グループホーム等）。最近市内のグループホームを見学させていただきましたが築年数のたったアパートで職員が睡眠とれる場所は、台所や（個室は無理でもつい立てぐらいなものか）入居者もですが職員の働く環境も大切かと思えます。ユニットバスもバスタブがめくれ上って修理は出来ないとの事でしたが、建物だけ良くて職員が質が悪ければ入居させられませんが清潔な環境は望みたいです。
- ・親亡き後、グループホームでは難しい。重度の知的障害者が入れる施設が市内になく、日中働いたり過ごせる場所と施設が市内にできてほしい。

#### 4. 環境について (28 件)

- ・歩道がガタガタしていて車椅子で走行しにくい(車道の方が通りやすかったりする)。歩道と道路の境目がV字になっていて危険なところが多い。
- ・企業によって、積極的に、社会的弱者、障がい者目線で、取り組んでいる企業とそうでない企業での差が大きい。先日大手ハンバーガー会社が、狭い公道にドライブスルーを作ることで、地域住民と対立していたが、社会的弱者が交通事故にあっているにもかかわらず、法整備が遅れていたために、中途半端な結論で、建設に突き進んでいる。環境変化に対応した障害のある人もない人も安心安全な暮らしができるまちづくりを推進してほしい。
- ・老々介護、ご家庭を見まもる具体的・実地的な、方法、手段、環境も、浦安市として、どうして行くのかのビジョン等。なければ、衆知して欲しい。(あればですが、知らない事の方が多いと考えています。)
- ・市役所に行くバスがなさすぎて不便。新浦安駅から舞浜に行く時のバスの駐車場の足元が昇降口から高さがありすぎて怖い。
- ・外国人が増えているので治安など不安です。あまり住まわせないでほしい。

#### 5. ご要望 (103 件)

- ・市営住宅か県営住宅を7年間も申し込んでいますが、当たらずに一緒に暮らしている姉は75才、今パートで働いていますが、腰が痛くてガマンして働いています。どちらかの住宅に入居できれば、本当に助かります。なんとかなりませんか？
- ・親亡き後の生活支援の場を広げてほしい(グループホーム等)。最近市内のグループホームを見学させていただきましたが、築年数のたったアパートで職員が睡眠とれる場所は、台所(個室は無理でもつい立てぐらいなものか。入居者もですが職員の働く環境も大切かと思えます。ユニットバスもバスタブがめくれ上って修理は出来ないとの事でしたが、建物だけ良くて職員が質が悪ければ入居させられませんが清潔な環境は望みたいです。
- ・物価高で生活が苦しいが、あらゆる税金によってさらに苦しくなる一方。家賃や光熱費に障害者割引を義務づける制度をもうけて欲しい。生活必需品等に利用できるクーポンや現金等のサポートがあると助かります。特に生理用品は高額です。金銭面における援助が必要です。
- ・障がいを持った一人暮らしの方はなかなか申請等、難しい事があるかと思えます。その方々の支援を求めます。日頃感じる事は行政の手続きが難解な事。申請しないと(知らない)支給されない事。スムーズなサービスを受けられると良いです。
- ・浦安は選択肢が足りない。就労A、Bもグループホームにしてもです。支援者常駐で生活援助やレクリエーションのある施設もなく市川市にまで行かざるをえない。在宅以上入院未満のような人の行き場が少なすぎる。よろしくをお願いします。

#### 6. 手続きについて (33 件)

- ・色々な制度を整えていただき、とてもありがたいのですが、日々の生活の中で定型発達の子供たちにとっての「当たり前」「スタートライン」に立つまでの労力がとても大きく、サービス利用の手続きのための調べものなどが負担になって力尽きてしまうことが多いです。
- ・障害者手帳や自立支援の受給者票の更新期限が近付いたとき、更新の案内の通知を入れてほしい。スマホなどの電子メールは登録すれば出来るようになる事は少し前に知ったが、ハガキからの通知をも入れてほしい。
- ・障害のため仕事を辞めて健康保険や年金の変更手続きを行ったが、市民税、所得税、などの減免情報

や手続きの案内が不足している。健康保険も国保にした際に自立支援医療の変更も案内してくれれば手続きが一度で終わったのに教えてもらえず病院で指摘された。市役所に電話したら、病院に行けるなら市役所に来て手続きするよう言われ郵送してくれなかった。毎日体調が不安定なのでつらかった。

- ・精神疾患で外見から障害者であることがわかりにくいため市役所の窓口で説明する時にうまく話せずあせってしまいます。(係の方は落ちついて対応してくれますが…)できるだけ、市役所まで行かずに手続きができるとありがたいです。人それぞれ違う内容・レベルでかかえている「生活や社会への障害」に対応するのはとても難しく、大変なことだろうと思います。(しかも、日々変化していきますね…)心から感謝しております。これからもよろしくお願いいたします。
- ・書類の準備をされていて、千葉県あて？浦安市あて？がわからなくなる時があります。マイナンバーでどこまでつながっているのでしょうか。

## 7. 感謝・奨励 (47件)

- ・医療支援と生活保護、本当にありがとうございます。感謝してもしきれないほど助かっております。鬱の回復がなかなか上手く行かず焦りがありますが、とにかく今は甘えさせていただくことで気持ちが良い方に向いていると思います。まだまだお世話になるかもしれないのが心苦しいのですが、何卒よろしくお願いいたします。
- ・ガイドブックの配送が、中がわからないようにされていて有り難かったです。
- ・ガイドブックや各種ご案内等をいただきありがとうございます。私自身は、浦安市のサービスに特段不満はございません。ただ将来のことを考えると、住居のことは心配ですので、サポートがあればありがたいです。
- ・いつも手厚いサポートありがとうございます。私は金銭管理が苦手でよく家計が逼迫してしまうので、交通費助成金など金銭的サポートがあるのはとても助かります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・浦安市障がい福祉課の方々にはいつも心身にやさしく対応して下さっているので常々感謝しております。先々に不安事が生じてきたとしても温かく相談に乗って下さると思っているので不安は感じておりません。自身の体力面のみが不安ではあります。

## 8. 公共交通機関について (41件)

- ・バスに乗って運転手の方へ障害手帳を見せて割引してもらう時、いやな顔をされたり、何かいやなことばを発して、割引のところを打たされる。たびたびある。
- ・車イスを介助してもらい、公共のバスに乗ろうと待っていたが事情は分からないが、乗せてもらう事ができず、通りすぎた事。
- ・通院の為、公共機関を利用するが、優先席をなかなか、譲ってもらえない!疲れた振りをしている時がある。
- ・浦安駅とバス停が遠いので移動が大変なので、駅前の整備に力を入れて欲しい。
- ・タクシー乗場で待っている時、あきらかに乗車拒否と思われる行動をされる。バスも途中で乗るのは迷惑がかかるので、なるべく始発バス停で早めに並ぶようにしている…。

## 9. 学校教育について（12件）

- ・特別支援学校の小・中学部が令和9年度に開校になると思いますが、高等部の設立もご検討いただきたいです。高等部でまた県立市川に戻るのであれば、増員のために浦安地区に増設した意味がありませんのでは…と思います。
- ・高校進学について考えると、浦安市から通える特別支援学校へのアクセスが難しく、悩みの種です。
- ・特別支援学校はなぜ高校生はバス利用の希望が通りにくいのか。一人で移動出来ても言葉を発する事が苦手、一人での行動に不安を感じる子もいます。障がい年齢は関係ないと思います。そういう意見も聞いて考えていただけるとありがたいです。まず、最初に「高校生は自力で」という言葉が返ってくる、寄りそって話を聞いてほしい（全ての相談事を）。
- ・毎年、新学期の4月に「家庭調査票」「健康観察票」なるものを小学校から渡され、記入してまた学校に返却するのですが、個人情報がついているので1人1人個別に封とうにまとめて渡してほしいです。今年、自分の子供の調査票が他の子に配られ、持ち帰られてしまったため、プライバシーの件で非常に不安になりました。他の小学校でも、同じようなことがあったと聞きました。市のほうから、学校に何か対策をお願いしたいです。
- ・成長は他の子ども様におくれて小学校4年生、1年間いじめられて成長に対してはかれないほど影きょうしています。これからどうすればよく分らないです。

## 10. アンケートについて（9件）

- ・特定疾患の認定を受けてはいるが投薬にて健康な人と同等なので、この様なアンケートは私の意見は参考にならないと思いました。
- ・この度の回答、ページ数（記載してあることに関し）ずれている？読みにくくて、もう少し分かりやすくしてください。
- ・視覚障害者に対し、このようなアンケート調査は如何なものでしょうか。障害内容に準ずる方法の立案が必要ではないか。例えば、視覚障害者に対しては音声ガイダンス等…。
- ・アンケートに回答していて、選択肢が難聴者向けのものが少ないと感じました。
- ・このアンケートが、どのように今後利用されて改善されるのか疑問。内容をもっとわかりやすくしてほしい。この返信用の封筒は小さすぎ。

## 11. 医療機関について（37件）

- ・難病と診断されるまで、様々な医療機関で軽口ではすまされない暴言に近い対応をされることが多かった。医師の地域医療の連携が薄く、嫌な思いをすることがいまだにあり、浦安市の医療機関にはなるべくかかりたくないと思っている。
- ・透析のHPが浦安に1つしかない。患者にとってHPもあう、あわないがあると思う。選べることは最低限の権利につながるのでは？あわない患者は死ぬまで我慢して過ごすことになる。医者が患者に平等であるとは限らない。透析になっても生きぬく権利はある。
- ・浦安に発達外来が2カ所、順天堂と東京ベイのみで、新規も受付けていない。遠方まで行かないといけない。成人してからも（精神科）無いらしいので誘致してほしい。
- ・うつ病で不安や悩みから解放されず苦しかったとき、一番効果があったと思ったのが民間のカウンセラーの利用でした。医師の診察は十分に話せなく、近い人には相談しづらいなか、カウンセリングは自分にとってとても良い影響が多かったです。ただ日本ではまだ広がりが浅く、金額も高いため家計的には苦しかったです。浦安市にカウンセラーが少ないのも残念でした。同じように精神病で苦しむ方々のためにも、市での助成や場の提供があればなと思います。市川や新小岩までカウンセリン

グに行きました。

- ・現在、小児慢性の手帳の交付を受けていますが、適用年齢（成年後）を過ぎた後の後続の支援が無くなるのが不安です。障害者手帳の交付までは至らないが、体調不良が続く様な場合はどうしたら良いのでしょうか。

## 12. その他（21件）

- ・福祉より、自助が大事。あまり自治体が手を出さない方が良い。
- ・精神障害に関して、身体や知的障害より基準が高い所に満たないと、給付金がもらえなかったり、支援がないことがあるので、その差を無くしてほしいと思います。
- ・中学卒業後の進路が不安です。高校であれ、支援学校であれ、現時点で一人で通学するのは無理で、進学先により、自宅の転居を考えなければなりません。
- ・金銭面で物価高の影響で色々と値上げされてる中で、賃金は最低賃金レベルで時給生活。氷河期世代の40歳で、今の状態が更に税金や値上げ等で生活苦が続く見込みに、親も高齢でいつ支援が途切れてもおかしくない状況。浦安市の家賃相場はやや高いこともあり、1ヶ月の生活費は少なくとも手取りで20万以上ないと1人で生活するための1ヶ月の資金がないとやっていけないし、貯金もできないから高齢になった時の生活費も苦しい見込みがある。さらに何かしようと思っても金銭面・精神面での都合で1人では進められない。生活するための支援は急務だけど、市の制度で使えるのも限られていていつ体調を崩して収入減や路上生活といったことになるか不安が尽きない。安住などの保証といった安心材料の選択肢を早期に増やせるオプションを検討してほしい。
- ・『障がい者』という表記に、常に不快感を抱く。なぜ障害者と言えないのか？

## 2 事業所

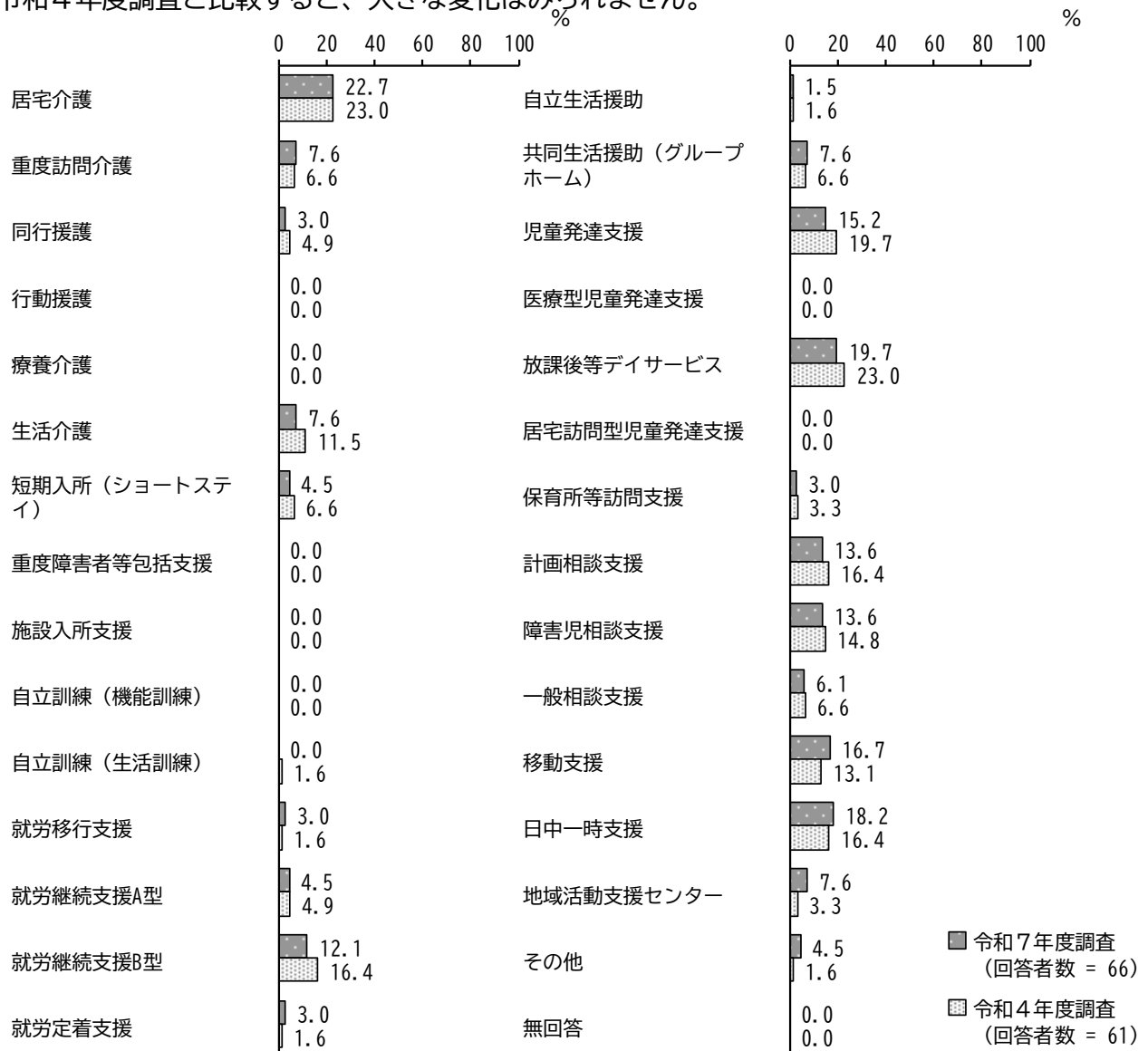
### (1) 事業所の経営状況について

問1 事業所の経営状況について、以下の質問にご回答ください。

#### A 実施

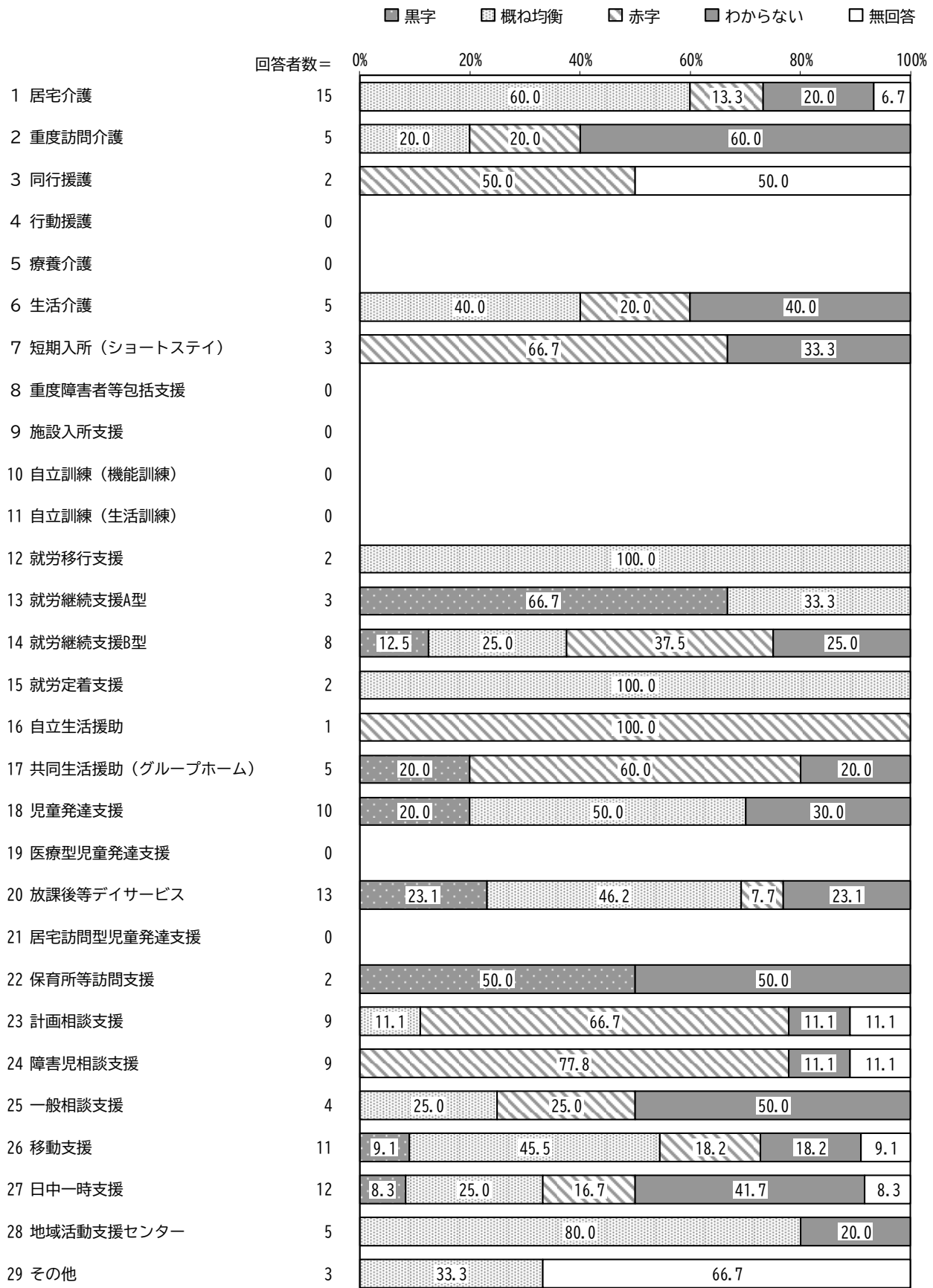
「居宅介護」の割合が22.7%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス」の割合が19.7%、「日中一時支援」の割合が18.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



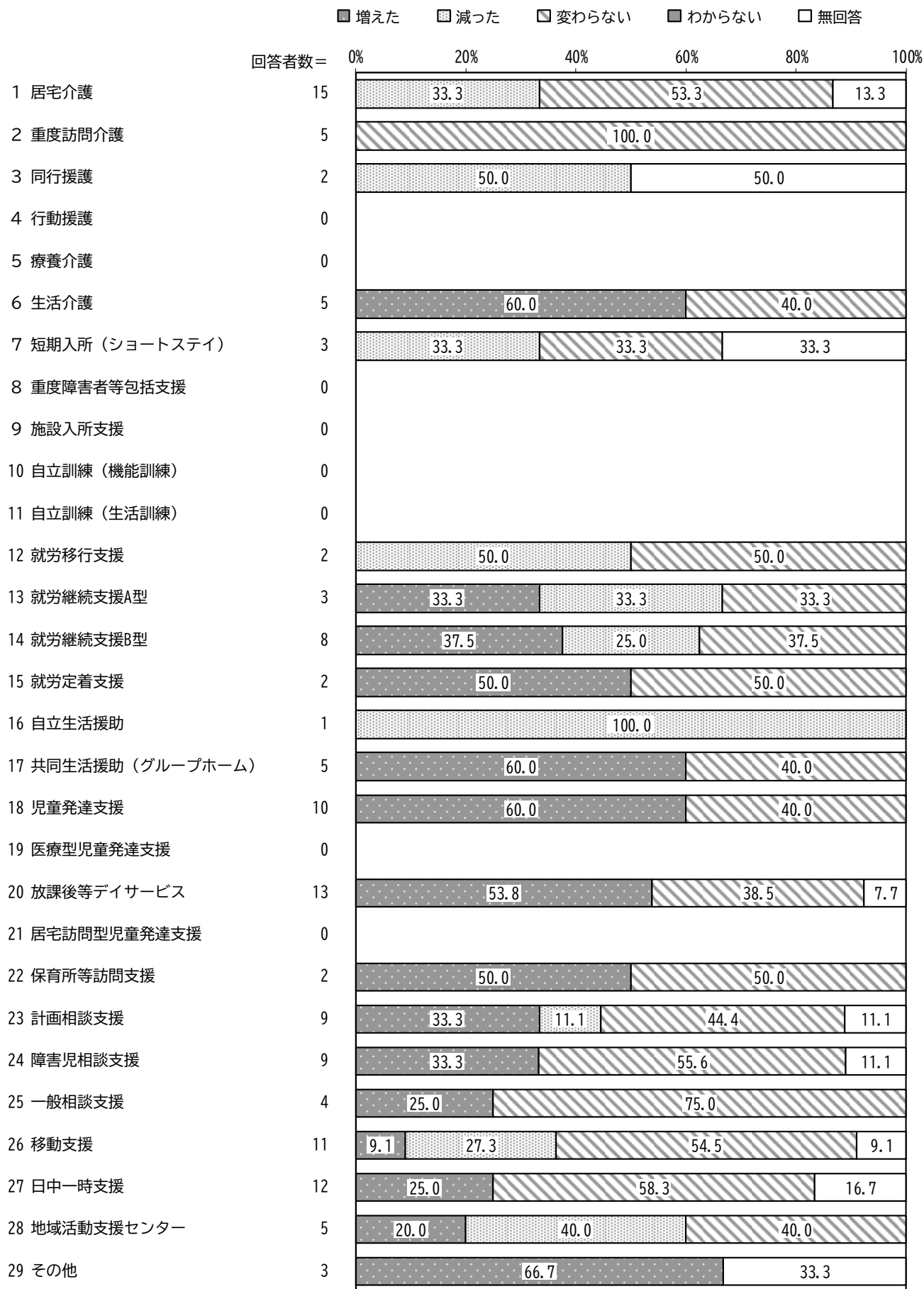
## B 収支の状況

『13 就労継続支援 A 型』で「黒字」が、『12 就労移行支援』『15 就労定着支援』で「概ね均衡」が、『16 自立生活援助』で「赤字」が、『2 重度訪問介護』で「わからない」が高くなっています。



C 利用者の増減をお書きください。

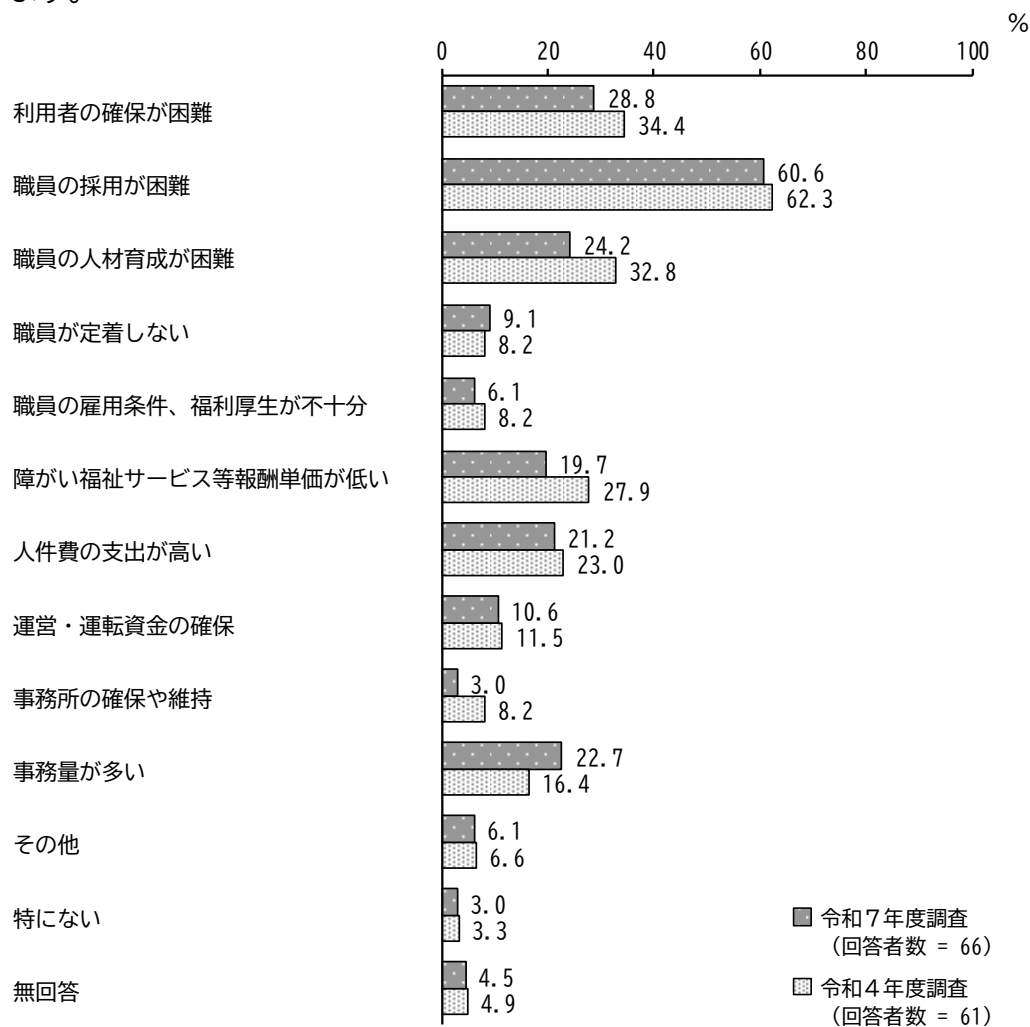
『6生活介護』『17共同生活援助（グループホーム）』『18児童発達支援』で「増えた」が、『16自立生活援助』で「減った」が、『2重度訪問介護』で「変わらない」が高くなっています。



### ①事業所運営を進めていく上での課題（3つまでに○）

「職員の採用が困難」の割合が60.6%と最も高く、次いで「利用者の確保が困難」の割合が28.8%、「職員の人材育成が困難」の割合が24.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「事務量が多い」の割合が増加しています。一方、「利用者の確保が困難」「職員の採用が困難」「障がい福祉サービス等報酬単価が低い」「事務所の確保や維持」の割合が減少しています。



## (2) 事業所の職員について

問2 事業所の職員について、以下の質問にご回答ください。

### ①採用者・離職者数

事業所の職員について、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの過去1年間の採用者数と離職者数(事務員等の職員は除く)

職員の平均採用者数は、正規で1.3人、非正規で2.2人となっています。

また、職員の平均離職者数は正規で0.6人、非正規で1.0人となっており、勤務年数ごとに見ると、正規では1年未満が0.4人、3年未満が0.7人、非正規では1年未満が1.1人、3年未満が0.5人となっています。

〔採用者数〕

	n	平均値 (人)	最小値 (人)	最大値 (人)
正規	56	1.3	0	10
非正規	58	2.2	0	27

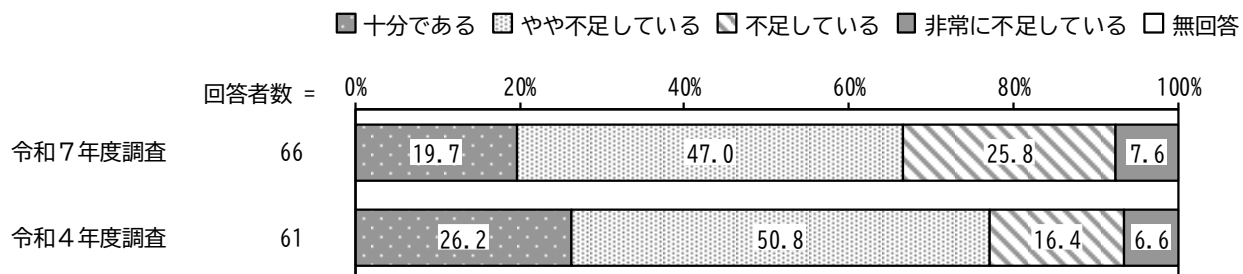
〔離職者数〕

	n	平均値 (人)	最小値 (人)	最大値 (人)
正規	52	0.6	0	3
1年未満	17	0.4	0	2
3年未満	22	0.7	0	3
非正規	54	1.0	0	5
1年未満	28	1.1	0	5
3年未満	19	0.5	0	2

## ②職員の充足状況について（1つに○）

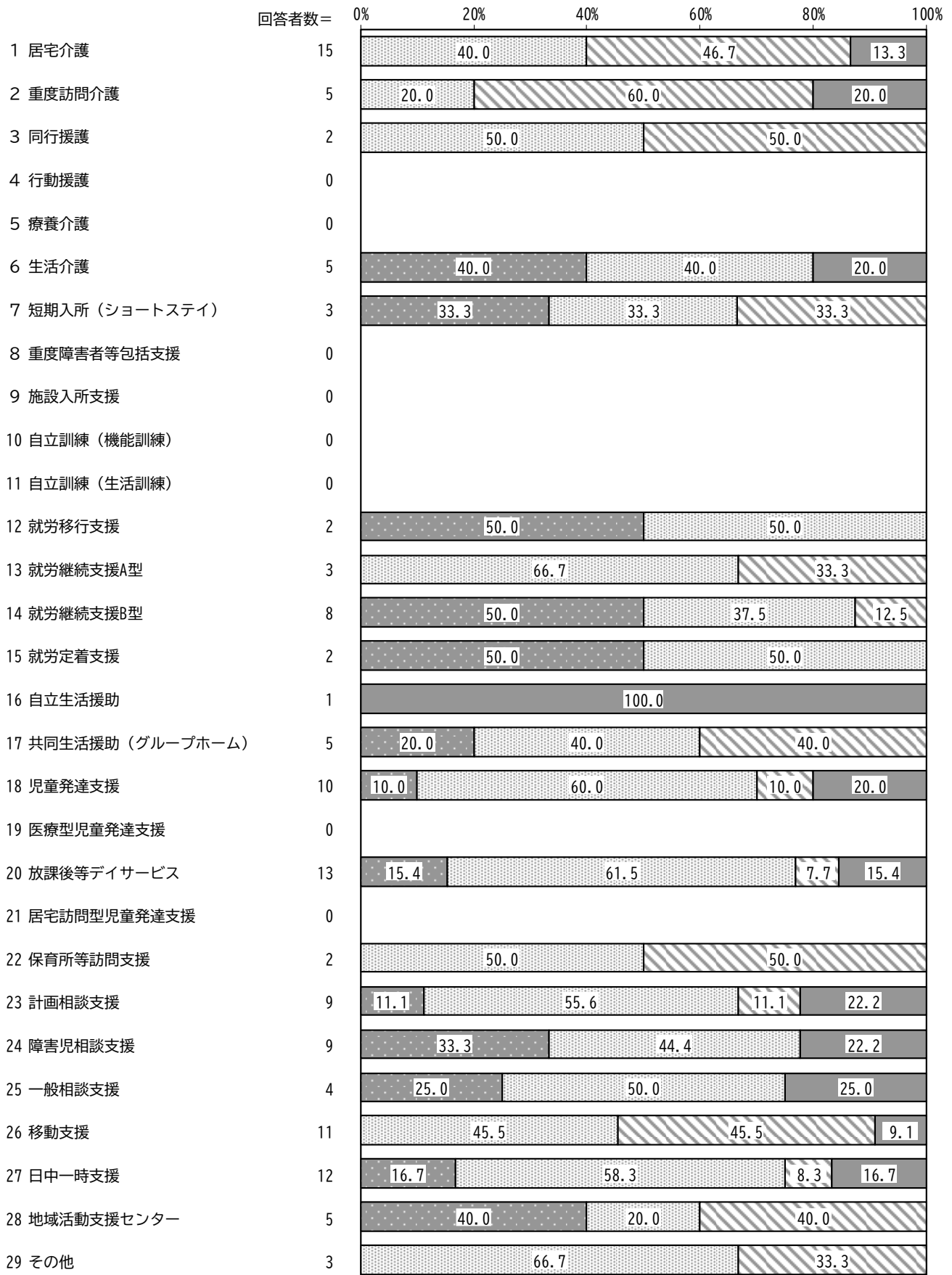
「やや不足している」の割合が47.0%と最も高く、次いで「不足している」の割合が25.8%、「十分である」の割合が19.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「不足している」の割合が増加しています。一方、「十分である」の割合が減少しています。



『12 就労移行支援』『14 就労継続支援B型』『15 就労定着支援』で「十分である」が、『13 就労継続支援A型』で「やや不足している」が、『2 重度訪問介護』で「不足している」が、『16 自立生活援助』で「非常に不足している」が高くなっています。

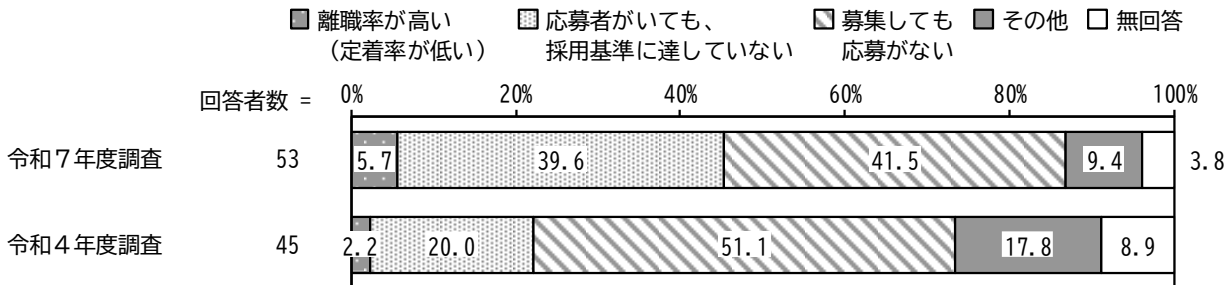
■十分である □ やや不足している ▨ 不足している ■ 非常に不足している □ 無回答



③「②職員の充足状況について」で2～4を選択した場合、不足している理由（1つに○）

「離職率が高い（定着率が低い）」の割合が5.7%、「応募者がいても、採用基準に達していない」の割合が39.6%、「募集しても応募がない」の割合が41.5%となっています。

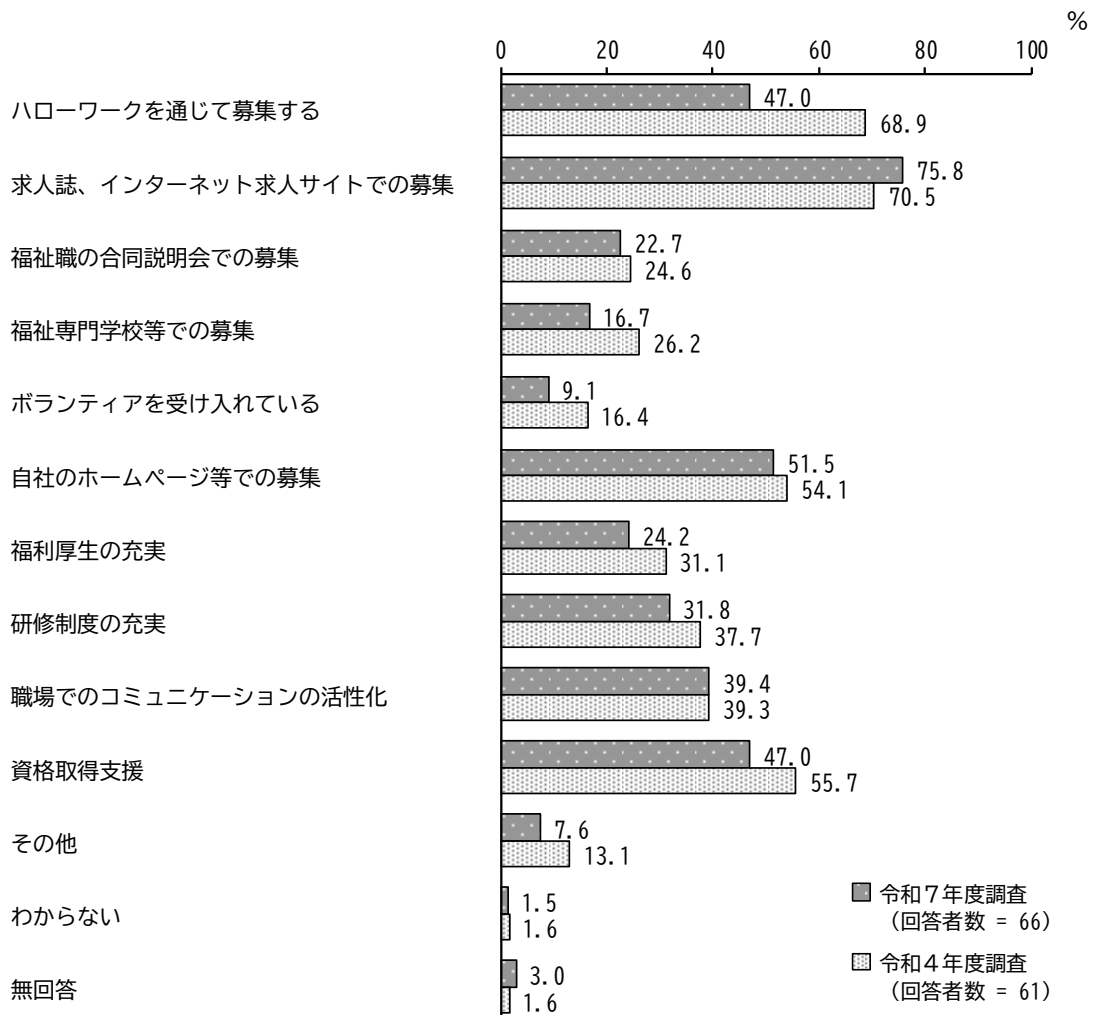
令和4年度調査と比較すると、「応募者がいても、採用基準に達していない」の割合が増加しています。一方、「募集しても応募がない」の割合が減少しています。



④人材確保・人材定着のために取り組んでいること（あてはまるものすべてに○）

「求人誌、インターネット求人サイトでの募集」の割合が75.8%と最も高く、次いで「自社のホームページ等での募集」の割合が51.5%、「ハローワークを通じて募集する」、「資格取得支援」の割合が47.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「求人誌、インターネット求人サイトでの募集」の割合が増加しています。一方、「ハローワークを通じて募集する」「福祉専門学校等での募集」「ボランティアを受け入れている」「福利厚生充実」「研修制度の充実」「資格取得支援」の割合が減少しています。



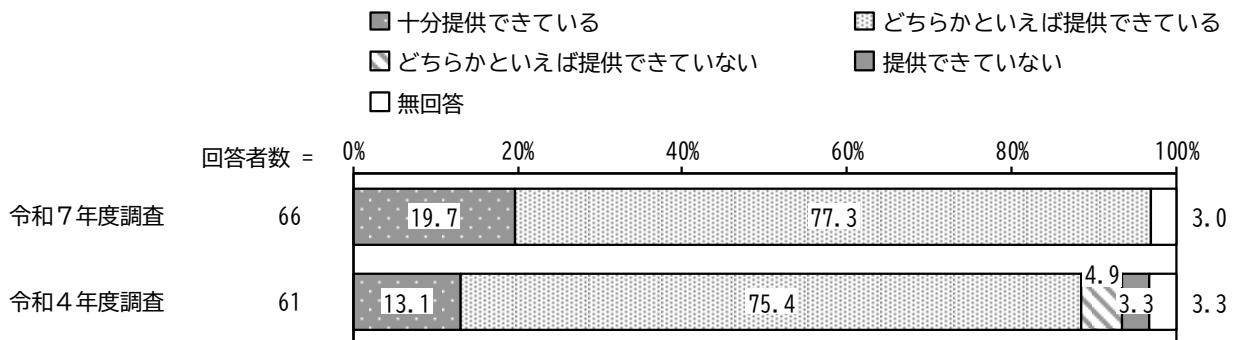
### (3) 現在、提供している障がい福祉サービス等について

問3 現在、提供している障がい福祉サービス等について、以下の質問にご回答ください。

#### ①利用者の希望するサービス提供（1つに○）

「十分提供できている」「どちらかといえば提供できている」を合わせた“提供できている”の割合が97.0%となっています。

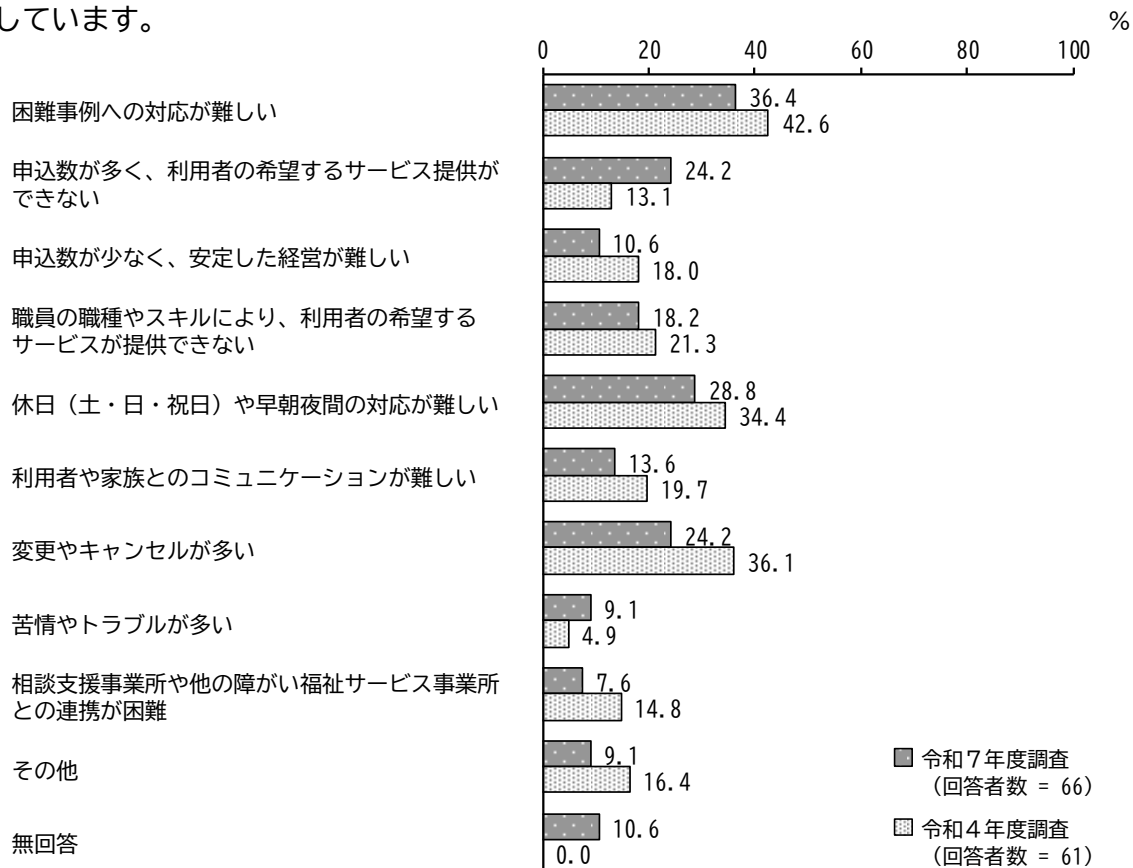
令和4年度調査と比較すると、“提供できている”の割合が増加しています。



#### ②利用者にサービス提供する上での課題について（あてはまるものすべてに○）

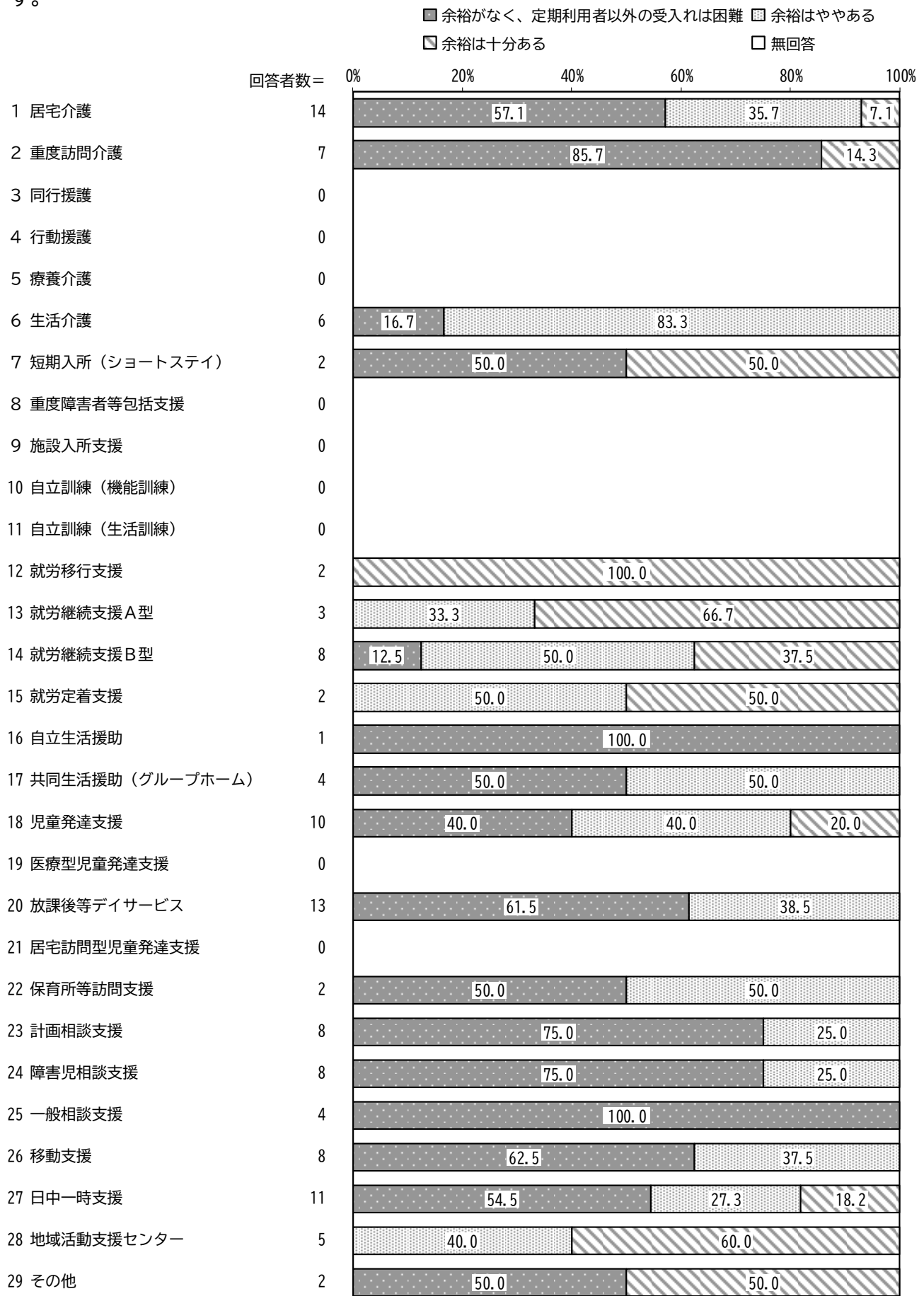
「困難事例への対応が難しい」の割合が36.4%と最も高く、次いで「休日（土・日・祝日）や早朝夜間の対応が難しい」の割合が28.8%、「申込数が多く、利用者の希望するサービス提供ができない」、「変更やキャンセルが多い」の割合が24.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「申込数が多く、利用者の希望するサービス提供ができない」の割合が増加しています。一方、「困難事例への対応が難しい」「申込数が少なく、安定した経営が難しい」「休日（土・日・祝日）や早朝夜間の対応が難しい」「利用者や家族とのコミュニケーションが難しい」「変更やキャンセルが多い」「相談支援事業所や他の障がい福祉サービス事業所との連携が困難」の割合が減少しています。



### ③新規の受入状況

『16 自立生活援助』『25 一般相談支援』で「余裕がなく、定期利用者以外の受入れは困難」が、『6 生活介護』で「余裕はややある」が、『12 就労移行支援』で「余裕は十分ある」が高くなっています。



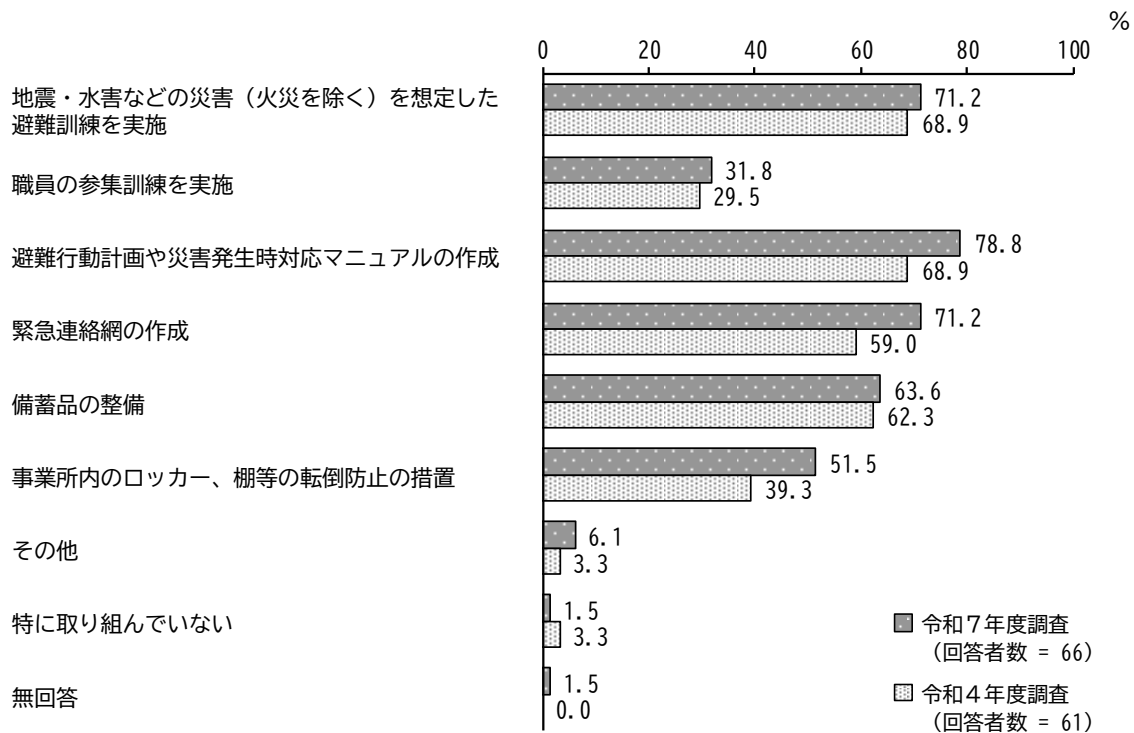
## (4) 災害時の備えについて

問4 災害時の備えについて、以下の質問にご回答ください。

### ①災害時の準備体制について、実施しているものについて（あてはまるものすべてに○）

「避難行動計画や災害発生時対応マニュアルの作成」の割合が78.8%と最も高く、次いで「地震・水害などの災害（火災を除く）を想定した避難訓練を実施」、「緊急連絡網の作成」の割合が71.2%となっています。

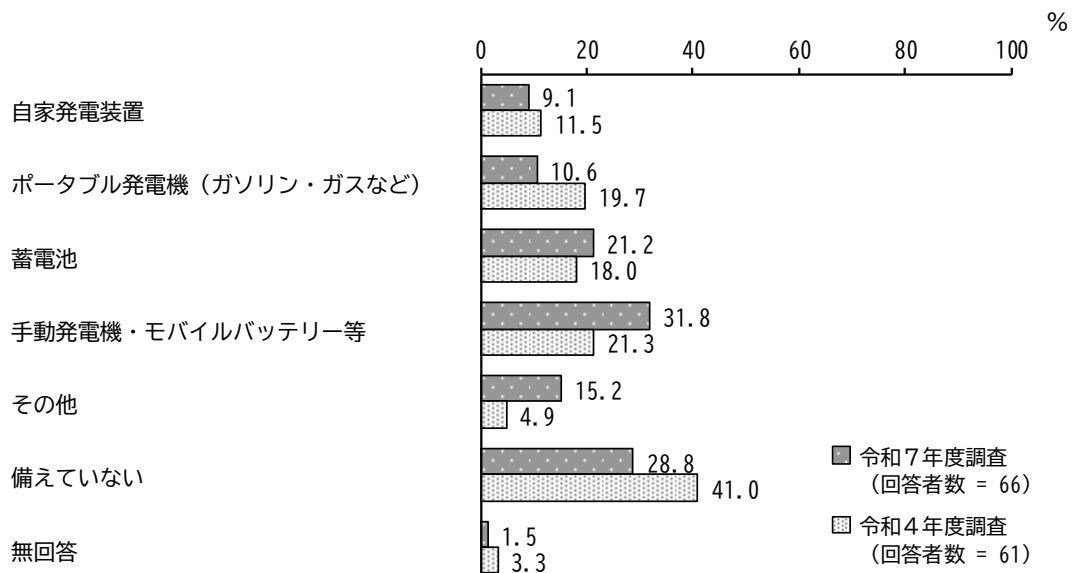
令和4年度調査と比較すると、「避難行動計画や災害発生時対応マニュアルの作成」「緊急連絡網の作成」「事業所内のロッカー、棚等の転倒防止の措置」の割合が増加しています。



### ②停電時に備え、発電機等の備蓄について（あてはまるものすべてに○）

「手動発電機・モバイルバッテリー等」の割合が31.8%と最も高く、次いで「備えていない」の割合が28.8%、「蓄電池」の割合が21.2%となっています。

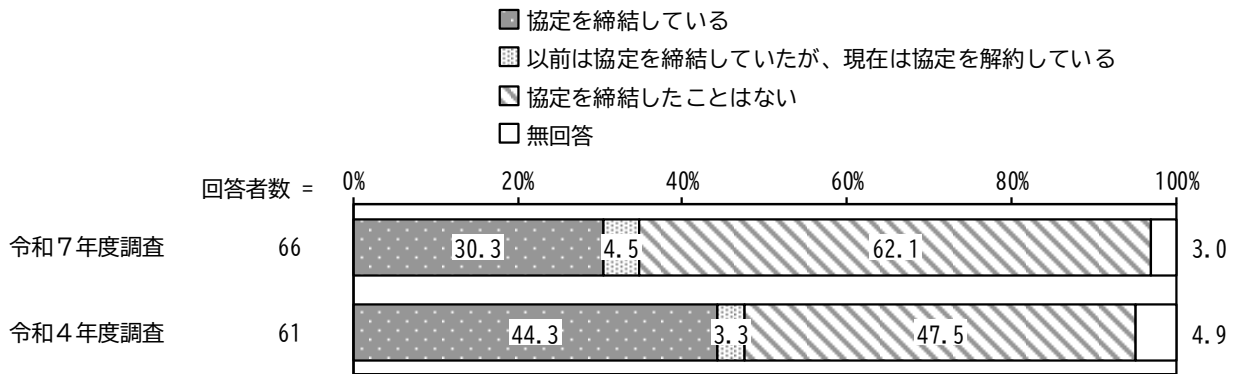
令和4年度調査と比較すると、「手動発電機・モバイルバッテリー等」の割合が増加しています。一方、「ポータブル発電機（ガソリン・ガスなど）」「備えていない」の割合が減少しています。



③本市と「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を締結していますか（1つに○）

「協定を締結している」の割合が30.3%、「以前は協定を締結していたが、現在は協定を解約している」の割合が4.5%、「協定を締結したことはない」の割合が62.1%となっています。

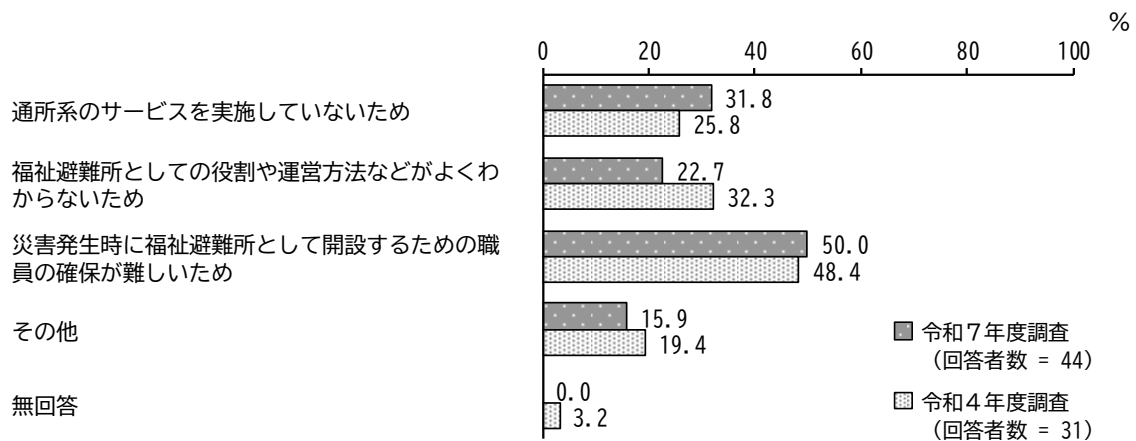
令和4年度調査と比較すると、「協定を締結したことはない」の割合が増加しています。一方、「協定を締結している」の割合が減少しています。



④（③で2または3と回答した方）その理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

「災害発生時に福祉避難所として開設するための職員の確保が難しいため」の割合が50.0%と最も高く、次いで「通所系のサービスを実施していないため」の割合が31.8%、「福祉避難所としての役割や運営方法などがよくわからないため」の割合が22.7%となっています。

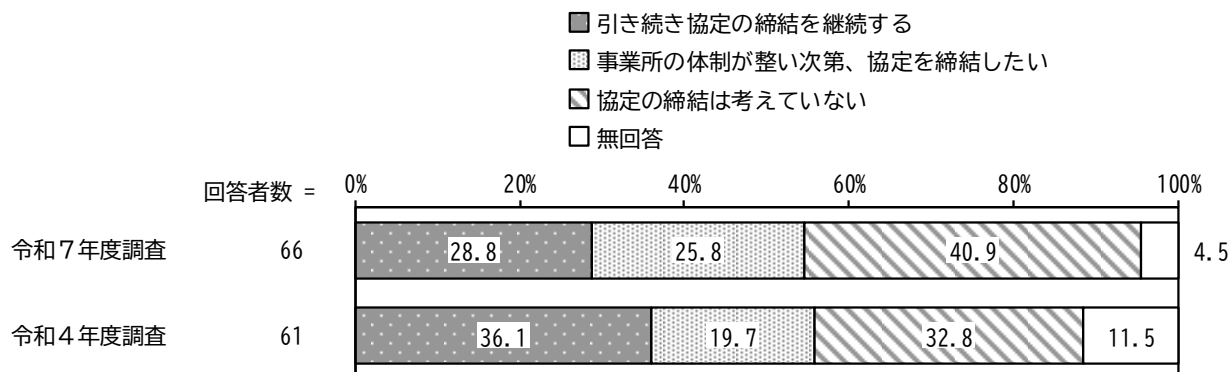
令和4年度調査と比較すると、「通所系のサービスを実施していないため」の割合が増加しています。一方、「福祉避難所としての役割や運営方法などがよくわからないため」の割合が減少しています。



⑤今後の締結の意向について、お答えください。(1つに○)

「引き続き協定の締結を継続する」の割合が28.8%、「事業所の体制が整い次第、協定を締結したい」の割合が25.8%、「協定の締結は考えていない」の割合が40.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「事業所の体制が整い次第、協定を締結したい」「協定の締結は考えていない」の割合が増加しています。一方、「引き続き協定の締結を継続する」の割合が減少しています。



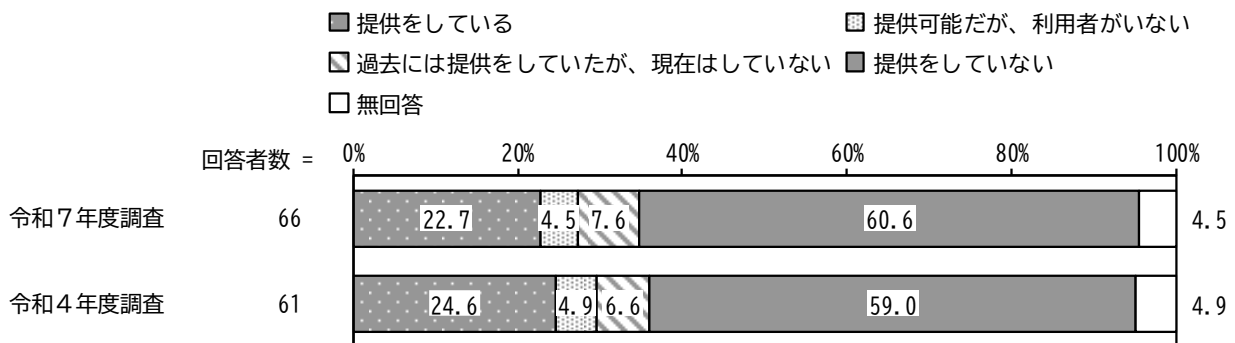
## (5) 医療的ケア等が必要な方への支援状況について

問5 重症心身障がい者・医療的ケアが必要な方・行動障がいのある方へ、行動援護・同行援護が必要な方への支援状況について、以下の質問にご回答ください。

### ①サービスの提供についてご回答ください。(1つに○)

「提供をしていない」の割合が60.6%と最も高く、次いで「提供をしている」の割合が22.7%となっています。

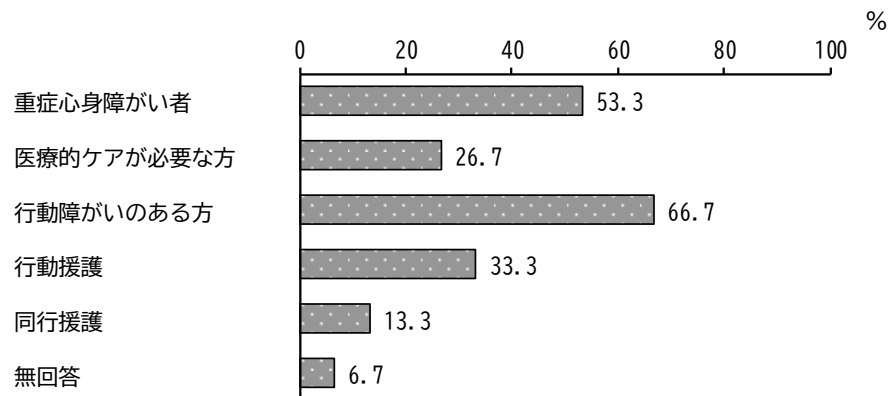
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 提供している方又はサービスに○

「行動障がいのある方」の割合が66.7%と最も高く、次いで「重症心身障がい者」の割合が53.3%、「行動援護」の割合が33.3%となっています。

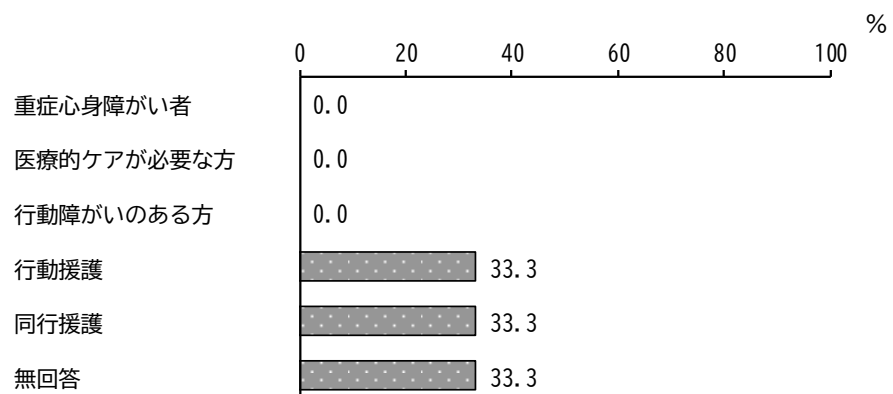
回答者数 = 15



### 提供可能な方又はサービスに○

「行動援護」、「同行援護」が1件となっています。

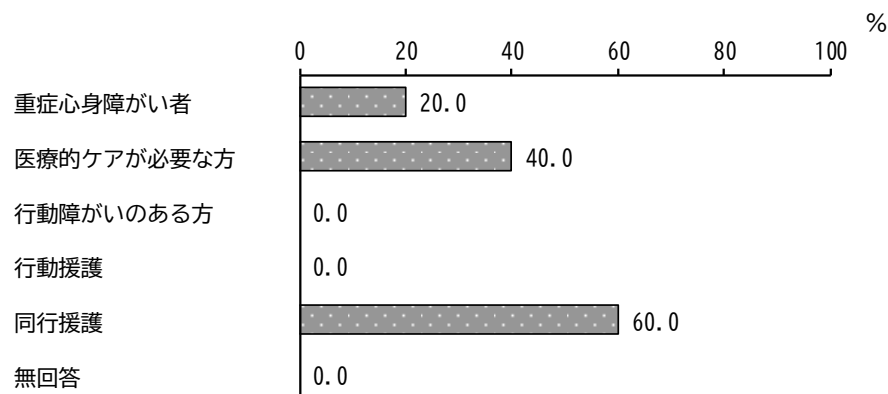
回答者数 = 3



提供していた方又はサービスに○

「同行援護」が3件、「医療的ケアが必要な方」が2件、「重症心身障がい者」が1件となっています。

回答者数 = 5



② (①で「提供をしている」と回答した方) 実際に提供している利用者数をお答えください。サービスの利用者の平均人数は以下の通りとなっています。

	18歳以上平均値 (人)		18歳未満平均値 (人)	
	n	平均値	n	平均値
重症心身障がい者	6	3.7	6	3.2
医療的ケアが必要な方	6	2.5	4	2.8
行動障がいのある方	8	4.1	7	3.9
行動援護	4	2.5	3	3.0
同行援護	2	3.0	2	4.0

③ (①で「提供をしている」と回答した方) 提供している職員の人数をお答えください。サービスを提供している職員の平均人数は以下の通りとなっています。

	n	平均値 (人)
看護師	9	1.7
介護職員	6	0.7
行動援護従事者	7	1.7
同行援護従事者	5	5.2
その他職員	10	4.6

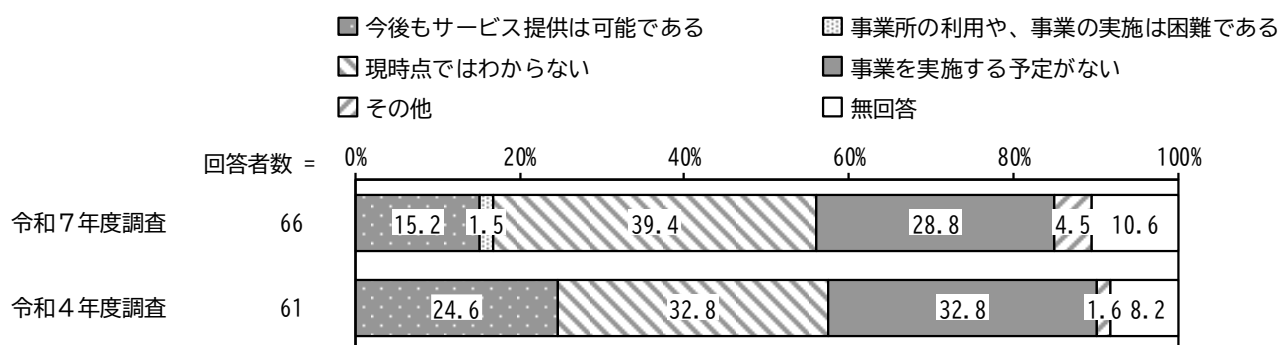
④ (①で「過去には提供していたが、現在はしていない」と回答した方) その理由についてお答えください。

- ・対象者がいないため
- ・会社の運営方針により、事業を修了したため
- ・継続的なサービスの提供が困難なため
- ・ヘルパーの空き時間がないため

⑤今後の、重症心身障がい者・医療的ケアが必要な方・行動障がいのある方へ、同行援護・行動援護のサービス提供のために必要だと思われる施策は何ですか。（1つに〇）

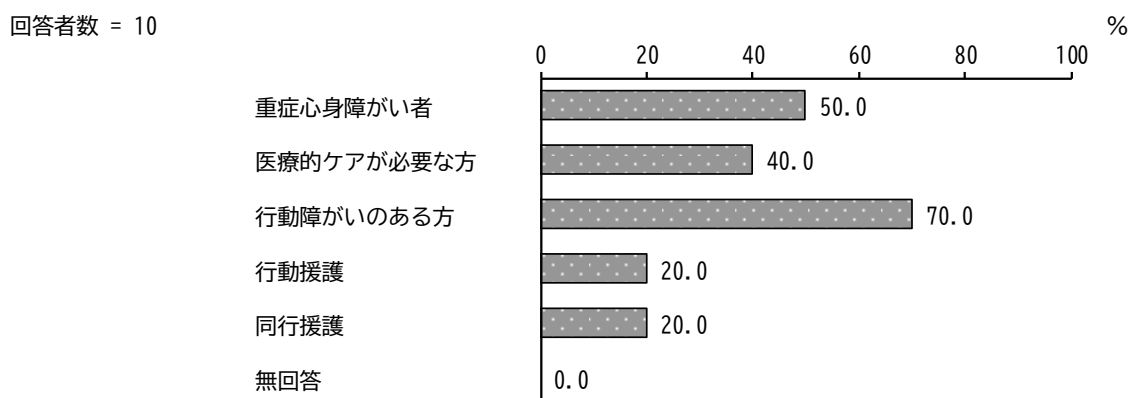
「現時点ではわからない」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「事業を実施する予定がない」の割合が 28.8%、「今後もサービス提供は可能である」の割合が 15.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「現時点ではわからない」の割合が増加しています。一方、「今後もサービス提供は可能である」の割合が減少しています。



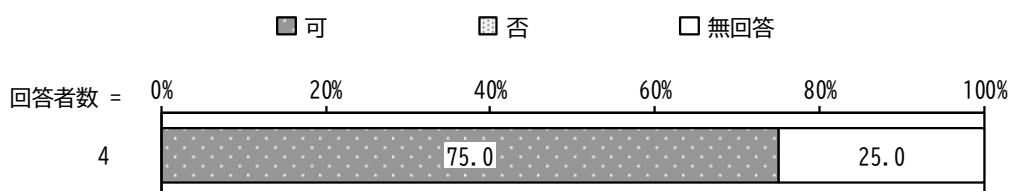
また、「1. 今後もサービス提供は可能である」あるいは「2. 事業所の利用や、事業の実施は困難である」を選んだ方は、具体的なサービスもお答えください。

「行動障がいのある方」の割合が 70.0%と最も高く、次いで「重症心身障がい者」の割合が 50.0%、「医療的ケアが必要な方」の割合が 40.0%となっています。



医療的ケアの実施の可否

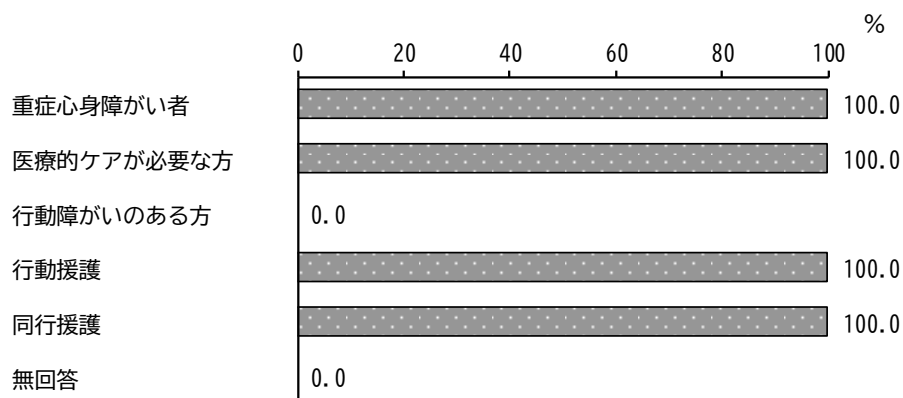
「可」が3件となっています。



また、「1. 今後もサービス提供は可能である」あるいは「2. 事業所の利用や、事業の実施は困難である」を選んだ方は、具体的なサービスもお答えください。

「重症心身障がい者」、「医療的ケアが必要な方」、「行動援護」、「同行援護」が1件となっています。

回答者数 = 1

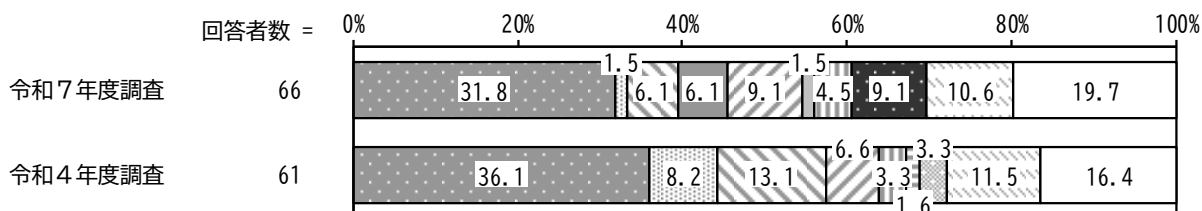


⑥今後、重症心身障がい者・医療的ケアが必要な方・行動障がいのある方へ、同行援護・行動援護のサービス提供のために必要だと思われる施策は何ですか。(1つに○)

「専門的な支援ができる職員を確保するための支援・補助」の割合が31.8%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「機材・設備等の補助(具体的に)」「医療的ケア児等コーディネーター、基幹相談支援センター、地域生活支援拠点事業所等が中心となった地域づくり」の割合が増加しています。一方、「職員が従事するために必要な研修を受講するための補助」「専門的な支援に関する職員向け研修の実施」の割合が減少しています。

- 専門的な支援ができる職員を確保するための支援・補助
- 職員が従事するために必要な研修を受講するための補助
- 専門的な支援に関する職員向け研修の実施
- 機材・設備等の補助(具体的に)
- 支援(受入)した場合の給付費の加算や補助
- 他の障がい福祉サービス事業所や相談支援事業所との連携
- 病院や訪問看護ステーションとの連携
- 医療的ケア児等コーディネーター、基幹相談支援センター、地域生活支援拠点事業所等が中心となった地域づくり
- その他
- 特にない
- わからない
- 無回答

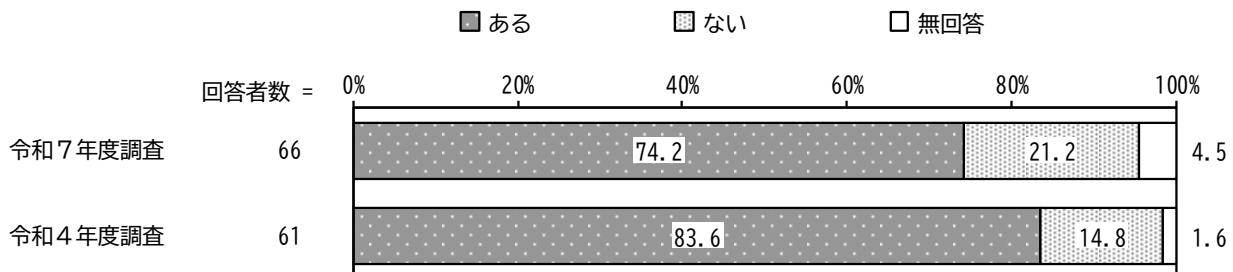


## (6) 支援が困難だと感じるケースについて

問6 支援が困難だと感じるケースについて、以下の質問にご回答ください。

### ① 支援が困難だと感じた、または感じているケースはありますか。(1つに○)

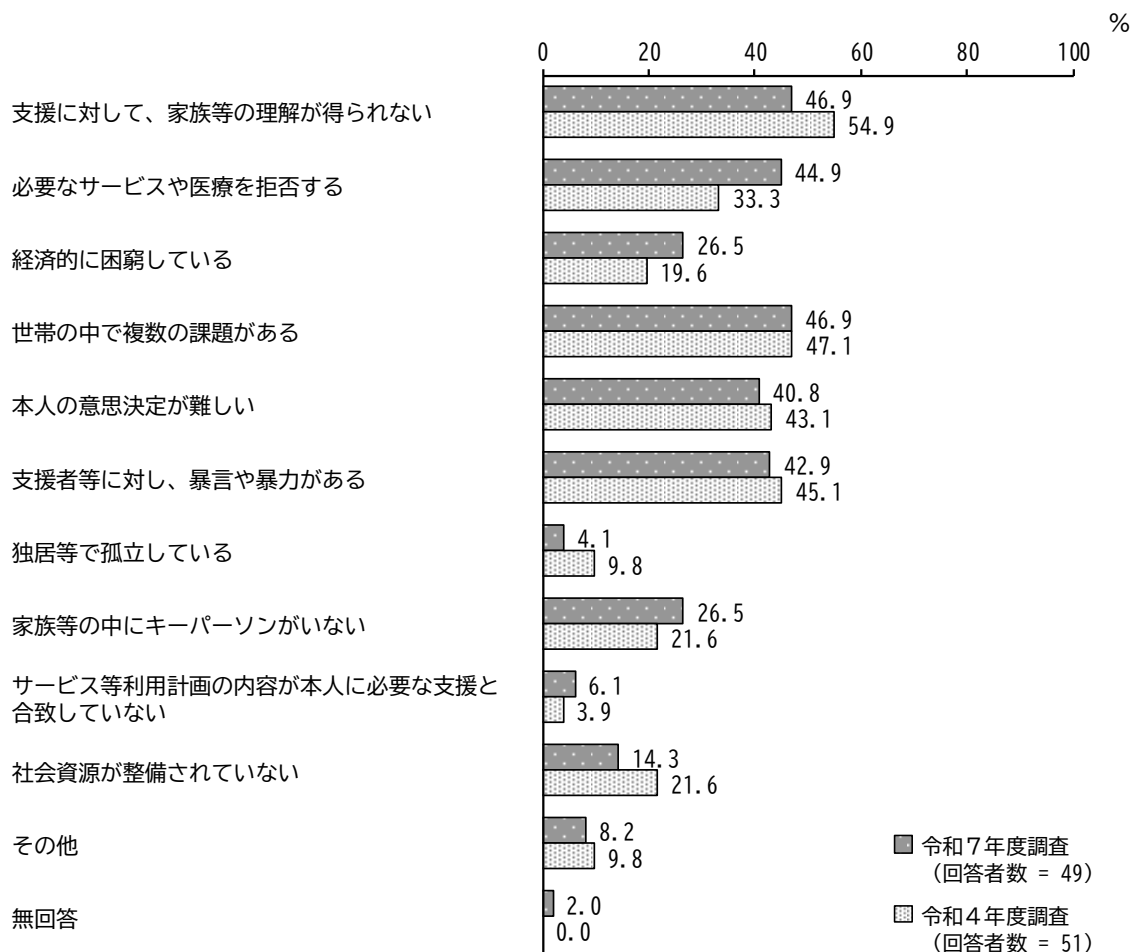
「ある」の割合が74.2%、「ない」の割合が21.2%となっています。  
令和4年度調査と比較すると、「ある」の割合が減少しています。



### ② (①で「ある」と回答した方) 困難だと感じたまたは感じる理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「支援に対して、家族等の理解が得られない」、「世帯の中で複数の課題がある」の割合が46.9%と最も高く、次いで「必要なサービスや医療を拒否する」の割合が44.9%となっています。

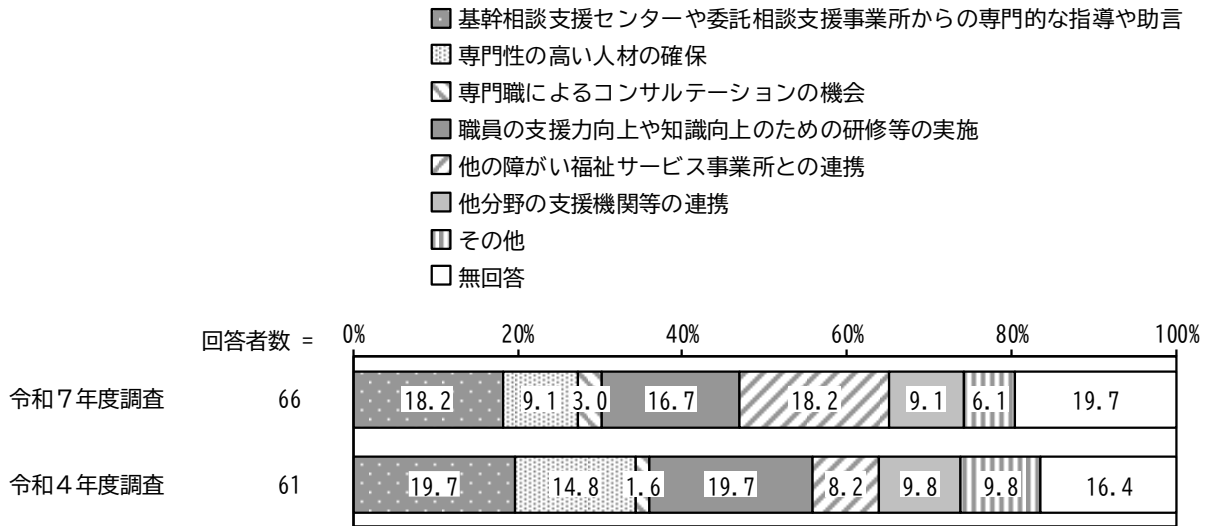
令和4年度調査と比較すると、「必要なサービスや医療を拒否する」「経済的に困窮している」の割合が増加しています。一方、「支援に対して、家族等の理解が得られない」「独居等で孤立している」「社会資源が整備されていない」の割合が減少しています。



③支援が困難なケースに対応するために必要だと思うことは何ですか。(1つに〇)

「基幹相談支援センターや委託相談支援事業所からの専門的な指導や助言」、「他の障がい福祉サービス事業所との連携」の割合が 18.2%と最も高く、次いで「職員の支援力向上や知識向上のための研修等の実施」の割合が 16.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「他の障がい福祉サービス事業所との連携」の割合が増加しています。一方、「専門性の高い人材の確保」の割合が減少しています。

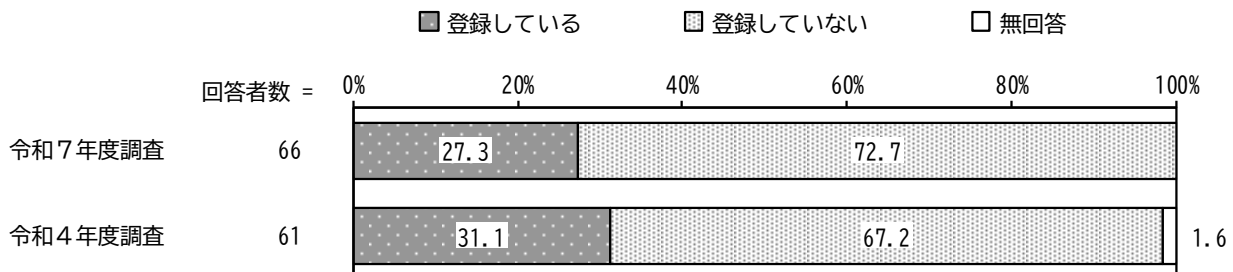


## (7) 地域生活支援拠点について

問7 地域生活支援拠点について、以下の質問にご回答ください。

### ①地域生活支援拠点の登録の有無について（1つに○）

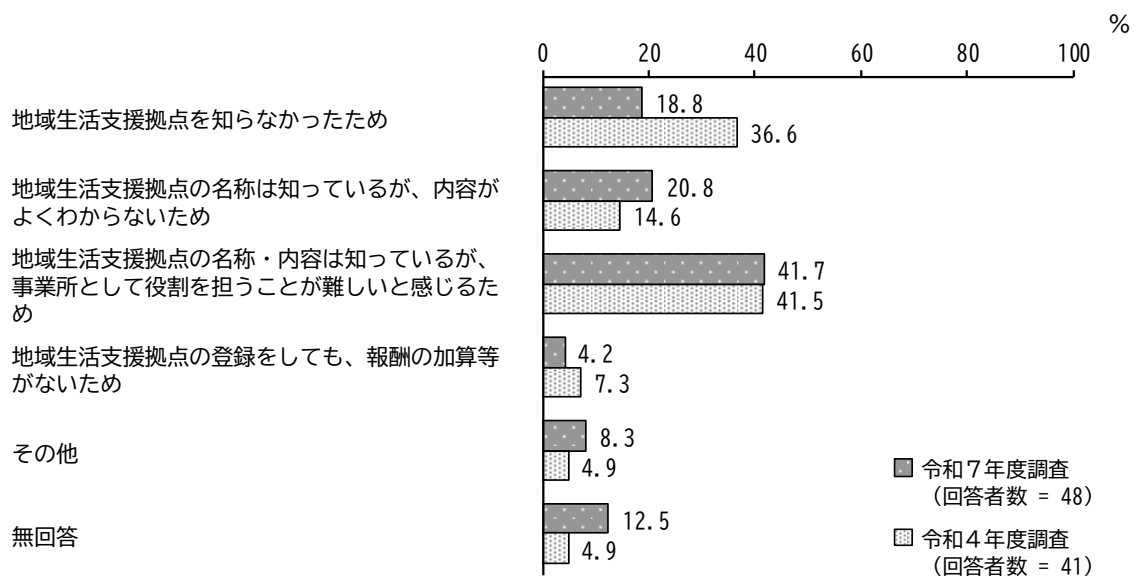
「登録している」の割合が27.3%、「登録していない」の割合が72.7%となっています。  
令和4年度調査と比較すると、「登録していない」の割合が増加しています。



### ②（①で「登録していない」と回答した方）その理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「地域生活支援拠点の名称・内容は知っているが、事業所として役割を担うことが難しいと感じるため」の割合が41.7%と最も高く、次いで「地域生活支援拠点の名称は知っているが、内容がよくわからないため」の割合が20.8%、「地域生活支援拠点を知らなかったため」の割合が18.8%となっています。

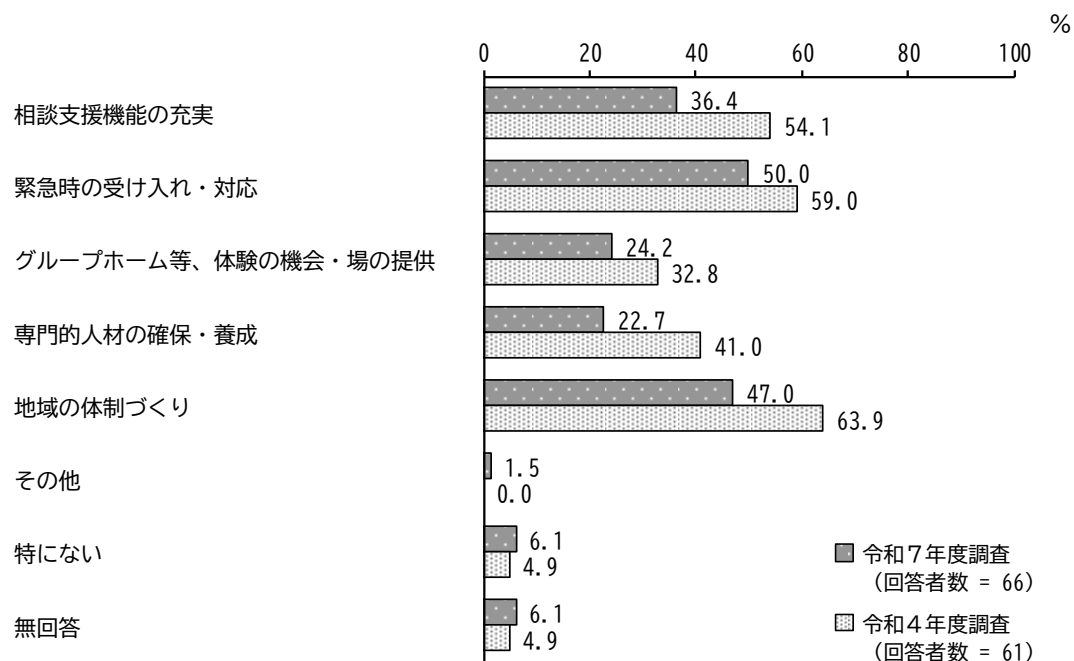
令和4年度調査と比較すると、「地域生活支援拠点の名称は知っているが、内容がよくわからないため」の割合が増加しています。一方、「地域生活支援拠点を知らなかったため」の割合が減少しています。



③地域生活支援拠点に期待する機能について、教えてください。(あてはまるものすべてに○)

「緊急時の受け入れ・対応」の割合が50.0%と最も高く、次いで「地域の体制づくり」の割合が47.0%、「相談支援機能の充実」の割合が36.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「相談支援機能の充実」「緊急時の受け入れ・対応」「グループホーム等、体験の機会・場の提供」「専門的人材の確保・養成」「地域の体制づくり」の割合が減少しています。



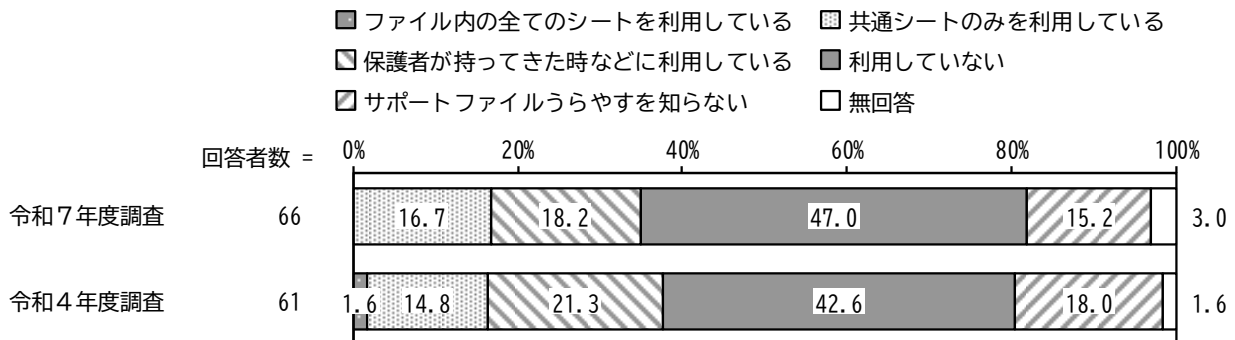
## (8) サポートファイルうらやすについて

問8 サポートファイルうらやすについて、以下の質問にご回答ください。

### ① サポートファイルうらやすの利用状況について (1つに○)

「利用していない」の割合が47.0%と最も高く、次いで「保護者が持ってきた時などに利用している」の割合が18.2%、「共通シートのみを利用している」の割合が16.7%となっています。

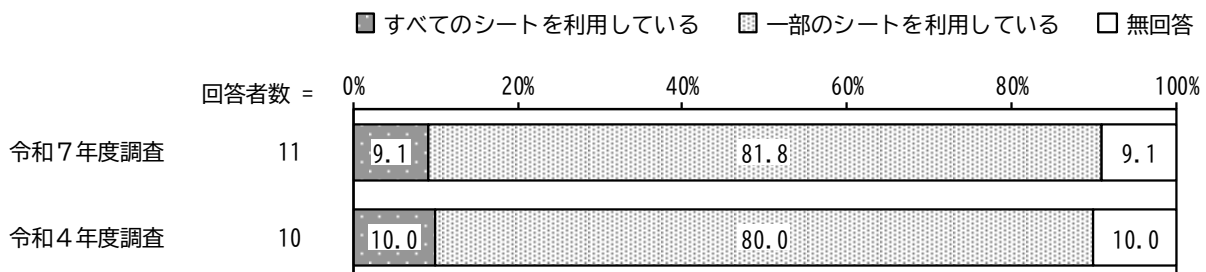
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### ② (①で「ファイル内の全てのシートを利用している」か「共通シートのみを利用している」と回答した方) どのシートを利用していますか。(1つに○)

「すべてのシートを利用している」の割合が9.1%、「一部のシートを利用している」の割合が81.8%となっています。

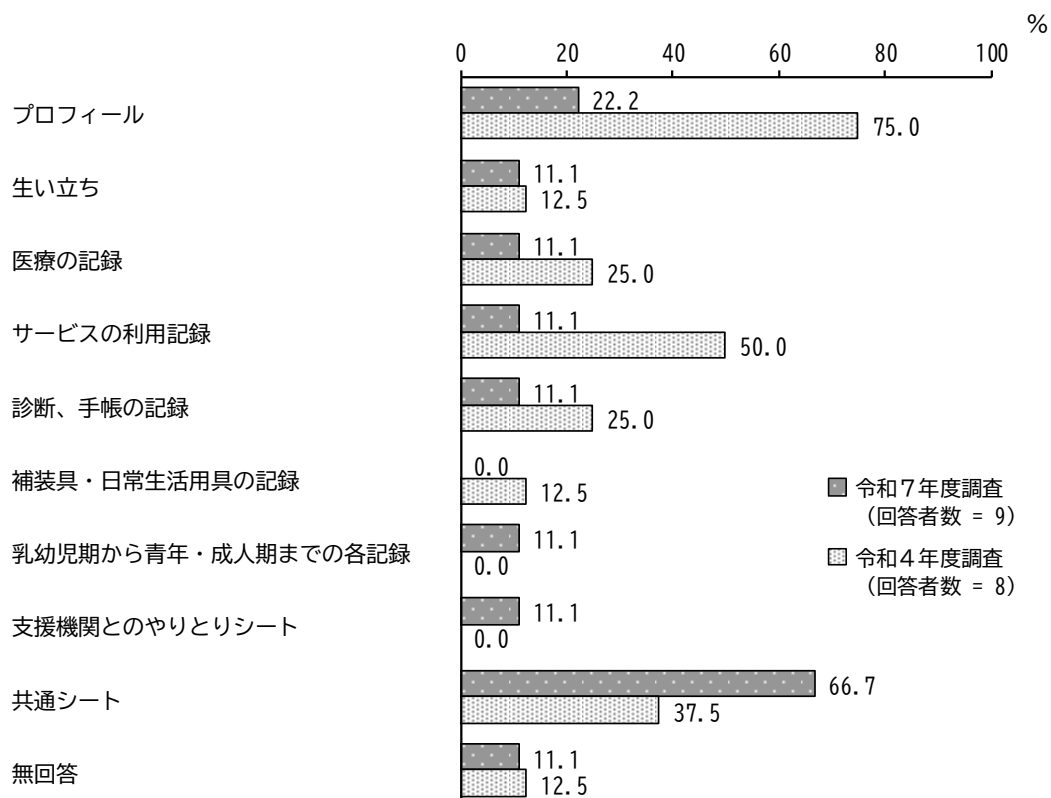
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②（①で「ファイル内の全てのシートを利用している」か「共通シートのみを利用している」と回答した方）  
 また、一部のシートを利用している方は、利用しているものを教えてください。

「共通シート」が6件、「プロフィール」が2件、「生い立ち」、「医療の記録」、「サービスの利用記録」、「診断、手帳の記録」、「乳幼児期から青年・成人期までの各記録」、「支援機関とのやりとりシート」が1件となっています。

令和4年度調査と比較すると、「乳幼児期から青年・成人期までの各記録」「支援機関とのやりとりシート」「共通シート」の割合が増加しています。一方、「プロフィール」「医療の記録」「サービスの利用記録」「診断、手帳の記録」「補装具・日常生活用具の記録」の割合が減少しています。



③（①で「ファイル内の全てのシートを利用している」か「共通シートのみを利用している」と回答した方）

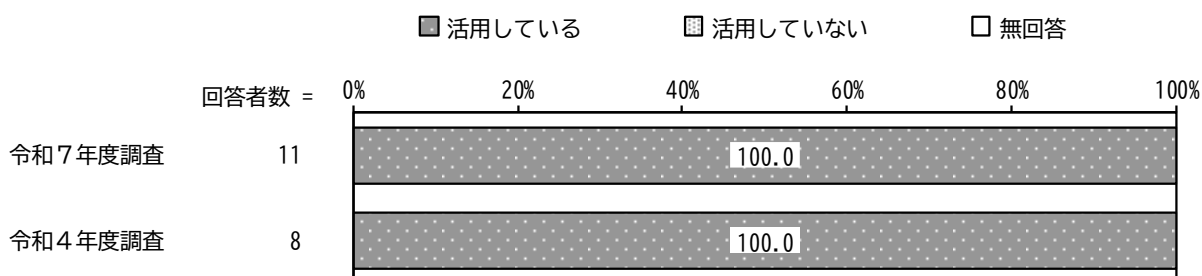
今の内容の他に、あると良いと思う項目・情報があれば、教えてください。（記述）

- ・ 既往歴を書く場所
- ・ 共通シートにある⑤手帳情報に「取得年月」
- ・ 家族情報の年齢の部分に加えて生年月日（兄弟の欄のように）
- ・ 所属学校のとは別に「卒業校」の欄も
- ・ 勤務先以外にも「以前利用していた（通所していた）事業所」
- ・ 障害基礎年金（受給なし、1級、2級）の欄 上記③を追加したシートを活用、利用開始前に記入提出してもらおう。又毎年2月に全利用者に再配布して更新や変更箇所を赤ペンで記入してもらい更新している
- ・ 身体健康状態の欄に「平熱」「身長」「体重」
- ・ 記入日（年・月・日）を入力すると何歳何カ月かが自動計算表示できるとよい←これができないのでPDFでなくエクセルで作りなおして活用しています。
- ・ 利き手
- ・ ⑧の欄に時間の理解、時計の読み（できる（デジタル、アナログ）、できない）など

④（①で「ファイル内の全てのシートを利用している」か「共通シートのみを利用している」と回答した方）事業所での支援に活用していますか。（1つに○）

「活用している」の割合が100.0%となっています。

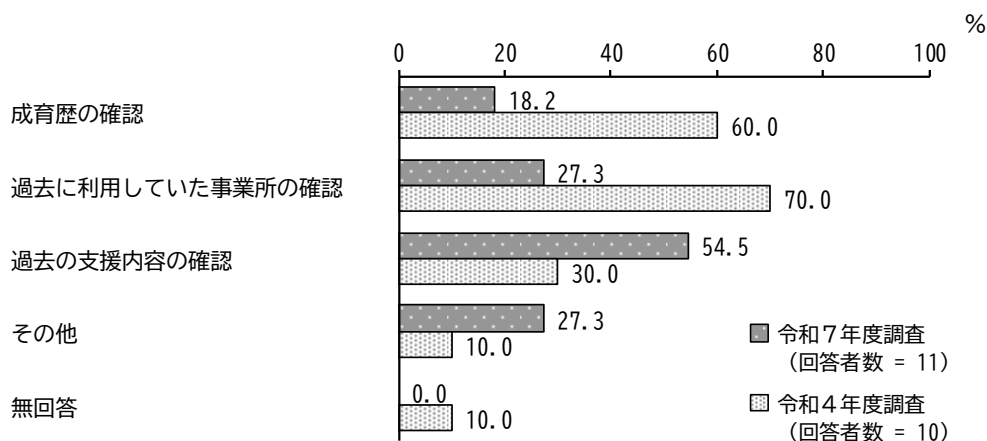
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑤（④で「活用している」と回答した方）どのように活用していますか。

「成育歴の確認」の割合が18.2%、「過去に利用していた事業所の確認」の割合が27.3%、「過去の支援内容の確認」の割合が54.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「過去の支援内容の確認」の割合が増加しています。一方、「成育歴の確認」「過去に利用していた事業所の確認」の割合が減少しています。



⑥（④で「活用していない」と回答した方）今後活用したいと思いますか。（1つに○）

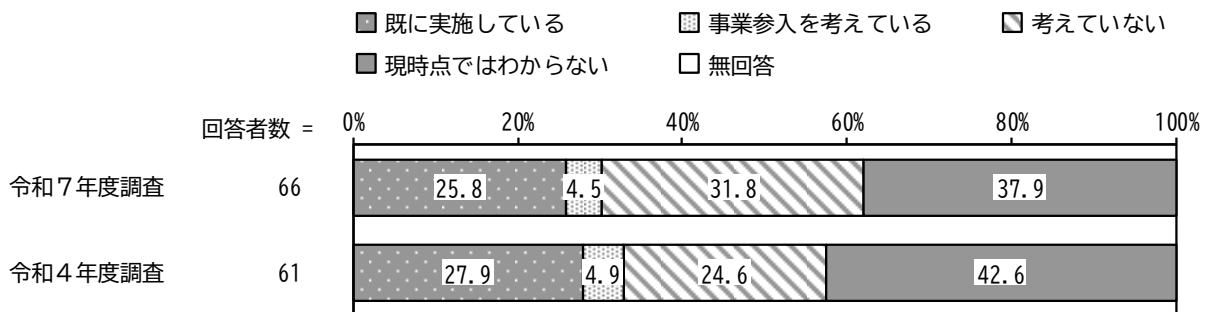
有効回答者がいませんでした。

## (9) 今後の事業展開について

問9 今後の事業展開について、以下の質問にご回答ください。

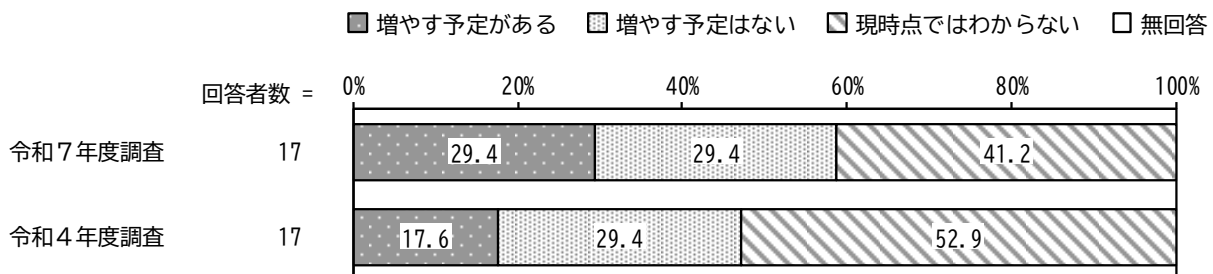
①今後（3年間）、同一法人において計画相談支援・障がい児相談支援の新規参入を考えていますか。（1つに○）

「現時点ではわからない」の割合が37.9%と最も高く、次いで「考えていない」の割合が31.8%、「既に実施している」の割合が25.8%となっています。  
令和4年度調査と比較すると、「考えていない」の割合が増加しています。



②（①で「既に実施している」と回答した方）今後、相談支援専門員を増やす予定はありますか。（1つに○）  
「増やす予定がある」、「増やす予定はない」の割合が29.4%、「現時点ではわからない」の割合が41.2%となっています。

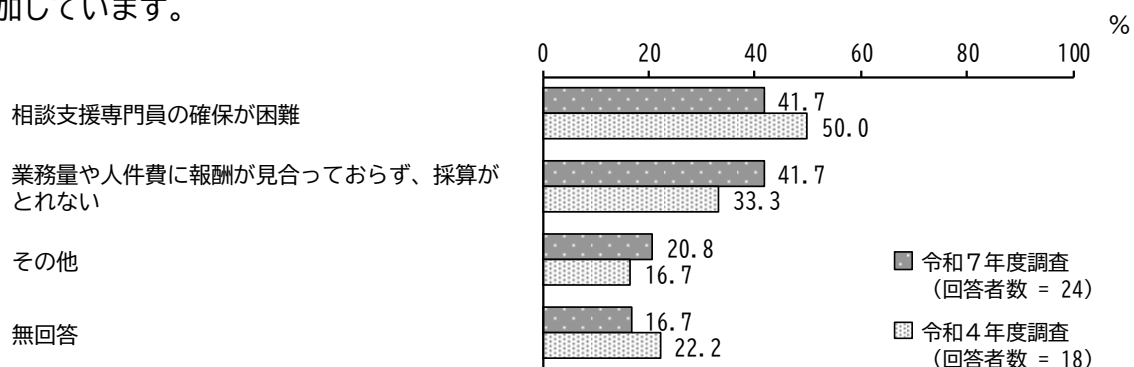
令和4年度調査と比較すると、「増やす予定がある」の割合が増加しています。一方、「現時点ではわからない」の割合が減少しています。



③（①で「事業参入を考えている」か「考えていない」と回答した方）その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「相談支援専門員の確保が困難」、「業務量や人件費に報酬が見合っておらず、採算がとれない」の割合が41.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「業務量や人件費に報酬が見合っておらず、採算がとれない」の割合が増加しています。

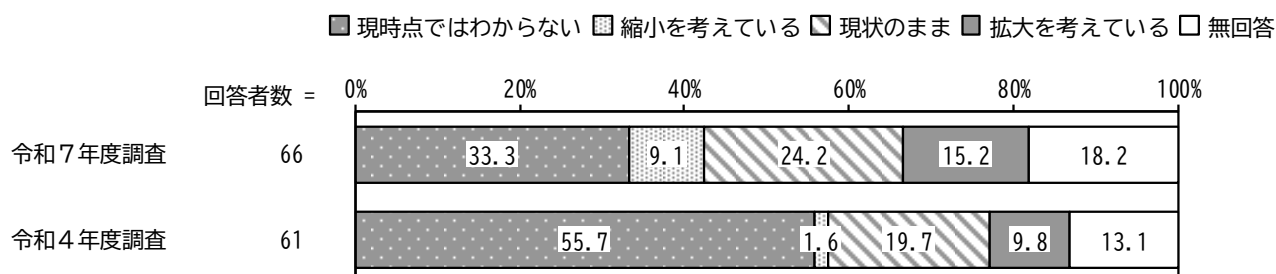


④今後（3年間）の計画相談支援・障がい児相談支援以外の事業展開について、どのように考えていますか。

（1つに○）

「現時点ではわからない」の割合が33.3%と最も高く、次いで「現状のまま」の割合が24.2%、「拡大を考えている」の割合が15.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「縮小を考えている」「拡大を考えている」の割合が増加しています。一方、「現時点ではわからない」の割合が減少しています。



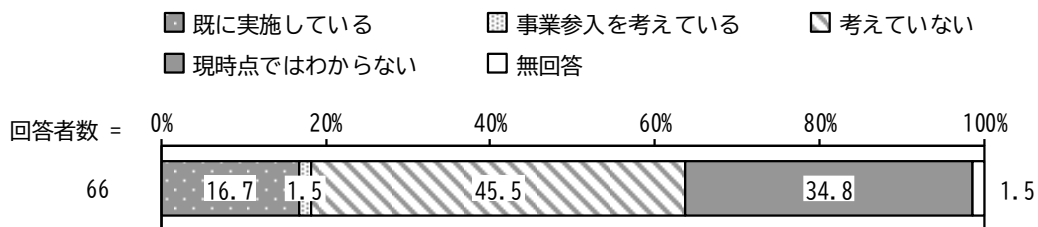
⑤（④で「拡大を考えている」と回答した方）今後の浦安市で参入予定を検討している事業がありましたら、ご回答ください。

- ・放課後等デイサービス
- ・就労継続支援B型
- ・児童発達支援
- ・多機能事業所
- ・日中一時支援（富士見にて）

問10 今後の事業展開について、以下の質問にご回答ください。

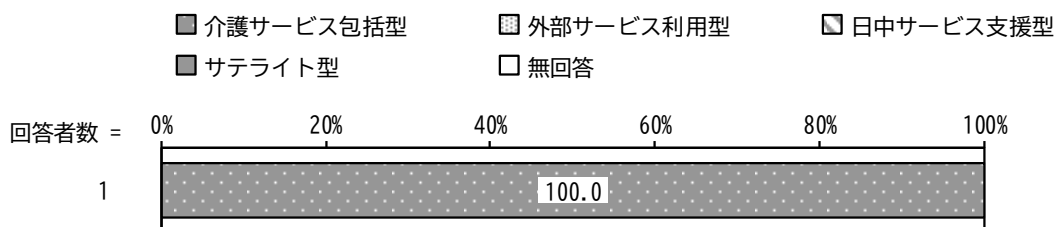
①今後（3年間）、同一法人において共同生活援助の新規参入を考えていますか。（1つに○）

「考えていない」の割合が45.5%と最も高く、次いで「現時点ではわからない」の割合が34.8%、「既に実施している」の割合が16.7%となっています。



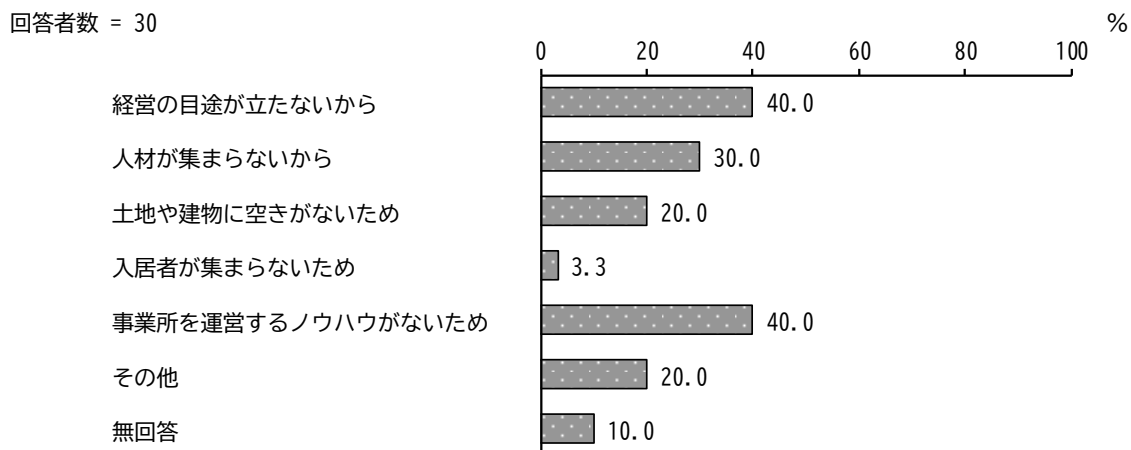
②（①で「事業参入を考えている」と回答した方）どのようなグループホームを整備予定ですか。（1つに○）

「介護サービス包括型」が1件となっています。



③（①で「考えていない」と回答した方）その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

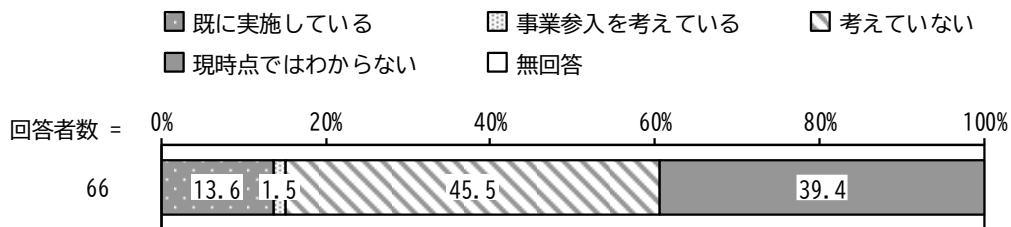
「経営の目途が立たないから」、「事業所を運営するノウハウがないため」の割合が40.0%と最も高く、次いで「人材が集まらないから」の割合が30.0%となっています。



問 11 今後の事業展開について、以下の質問にご回答ください。

①今後（3年間）、同一法人において生活介護の新規参入を考えていますか（1つに○）

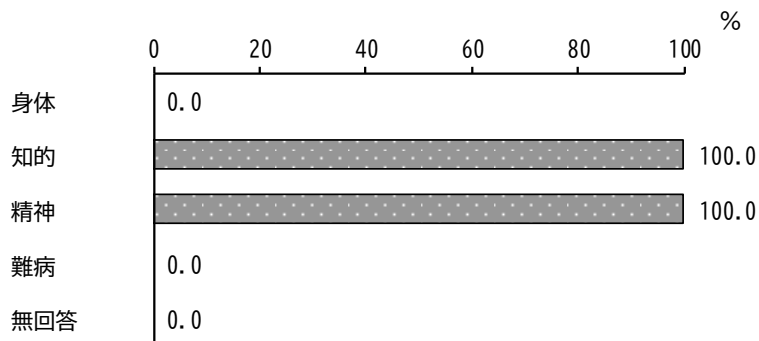
「考えていない」の割合が 45.5%と最も高く、次いで「現時点ではわからない」の割合が 39.4%、「既に実施している」の割合が 13.6%となっています。



②（①で「事業参入を考えている」と回答した方）主な受け入れ対象の障がい種別はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

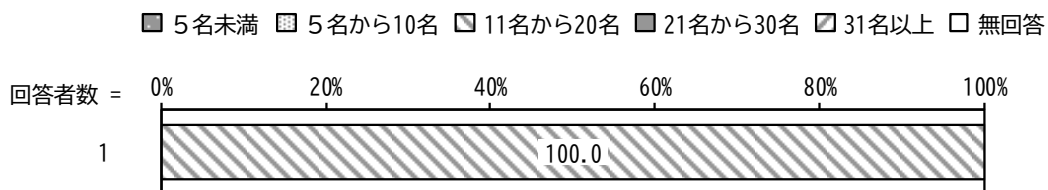
「知的」、「精神」が1件となっています。

回答者数 = 1



③（①で「事業参入を考えている」と回答した方）定員は約何名を考えていますか。（1つに○）

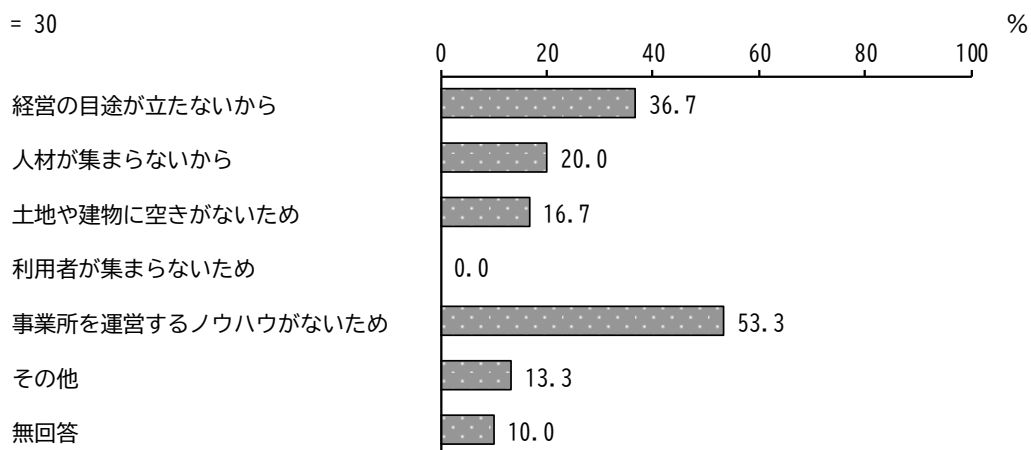
「11名から20名」が1件となっています。



④ (①で「考えていない」と回答した方) その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「事業所を運営するノウハウがないため」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「経営の目途が立たないから」の割合が 36.7%、「人材が集まらないから」の割合が 20.0%となっています。

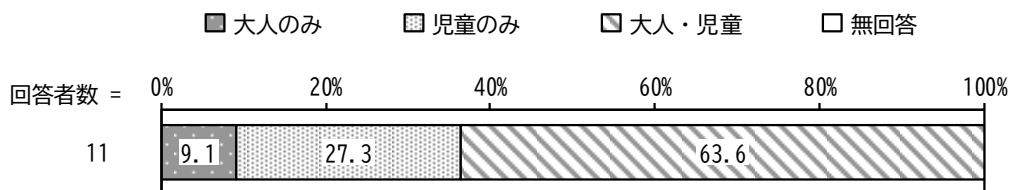
回答者数 = 30



問 12 計画相談支援または障害児相談支援を実施している事業所はご回答ください。

①指定の有無にかかわらず、令和6年度の相談支援の対象についてお答えください。(1つに○)

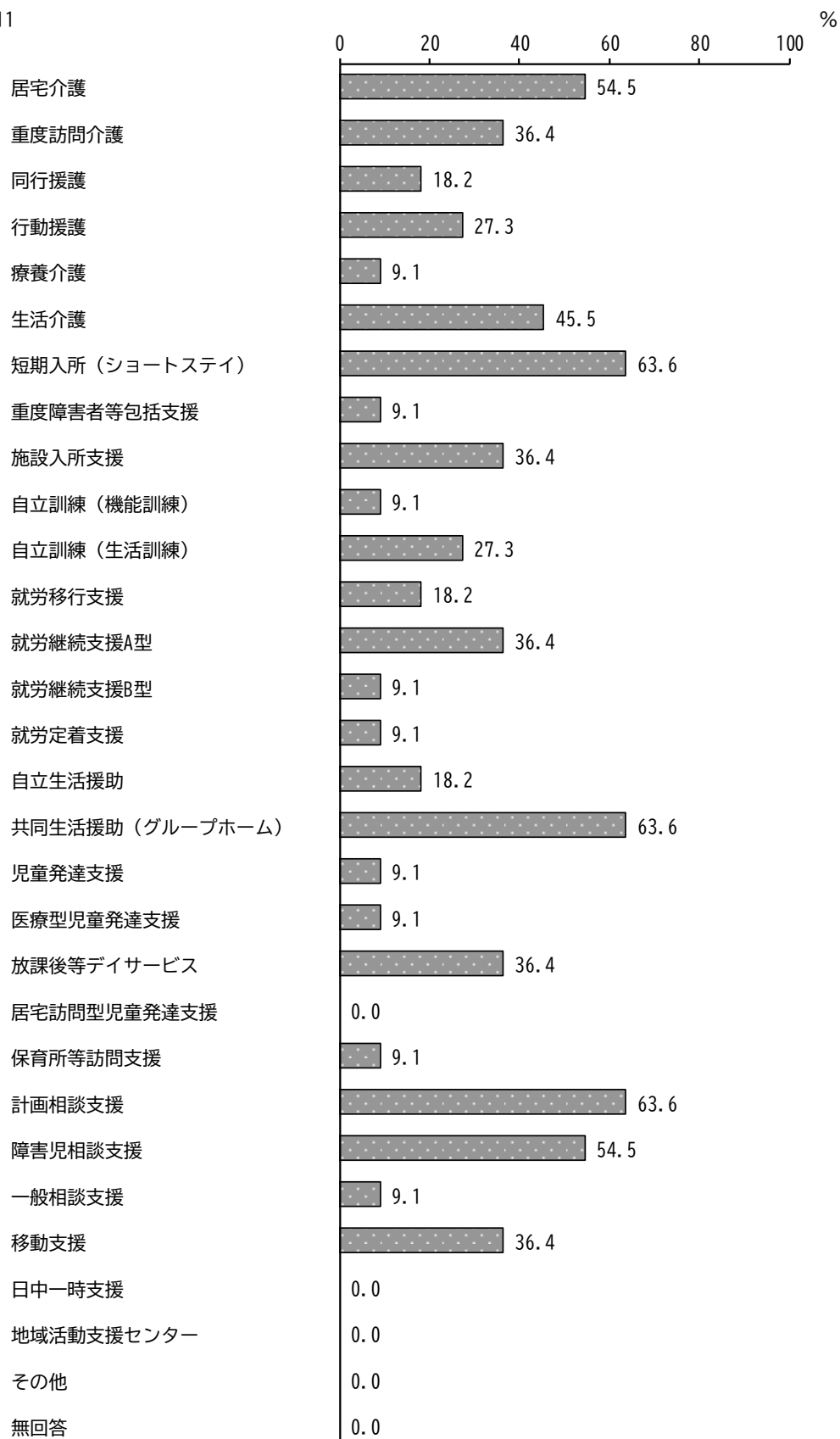
「大人のみ」の割合が 9.1%、「児童のみ」の割合が 27.3%、「大人・児童」の割合が 63.6%となっています。



②浦安市で不足している障がい福祉サービスについてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

「短期入所(ショートステイ)」、「共同生活援助(グループホーム)」、「計画相談支援」の割合が63.6%と最も高くなっています。

回答者数 = 11



## (10) 自由意見

### 問 13 自由意見

その他（浦安市の障がい者福祉に関する施策や、障がい福祉サービスを提供するあたり、ご意見・お考え等をお書きください）

（書ききれない場合は、事業所名を記載の上、別紙でご提出ください）

項目	件数
1. 浦安市の障がい福祉の現状と施策について	15
2. 今後の希望について	10
3. 事業所同士のつながりについて	1
4. 施策の経営状況について	1
合計	27

頂いたご意見を項目ごとに整理して、主な意見を以下に示します。

#### 1. 浦安市の障がい福祉の現状と施策について（15件）

- ・重度障がいの方を預かる場合、単価を上げないと経営が厳しくなると思う。軽度の方に比べ、人員配置が多くなるのでそもそもお預りが出来なくなってしまふ。
- ・日中一時に関しては他市より使いやすく利用者の皆様にとってはよいことだと思います。子どもの利用は保護者のもと使いやすいように使えますが、18歳以上の障がい者の方々の余暇や外出（一人ひとりを支える意味で）などが本当に必要な人たち（障がい程度区分の重い方たち）に届いていない気がしてなりません。現在のいろんな事業所でどのような状況か又一人の利用時間カウントの案も昨年度末に出ていたりしましたが、本来の提供の仕方になっているのかなどをヒアリングしておさえておくべきだと思います。障がいのある方々にとって、必要なサービスが必要な人に届いていないのはとても困ることだと思います。身体の方のGHもまだできませんし、この先、地域で重い障がいの人が生きていくすべが見つからず困っている人もたくさんいます。
- ・計画相談のサービス実施がかなりバラバラなので、スタンダードなすすめ方を市の方と他事業所で共有してもらえるとありがたい。
- ・日中一時支援事業に関する改定を今後していくにあたり、限りある資源や予算の中で、必要な削減を実施していくことは理解できるが、浦安市の大きな特徴であったり強みであることから他市と数字上の比較のみで判断するのではなく利用状況や、各事業所の運営実態を踏まえて改定を進めていただきたい。
- ・発達障がいのある児童が就学してから不登校にならないように保育所等訪問支援をする事業所が増えてほしいと思います。また、小学校も訪問員を受け入れて共有し、いっしょに考えていくような制度があると不登校や行き渋りがなくなるのではないかと思います。浦安市は保育所等訪問支援をやっている事業所が少ないと思います
- ・保護者の方や障がいをお持ちの方が個別に見学や問い合わせをして来てくださいます。浦安市内の事業所ブース説明会のような、書面だけでなく個別で直接お話しできるようなイベントがあれば、保護者の方も障がいのある方も沢山の事業所を知り、どんな福祉サービスがどんな利用料金で使えるか知るきっかけ作りになる機会があるといいと感じている。

- ・どんな子どもたちでも安心して学校に通える、学べる、環境を整えていただきたい。
- ・精神障がいの方へのサポートに関して、地域活動支援センターに来れなくても、「ここに電話すれば〇〇さん(相談員を支援員)がいる」と思っていただけの存在でありつづけることが大切だと考えています。又、就労やA型事業所への通所が決まった方も、うまくいかず、戻る場所としての機能も持っていると感じています。もちろん、うまくいったことを報告でき、喜びをわかちあうことで、安定して、ご自身の人生を歩んでいただけるよう、文字通り「ソーシャルサポートセンター」は、意義ある事業だと感じております。
- ・発達センターが3ヵ月待ちと聞いています。療育を始められず不安のまま過ごすご家庭もいます。民間としてお手伝いできることは何かといつも考えています(居場所提供 親子活動実施)。ただ財源の問題から制度前の支援の必要性を感じつつも拡大できない現状です。また、市内に発達外来新規受け入れ病院がないことも課題と感じています。
- ・浦安市は委託相談支援事業所という素晴らしい政策をしているが、具体的に同事業所が機能しているかという点で、例えば基幹相談支援センターは「割り振り」をしたケースのフォローをどのようにできているかをモニタリングする必要があると、委託相談支援事業所については相談支援事業所のみならずヘルパーさんやA型B型の支援員さんへの相談支援スキルを伝えて、現場の相談支援力を高めるために貢献すべきであり、この点は仕様書上の今後の書き方に期待したいところである。
- ・「相談」や「支援」とはどういうことなのかを考えることから始める浦安市の障がい福祉行政であってほしい。セルフプラン率を低下させるためのひとつの方策として、相談という、障がいある当事者の主体的な希望に着目し、意思決定支援を最重要課題とすべきと考える。具体的には、ユーザーの皆さんへ「相談は、代理人弁護士への依頼のようなものではなく、いま、あなたが何を希望していて、または訳が分からないなかで、どうしたいかという悩みがあるとしたら、その解決をする役割ではなく、私たち相談員は、あなたと一緒に考えていく立場です」という相談という言葉の定義を、しっかり伝えていくことから始める必要があると考えている。この定義づけが相談員や各事業所の支援員に共通感覚として入ると、相談支援と呼ばれる領域において支援困難を迎える機会は少なくなるのではないかと想像する。支援困難ケースとは、相談員による何か「こうあってほしい」という価値観の押し付けや、「このサービスが必要」と助言のうえ利用することとなった、そのコーディネートが、当事者にとって本当に必要なことであったのかが問われる内容が多いと想像するからである。意思決定支援を試行錯誤することから始める必要があると考え、このような趣旨で相談支援部会が自立支援協議会で設けられていることから始めることも提案する。
- ・視覚障がいの自立支援協議会本会の参加者の、自立支援協議会の資料の音読のボランティアを本業とは別に行っているが、その当事者からは主張しても何も変わらないという諦めの言葉が絶えないでいる事実は知ってもらいたい。部会をとにかく多く持ち、その部会で参加者の憤りや希望が多く表現され、市に提言されるようになることが必要ではないかと考える。
- ・通所事業所では健康診断は必須ではありませんが、年1回の事業所での健診実施は早期発見や健康維持には役立っていると感じている。市内の障がいのある方の検診の受診があまりできていない状況があれば、受診率を上げる対策なども考える必要があるのではないかと。
- ・福祉避難所開設訓練を実施する中で、要支援者の個別避難計画の活用方法などについてはあまり検証できていないので今後の課題の一つと考えています。
- ・特に医療的ケアの必要な方や強度行動障がいのある方については、障がい者グループホームで難しい場合は市外の施設に入居することも多い。安心して安全で永続的に住み慣れた地域の中で生活するために、「市内に障がい者支援施設を」という声があった場合には、引き続き市としてご検討いただければと思います。

## 2. 今後の希望について（10件）

- ・新規出店に向けてのサポート（物件情報、補助金、人材などの）があるととてもありがたいです。
- ・福祉まつりを復活させてほしい。A型で作成した物の物販の場を提供してもらいたい。
- ・子どもたちがすごしやすいように市のサポートが手厚く助かっております。子どもたちの利用数（希望数）に受け入れ数が間に合っていないです。開業にあたってサポートがあるとありがたいです。
- ・移動支援事業のご依頼で、通所先から自宅等の片道での対応をお願いされることが多々ありますが、利用者を送り終えた後歩いて自転車を取りに行くなど、拘束される時間が発生するため受け入れしにくい実情があります。バス代を頂けるか相談をしましたが、生活が苦しく難しいと言われたことがあります。難しいのは重々承知ですか、交通費の補助などを検討いただけますと幸いです。
- ・障がい者の親が高齢になっている事が多く、親がいなくなっからの生活を考えていないケースがとて多くあります。親も、本人も、今後の事を受けとめずに、その話から目をそらす事が見受けられる現状があります。介護職にすべてを転嫁させる家族がいるのも事実です。私たち介護職は人であって、物ではありません。心があるからこそこの仕事を担っており、対等な立場で接する事が出来ない事こそが、介護職の定着に結びつかない原因だと思います。給与が高くても、心をすり減らして長く働きたいと思えないのがこの介護業界の衰退に繋がっていると考えます。代表社員と兼務して私も介護の現場で身を投じており、介護に明るい希望がなければ会社を解散する選択も考えておりますので、国や行政からのバックアップを切に望みます。
- ・さらに質の高いサービスを提供し、利用者が成長できる時間にできるように努めて参ります。
- ・放デイの無償化についてはあまりよい結果とは思わない。療育を提供する場であるはずが保護者があまり“よいわるい”、内容の詳細、我が子にあっていかなどを検討せず、いろんなところを利用する（送迎つきであれば放課後に行く場所として）傾向が見られる。どこをいくつ使ってもお金がかからない、ということが厳選して事業所を選ぶ意識を低下させ、療育効果を期待しての放デイのほが少しずつ違う方向に行っている気がする。国が共生社会を目指す中、制度が充実すればするほど分離がすすみある意味では逆行しているように思える。そのような中、どのような事業展開をしていけば目指す社会に近づけるか考え実施していきたい。
- ・計画相談支援・障害児相談支援は利用したい方のニーズは増え続ける一方、報酬単価は相談支援専門員に正職員を配置することを躊躇する金額であり、浦安市の補助金が無かったとしたら非常勤の人員費の確保も難しく、アルバイトやパートで事業所の人員を賄うという事態になり、その最低限を同補助金で穴埋めしていることは、非常に意義があると考えます。報酬単価という政策が原因のため、相談支援事業所を増やしたり、相談支援専門員を増やすことだけで、今後のニーズの増加に対応できるとは考えづらく、ひとつの対策としては、基幹相談支援センターと委託相談支援事業所による、フォロー体制をより明確にしていくことと考える。そのために、あえて、サービス等利用計画を作成する場合に、その利用サービスの中に、必ず、基幹相談支援センターや委託相談支援事業所の各障害種別に応じた事業所名が書かれるようになると、相談支援専門員だけでなく、利用する各事業所へのスーパーヴィジョンの立場として支援体制に厚みがまし、相談支援専門員へのモチベーションの維持を保つことができるのではないかと考えている。
- ・住宅補助について、正職員に限るという点は、事業所の正職員を増やしてほしいという趣旨と考えているが、これは事業所の経営方針による任意にゆだねられることであり、例えば相談支援事業所の相談支援専門員は非常勤の人員費にしか収入を見込めない制度設計となっていることなど、実態として正職員を増やすことは事業所として慎重にならざるを得ないと考えている。例えば、非常勤職員で補助金の年数は限るとしても、非常勤だが週5で月160時間勤務であればこの補助金の対象にすると、この職員は毎月の収入があがり、家賃補助として家計が助かることで、仕事へのモチベーション

があがることになるのでは、という想像をしたくなる。相談支援専門員への補助金については、職員の人件費が上がることで常に収支が赤字という経営状況となることで、補助金は満額の支給が受けられる仕組みとなっており、こちらも正職員を目指してもらいたいという趣旨と考えているが、上記住宅補助と同様、経営判断は事業所の任意であるため、例えば「件数はこれくらいに保つことで、非常勤のAさんの給料と補助金とあわせて収支がプラスマイナスゼロとなることで問題ない」という経営方針となると、新規受任は見込めなくなる一方で、このAさんは非常勤としての立場を維持されることとなる。これも一つの案だが、例えば、機能強化型加算Ⅲ型以上を申請している事業所に限り、この補助金を出すということにしたなら、まずこの加算により収入が増加し、さらに補助金対象となるということとなると、非常勤の方の昇給がかなうかは経営判断なのでわからないが、この加算への各事業所のモチベーションは高まるが、結果として補助金の申請額は減少していく可能性があると考えている。現状の相談支援専門員への補助金は、決して新規受任件数増加の結果を出す方策にはなっていないので、あらためて、新規受任件数を増やしていけるための補助金制度を検討してもらいたい。

- ・東野パティオ周辺には、バス停留所もあり地域共生の一環としても素晴らしいと考えているが、公共交通機関利用が難しい重度の方が通っている場所でもある。東野では通所施設の事業所が固まっているので、送迎の合同運行などができると、各事業所の送迎に関わる委託料や人件費等を減らすことができる。また、送迎の有無での通所先選択をする場合もあると思われるが、よりご本人にあった事業所選択につながることもあるのではないのでしょうか。

### 3. 事業所同士のつながりについて（1件）

- ・基幹相談支援センターと委託相談支援事業所の連携の件、基幹相談支援センターの方針として、新規で受任した方を、各委託相談支援事業所に振り分けていくことについては、例えば各社会資源が委託相談支援事業所を知っているのであれば、基幹に連絡せずにその委託相談支援事業所に連絡するようになり、結果的に基幹を通す必要がなくなるのではないかと考える。現在も、精神科入院治療をする病院との連携を強めており、基幹を通さずに新規患者の件で直接連絡を受けようになっている。また、基幹から引き受けた件について、基幹からの「その後どうですか」の連絡はほぼ無い。もちろん、問題ないのでこちらから基幹に連絡もしていないケースがほとんどだが、ご本人が支援拒否などでこちらが何も手段がとれなくなってきたとしても、基幹にその件を連絡して、「それは大変なのでぜひこちらなりに考えますね」という温かい対応をしてもらえとは思えない、普段の基幹の職員の言動があると認識している。

### 4. 施策の経営状況について（1件）

- ・人材を応募しても応募がない。民間の紹介会社だと紹介料が高額で、運よくマッチしても1年程度で辞めてしまう。

# IV アンケート調査票

## 1 障がい福祉に関するアンケート調査

### しょうがいふくしかん 障がい福祉に関する アンケート調査

#### 一 ご協力をお願い

白頭より、浦安市の障がい福祉行政の推進にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。  
浦安市では、市が取り組むべき障がい者施策の基本的な方向を定める「浦安市障がい者福祉計画（令和9年度～令和11年度）」策定の準備をしています。  
その一環として、計画づくりの基礎資料とするため、障がいのある方の生活の状況やご意見、お考えをうかがうアンケート調査を実施することになりました。  
ご回答いただいた調査票は、すべて統計的に処理し、あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありません。このアンケートを、浦安市の障がい福祉施策の充実に活かしていきたいと思っておりますので、ぜひ、ご協力をお願いします。

#### 一 ご記入にあたってのお願い

- このアンケートは、令和7年9月末時点で浦安市に住所がある身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、難病等の診断を受け福祉サービスの利用の認定を受けている方の中から無作為に抽出した方々にお願いしています。
- 回答は、宛名のご本人が記入してください。ご本人が回答を記入できない場合は、ご家族や介助者の方が、ご本人の意思や考えを聞き取るなどして記入してください。
- 質問には、回答していただく方が限られる場合がありますので、説明書きに注意してください。
- このアンケートの結果は、報告書として冊子にし、市ホームページでも公開します。
- ご不明な点がありましたら、障がい事業課までお問い合わせください。
- アンケートの記入が終わりましたら、返信用封筒に入れ（切手は不要）、**令和7年12月22日（月）まで**に郵便ポストに投函してください。
- インターネットによる回答も受け付けております。  
右の二次元コードを読み込むか、下記のURLにアクセスし、入力してください。



URL : <https://www15.webcas.net/form/pub/websurvey/urayasutou>

インターネットでご回答いただく場合は、調査票の返送は不要です。

【お問い合わせ先】浦安市役所 障がい事業課

電話 047-712-6398（直通） ファクス：047-355-1294

Eメール：shougaiigyoku@city.urayasu.lg.jp

この調査票を記入していただいたのはどなたですか。（1.つに〇）

- 本人
- 本人以外の家族が本人の意思等を聞いて代筆
- 福祉サービス事業所等の介助者が本人の意思等を聞いて代筆
- 家族、介助者が本人の意思等をくみ取り記入
- その他

### 1 基礎的事項

問1 あなたの年齢（令和7年12月1日現在）をお答えください。（記入）

歳

問2 お持ちの手帳や、認定・診断を受けている状況をお答えください。  
また、手帳をお持ちの場合は、種類と等級をお答えください。

（あてはまるものすべてに〇をつけて記入）

- 身体障害者手帳..... 級
- 療育手帳..... [  ] Aの1 Aの2 Bの1 Bの2 ]
- 精神障害者保健福祉手帳..... [ 1級 2級 3級 ]
- 難病（特定疾病）の認定
- 精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断
- その他

問2で「1. 身体障害者手帳」と答えた方におたずねします。

問2-1 障がいの種類はどれにあてはまりますか。（あてはまるものすべてに〇）

- 視覚障がい
- 聴覚障がい
- 平衡機能障がい
- 音声・言語・そしゃく機能障がい
- 肢体不自由
- 内部障がい
- その他

問3 あなたは、日常的に必要な医療的ケアを受けていますか。(1つに○)

1. 受けている      2. 受けていない

問3で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

問3-1 あなたが現在受けている医療的ケア、または医療的ケアの種類は次のどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 人工呼吸器  
2. 吸引  
3. 吸入・ネブライザー  
4. 経管栄養  
5. 導尿  
6. 人工肛門  
7. 酸素療法  
8. 人工透析  
9. 中心静脈栄養  
10. その他( )

問4 あなたが現在の生活をしていくうえで主な収入は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 本人の給料・賞金  
2. 本人の自営収入  
3. 本人の年金・手当・恩給  
4. 本人の財産からの収入(家賃・利子等)  
5. 親の収入  
6. 配偶者(夫・妻)の収入  
7. 子どもの収入  
8. 生活保護費  
9. その他( )

問5 あなたの収入を管理しているのは、誰ですか。(主なもの1つに○)

1. 本人  
2. 家族  
3. 親戚  
4. 後見人  
5. その他( )

2. 福祉サービス等について

問6 あなたは障がい福祉サービス・制度を利用していますか。(1つに○)

1. 利用している      2. 過去に利用していたが、現在は利用していない      3. 利用していない

問6で「1. 利用している」と答えた方におたずねします。

問6-1 現在、どの障がい福祉サービス・制度を利用していますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 障がい者手当      15. 就労移行支援  
2. 障がい年金      16. 就労継続支援A型  
3. ハス・鉄道等運賃助成      17. 就労継続支援B型  
4. 医療費助成      18. 就労定着支援  
5. 補装具・日常生活用具給付      19. 就労選択支援  
6. 居宅介護      20. 自立生活援助  
7. 重度訪問介護      21. 共同生活援助(グループホーム)  
8. 同行支援      22. 児童発達支援  
9. 行動支援      23. 放課後等デイサービス  
10. 療養介護      24. 保育所等訪問支援  
11. 生活介護      25. 移動支援  
12. 短期入所      26. 日中一時支援  
13. 施設入所      27. 地域活動支援センター  
14. 自立訓練      28. その他( )

問6で「1. 利用している」と答えた方におたずねします。

問6-2 利用しているサービス・制度名の番号(問6-1で選んだ番号)について、ご意見があれば教えてください。(任意記入)

サービス・制度名の番号	意見
例：( 3 )	公共交通機関を利用するときに、手帳とICカードを両方提示しなければならず、不便である。
( )	
( )	
( )	

問6で「2. 過去に利用していたが、現在は利用していない」または「3. 利用していない」と答えた方におたずねします。

問6-3 サービスを利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 必要ではない
2. 自分に合ったサービスがない
3. サービスの内容や相談先がわからない
4. サービスの利用料が高い
5. 利用のための手続きが面倒
6. 事業者とのサービス調整が大変
7. 自分の希望日時に利用できない
8. 支援体制の対応が悪いから
9. 他人と関わりたくない
10. 介護保険制度に移行したから
11. その他( )

該当する方のおたずねします。

問7 現在、以下のサービス利用を希望しているが、事業所に空きがなく、利用できないもしくは利用に制限がありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 居宅介護
2. 重度訪問介護
3. 同行援護
4. 行動援護
5. 療養介護
6. 生活介護
7. 短期入所
8. 施設入所
9. 自立訓練
10. 就労移行支援
11. 就労継続支援A型
12. 就労継続支援B型
13. 就労定着支援
14. 就労選択支援
15. 自立生活援助
16. 共同生活援助(グループホーム)
17. 児童発達支援
18. 放課後等デイサービス
19. 保育所等訪問支援
20. 移動支援
21. 日中一時支援
22. 地域活動支援センター
23. その他( )

### 3 生活の場について

問8 あなたは現在、どこで暮らしていますか。(主なもの1つに○)

1. 持ち家(戸建て、分譲マンション等)
2. 民間賃貸住宅(戸建て、賃貸アパート・マンション等)
3. 公営住宅(原宿住宅、市営住宅等)
4. 社宅、会社の寮
5. グループホーム(介護や支援、見守りがある少人数の共同生活)
6. 病院に入院
7. 障がい者・障がい児の福祉施設に入所
8. 介護保険施設(特別養護老人ホーム等)に入所
9. その他( )

問9 いっしょに住んでいる方はいますか。(1つに○)

1. いる
2. いない

問9で「1. いる」と答えた方におたずねします。

問9-1 いっしょに住んでいる方は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 父親
2. 母親
3. 配偶者(夫・妻)
4. パートナー
5. 子ども
6. 兄弟姉妹
7. 祖父・祖母
8. その他の親族
9. 友人
10. その他( )

問10 あなた、身の周りの介助をしてくれるのは誰ですか。(主なもの1つに○)

1. 父親
2. 母親
3. 配偶者(夫・妻)
4. パートナー
5. 子ども
6. 兄弟姉妹
7. 祖父・祖母
8. その他の親族
9. 友人
10. サービス事業者
11. その他( )
12. 介助を受けていない

問10で「1」～「8」と答えた方におたずねします。

問10-1 その方の年齢についてお答えください。(1つに○)

1. 20歳未満
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60歳～64歳
7. 65歳～74歳
8. 75歳以上
9. わからない

問11 あなたは、今後（将来）どのような暮らしを希望していますか。（1つに○）

1. ひとりの暮らし
2. 配偶者やパートナー、子どもとの暮らし
3. 親との暮らし
4. 兄弟等との暮らし
5. グループホーム（介護や支援、見守りがある少人数の共同生活）での暮らし
6. 施設等、大勢の人と一緒に暮らし
7. 友人とのルームシェア
8. その他（ ）

問11で「5. グループホーム」と答えた方におたずねします。

問11-1 どのようなグループホームで暮らしたいと思っていますか。

（主なもの3つまでに○）

1. 入居費用が安い
2. 駅・バス停から近い
3. 建物・設備がバリアフリーになっている
4. 困った時に相談できる
5. 医療職と連携している
6. 他の入居者と交流できる
7. 居室・トイレ・風呂等が自分専用である
8. 将来一人で暮らすための支援をしてくれる
9. 24時間支援員がいる
10. 食事が充実している
11. その他（ ）

問11で「5. グループホーム」と答えた方におたずねします。

問11-2 入居を希望するグループホームの場所はどこですか。

それぞれの項目（1～3）について、【可・不可】のどちらかに○をつけてください。2で「可」を選んだ方は（ km圏内）についてご記入ください。

1. 市内のグループホーム 【 可 ・ 不可 】
2. 市外のグループホーム 【 可 ・ 不可 】  
「可」を選んだ方→（具体的に： km圏内）  
※距離の参考： 10km圏内（市川市、船橋市、江戸川区、江東区など）  
30km圏内（千葉市、柏市、川崎市、東京23区など）  
100km圏内（館山市、小田原市、秩父市、水戸市など）
3. どの場所のグループホームでもよい【 可 ・ 不可 】

問11で「5. グループホーム」と答えた方におたずねします。

問11-3 入居の時期はいつ頃を考慮していますか（1つに○）

1. すぐに入居している
2. すぐに入居したい
3. 1年以内に入居したい
4. 2～3年以内に入居したい
5. 4～5年以内に入居したい
6. 6～10年以内に入居したい
7. 11～20年以内に入居したい
8. 具体的な時期は考えていない
9. 同居の家族が転出もしくは亡くなったとき
10. その他（ ）

問11-3で「2. すぐに入居したい」と答えた方におたずねします。

問11-4 入居に至らない理由は何か（あてはまるものすべてに○）

1. 支払える家賃のグループホームがない
2. 通所している事業所の近くにグループホームがない
3. 建物がバリアフリーになっていない
4. 医療的ケアに対応していない
5. 世話人からの支援体制が不安のため
6. 個室で過ごせるグループホームがない
7. 建物の大きさや部屋が狭いなど設備面で希望するグループホームがない
8. 自分の障がい特性に合ったグループホームがない
9. その他（ ）

問12 今後(将来)の暮らしについて、課題または不安だと思われることは何ですか。  
(主なもの3つまでに○)

1. 同居者、支援者、近隣住人との人間関係
2. 日常的な生活面(食事や掃除等)のフォロー
3. 日常的な相談面のフォロー
4. 緊急時の対応
5. 通所施設や病院等への送迎
6. 障がい特性に応じた専門的な支援
7. 建物の設備・構造(バリアフリー等)
8. 健康管理・相談(服薬管理を含む)
9. 生活費等の金銭面
10. プライベートな空間
11. 入浴、排せつ介助等の身体的介助
12. 医療的ケア(人工呼吸器・吸引・吸入・経管栄養等)
13. 定期的に訪問し、生活に対する助言や他機関との連絡調整をしてくれるサービス(自立生活援助)
14. 同居する家族が亡くなった後の生活
15. 就労の継続
16. その他( )
17. 特にない

次の質問は、宛名ご本人の年齢により、回答いただく内容が異なります。

**本人が15歳以上**  
(職務教育修了後)の場合



9ページの問13「4-1 日中活動の場(15歳以上(職務教育修了後)の方)」に進んでください。

**本人が15歳未満**  
(職務教育修了前)の場合



13ページの問16「4-2 日中活動の場(15歳未満(職務教育修了前)の方)」に進んでください。

4-1 日中活動の場について(15歳以上(職務教育修了後)の方)

問13 平日の昼間、どのように過ごしていますか。(主なもの1つに○)

1. 学校に通っている
2. 働いている(民間企業や自営業、就労訓練、福祉的就労等)
3. 施設や病院等に通って訓練や介護を受けている(機能訓練・生活訓練等)
4. 自宅で過ごしている(就学や就労はしていない)
5. 医療機関や福祉施設等に入院・入所している
6. その他( )

問13で「2. 働いている」と答えた方におたずねします。

問13-1 どのように働いていますか。(主なもの1つに○)

1. 企業等で正社員・正職員
2. 企業等で臨時、アルバイト、パート
3. 自営業・会社を経営
4. 就労継続支援や就労移行支援、生活介護を利用
5. 地域活動支援センターを利用
6. その他( )

問13で「2. 働いている」と答えた方におたずねします。

問13-2 主にどこで働いていますか。(主なもの1つに○)

1. 通勤して、企業等の社内で働いている
2. 自宅等で働いている(在宅ワーク等)
3. 企業等から指定された場所(現場等)で働いている
4. その他( )

11ページの問13-3に進んでください。

**問13 「4. 自宅で過ごしている」と答えた方におたずねします。**

問13-3 就学や就労をしていない理由は何ですか。(主なもの3つまでに○)

1. 障がい重い、または病弱のため
2. 高齢のため
3. 働くところがみつからないため
4. 働くための就労支援がないため
5. 賃金が低い等労働条件が悪いため
6. 求人に対して自分のやりたい仕事がないため
7. 過去の就職活動や就労で困ったことがある、働くことが不安なため
8. 通学・通勤が困難なため
9. 進学・就職ができないため
10. 家族等の家事・育児・介護をする必要があるため
11. 学校・職場の人間関係が上手くいかないため
12. 働きたくないため
13. 働く必要がないため
14. 自分に必要な介助が受けられないため
15. その他 ( )

問14 あなたは今後(将来)働くことを希望しますか。(1つに○)

1. 働きたい
2. 働きたくない
3. 働きたいが働けない
4. わからない
5. その他 ( )

**問14 で「1. 働きたい」と答えた方におたずねします。**

問14-1 どのように働きたいですか。(1つに○)

1. 企業等で正社員・正職員
2. 企業等で臨時、アルバイト、パート
3. 自営業・会社を経営
4. 就労継続支援や就労移行支援、生活介護を利用
5. 地域活動支援センターを利用
6. その他 ( )

**問14 で「1. 働きたい」と答えた方におたずねします。**

問14-2 どの場所で働きたいですか。(主なもの1つに○)

1. 通勤して、企業等の社内で働きたい
2. 自宅等で働きたい(在宅ワーク等)
3. 企業等から指定された場所(現場等)で働きたい
4. その他 ( )

問15 あなたが働くためには何が必要ですか。(主なもの3つまでに○)

1. 通勤手段があること
2. 障がいに合った仕事であること
3. 勤務時間や日数を調整できること
4. 自宅で仕事ができること
5. 障がい者用の設備が整っていること
6. 通勤休職や時差出勤の適用等、通称に配慮されていること
7. 賃金が妥当であること
8. 周囲が障がいに対して理解があること
9. 就労のための職業訓練(就労移行支援等)が充実すること
10. ショプコー手(職場適応援助者)等の職場に慣れるまでの支援があること
11. 就労のための相談、支援機関が充実すること
12. 就労後の相談が充実すること
13. その他 ( )
14. 特になし



14 ページの間18「5 趣味、地域活動」に進んでください。

本人が15歳未満の方におうかがいします

4-2 日中活動の場について（15歳未満（義務教育修了前）の方）

問16 平日の昼間、どのように過ごしていますか。（あてはまるものに○）

1. 幼稚園・保育所（園）・認定こども園
2. 小・中学校の通常学級
3. 小・中学校の特別支援学級
4. 特別支援学校・小・中学校
5. 福祉サービス事業所
6. その他（ ）
7. どこにも通っていない

問17 将来の仕事や、学校を卒業した後の生活のために、学齢期（小学校・中学校）に必要だと思う支援は何ですか。（主なもの3つまでに○）

1. 障がい特性に合った養育支援や課題に合った学習支援
2. 職場体験や実習の場等の就労を身構えた支援
3. 円滑な人間関係を維持するための支援
4. 買い物などの外出や生活全般について、福祉サービスの活用方法を学ぶ機会
5. 心身の健康管理
6. 仲間・友人づくり
7. 安全な消費生活を営むための支援
8. 自分で意思決定を行い、その意思を伝えるための支援
9. その他（ ）
10. わからない

すべての方におうかがいします

5 趣味、地域活動について

問18 あなたは現在、趣味として、文化・芸術活動（音楽・絵画・工芸等）やスポーツ、レクリエーション活動、地域活動等をしていますか。（1つに○）

1. よく参加する
2. 時々参加する
3. ほとんど参加しない

問18で「3. ほとんど参加しない」と答えた方におたずねします。

問18-1 その理由は何ですか。（主なもの3つまでに○）

1. 興味があるものがない
2. 参加できる活動がない（活動内容が障がい者に配慮されていない）
3. どのような活動があるかわからない
4. 活動の参加の仕方がわからない
5. 声かけや勧誘がない
6. 活動の場所が障がい者用の設備として整っていない
7. 活動の場所までの移動が大変
8. 移動やコミュニケーション支援を行う人がいない
9. 活動に参加するのが不安
10. 家族等の理解が得られない（参加することに反対する）
11. 経済的に余裕がない
12. 健康状態、障がいの状況のため
13. その他（ ）

問19 今後、やってみたい活動はありますか。（主なもの3つまでに○）

1. 文化・芸術活動（音楽・絵画・工芸等）
2. スポーツ・レクリエーション活動
3. 習い事やサークル等の活動
4. 障がい福祉団体等の活動
5. パソコン等を使った活動
6. 地域の行事や集まり、お祭り
7. ボランティア活動等
8. 旅行や外出
9. その他（ ）
10. 特にない

## 6 外出・移動手段について

問20 外出するときの主な移動手段は何ですか。(主なもの3つまでに○)

1. 徒歩
2. 自転車
3. バイク
4. バス
5. おさんぽバス
6. 電車
7. 本人運転の自動車
8. 家族運転の自動車
9. タクシー
10. リフト付きタクシー (介護タクシー)
11. 施設や病院等の送迎車
12. その他 ( )
13. 外出しない (できない)

問20で「13. 外出しない (できない)」と答えた方におたずねします。

問20-1 外出のためには、何が必要ですか。(主なもの3つまでに○)

1. 道沿の段差解消や歩道整備
2. 建物内へのスロープやエレベーターの設置
3. 多機能トイレの設置
4. 視覚障がい者誘導用ブロックの設置
5. 音響式信号機の設置
6. 公共交通機関の補助
7. 障がい者用駐車場の整備
8. リフト付き・ノンステップバスの運行
9. 外出時の介助者 (ガイドヘルパーを含む)
10. 外出に関連した情報
11. 困った時の支援
12. 障がいのある方への理解
13. その他 ( )
14. 特になし

## 7 悩み・相談ごと等について

問21 あなたは相談ののってらっている人がいますか。(1つに○)

1. いる ⇒ 問21-1、問21-3ハ
2. いない ⇒ 問21-2、問21-3ハ
3. 悩みや相談したいことはない ⇒ 問22ハ

問21で「1. いる」と答えた方におたずねします。

問21-1 あなたが主に相談ののってらっている人や機関をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

1. 行政機関 (市役所、警察、消防等)
2. 福祉サービスを提供している事業者や福祉施設 (障がい福祉サービス事業所、介護保険事業所、ケアマネジャー等)
3. 医療機関 (医師、歯科医師、薬剤師等)
4. 教育機関 (学校等)
5. 基幹相談支援センター
6. 地域包括支援センター (ともつな)
7. 障がい者相談支援事業所
8. 社会福祉協議会
9. 障がい者団体
10. 民生委員・児童委員 ※1
11. 身体障害者相談員・知的障害者相談員 ※2
12. 家族
13. 友人・知人
14. 権利擁護センター
15. その他 ( )

※1 地域社会の中で、社会奉仕の精神をもって、障がいのある方をはじめ、子どもから高齢者までの福祉のよき相談相手としてきめ細かな指導・助言にあたっています。  
(お近くの民生委員の連絡先等は、市役所社会福祉課TEL351-111ハ)

※2 身体障がい者ご本人や、知的障がい者の教育経験がある方等、同じ立場の人が、生活上のさまざまな相談に耐じ、公的機関等とのパイプ役になります。  
(連絡先は、市役所障がい事業課TEL712-6397ハ)

問21で「2. いない」と答えた方におたずねします。

問21-2 その理由は何か。(1つに○)

1. どこに相談したら良いかわからない
2. 近所に相談できる場や人がいない
3. 気軽に相談できる場や人がいない
4. 夜間・休日に相談できる場や人がいない
5. 専門的な相談窓口が不足している
6. コミュニケーションの支援(手話、要約筆記等)が十分でない
7. その他( )

問21で「1. いる」または「2. いない」と答えた方におたずねします。

問21-3 現状、あなたの悩んでいることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障がいのこと
2. 障がい福祉サービスのこと
3. 健康・病氣・治療のこと
4. 年金や生活費や金銭管理のこと
5. 自らの介助・介護のこと
6. 家族の介助・介護のこと
7. 家事(炊事・掃除・洗濯)のこと
8. 住まいのこと
9. 外出・移動のこと
10. 就学・進学のこと
11. 仕事や就職のこと
12. 防犯・災害時のこと
13. 普段の話し相手がいらないこと
14. 家族のこと
15. 異性・恋愛・結婚のこと
16. 人間関係のこと
17. 将来のこと
18. その他( )

問22 普段、情報はどのように収集していますか。(主なもの3つまでに○)

1. テレビ・ラジオ
2. 新聞・雑誌・フリーペーパー
3. 浦安市のホームページ、インターネット
4. 動画配信サイト(YouTube等)
5. 電子メール
6. SNS(ツイッター、フェイスブック等)
7. 浦安市の広報紙(広報うらやす)
8. 家族・友人・知人
9. 市の窓口、市・学校等からのお知らせ
10. 相談支援事業所職員、ヘルパー等
11. 民生委員・児童委員、地域の集まり
12. 医療機関
13. その他( )
14. 特に入手する手段がない

8 災害時の備えについて

問23 災害(地震や水害等)に備えて準備をしていますか。(1つに○)

1. 準備をしている
2. 準備をしていない
3. 準備をすることができない

問23で「1. 準備をしている」と答えた方におたずねします。

問23-1 具体的に準備をしていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 食料・飲料水を備蓄している
2. 蓄電池(発電機)等の備品を備蓄している
3. 避難方法・避難場所を決めている
4. 災害時の連絡先・連絡方法を求めている
5. 避難訓練に参加している
6. 個別避難計画を作成している
7. その他( )

※ 個別避難計画とは、災害時に避難行動が困難な高齢者や障がい者などの「避難行動要支援者」がスムーズに避難できるように、あらかじめ「避難先」、「避難経路」、「避難する時」などのような配慮が必要になるか」等を記載した個別の避難行動計画のことです。

<作成対象者>

身体障害者手帳1級・2級の方、療育手帳またはAの方、  
精神障害者保健福祉手帳1級の方、市の生活支援を受けている難病患者、  
市の生活支援を受けている小児慢性特定疾病児童、要介護認定1～5までに該当する方、  
高齢者のみの世帯の方(75歳以上)、  
上記に準じる状態にある地域による支援が必要と認められる方

問23で「2. 準備をしていない」または「3. 準備をすることができない」と答えた方におたずねします。

問23-2 その理由は何か。(あてはまるものすべてに○)

1. 何を準備すればいいかわからない
2. 忙しくて時間がない
3. 金銭的な余裕がない
4. 考えたことがない
5. その他( )

問24 災害が発生した場合、困ることも不安なことはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

1. 災害の発生や被災状況を知る方法
2. 近くに助けてくれる人がいない
3. 薬や医療的ケア（人工呼吸器や吸引器等）が受けられるかどうか
4. 自宅で避難したいが、水や食料が入り手できるかどうか
5. 避難所に避難したいが、一人では避難できない
6. 避難所の設備や、必要な支援が受けられるか
7. 避難所で他の人といっしょに過ごすこと
8. 避難所における障がい特性に合わせた食事の提供
9. その他（ ）
10. 持にない

9 障がい者差別に関する法律及び条例について

問25 浦安市では、障がい者虐待や障がいを理由とする差別に関する相談や通報を受け、ため「障がい者権利保護センター」を設置していますが、あなたは、「障がい者権利保護センター」について知っていたり、利用したことがありますか。(1つに○)

1. 利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. まったく知らない

問26 あなたは過去3年間に障がいがあるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(1つに○)

1. よくある
2. 時々ある
3. ほとんどない
4. まったくない

問26で「1. よくある」と「2. 時々ある」と答えた方におたずねします。

問26-1 あなたは、どのようなときに、障がいがあるために差別を受けたり、いやな思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 公共施設や交通機関を利用するとき
2. 職場や学校にいるとき
3. お店を利用するとき
4. 病院を利用するとき
5. 仕事を探すとき
6. 住む家を探すとき
7. 障がい福祉サービスを利用しているとき
8. インターネットやSNSを利用しているとき
9. その他（ ）

10 希望・要望

問27 ご意見やご要望、生活の中で困っていることや悩んでいること等、市に伝えたいことがありましたら、ご自由にお書きください。

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございます  
 返信用封筒に入れて令和7年12月22日（月）までに郵便ポストに投函してください。  
 切手は不要です。

## 2 障がい福祉サービス等の提供にかかるアンケート調査

障がい福祉サービス等事業所 各位

### 障がい福祉サービス等の提供にかかるアンケート調査にご協力ください。

平素より本市の障がい福祉行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。  
市では「浦安市障がい者福祉計画（令和9年度～令和11年度）」を確定する基礎資料とするため、障がい福祉サービス等を提供する事業者の方の状況やご意見、お考えを伺うアンケート調査を実施いたします。  
お手数をおかけしますが、浦安市の障がい福祉施策に活かしていきたいと思っております。で、ぜひ、ご協力をお願いします。

令和7年12月 浦安市

〇この調査は、浦安市在住または浦安市が保護地の障がい児者に福祉サービスを提供している事業所のみなさまにお願いしております。  
〇建物ごとに1つの調査票を送付しています。  
〇調査票の記入後は、同封した返信用封筒でご返送ください。

締め切りは、**令和7年12月22日(月)です。**

〇このアンケート結果は計画策定の基礎資料として活用するとともに、報告書として冊子にし、市ホームページでも公開します。ただし、回答内容については統計的に処理するため、回答者が特定されることはありません。  
〇本調査についてのご質問などがありましたら、以下までお問い合わせ下さい。

**【お問い合わせ先】**

浦安市役所 障がい事業課 福祉サービス係 電話:047-742-6398  
ファクス:047-365-1294 Eメール: shou.gengo@city.yanase.lg.jp

----- 以下、ご記入ください。 -----

法人名		
事業所名	※建物ごとに1つの調査票を送付しています。事業所名が複数ある場合には、すべての事業所名をご記入ください。	
事業所所在地	〒	
回答者について	役職	回答者名
連絡先	(電 話) _____	
	(FAX) _____	
	(メー ル) _____	

◇記入上のお願い

- 〇回答は、基本的に該当する番号に○をつける方式です。設問で指定のある数だけ○をつけてください。
- 〇具体的な数値をご記入いただく部分や自由回答も重要ですので、お手数ですがご記入ください。
- 〇ご記入いただく調査基準日は、設問で指定のあるものを除き、**令和7年4月1日現在**でお願いします。

### ★障がい福祉サービス等一覧

事業所の実施事業について、以下の表のサービス番号に○を付けてください。

いふ

サービス番号	サービス内容	サービス番号	サービス内容
1	居宅介護	16	自立生活援助
2	重度訪問介護	17	共同生活援助 (グループホーム)
3	同行支援	18	児童発達支援
4	行動支援	19	医療型児童発達支援
5	療養介護	20	放課後等デイサービス
6	生活介護	21	居宅訪問型児童発達支援
7	短期入所(ショートステイ)	22	保育所等訪問支援
8	重度障害者等包括支援	23	計画相談支援
9	施設入所支援	24	障害児相談支援
10	自立訓練(機能訓練)	25	一般相談支援
11	自立訓練(生活訓練)	26	移動支援
12	就労移行支援	27	日中一時支援
13	就労継続支援A型	28	地域活動支援センター (I型・II型・III型)
14	就労継続支援B型	29	その他( )
15	就労定着支援		

※アンケート冊子の中で、上記のサービス番号でご回答いただく設問があります。

問1 事業所の経営状況について、以下の質問にご回答ください。

あなたの事業所の、令和6年度のA.実施事業、B.収支の状況、C.利用者の増減をお書きください。(それぞれ1つに○)

	A.実施 のま ○して いる		B.収支状況		C.利用者の増 減			
	1 黒 字	2 赤字	1 黒 字	2 赤字	1 増 え	2 減 ら な い		
1. 居宅介護	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 重度訪問介護	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 同行支援	1	2	3	4	1	2	3	4
4. 行動支援	1	2	3	4	1	2	3	4
5. 療養介護	1	2	3	4	1	2	3	4
6. 生活介護	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 短期入所（ショートステイ）	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 重度障害者等包括支援	1	2	3	4	1	2	3	4
9. 施設入所支援	1	2	3	4	1	2	3	4
10. 自立訓練（機能訓練）	1	2	3	4	1	2	3	4
11. 自立訓練（生活訓練）	1	2	3	4	1	2	3	4
12. 就労移行支援	1	2	3	4	1	2	3	4
13. 就労継続支援A型	1	2	3	4	1	2	3	4
14. 就労継続支援B型	1	2	3	4	1	2	3	4
15. 就労定着支援	1	2	3	4	1	2	3	4
16. 自立生活援助	1	2	3	4	1	2	3	4
17. 共同生活援助（グループホーム）	1	2	3	4	1	2	3	4
18. 児童発達支援	1	2	3	4	1	2	3	4
19. 医療型児童発達支援	1	2	3	4	1	2	3	4
20. 放課後等デイサービス	1	2	3	4	1	2	3	4
21. 居宅訪問型児童発達支援	1	2	3	4	1	2	3	4
22. 障害者等訪問支援	1	2	3	4	1	2	3	4
23. 計画相談支援	1	2	3	4	1	2	3	4
24. 障害児相談支援	1	2	3	4	1	2	3	4
25. 一般相談支援	1	2	3	4	1	2	3	4
26. 移動支援	1	2	3	4	1	2	3	4
27. 日中一時支援	1	2	3	4	1	2	3	4
28. 地域活動支援センター（I型・II型・III型） ※類型に○をつけてください	1	2	3	4	1	2	3	4
29. その他（ ）	1	2	3	4	1	2	3	4

以下の質問にご回答ください。

質問	回答
①事業所運営を進めていく上で の課題（3つまでに○）	1. 利用者の確保が困難 2. 職員の採用が困難 3. 職員の人材育成が困難 4. 職員が定着しない 5. 職員の雇用条件、福利厚生が不十分 6. 障がい福祉サービス等報酬単価が低い 7. 人件費の支出が高い 8. 運営・運転資金の確保 9. 事務所の確保や維持 10. 事務量が多い 11. その他（ ） 12. 特になし

問2 事業所の職員について、以下の質問にご回答ください。

質問	回答			
	正規 人数	採用者数 人	離職者数 人	離職者の勤務年数 1年未満 3年未満
①採用者・離職者数 事業所の職員について、 令和6年4月1日から 令和7年3月31日までの 過去1年間の採用者数と離職者数 (事務員等の職員は除く)				
②職員の充足状況について (1つに○)	1. 十分である 2. やや不足している 3. 不足している 4. 非常に不足している	採用者数 人	離職者数 人	離職者の勤務年数 1年未満 3年未満 人 人
③ ②で2~4を選択した場合、不足 している理由 (1つに○)	1. 離職率が高い(定着率が低い) 2. 応募者がいても、採用基準に達していない 3. 募集しても応募がない 4. その他( )			
④人材確保・人材定着のために 取り組んでいること (あてはまるものすべてに○)	1. ハローワークを通じて募集する 2. 求人誌、インターネット求人サイトでの募集 3. 福祉職の合同説明会での募集 4. 福祉専門学校等での募集 5. ボランティアを受け入れている 6. 自社のホームページ等での募集 7. 福利厚生の実施 8. 研修制度の充実 9. 職場でのコミュニケーションの活性化 10. 資格取得支援 11. その他( ) 12. わからない			

問3 現在、提供している障がい福祉サービス等について、以下の質問にご回答ください。

質問	回答
①利用者の希望するサービス 提供(1つに○)	1. 十分提供できている 2. どちらかといえば提供できている 3. どちらかといえば提供できていない 4. 提供できていない
②利用者にサービス提供する 上での課題について (あてはまるものすべてに○)	1. 困難事例への対応が難しい 2. 申込数が多く、利用者の希望するサービス提供ができ ない 3. 申込数が少なく、安定した経営が難しい 4. 職員の職種やスキルにより、利用者の希望するサービ スが提供できない 5. 休日(土・日・祝日)や早朝夜間の対応が難しい 6. 利用者や家族とのコミュニケーションが難しい 7. 変更やキャンセルが多い 8. 苦情やトラブルが多い 9. 相談支援事業所や他の障がい福祉サービス事業所と の連携が困難 10. その他( )

◎新規の受入状況 2ページの「障がい福祉サービス等一覧表」を利用する質問です。

実施事業 (サービス番号)	新規の受入状況について 実施事業ごとに2ページのサービスのサービス番号を記入の上、 受入状況について1つに○
例) 6	<p>1. 余裕がなく、定期利用者以外の受入れは困難 具体的な理由 ( )</p> <p>② 余裕はややある</p> <p>3. 余裕は十分ある</p> <p>1. 余裕がなく、定期利用者以外の受入れは困難 具体的な理由 ( )</p> <p>2. 余裕はややある</p> <p>3. 余裕は十分ある</p> <p>1. 余裕がなく、定期利用者以外の受入れは困難 具体的な理由 ( )</p> <p>2. 余裕はややある</p> <p>3. 余裕は十分ある</p> <p>1. 余裕がなく、定期利用者以外の受入れは困難 具体的な理由 ( )</p> <p>2. 余裕はややある</p> <p>3. 余裕は十分ある</p> <p>1. 余裕がなく、定期利用者以外の受入れは困難 具体的な理由 ( )</p> <p>2. 余裕はややある</p> <p>3. 余裕は十分ある</p> <p>1. 余裕がなく、定期利用者以外の受入れは困難 具体的な理由 ( )</p> <p>2. 余裕はややある</p> <p>3. 余裕は十分ある</p>

問4 災害時の備えについて、以下の質問にご回答ください。

質問	回答
①災害時の準備体制について、 実施しているものについて (あてはまるものすべてに○)	<p>1. 地震・水害などの災害（火災を除く）を想定した避難訓練を実施</p> <p>2. 職員の参集訓練を実施</p> <p>3. 避難行動計画や災害発生時対応マニュアルの作成</p> <p>4. 緊急連絡網の作成</p> <p>5. 備蓄品の整備</p> <p>6. 事業所内のロッカー、棚等の転倒防止の措置</p> <p>7. その他 ( )</p> <p>8. 特に取り組んでいない</p>
②停電時に備え、発電機等の 備蓄について (あてはまるものすべてに○)	<p>1. 自家発電装置</p> <p>2. ポータブル発電機（ガソリン・ガスなど）</p> <p>3. 蓄電池</p> <p>4. 手動発電機・モバイルバッテリー等</p> <p>5. その他 ( )</p> <p>6. 備えていない</p>
③本市と「災害時における福祉 避難所の設置運営に関する 協定」を締結していますか。 (1つに○)	<p>1. 協定を締結している</p> <p>2. 以前は協定を締結していたが、現在は協定を解約している</p> <p>3. 協定を締結したことはない</p>
④③で2または3と回答した 方) その理由をお答えください。 (あてはまるものすべてに○)	<p>1. 通所系のサービスを実施していないため</p> <p>2. 福祉避難所としての役割や運営方法などがよくわからないため</p> <p>3. 災害発生時に福祉避難所として開設するための職員の確保が難しいため</p> <p>4. その他 ( )</p>
⑤今後の締結の意向について、 お答えください。(1つに○)	<p>1. 引き続き協定の締結を継続する</p> <p>2. 事業所の体制が整い次第、協定を締結したい</p> <p>3. 協定の締結は考えていない</p>

問5 重症心身障がい者・医療的ケアが必要な方・行動障がいのある方へ、行動支援・同行支援が必要な方への支援状況について、以下の質問に回答ください。

質問	回答																								
① サービスの提供について回答ください。(1つに○)	<p>1. 提供をしている (提供している方又はサービスに○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重症心身障がい者 ・ 医療的ケアが必要な方</li> <li>行動障がいのある方</li> <li>同行支援</li> <li>同行支援</li> </ul> <p>2. 提供可能だが、利用者がいない (提供可能な方又はサービスに○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重症心身障がい者 ・ 医療的ケアが必要な方</li> <li>行動障がいのある方</li> <li>同行支援</li> <li>同行支援</li> </ul> <p>3. 過去には提供をしていたが、現在はしていない (提供していた方又はサービスに○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重症心身障がい者 ・ 医療的ケアが必要な方</li> <li>行動障がいのある方</li> <li>同行支援</li> <li>同行支援</li> </ul> <p>4. 提供をしていない</p>																								
② ①で1と回答した方 実際に提供している利用者数をお答えください。(それぞれ18歳以上・18歳未満の利用率を記述) ※同一利用者で右記の項目が重複する場合は、それぞれ人数を計上してください(重複可)。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>利用人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重症心身障がい者</td> <td>18歳以上 18歳未満</td> </tr> <tr> <td>医療的ケアが必要な方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>行動障がいのある方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同行支援</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同行支援</td> <td></td> </tr> <tr> <td>職員の人数(人)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td></td> </tr> <tr> <td>介護職員(福祉施設等研修の受講者)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>行動支援従事者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同行支援従事者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他職員</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		利用人数(人)	重症心身障がい者	18歳以上 18歳未満	医療的ケアが必要な方		行動障がいのある方		同行支援		同行支援		職員の人数(人)		看護師		介護職員(福祉施設等研修の受講者)		行動支援従事者		同行支援従事者		その他職員	
	利用人数(人)																								
重症心身障がい者	18歳以上 18歳未満																								
医療的ケアが必要な方																									
行動障がいのある方																									
同行支援																									
同行支援																									
職員の人数(人)																									
看護師																									
介護職員(福祉施設等研修の受講者)																									
行動支援従事者																									
同行支援従事者																									
その他職員																									
③ ①で1と回答した方 提供している職員の人数をお答えください。(それぞれ記述) ※複数の資格を持っている職員の場合は、それぞれの資格の欄に人数を計上してください(重複可)。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td></td> </tr> <tr> <td>介護職員(福祉施設等研修の受講者)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>行動支援従事者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同行支援従事者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他職員</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		人数(人)	看護師		介護職員(福祉施設等研修の受講者)		行動支援従事者		同行支援従事者		その他職員													
	人数(人)																								
看護師																									
介護職員(福祉施設等研修の受講者)																									
行動支援従事者																									
同行支援従事者																									
その他職員																									

質問	回答
④ ①で3と回答した方 その理由についてお答えください。	<p>1. 今後もサービス提供は可能である (提供可能な方又はサービスに○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重症心身障がい者</li> <li>医療的ケアが必要な方 (医療的ケアの実施の可否: 可・否)</li> <li>行動障がいのある方</li> <li>行動支援</li> <li>同行支援</li> </ul> <p>2. 事業所の利用や、事業の実施は困難である (利用が困難な方又は実施できない事業に○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重症心身障がい者</li> <li>医療的ケアが必要な方</li> <li>行動障がいのある方</li> <li>行動支援</li> <li>同行支援</li> </ul> <p>3. 現時点ではわからない</p> <p>4. 事業を実施する予定がない</p> <p>5. その他 ( )</p>
⑤ 今後の、重症心身障がい者・医療的ケアが必要な方・行動障がいのある方へ、同行支援・行動支援のサービス提供の意向について、お答えください。(1つに○) また、1あるいは2を 選んだ方は、具体的なサービスもお答えください。	<p>1. 専門的な支援ができる職員を確保するための支援・補助</p> <p>2. 職員が従事するために必要な研修を受講するための補助</p> <p>3. 専門的な支援に関する職員向け研修の実施</p> <p>4. 機材・設備等の補助 (具体的に )</p> <p>5. 支援 (受入) した場合の給付費の加算や補助</p> <p>6. 他の障がい福祉サービス事業所や相談支援事業所との連携</p> <p>7. 病院や訪問看護ステーションとの連携</p> <p>8. 医療的ケア児等コーディネーター、基幹相談支援センター、地域生活支援拠点事業所等が中心となった地域づくり</p> <p>9. その他 ( )</p> <p>10. 特になし</p> <p>11. わからず</p>
⑥ 今後、重症心身障がい者・医療的ケアが必要な方・行動障がいのある方へ、同行支援・行動支援のサービス提供のために必要だと 思われる施策は何ですか。一番必要と思うものを お答えください。(1つに○)	<p>1. 専門的な支援ができる職員を確保するための支援・補助</p> <p>2. 職員が従事するために必要な研修を受講するための補助</p> <p>3. 専門的な支援に関する職員向け研修の実施</p> <p>4. 機材・設備等の補助 (具体的に )</p> <p>5. 支援 (受入) した場合の給付費の加算や補助</p> <p>6. 他の障がい福祉サービス事業所や相談支援事業所との連携</p> <p>7. 病院や訪問看護ステーションとの連携</p> <p>8. 医療的ケア児等コーディネーター、基幹相談支援センター、地域生活支援拠点事業所等が中心となった地域づくり</p> <p>9. その他 ( )</p> <p>10. 特になし</p> <p>11. わからず</p>

問6 支援が困難だと感じるケースについて、以下の質問にご回答ください。

質問	回答
①支援が困難だと感じた、または感じているケースはありますか。(1つに○)	1. ある 2. ない
②(①で1と回答した方)困難だと感じたまたは感じる理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)	1. 支援に対して、家族等の理解が得られない 2. 必要なサービスや医療を拒否する 3. 経済的に困窮している 4. 世帯の中で複数の課題がある 5. 本人の意思決定が難しい 6. 支援者等に対し、暴言や暴行がある 7. 独居等で孤立している 8. 家族等の中にキーパーソンがいない 9. サービス等利用計画の内容が本人に必要な支援と合致していない 10. 社会資源が整備されていない 11. その他 ( )
③支援が困難なケースに対応するために必要だと感じる理由は何ですか。一番必要だと感じるものをお答えください。(1つに○)	1. 基幹相談支援センターや委託相談支援事業所からの専門的な指導や助言 2. 専門性の高い人材の確保 3. 専門職によるコンサルテーションの機会 4. 職員の支援力向上や知識向上のための研修等の実施 5. 他の障がい福祉サービス事業所との連携 6. 他分野の支援機関等の連携 7. その他 ( )

問7 地域生活支援拠点について、以下の質問にご回答ください。

質問	回答
①地域生活支援拠点の登録の有無について(1つに○)	1. 登録している 2. 登録していない
②(①で2と回答した方)その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)	1. 地域生活支援拠点を知らなかったため 2. 地域生活支援拠点の名称は知っていますが、内容がよくわかりません 3. 地域生活支援拠点の名称・内容は知っているが、事業所として役割を担うことが難しいと感じるため 4. 地域生活支援拠点の登録をしても、報酬の加算等がないため 5. その他 ( )
③地域生活支援拠点に期待する機能について、教えてください。(あてはまるものすべてに○)	1. 相談支援機能の充実 2. 緊急時の受け入れ・対応 3. グループホーム等、体験の機会・場の提供 4. 専門的人材の確保・養成 5. 地域の体制づくり 6. その他 ( ) 7. 特になし

地域生活支援拠点

障がい者の重症化・高齢化や「緊急後」を見据え、居住支援のための機能を備えた、障がい者の生活を地域全体で支える体制のことで、主な機能として、相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくりの5つを柱としています。

地域生活支援拠点の機能の一部を担い、協力・連携を図る事業所は、市への登録が必要です。

地域生活支援拠点の機能の一部を担う事業所の登録方法

市ホームページ>健康・福祉>障がい者支援>障がい者支援制度・事業>地域生活支援拠点事業

<https://www.city.urayasu.lg.jp/fukushi/shogai/seido/1036016.html>



登録された事業所の取り扱い

- (1) 地域生活支援拠点の面的機能の一部を担う事業所として、市のホームページ等において公表します。
- (2) 地域生活支援拠点に係る加算が請求可能となります(※加算の内容は、市ホームページの上記「地域生活支援拠点事業の実施事業所登録」ページに掲載してある「浦安市地域生活支援拠点運営要領 P.11 (5) 加算制度」をご覧ください)。
- (3) 「浦安市重症障がい者支援事業新運営費補助金」等、市独自の補助金を受け取ることが可能となります。

問8 サポートファイルうらやすについて、以下の質問にご回答ください。

質問	回答
①サポートファイルうらやすの利用状況について(1つに○)	1. ファイル内の全てのシートを利用している 2. 共通シートのみを利用している 3. 保護者が持ってきた時などに利用している 4. 利用していない 5. サポートファイルうらやすを知らない
②(①で1か2と回答した方)どのシートを利用していますか。(1つに○) また、一部のシートを利用している方は、利用しているものを教えてください。	1. すべてのシートを利用している 2. 一部のシートを利用している 利用しているものに☑ <input type="checkbox"/> プロフィール <input type="checkbox"/> 生い立ち <input type="checkbox"/> 医療の記録 <input type="checkbox"/> サービスの利用記録 <input type="checkbox"/> 診断、手帳の記録 <input type="checkbox"/> 補装具・日常生活用具の記録 <input type="checkbox"/> 乳幼児期から青年・成人期までの各記録 (ネットワーク図、子どもの特徴、生活スケジュール、フォト記録、育ちの変化) <input type="checkbox"/> 支援機関とのやりとりシート <input type="checkbox"/> 共通シート
③(①で1か2と回答した方)今の内容の他に、あると良いと思う項目・情報があれば、教えてください。(記述)	
④(①で1か2と回答した方)事業所での支援に活用していますか。	1. 活用している 2. 活用していない
⑤(④で1と回答した方)どのように活用していますか。	1. 成育歴の確認 2. 過去に利用していた事業所の確認 3. 過去の支援内容の確認 4. その他( )
⑥(④で2と回答した方)今後活用したいと思いませんか。	1. 活用したいと思う 2. 活用したいとは思わない

サポートファイル

特別な支援や配慮を必要とする子どもたちが、乳幼児期から成人期までのライフステージで途切れることなく一貫した支援を受けられることを目的に、保護者と関係機関等が子どもの情報を共有するために作成されたファイルです。



市ホームページ>子育て・教育>子育て支援・手当・予約接種>子育て支援情報・虐待防止情報>サポートファイルうらやす  
<https://www.city.yurayasu.jp/kodomo/kosodate/icho/1000799.html>

問9 今後の事業展開について、以下の質問にご回答ください。

質問	回答
①今後(3年間)、同一法人において計画相談支援・障がい児相談支援の新規参入を考えるといますか。(1つに○)	1. 既の実施している 2. 事業参入を考慮している 3. 考えていない 4. 現時点ではわからない
②(①で1と回答した方)今後、相談支援専門員を増やす予定はありますか。(1つに○)	1. 増やす予定がある(増員予定人数_____人) 2. 増やす予定はない 3. 現時点ではわからない
③(①で2か3と回答した方)その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)	1. 相談支援専門員の確保が困難 2. 業務量や人件費に報酬が見合っておらず、採算がとれない 3. その他( )
④今後(3年間)の計画相談支援・障がい児相談支援以外の事業展開について、どのように考えていますか。(1つに○)	1. 現時点ではわからない 2. 縮小を考慮している 3. 現状のまま 4. 拡大を考慮している
⑤(④で4と回答した方)今後の浦安市で参入予定を検討している事業がありましたら、ご回答ください。(記述)	

問 10 今後の事業展開について、以下の質問にご回答ください。

質問	回答
①今後（3年間）、同一法人において共同生活援助の新規参入を考えていますか。 （1つに○）	1. 既に実施している 2. 事業参入を考えている 3. 考えていない 4. 現時点ではわからない
② ①で2と回答した方） どのようなグループホームを 整備予定ですか。 （1つに○）	1. 介護サービス包括型 定員 名 2. 外部サービス利用型 定員 名 3. 日中サービス支援型 定員 名 4. サテライト型 定員 名 （内訳） 障がい種別 精神 名 知的 名 精神 名 難病 名 身体 名 1. 経営の目途が立たないから 2. 人材が集まらないから 3. 土地や建物に空きがないため 4. 入居者が集まらないため 5. 事業所を運営するノウハウがないため 6. その他（ ）
③ ①で3と回答した方） その理由は何ですか。 （あてはまるものすべてに○）	1. 経営の目途が立たないから 2. 人材が集まらないから 3. 土地や建物に空きがないため 4. 入居者が集まらないため 5. 事業所を運営するノウハウがないため 6. その他（ ）

15

問 11 今後の事業展開について、以下の質問にご回答ください。

質問	回答
①今後（3年間）、同一法人において生活介護の新規参入を 考えていますか。 （1つに○）	1. 既に実施している 2. 事業参入を考えている 3. 考えていない 4. 現時点ではわからない
② ①で2と回答した方） 主な受け入れ対象の障がい種 別はなんですか。 （あてはまるものすべてに○）	1. 身体 2. 知的 3. 精神 4. 難病
③ ①で2と回答した方） 定員は約何名を考えています か。 （1つに○）	1. 5名未満 2. 5名から10名 3. 11名から20名 4. 21名から30名 5. 31名以上
④ ①で3と回答した方）その理 由は何ですか。 （あてはまるものすべてに○）	1. 経営の目途が立たないから 2. 人材が集まらないから 3. 土地や建物に空きがないため 4. 利用者が集まらないため 5. 事業所を運営するノウハウがないため 6. その他（ ）

16



浦安市障がい者福祉計画のための  
アンケート調査結果報告書

発行年月：令和8年3月

発行：浦安市

福祉部 障がい事業課 福祉サービス係

浦安市猫実1-1-1

電話：047-351-1111（代表）